

昭和八年四月

和七年
勞働統計概説
(第十一回)

日本銀行調查局

定A
450

凡 例

一本統計ハ職工竝ニ鑛夫ノ數及賃金ノ増減ヲ調査シ以テ事業界ノ概況ヲ觀察スル
ノ一資料タラシメントスルモノナリ。

一本調査ノ範圍ハ内地ニ於ケル官營工場及職工三十人以上ヲ使用スル民營工場ノ
職工數竝ニ鑛山ノ鑛夫數ノ凡ソ八割ヲ占ム。

一調査項目タル人員及賃金ハ左ノ三者ニ就キ毎月大正十五年ヲ基準トスル指數ヲ
以テ表示ス。

(イ) 労働人員 各工場又ハ鑛山ノ月末ニ於ケル労働人員總數。

(ロ) 定額賃金 工場ニ就テハ各工場ノ月末平均定額日給ヲ合計シ之ヲ工場數ニテ
除シタル日給額又鑛山ニ就テハ各鑛山ノ月中賃金支拂高ヲ合計シ之ヲ各鑛山
ノ延工數即チ一定單位時間ノ労働ヲ一工トセルモノ、合計ヲ以テ除シタル所
謂一工當リ賃金。

(ハ) 實收賃金 工場ニ就テモ鑛山ニ就テモ各工場又ハ鑛山ノ月中賃金支拂高ヲ夫々合計シ之ヲ各工場又ハ鑛山ノ日々出勤セシ人員ノ一箇月中ノ合計ヲ以テ夫々除シタル日額又ハ所謂一人一日當リ賃金。

目次

第一 一般工業概況	一頁
第二 事業別概況	五
製糸業—紡績業—織物業—染色整理業—組物編物業	
機械製造業—船舶製造業—車輛製造業—器具製造業—金屬品製造業	
窯業—製紙業—製藥業—護謨製品業—人造肥料業	
飲食物工業—印刷製本業—製材家具工業—其他ノ事業	
第三 地方別概況	四四
京濱地方—阪神地方—名古屋地方—北九州地方—其他地方	
第四 男女別指數推移ノ概要	五三
第五 鑛山業概況	五七
金屬鑛業—石炭鑛業—石油鑛業	
第六 政府事業概況	六六
附	
日誌	七〇
勞働人員及勞働賃金指數表	

昭和七年

勞働統計概説 (第十一回)

第一 一般工業概況

昭和七年中ニ於ケル一般工業界ノ推移ヲ概觀スルニ前年秋季以來滿洲事變ノ勃發、英國金本位制離脱等環境ノ惡化ニ不況深刻化ヲ啣チツ、アリシ斯界ハ、同年末突如實施セラレタル金輸出再禁止ニ伴ヒ爲替相場ノ急落旁々思惑取引ノ擡頭ヲ見、更ニ新春ニ入りテハ證券相場ノ奔騰ヲ首メ國際的商品ヲ中心トスル物價ノ昂騰ヲ演スル等所謂再禁止景氣ヲ出現シテ一部業界ハ俄ニ採算有利ニ展開シ稍愁眉ヲ開クニ至レリ、然レトモ内外ノ實勢ハ依然改善ヲ見サリシヲ以テ久シカラスシテ思惑熱銷沈シ再禁止景氣モ解消セルノミナラス、爲替先安見越ニ輸入激増シ上海事變ノ紛糾ニ排日運動熾烈ヲ極メ、更ニ五月ニハ不祥事件ノ突發ト之ニ伴フ政變等ニ先行不安人氣濃化シ商品市況ハ萎靡沈滞ノ一途ヲ辿リ物價亦落潮甚シク六月ニハ再禁止前ヲ下廻ルノ有様トナレリ、サレト輸出貿易ハ爲替相場低落ノ影響ヲ受ケテ三月頃

ヨリ漸次好勢ニ轉シ綿布ヲ首メ纖維工業品ヲ中心ニ商談旺盛ヲ極メ、殊ニ下期ニ入
 リテハ爲替ノ落勢加重旁々一般雜品類ノ手合セモ亦著シク盛況ヲ呈シタリ、他方新
 内閣成立後滿洲事件費竝ニ時局匡救費等ノ追加豫算案ハ臨時議會ヲ通過シ先行此
 等資金ノ撒布ニ伴フインフレーション期待ノ人氣濃厚ヲ加ヘ、更ニ海外事情モロ
 ザン又會議ノ結果賠償問題解決ノ希望ヲ増シ英米兩國財界ノ落付ニ物價モ底入レ
 ト觀察セララル、ニ至リタル等情勢幾分轉換ノ徵アリ且又秋期以降時局豫算ノ實施
 ニ伴ヒ軍需品竝ニ土木關係事業ハ漸次活氣ヲ加フルニ至レリ、サレハ物價モ騰勢ニ
 轉シテ十二月ニ於ケル指數ハ一八四・六ト年中ノ最低タル六月ノ指數ニ比シ約二割
 六分方ノ上昇ヲ演シ就中生糸、人絹糸、綿糸、硫安、銅鐵、苛性ソーダ等ノ如キ國際的商品
 ハ顯著ナル昂騰ヲ告ケ、斯クテ一部事業界ハ再ヒ採算有利ナル状態ニ復歸シ從來敢
 行セル操業短縮供給制限ノ如キ之ヲ緩和スル向勢ナカラサルノミナラス更ニ生産
 設備ノ擴張ヲ行フモノサヘ出現スルニ至レリ、今昭和七年中ニ於ケル重要商品生産
 額ノ前年比較増加割合ヲ示セハ次ノ如シ。

綿糸 九・四%
 紡績綿糸 △印減少 一六・七%

人造絹糸	三七・六	過燐酸石灰	一六・七
綿織廣幅物	九・二	硫酸安	一三・六
同 小幅物	△ 九・六	石灰窒素	二四・八
絹織廣幅物	六・六	晒粉	一六・六
同 小幅物	〇・九	苛性ソーダ	五九・二
人造絹織廣幅物	五〇・五	板硝子	△ 〇・八
同 小幅物	二四・八	洋紙	△ 一・五
普通鋼壓延鋼材	二八・〇	小麥粉	一・七
セメント	三三・二	精製糖	△ 〇・二

(商工省重要生産月報ニ據リ算出)

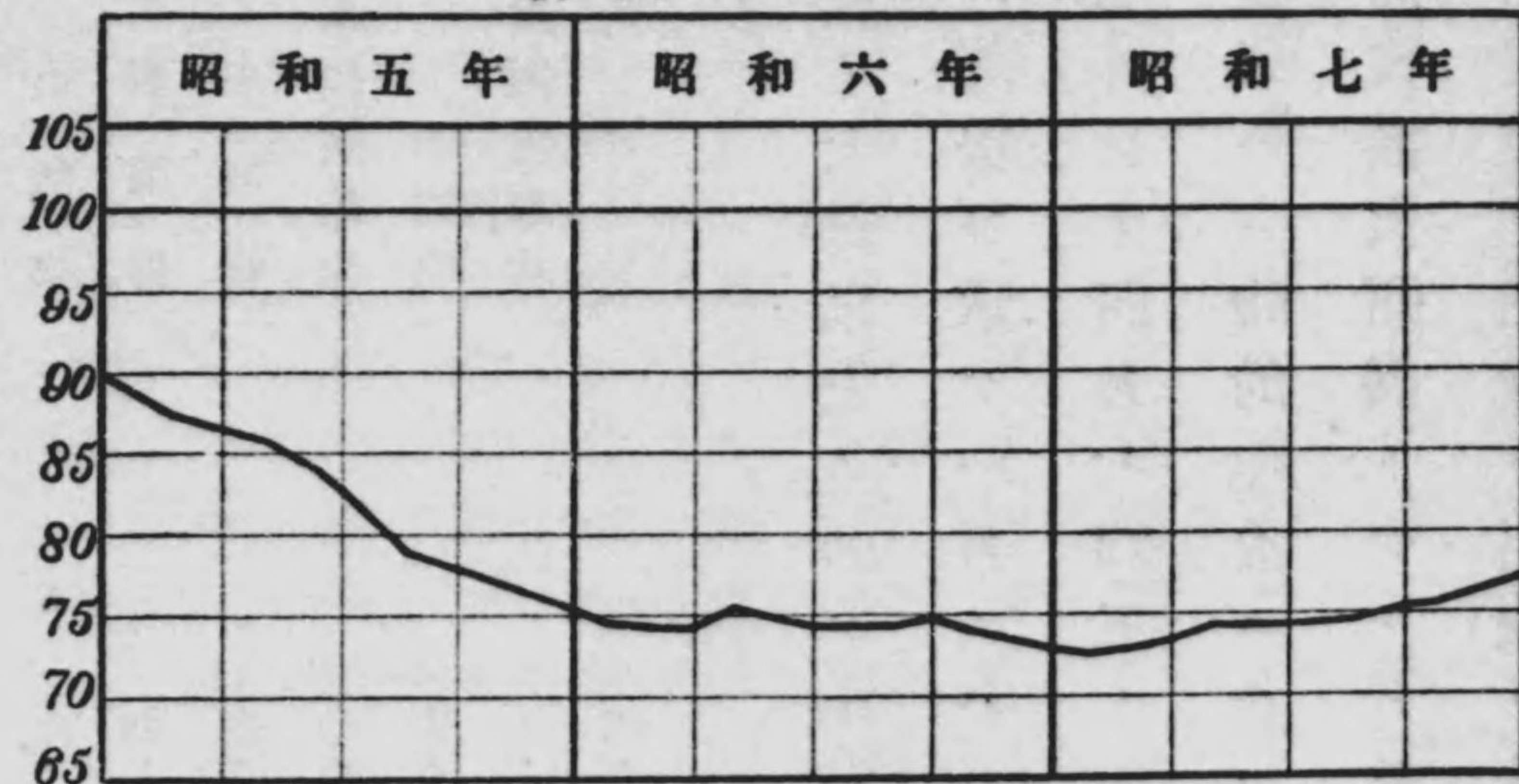
事業界ノ大勢以上ノ如クナルカ之ヲ勞働統計ニ就キテ觀ルニ、人員指數ハ前年秋
 季以降ノ落勢ヲ承ケ一月ニハ七二・九ト本統計創始以來ノ最低記録ヲ現出シタルカ、
 爾後ハ上昇シテ四月七四・五トナリ略平年ニ於ケル季節的推移ヲ辿ルニ至レリ、所謂
 再禁止景氣ハ一時的現象ニ止マリ其後反動的不況ヲ呈シタルモ爲替相場低落ニ基
 キ輸出商談漸次順調トナルニ及ヒ指數ハ四月以降八月迄七四臺ヲ持續シ九月以降
 時局關係工業ノ活躍ト引續ク輸出方面ノ好調トニ伴ヒ稍顯著ナル上騰歩調ヲ示シ
 九月ニ於ケル七五臺ヨリ十一月ニハ七六臺ニ上伸、年末指數ハ七七・〇ト前年末ニ比

較シ三九ポイント方ノ上位ヲ示シタリ、以上人員指數ノ推移中特ニ注目スヘキハ例

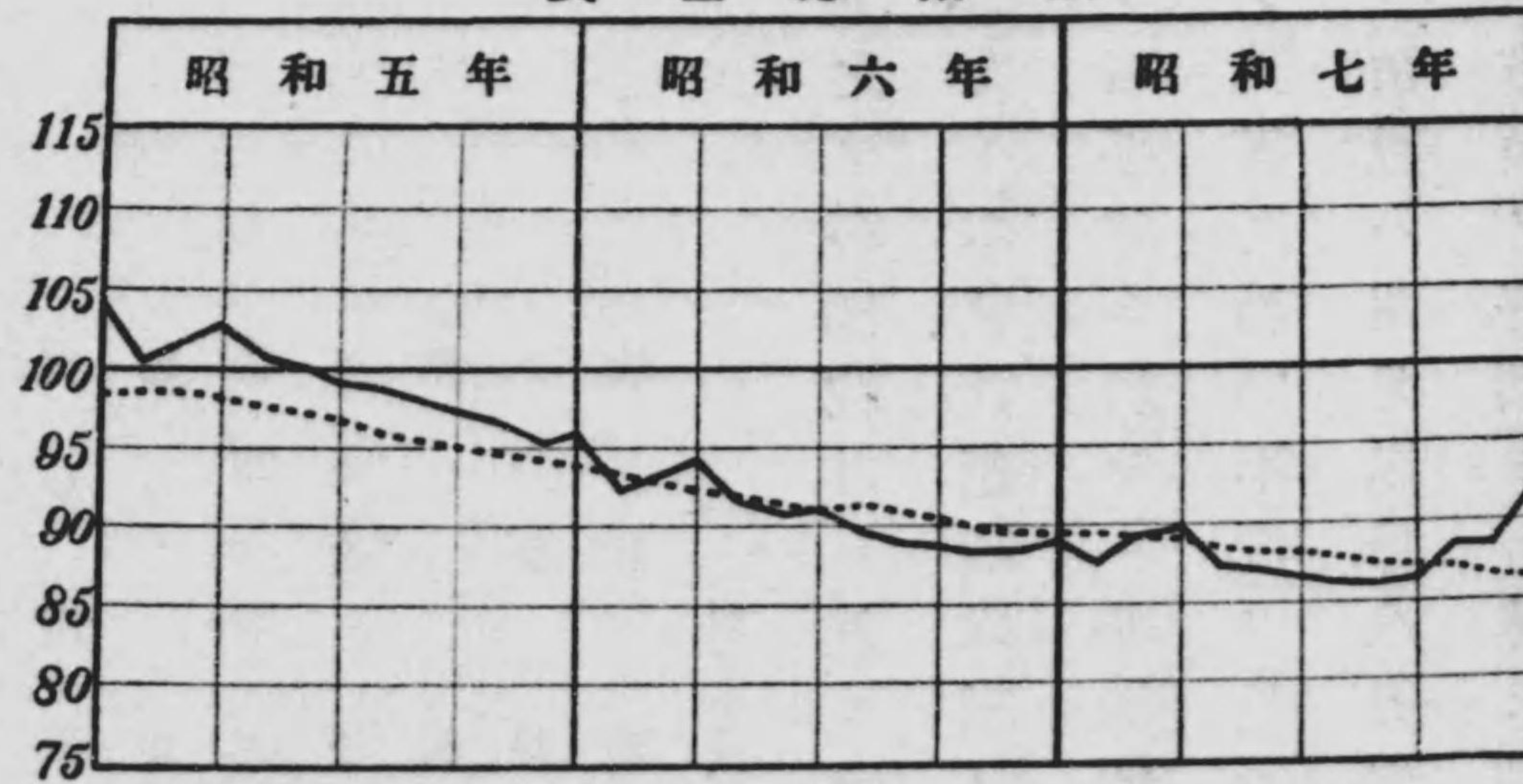
四

總 指 數

勞働人員總指數



賃金總指數



定額賃金.....實收賃金 以下之ニ倣フ

リ、年末指數ハ八六・六ト前年末ニ比較シ二九ポイント方ノ低下ヲ告ケタルカ、之前年

年ノ低下期タル夏枯季ニ於テモ低下ヲ見サリシコト及九月上騰歩調ニ轉シタル以來毎月確實ニ其ノ趨向ヲ持續セルコトニシテ、業界ノ好轉ヲ反映セルモノト認めラ

ル。更ニ賃金指數ヲ觀ルニ定額賃金ハ依然前年來ノ落勢ヲ續ケ逐月低下ノ一途ヲ辿

同様高給者ノ解雇依然タリシ一方新規雇入ニ際シテハ可及的ニ低給者ヲ採用シタル等ノ事情ニ基クモノニシテ、從來屢々行ハレタル賃金引下ニ基ク影響ハ本年ニ入り著シク輕微トナレル模様ナリ、次ニ實收賃金ハ通年大體常軌的推移ヲ辿リ、年初三箇月間ハ季節的關係旁々累月上進シ三月ニハ九〇・二ニ達シタルカ、爾後八月迄ハ微落傾向ヲ續ケ八月八六・一ト從來ノ最低記録ヲ現出シ、次テ九月ヨリ上騰歩調ニ轉シ、十月ニハ八八・八トナリ十一月亦八八・八ヲ保持シ結局年末指數ハ九二・〇ト前年末ニ比シ二九ポイント方ノ上位ヲ占ムルニ至レリ、尙就業日數及就業時間ノ年平均ヲ觀ルニ前者ハ二六・七日後者ハ九時間三八分ニシテ前年ニ比シ兩者共僅少乍ラ増加ヲ示シ居レリ。

第二 事業別概況

昭和七年中ニ於ケル勞働統計總指數ノ推移ハ前述ノ如クナルカ更ニ之ヲ纖維及染色工業、機械及器具工業、化學工業、飲食物工業、雜工業ノ五大別ニ分類シ、昭和七年十月ヲ前年同期ト比較シ其ノ騰落割合ヲ示セハ次ノ如シ。

昭和七年中労働人員及賃金指數騰落割合

			労働人員指數	定額賃金指數	實收賃金指數
總	指	數	+ 5.3%	- 3.2%	+ 3.3%
	男		+ 3.8	- 2.6	+ 6.2
	女		+ 6.9	- 4.8	- 4.7
製	糸	業	- 6.4	- 6.8	- 4.7
紡	績	業	+ 1.0	- 8.3	- 8.3
織	物	業	+ 7.5	- 2.3	- 3.4
染	色	業	+ 9.8	- 2.8	+ 1.8
組	物	業	+ 6.0	- 6.5	+ 2.4
機	械	業	+ 20.0	- 2.3	+ 19.4
船	舶	業	+ 0.8	- 0.2	+ 13.4
車	輛	業	- 1.9	- 0.2	+ 5.6
器	具	業	+ 13.2	- 4.9	+ 6.9
金	屬	業	+ 7.0	- 3.8	+ 7.6
窯		業	+ 1.4	- 2.0	- 0.1
製	紙	業	- 2.7	- 0.4	- 2.2
製	藥	業	+ 4.4	- 3.3	- 5.5
護	謨	業	+ 15.8	- 3.9	+ 4.9
人	造	業	- 0.7	- 1.0	+ 3.6
飲	食	業	+ 3.0	- 0.9	- 0.7
印	刷	業	- 1.9	- 4.1	- 0.4
製	材	業	+ 0.4	- 3.8	- 2.2

右ニヨリテ觀ルニ機械及器具工業ハ滿洲事件費ニ關聯スル軍需品關係ノ注文幅
 湊セル爲メ最モ繁忙ヲ呈シ、爲替ノ逆調ヲ主因トシテ業蹟ノ好轉ヲ齎ラシタル纖維
 及染色工業、化學工業等ニ比シ遙ニ順調ヲ辿リタルヲ知ルヘシ、更ニ重要事業細別指
 數ニツキ昭和七年十二月分ヲ前年同期ト比較シ其ノ騰落割合ヲ示セハ左表ノ如ク
 ニシテ、人員指數ノ低下ヲ見タルハ製糸業、車輛業、製紙業、人造肥料業、印刷製本業ノ五
 業ニ過キス、爾餘ハ孰レモ上昇シ殊ニ機械製造業、護謨製品業ハ顯著ナル上騰ヲ示シ
 タリ、次ニ定額賃金指數ハ各業種共一齊ニ低下シ殊ニ纖維工業方面ノ低落目立チタ
 ルカ、實收賃金指數ニ於テハ重工業方面、染色整理業、組物編物業、護謨製品業、人造肥料
 業ハ何レモ昂騰ヲ示シ爾餘ノ事業ハ幾分ノ低下ヲ告ケタリ。

事業別	労働人員	定額賃金	實收賃金
纖維及染色工業	+ 2.4%	- 4.6%	- 5.3%
機械及器具工業	+ 9.0	- 3.3	+ 12.2
化學工業	+ 2.7	- 2.4	+ 0.1
飲食物工業	+ 3.0	- 0.9	- 0.7
雜工業	+ 3.6	- 4.8	- 1.7

(人員ハ男女合計、賃金ハ纖維及染色工業ハ女、其他ハ男ニ據ル)

前年末金輸出再禁止ノ實施以來爲替急落ノ影響ヲ受ケテ稍活況ヲ呈セル斯業ハ、更年後米國消費ノ不振ト國際關係ノ惡化ニ製糸家ノ賣急キヲ誘致シ相場ハ漸落ヲ免レ難ク、中小製糸家中ニハ採算不引合ノ爲メ春挽再開難ニ陥リ或ハ一部作業ニ局限ノ餘儀ナキモノ尠カラズ、操業釜數ノ如キモ全體ノ六割内外ニ過キサレ有様ニシテ春挽旺盛季ニ入り却ツテ入荷減退ノ振合ヲ示シ、其ノ後モ製糸家ノ金融難ト機業家思惑手持品ノ消化難等ニ相場ハ採算無視ノ低落ヲ演シ、久敷懸案タリシ共同保管竝ニ補償糸十萬八千俵ノ賣約成立ニモ何等好轉ヲ見ルニ至ラス、新繭出盛季ニ及ンテ三百九十圓ト未曾有ノ安値ヲ現出シタリ、然ルニ下期ニ入りテハ爲替ノ漸落ニ加ヘテ紛糾セル滯貨問題モ政府買上ニ決定シタルト、春繭モ一割五分減ヲ豫想セラレ、新糸入荷ノ減少ニ加ヘテ米國市況ノ小康等需給狀態ノ改善ニ相場ハ騰勢著シク八月ニハ千百十圓ト六月初頭ニ比シ約十八割方ノ昂騰ヲ演シ製糸家ノ採算亦相當有利ニ轉換スルニ至リタリ、然レトモ初秋以降ハ夏秋繭ノ減少豫想ニ製糸家ノ賣溢リ旁々新規商談ノ如キ兎角圓滑ヲ缺キ且又米國市況モ大統領選舉ヲ控ヘテ一般氣迷

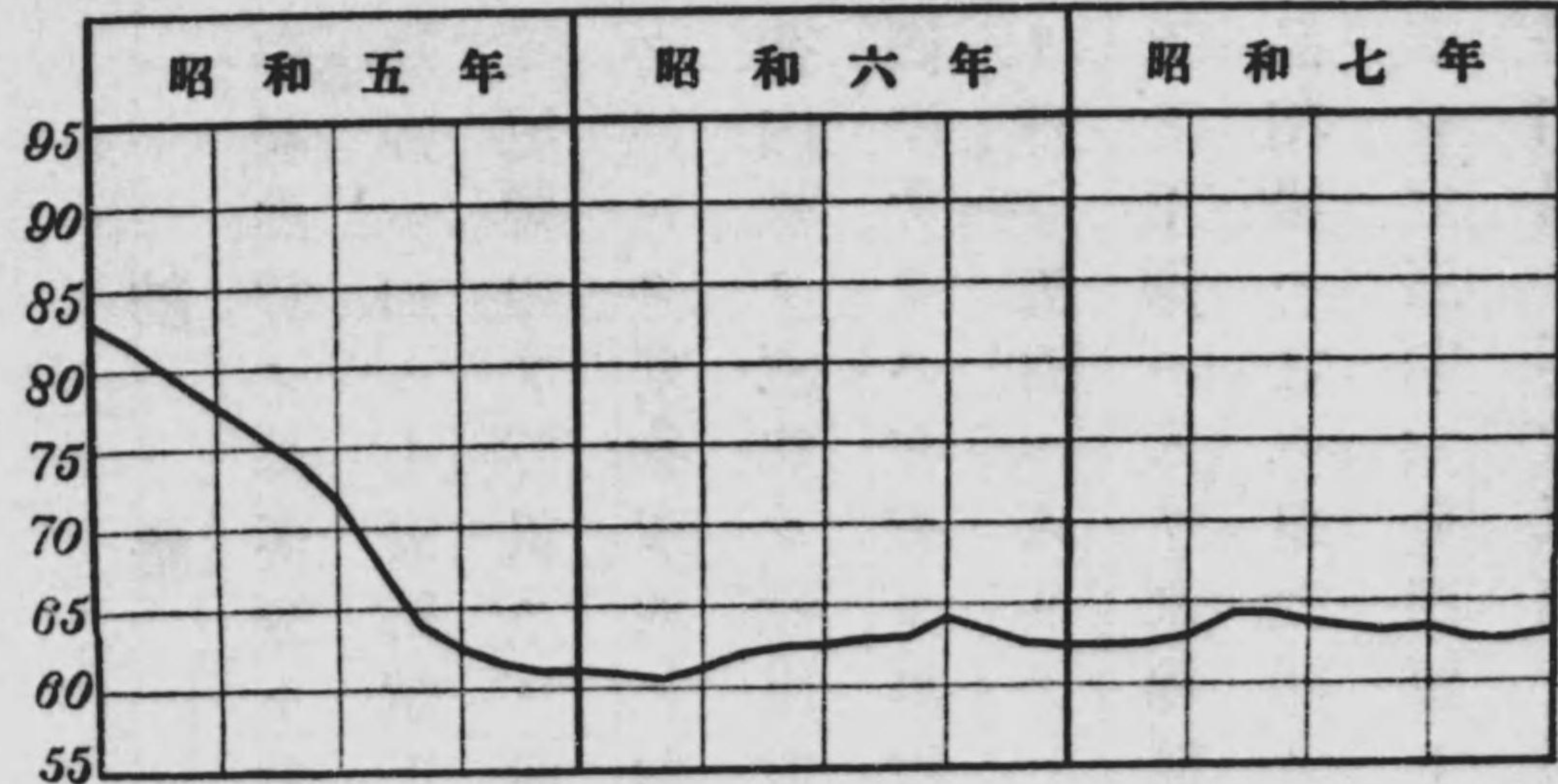
人氣濃化ノ折柄、戰債問題ノ紛糾等ニ絹製品ノ賣行良好ナラス、相場ハデリ安歩調ヲ呈シテ八百圓臺ヲ出現シ晚秋繭高値仕入ノ關係上製糸家ノ採算ハ左程有利ナラサリシ模様ナリ。

今勞働統計指數ヲ觀ルニ人員指數ハ一月四四・三ト季節關係旁々低位ニアリタルカ、二月ヨリ弗々春挽開始ニ騰勢ヲ辿リ三月ニハ七四・二ト上昇セリ、尤モ之ヲ前年夏挽閉止期前ノ十一月ニ比較スレハ九・八ポイント方ノ低位ニシテ業界ノ不振ヲ反映セリ、其ノ後四月ニハ上騰シ、五、六月ノ端境季ニハ低下ヲ示シタルモ其ノ低下割合ハ例年ニ比較シ顯著ナルモノアリキ、而シテ七月以降ハ業界ノ好調ニ指數ハ漸騰傾向ヲ呈シタルカ中秋後再ヒ軟勢保合ノ狀ヲ告ケ結局年末指數ハ四三・八ト前年末ニ比較シテ三・〇ポイント方ノ低下ヲ演シタリ、次ニ賃金指數ヲ觀ルニ定額賃金ニアリテハ年初二箇月間ハ前年末ト殆ント大差ナカリシモ、三月ニ入り低給者雇用ノ爲メ激落シ、其ノ後モ人員増加ニ伴ヒ漸落步調ヲ呈シタリ、尤モ八月以降ハ業界ノ活況ヲ映シテ保合ヲ續ケタルモ猶年末指數ハ六三・六ト前年末ニ比較シ四・六ポイント方ノ低下ヲ告ケ、又實收賃金ニアリテハ年初生糸相場奔騰ノ折柄、寒挽ノ小繁ニ指數上昇ヲ

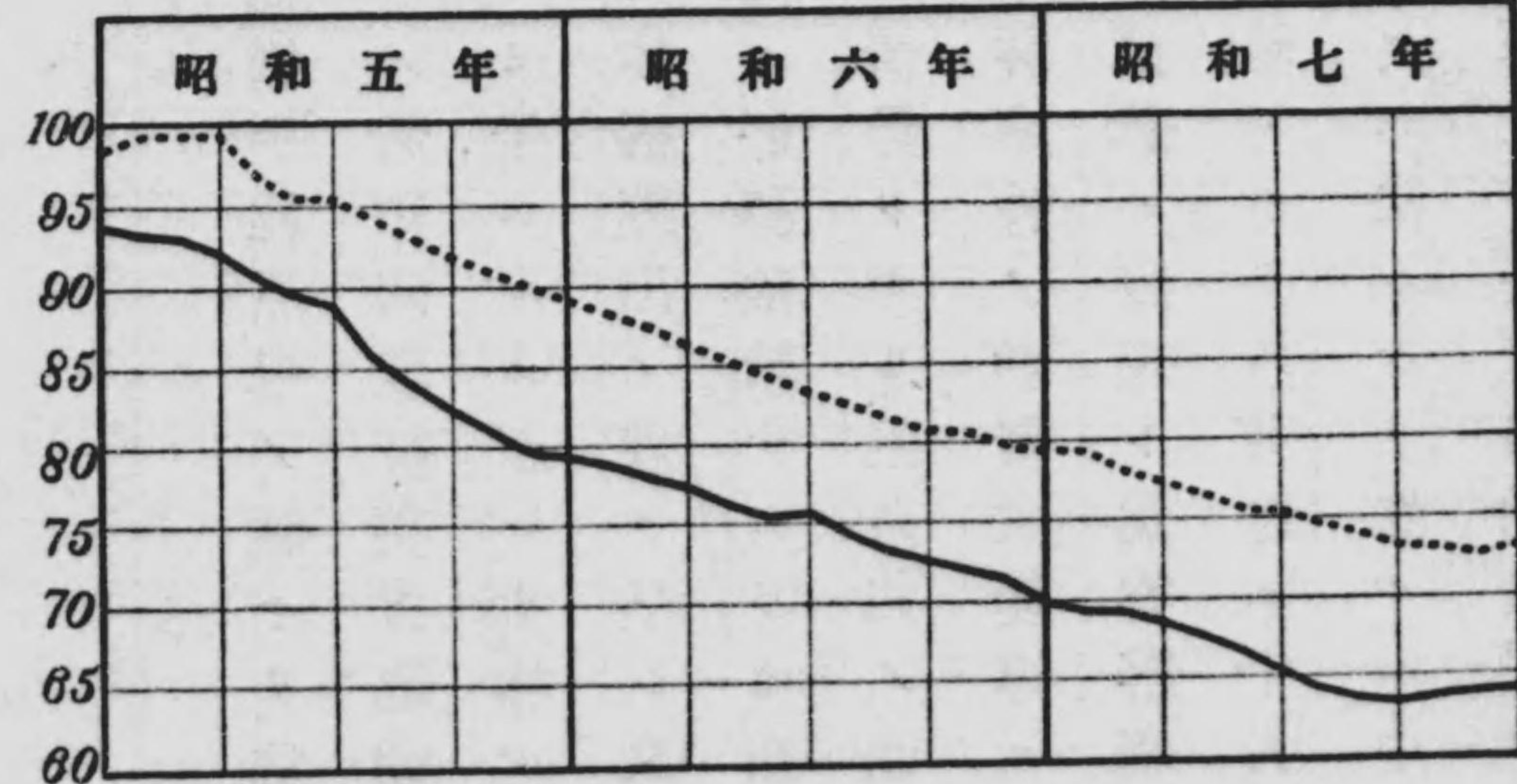
迄八分八厘方ノ操短緩和ニ決シ大勢好調裡ニ越年セリ。

紡績業

労働人員指數



賃金指數



數ハ六三・一ト前年末ニ比較シ〇・六ポイント方ノ上昇ヲ告ケタリ、次ニ賃金指數ヲ觀

今之ヲ労働統計ニ就
 キテ觀ルニ前年末六二・
 五ヲ示シタル人員指數
 ハ更年後三月迄ハ殆ト
 保合ヒ、四月ニハ季節關
 係旁々稍大幅ノ上昇ヲ
 見タルモ其ノ後ハ微落
 傾向ニ轉シ此間増加ヲ
 見タルハ九、十二月ノ兩
 月ニ過キサリキ、尤モ四
 月稍大幅ノ上昇ヲ見タ
 ルト其ノ後ノ落勢微弱
 ナリシトノ爲メ年末指

ルニ定額賃金ハ年初來逐月低下ノ一途ヲ辿リ年末指數ハ七三・〇ト前年末ニ比較シ
 六・六ポイント方ノ低下ヲ示シ、實收賃金亦年初ヨリ初秋迄ハ逐月低下シ殊ニ三月以
 降七月迄ハ落調甚シク毎月殆ント一ポイント方ノ低下ヲ告ケタル爲メ、晚秋以降業
 界ノ好調ヲ映シテ上騰傾向ヲ示シタルニ拘ハラヌ結局年末指數ハ六四・二ト前年末
 ニ比較シ五・七ポイント方ノ低下ヲ示スニ至レリ。

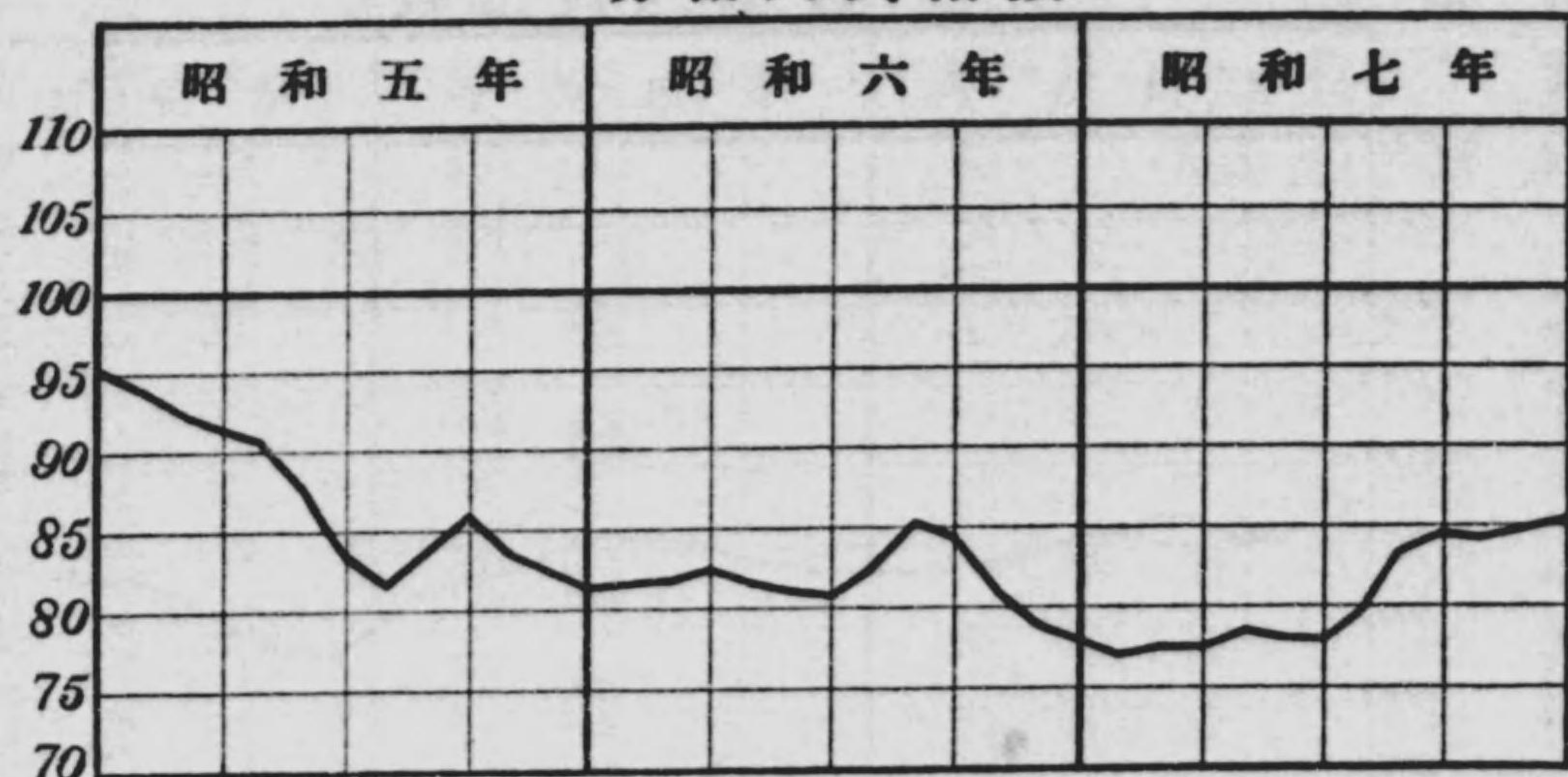
織物業

内地向織物ハ原料相場ノ昂騰ニ拘ラス需要ノ不振ニ禍セラレ相場ノ伸力兎角ニ
 涉々シカラス、機業家モ採算難ニ陥リ同盟休機自由操短ヲ行フ向モ尠カラサル有様
 ニテ業績ハ一向見直シ氣配ナク概シテ沈滞ノ狀ヲ辿レリ、尤モ夏物晩季ニ當リ格安
 品ハ相場ノ低落旁々賣行相應順調ニ進捗シ相場モ強含ミトナリ、秋冬取引ニ際シテ
 ハ大體各品共二、三割見當ノ奔騰ヲ告ケ幾分好轉ノ兆ヲ呈シタルモ、機業家採算ハ高
 値原料ニ左程有利ナラサリシ模様ナリ。

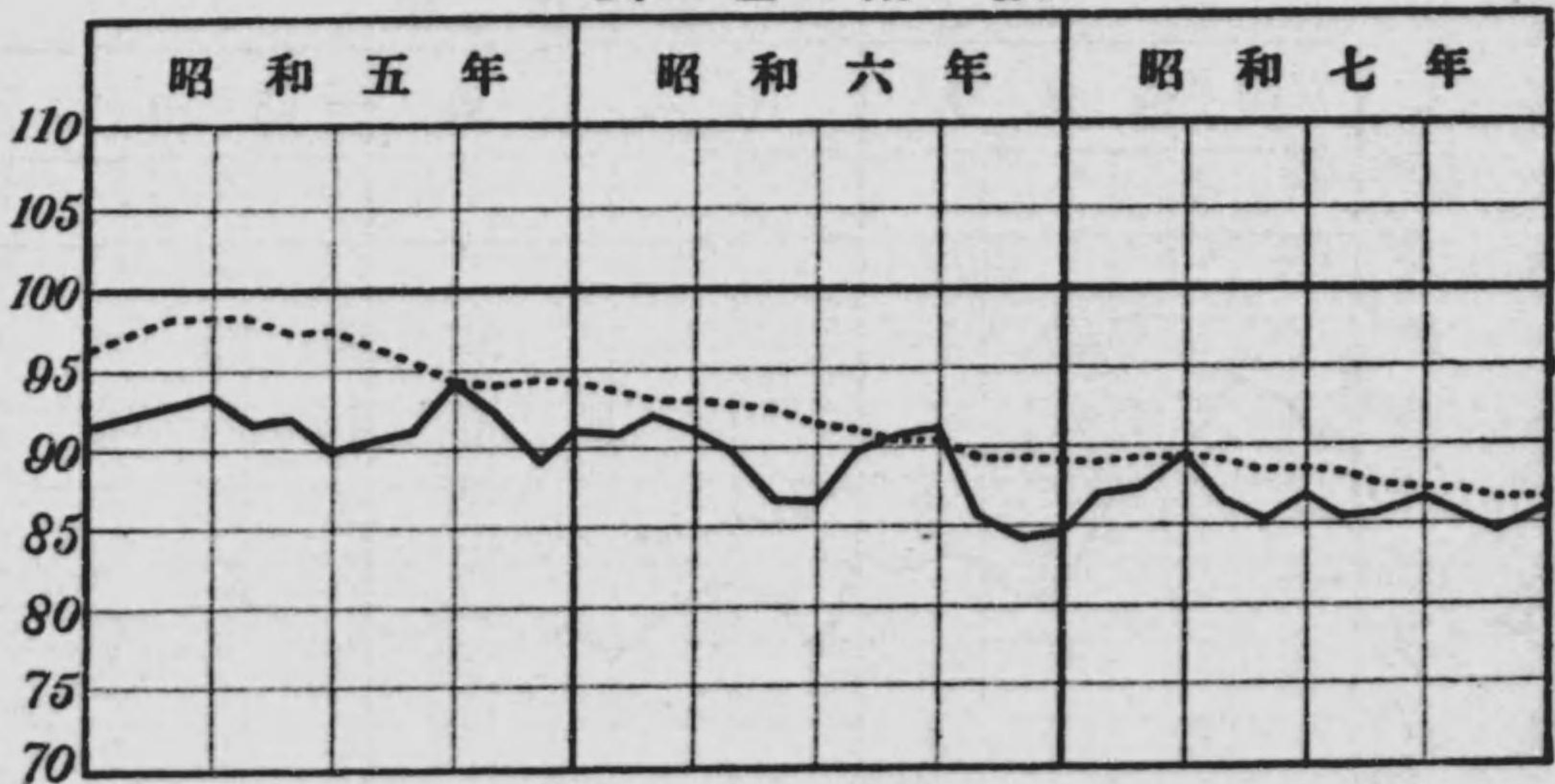
他方輸出向織物ハ内地向ノ不勢ニ反シ通年頗ル順調ナル推移ヲ示シ、年初早クモ
 南洋、印度方面ニ對シ三、四月物ニ互ル先約商談ノ成立ヲ見タル有様ニシテ粗布、金巾、

染色整理業

労働人員指數



賃金指數



數モ上期中三月ヲ最高トシテ略常例ノ推移ヲ示シ下期最盛季ニ入りテモ人員増加ノ影響旁々例年ノ如キ上騰ヲ見ルニ至ラス、十月以後落調ニ轉シテ十二月ニ於ケル幾分ノ好轉ニ拘ハラス年末指數ハ八六・〇ト前年末ニ比較シ一・六ポイント方ノ上昇ニ過キサリキ。

メリヤス界ハ前年來不振ノ跡ヲ承ケテ内地需要ハ引續キ不勢ヲ免レ難ク業況依

合計	加工綿布		晒綿布		生地綿布	
	數量	百分比	數量	百分比	數量	百分比
昭和五年	一、五七一、四〇一	四七	七三六、四三五	一〇	一六二、八四五	四三
昭和六年	一、四二二、〇七一	四七	六六二、一九二	一三	一八九、九九三	四〇
昭和七年	二、〇三二、七一九	四六	九二四、二〇九	一七	三五九、五九二	三七

(大日本紡績聯合會調査ニ據ル)

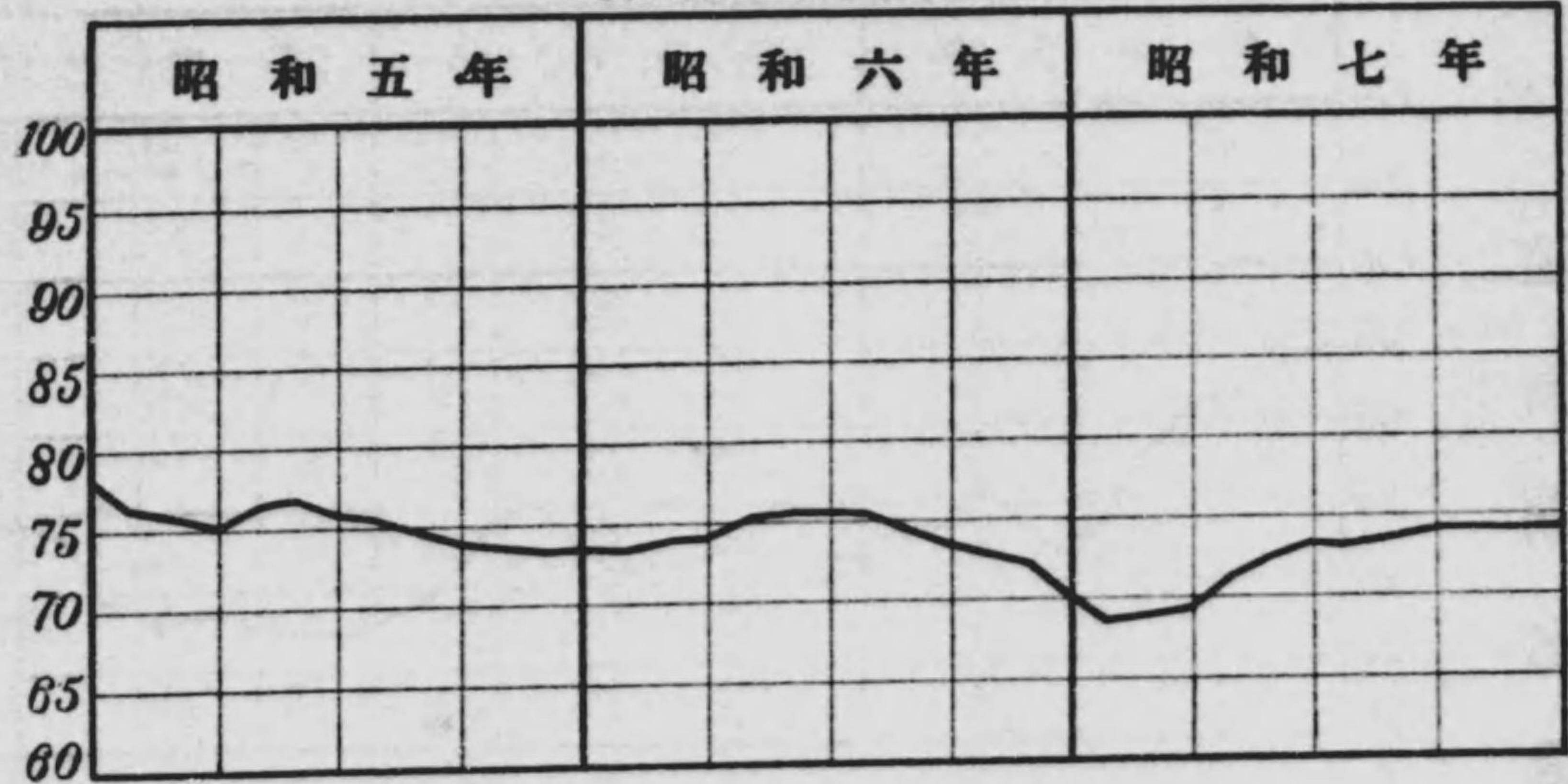
從ツテ労働人員指數モ右ノ情勢ヲ反映シテ年初來七七臺ヲ保合ヒ其ノ後四月ヨリ六月迄ハ七八臺ニ上昇シ更ニ七、八月ニ於ケル季節的昂進ニ加ヘテ九月以降モ引續キ騰勢ヲ辿リ、年末指數ハ八五・四ト前年末ニ比シ七・六ポイント方ノ上位ヲ示シ九月以降ノ如キ例年ノ落調ト全ク相反スル傾向ヲ示シタリ。

次ニ定額賃金指數ハ二、六兩月ニ於ケル微騰ヲ除キ依然前年來ノ落調ヲ續ケ、殊ニ人員増加ノ顯著ナリシ下季以降ニ於テハ稍目立チタル低下ヲ示シタル爲メ年末指數ハ八六・六トナリ前年末ニ比較シ二・五ポイント方ノ低下ヲ告ケタリ、尙實收賃金指

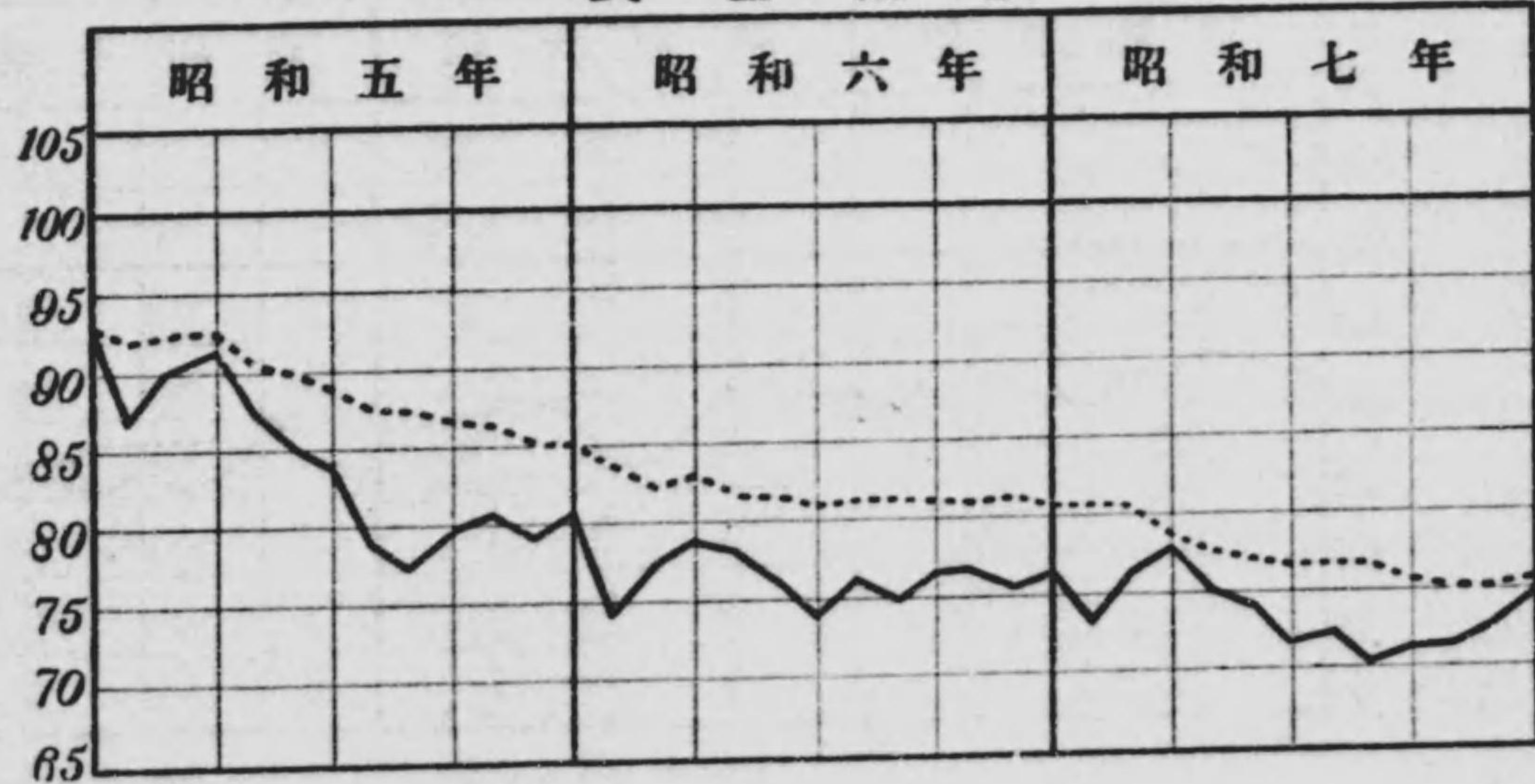
然沈滞ノ域ヲ脱セサリシカ、冬物最盛季ニ至リ纒カニ小繁ヲ告ケタリ、然レトモ輸出

組物編物業

労働人員指數



賃金指數



方面ハ年初華商筋ノ非買運動ニ商談停頓氣配ナキニ非サリシモ、春物需要期以降漸次好調ニ轉シ、英領印度、阿弗利加、麻尼拉、滿洲國等ニ對スル輸出ハ相應繁忙ヲ呈シ、又靴下類ハ爲替安ノ影響ヲ受ケテ輸出方面ハ順調ナリシモノ、如ク通年概シテ好勢ヲ示シタリ。

前年下期以來ノ落勢ヲ承ケ一月微落ヲ示シタル外、二月以降漸次上昇傾向ニ轉シ九

從テ労働人員指數ハ

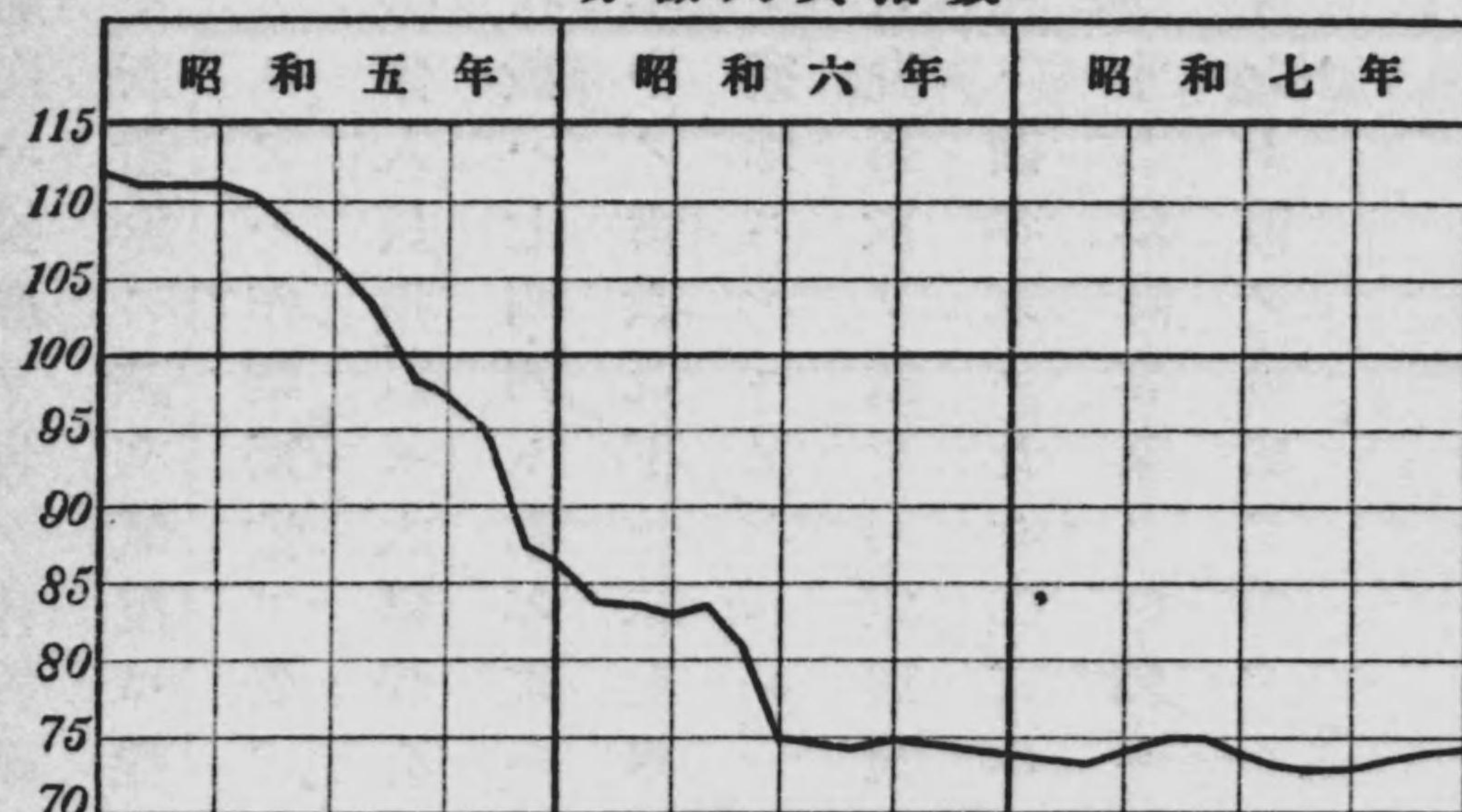
月ニハ七四・四ト年中ノ最低位タル一月ニ比シ五七ポイント高ヲ告ケタルカ、其ノ後大勢保合ヲ續ケ年末指數ハ七四・三ト前年末ヨリ四二ポイント方ノ上昇ヲ演シタリ、次ニ定額賃金指數ハ通年低下傾向ヲ持續シ、年末指數ハ七五・六ト前年末ヨリ五二ポイント方ノ低下ヲ告ケ、實收賃金指數亦例年ノ季節的騰落アリタル裡ニモ大勢落調ヲ免レス、十一月以降ハ季節關係モ加ハリ幾分騰勢ニ轉シタルモ結局年末指數ハ七四・七ト前年末ニ比シ一八ポイント方ノ低下ヲ示シ人員指數好轉ノ割合ニ稍軟調ヲ呈シタリ。

機械製造業

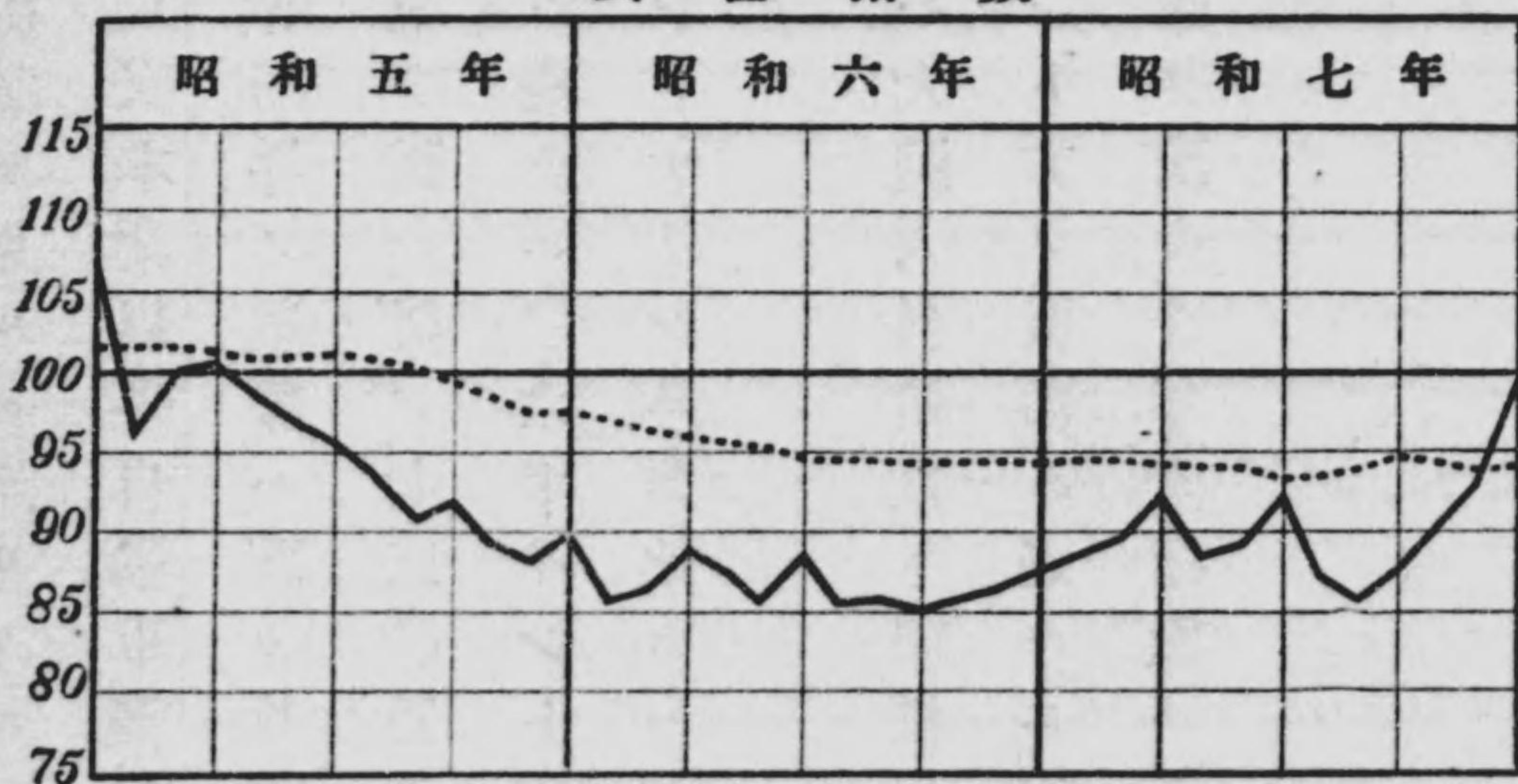
昭和五年以降一般財界ノ不振ニ累セラレ極メテ不況ヲ辿リタル斯界ハ本年ニ入り形勢全ク一變スルニ至レリ、即チ年初來爲替安ニ伴ヒ輸入品相場ノ昂騰著シク國産品需要ノ風潮漸ク旺ナルニ至リタルカ、更ニ滿洲事件費支出ニ關スル巨額ノ豫算案臨時議會ヲ通過シ愈々其ノ實行ヲ見ルニ至ルヤ、之レニ伴レ軍需品關係ノ各種事業俄カニ活況ヲ演シタル外、纖維工業用機械其ノ他ニ對スル印度、南洋方面ヨリノ入註亦尠カラサリシ模様ニシテ、從來兎角縮少ヲ免レサリシ斯業モ従業員ノ増加ヲ要スルニ至レリ。

船舶製造業

労働人員指數



賃金指數



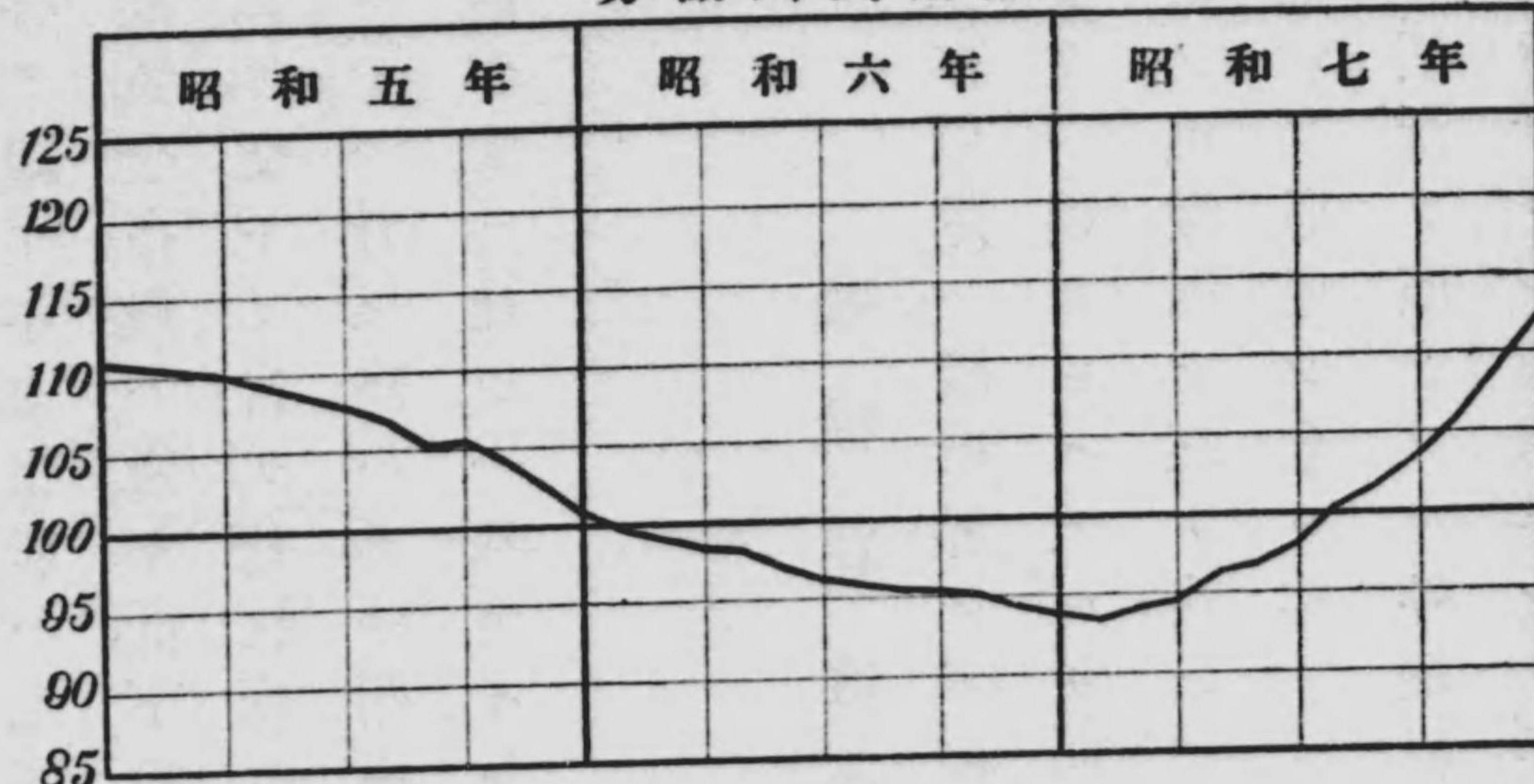
○九ト前年末ニ比シ一八〇ポイント方ノ激騰ヲ見ルニ至レリ。

船舶製造業

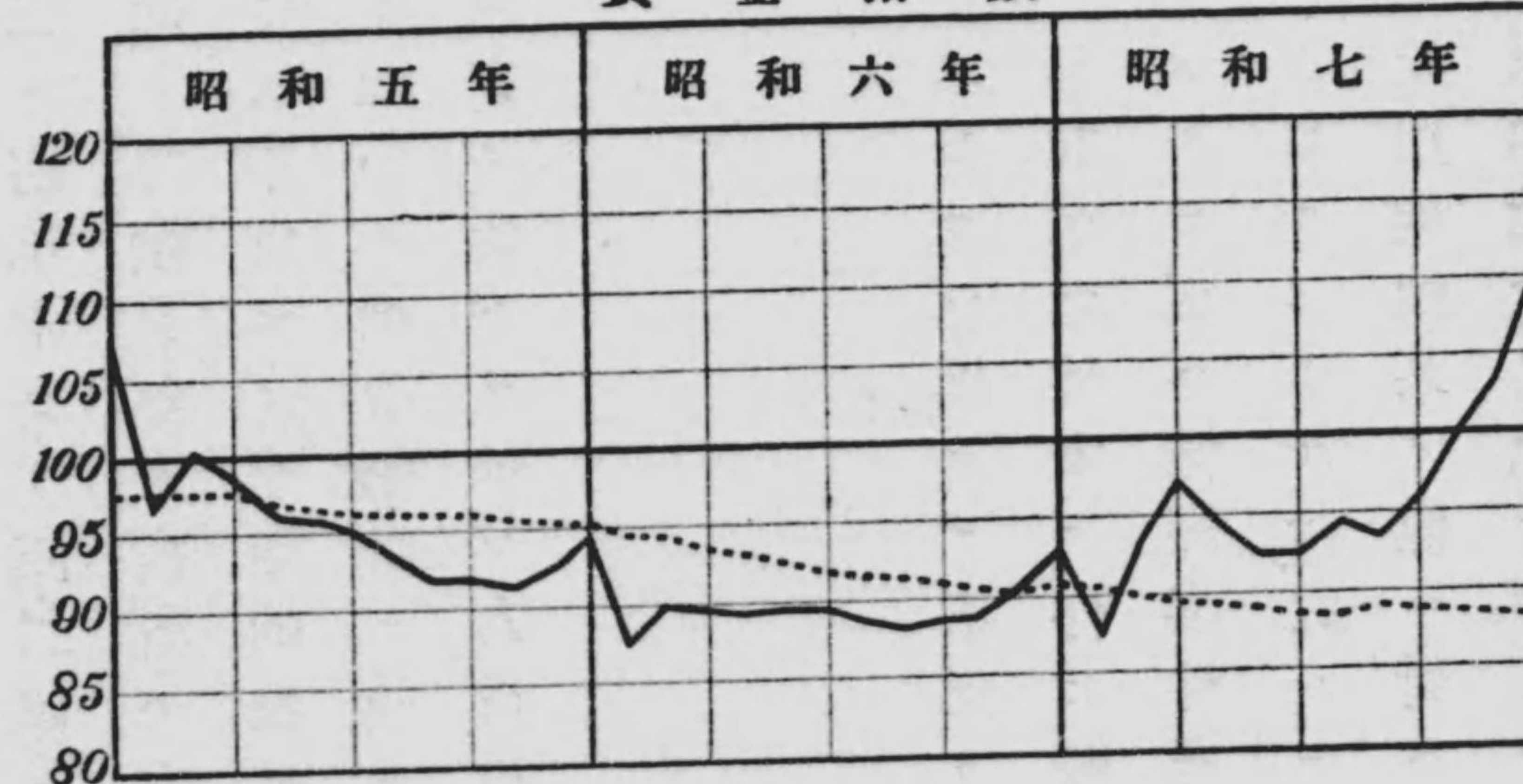
世界財界ノ不振ニ基ク國際的荷動キノ減退ニ海運界ハ依然不況著シク自然新造船ノ如キ殆ント其ノ影ヲ潜ムルニ至リタルヲ以テ斯界亦引續キ沈滞ヲ免レサリシカ、下季ニ及ヒテハ輸出貿易ノ好轉ト爲替低落ニ伴フ大形船舶ノ遠洋方面活躍ノ爲

機械製造業

労働人員指數



賃金指數



大勢昂騰氣配著シク殊ニ十月以降ハ業界ノ繁忙ヲ反映シテ急騰シ、年末指數ハ一一

シタリ。賃金指數モ定額賃金ハ依然軟調ヲ免レス年末指數ハ八八三ト年中二一ポイント方ノ低下ヲ示セルモ、實收賃金ハ

サレハ労働人員指數ハ一月ノ低下以外ハ逐月上騰ノ一途ヲ辿リ七月ニハ一〇〇

メ、近海船腹ハ拂底ヲ告ケ停繫船ノ出動ヲ見ルニ至リタル外、船質改善助成法ノ具體化ニ、弗々新造船ノ注文氣配モ現ハレ又本業以外自動車、飛行機等ノ製作ニ從事スル工場ニアリテハ作業繁忙ヲ告クル等斯界ノ業勢ハ聊カ改善ヲ示スニ至レリ。

從テ勞働人員指數モ大勢保合ノ域ヲ脱シ難ク、七三〇乃至七五〇ト小幅往來ヲ示シ、年末指數ハ七四四ト前年末ニ比シ纔カニ〇六ポイント方ノ上昇ニ止マリタルモ、之ヲ前年中ノ指數低下一二七ポイントナリシニ對比セハ顯著ナル安定ニシテ業況ノ恢復ヲ察知スルニ足ルヘシ。

次ニ賃金指數ヲ觀ルニ定額賃金ハ大體人員指數ト同様保合ノ狀ヲ呈シ、年末指數ハ九四三ト前年末ニ比シ〇二ポイント方ノ低落ニ過キス、他方實收賃金亦年初來強調ヲ辿リ十月以降作業ノ好轉ニ急騰ヲ演シテ年末指數ハ九九七ト前年末ニ比シ一八ポイント方ノ奔騰ヲ遂クルニ至レリ。

車輛製造業

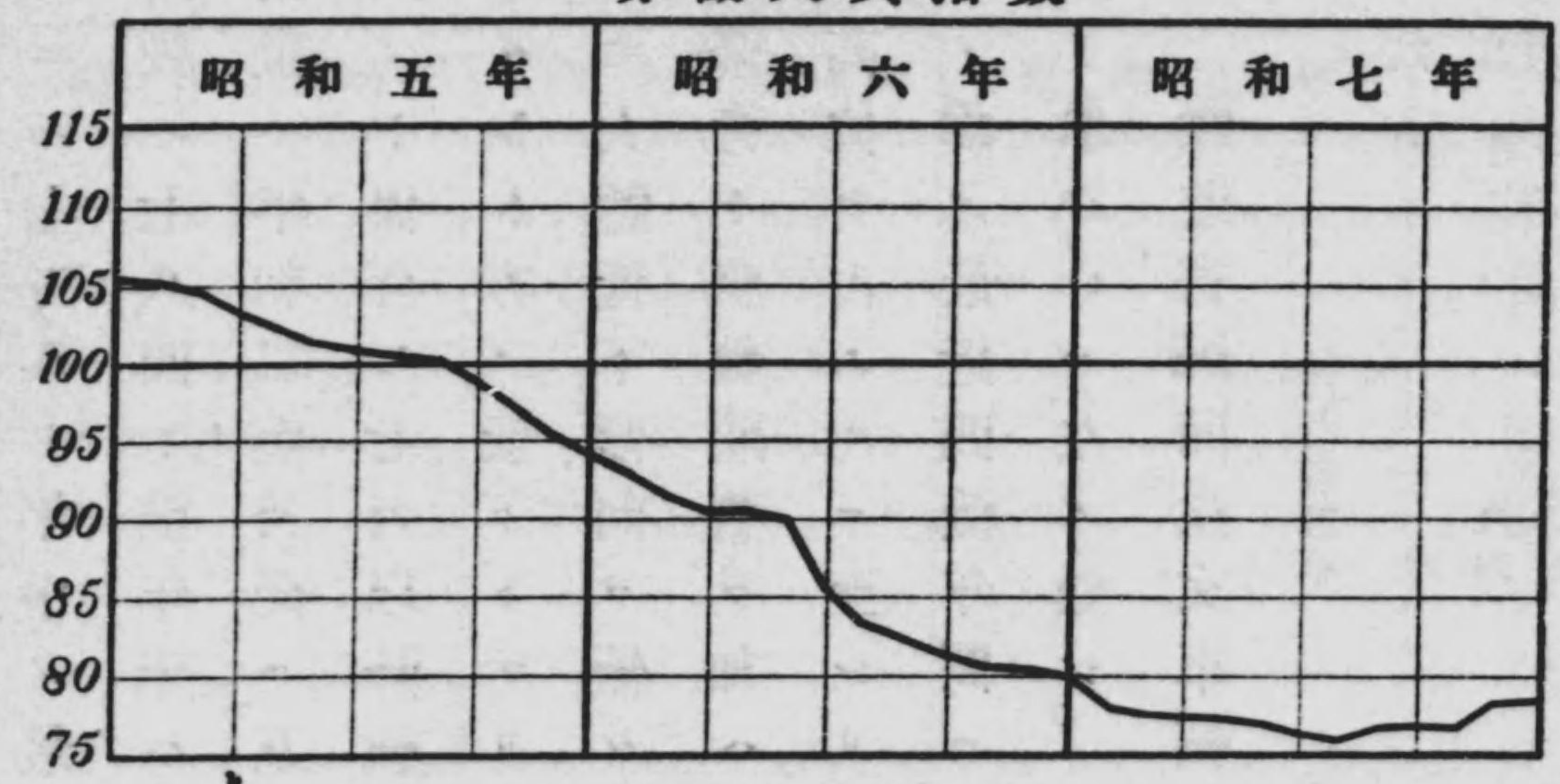
一般鐵道界ハ本年ニ入ルモ引續キ業績低下ノ趨勢ヲ辿リ未タ好轉ヲ見ルニ至ラス、國有鐵道貨物輸送高ノ如キ前年ニ比シ増加ヲ示シタルハ年初二箇月間ト九月以

降年末ニ至ル四箇月間ニ止マリ其他ハ各月共何レモ減少ヲ告ケタリ、從テ新造車輛

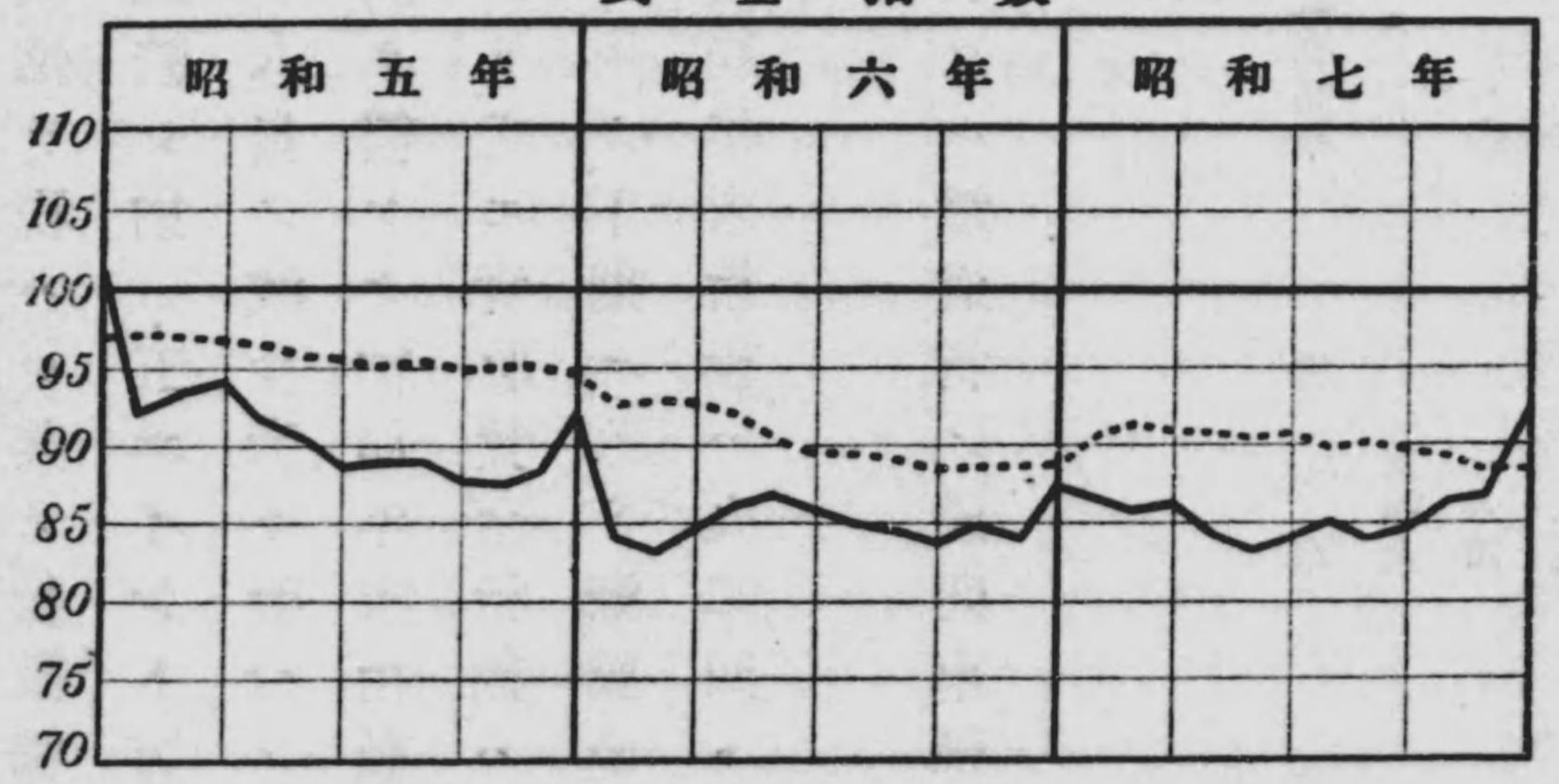
ノ注文モ抄々シキモノナク、鐵道省ノ注文車輛モ臺數ニ於テ前年ニ比シ幾分ノ増加ナカラ小型車輛ヲ主トシ注文金額ハ却ツテ前年ヨリ減少ヲ免レサリシ模様ナリ、他方自動車、自轉車界亦一般情勢ノ不振旁々依然鈍調ヲ辿リ年末インフレーション氣構ヘノ思惑熱ニ伴ヒ幾分好況ヲ呈シタルニ過キサ

車輛製造業

勞働人員指數



賃金指數



リキ。

從テ之ヲ勞働人員指數ニ觀ルモ年初來依然低下傾向ヲ革メス、逐月漸落ノ一途ヲ
 迎リ七月ニハ七五八ト年中ノ最低位ヲ現ハシ、其ノ後微騰傾向ニ轉シタルモ結局十
 二月ノ指數ハ七八四ト前年末ニ比較シ猶一五ポイント方ノ低下ヲ示シタリ、他方定
 額賃金指數ハ年初二箇月間ニ互リ人員ノ減少旁々幾分ノ昂騰ヲ告ケタルモ爾來上
 期中ハ殆ント保合ヒ七月以降軟調ヲ續ケテ結局年末指數ハ八八八ト前年末ニ比較
 シ〇一ポイント方ノ低下トナリタリ、尤モ實收賃金指數ハ上期中ハ季節的騰落アリ
 タル裡ニモ大體低下傾向ヲ續ケタルカ、下期ニ入り漸騰歩調ニ轉シ殊ニ九月以降、ハ
 作業ノ小繁旁々騰勢顯著ヲ加ヘ結局年末指數ハ九二四ト前年末ニ比較シ四九ポイ
 ント方ノ高位ヲ占ムルニ至レリ。

今參考ノ爲メ最近四箇年間ニ於ケル鐵道省ノ民間車輛製造業者ニ對スル新造註
 文車輛數ヲ舉クレハ左ノ如シ。

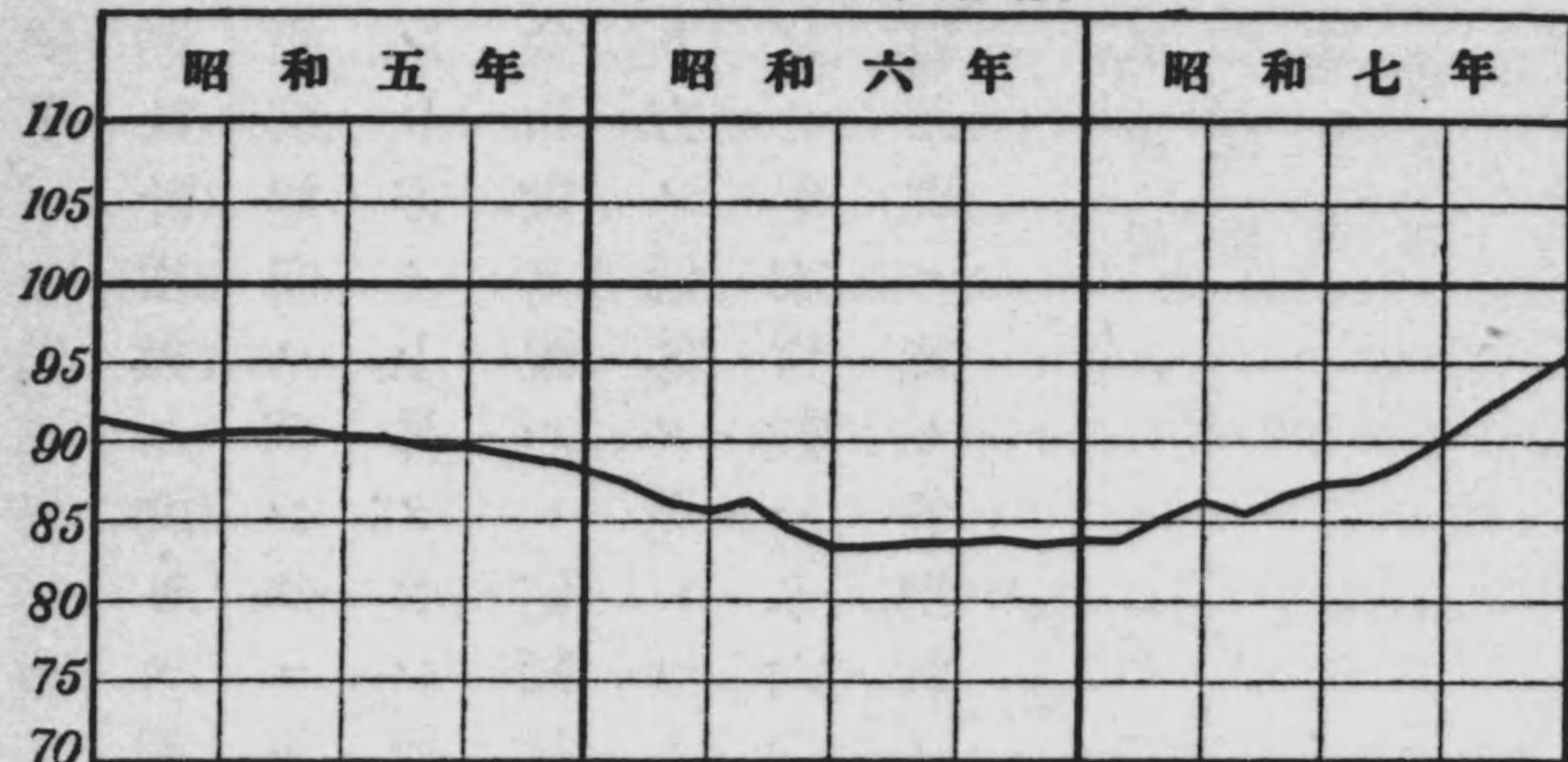
昭和 七年	昭和 六年	昭和 五年	昭和 四年	鐵道省民間注文車輛數	
				蒸汽機關車	電氣機關車
六五	三〇	九四	一一七	客車	貨車
				一、二二	一、八二二
				一、二一〇	一、二一〇
				六九	二三〇
				一一一	六九三
				客車	貨車
				三四九	一、八二二
				一六四	一、二一〇
				六二	一一五
				九八	五二

器具製造業

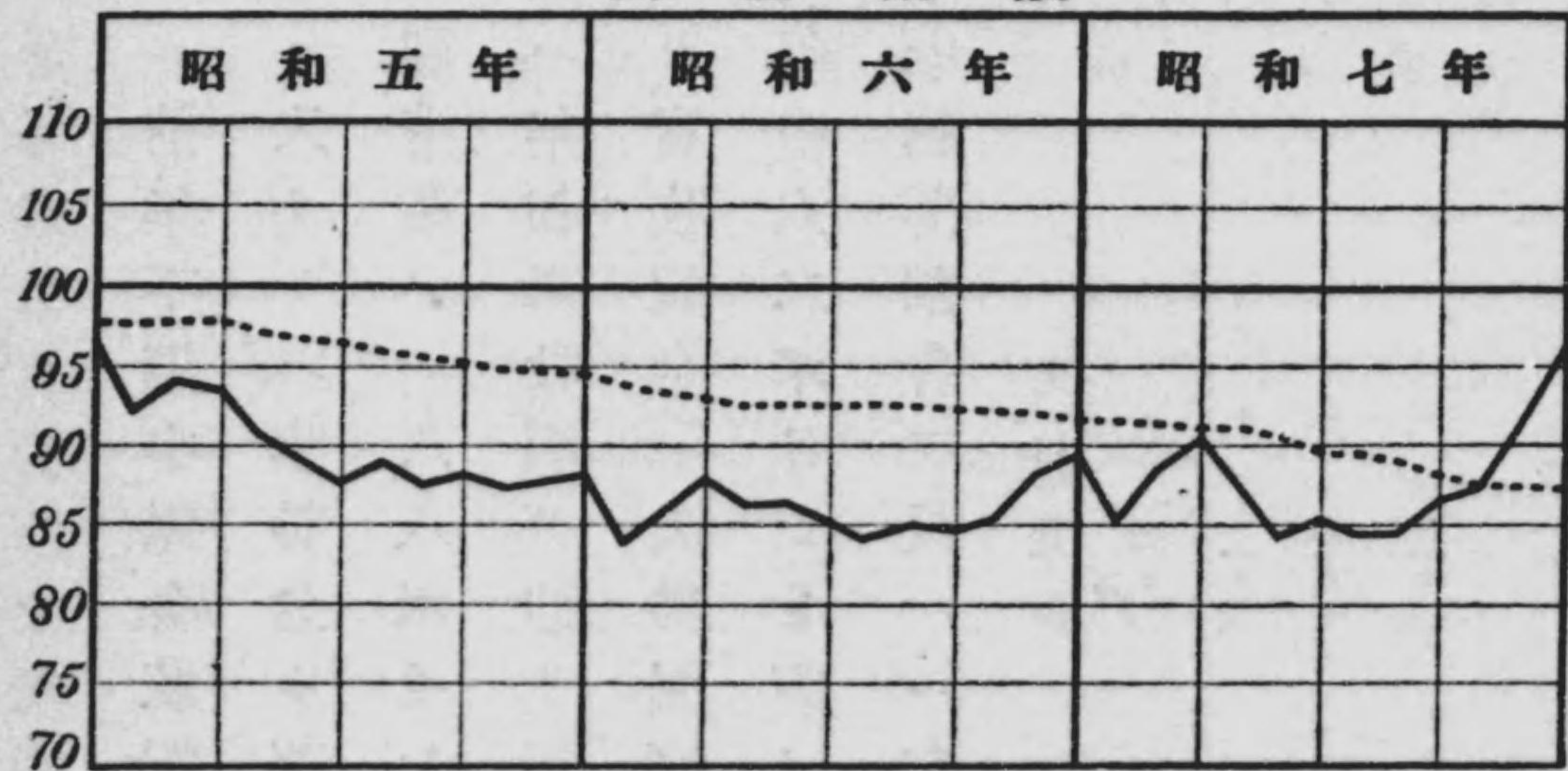
前年中環境不良ノ影響ヲ受ケテ大勢沈滞ヲ免レサリシ斯界ハ、本年ニ入り一般事

器具製造業

勞働人員指數



賃金指數



業界カ稍活況ヲ呈セル
 ト爲替安ニ伴フ輸入品
 價格ノ漸騰ニ内地製品
 ノ需要ヲ喚起セル等ノ
 事情ニ依リ情勢ノ好轉
 著シク、特ニ下期ニ入り
 テハ軍需品ノ需要頻發
 セル外時局匡救費ノ支
 出ニ伴ヒ是等方面ヨリ
 製品ノ需要亦相應喚起
 セラレタル爲メ、機械製
 造業ト共ニ重要事業中
 最モ好調裡ニ經過スル

コトヲ得タリ。

之ヲ勞働統計指數ニ就キテ觀ルニ前年下期中保合狀況ヲ示シタル人員指數ハ本年ニ入り漸騰傾向ニ轉シ、殊ニ下期ニ入りテハ騰勢愈々著シク年末九五・一ト年中一・一ポイント方ノ上昇ヲ示シ、機械製造業ノ一八・八ポイントニ亞ク躍進ヲ現出セリ。次ニ賃金指數ヲ觀ルニ定額賃金ハ年初來軟調ヲ辿リ年末指數ハ八七・三ト年中四・五ポイント方ノ低落ヲ免レサリシカ、實收賃金ハ大勢強調ヲ續ケ殊ニ秋季以降ノ騰勢顯著ニシテ年末指數ハ九六・〇ト年中六・二ポイント方ノ昂騰ヲ演シタリ。

今主要製品別ニ就キ各指數ノ年中騰落割合ヲ見ルニ左ノ如シ。

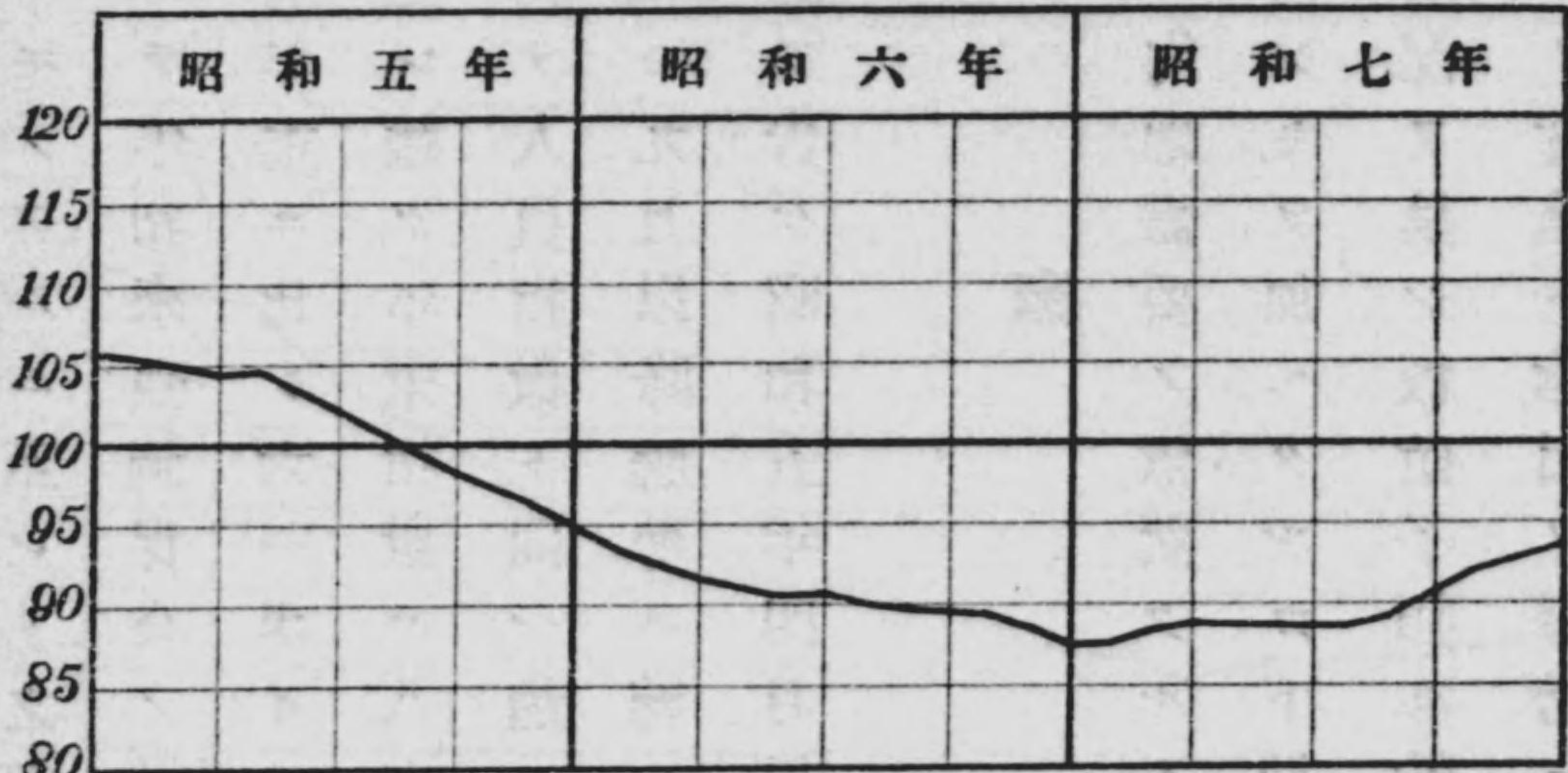
	勞働人員	定額賃金	實收賃金
計器學術器	+ 一・一%	- 四・〇%	+ 二・五%
樂器寫眞器	+ 一六・〇	+ 二・六	+ 二三・四
電氣器具類	+ 一〇・三	- 七・一	+ 一・二
工匠農具類	+ 二一・七	- 五・〇	+ 一一・二

金屬品製造業

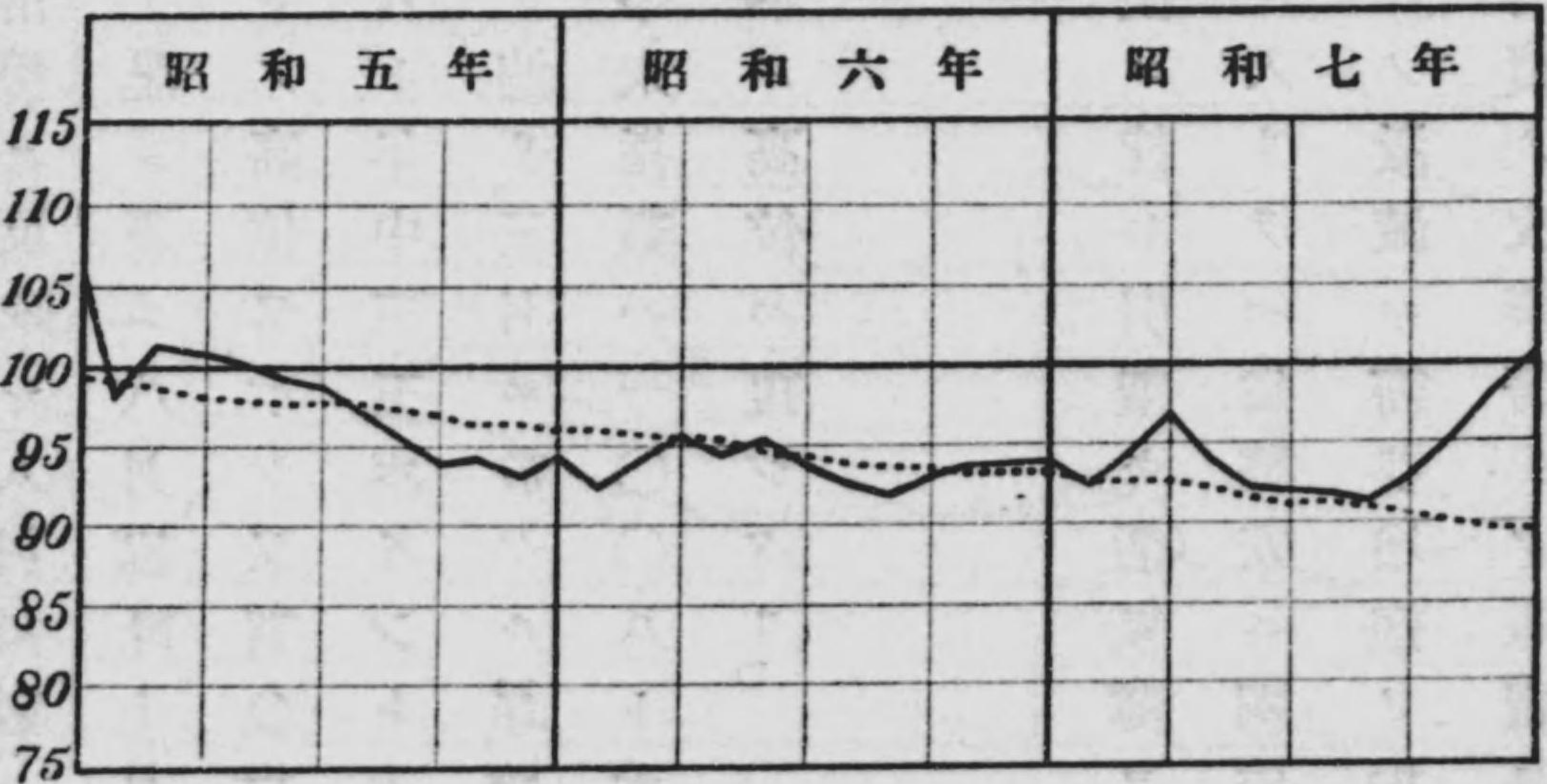
鐵鋼界ハ年初再禁止景氣ノ出現ニ假需要ノ擡頭旁々一時相場ノ暴騰ヲ見ルニ至

金屬品製造業

勞働人員指數



賃金指數



リタルモ、依然實勢ノ不振ニ市場ハ再ヒ沈滞ニ陥リ六月實施セラレタル關稅引上ケ

カ、他方產銅界モ相場ハ外註値段ニ依リ決定セラル、關係上爲替安ニ伴ヒ相場ハ漸

ノ如キモ何等市場ヲ刺戟スルニ至ラス、相場モ海外市場ノ不況ト相俟テ七、八月ノ如キ却テ再禁止前ヲ下廻ルニ至レリ、然レトモ秋季以降軍需品工業方面ニ於ケル需要ノ喚發ニ賣行俄ニ好勢ヲ呈シ相場モ漸騰シテ七、八月ノ安値ニ比シ八割方ノ激騰ヲ演シ、生産會社側ノ採算ハ非常ナル好轉ヲ告ケタル

騰歩調ヲ辿リ尙軍需品工業ノ活躍ニ需給状態ノ改善著シク、年末遂ニ外銅ノ輸入成約ヲ行フモノアルニ至レリ、之等情勢ヲ反映シ人員指數ハ昭和四年九月以降ノ落調ヲ一轉シテ年初來強調保合ノ狀ヲ呈シ、更ニ八月以降上昇氣勢著シク年末指數ハ九三・六ト前年末ニ比シ六一・一ポイントノ高位ヲ示シ、又賃金指數モ定額賃金ハ通年漸落歩調ヲ免レ難ク年末指數ハ八九・六ト年中三五ポイント方ヲ低下セルモ、實收賃金ハ大體ニ於テ人員指數ト同一趨向ヲ辿リ、三月ニ於ケル昂騰以外八月迄漸落傾向ヲ免レサリシモ、九月以降騰勢ニ轉シ年末指數ハ一〇〇・八ト前年末ニ比シ七一・一ポイント方ノ昂騰ヲ告ケ昭和五年四月以來ノ高位ニ復シタリ。

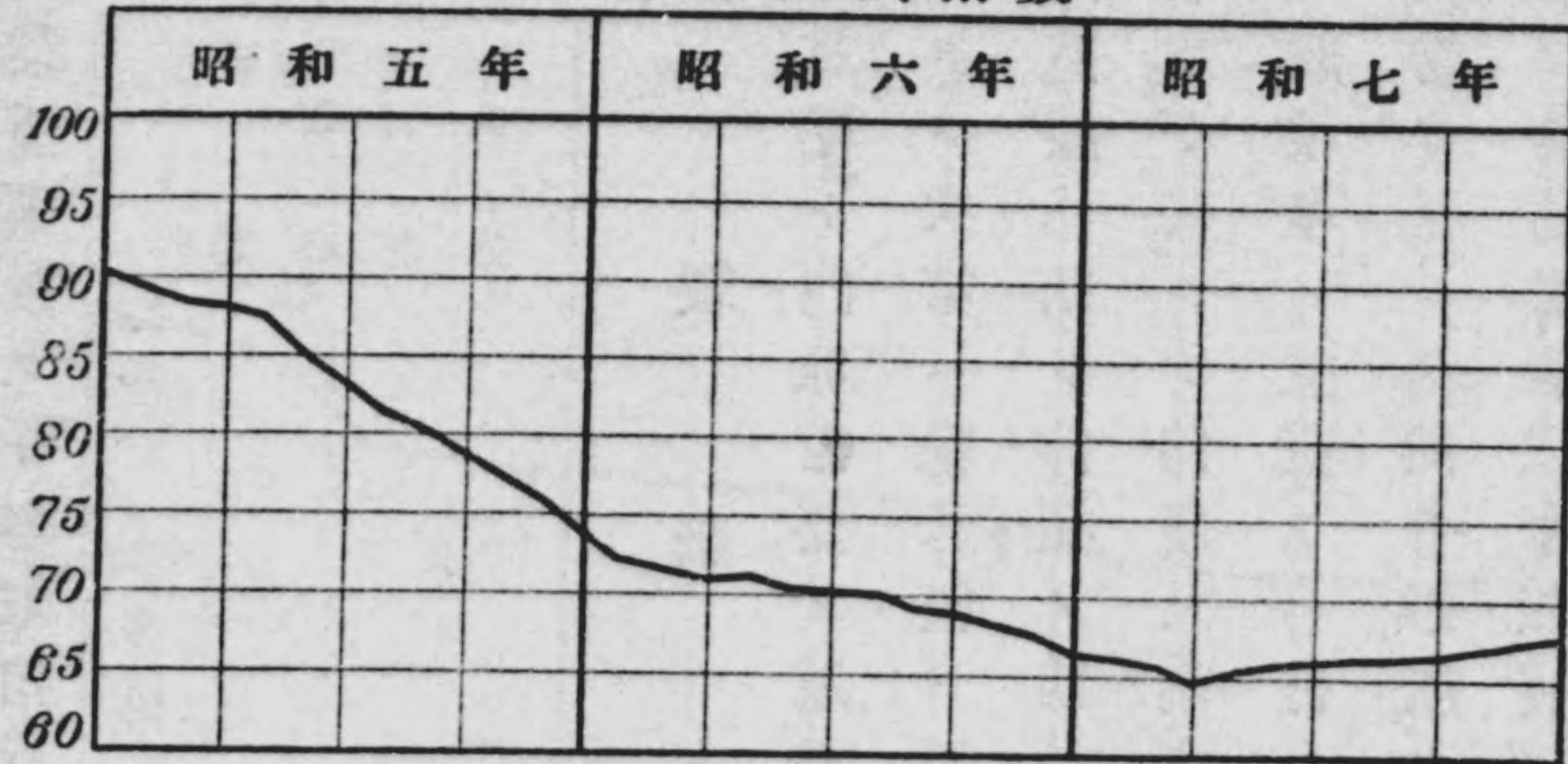
窯業

斯界ハ内地需要ノ依然タル不振ニ伴ヒ引續キ活氣薄ヲ免レ難ク、上期中ノ如キ寧ロ沈滞甚シキヲ加ヘタルカ、下期ニ入りテハ爲替安ニ陶磁器、瑠璃鐵器類ノ輸出尙商談頓ニ活況ヲ呈シ板硝子類亦輸入ノ激減ニ需要増進ノ振合アリ、殊ニ洋灰業ハ時局匡救豫算ノ實施ト輸出ノ好勢ニ業績ノ改善著シク販賣高漸増ノ折柄操短率ノ緩和ヲ見タルノミナラス生産設備ノ新設竝ニ擴張計畫サヘ續出スルニ至レリ。

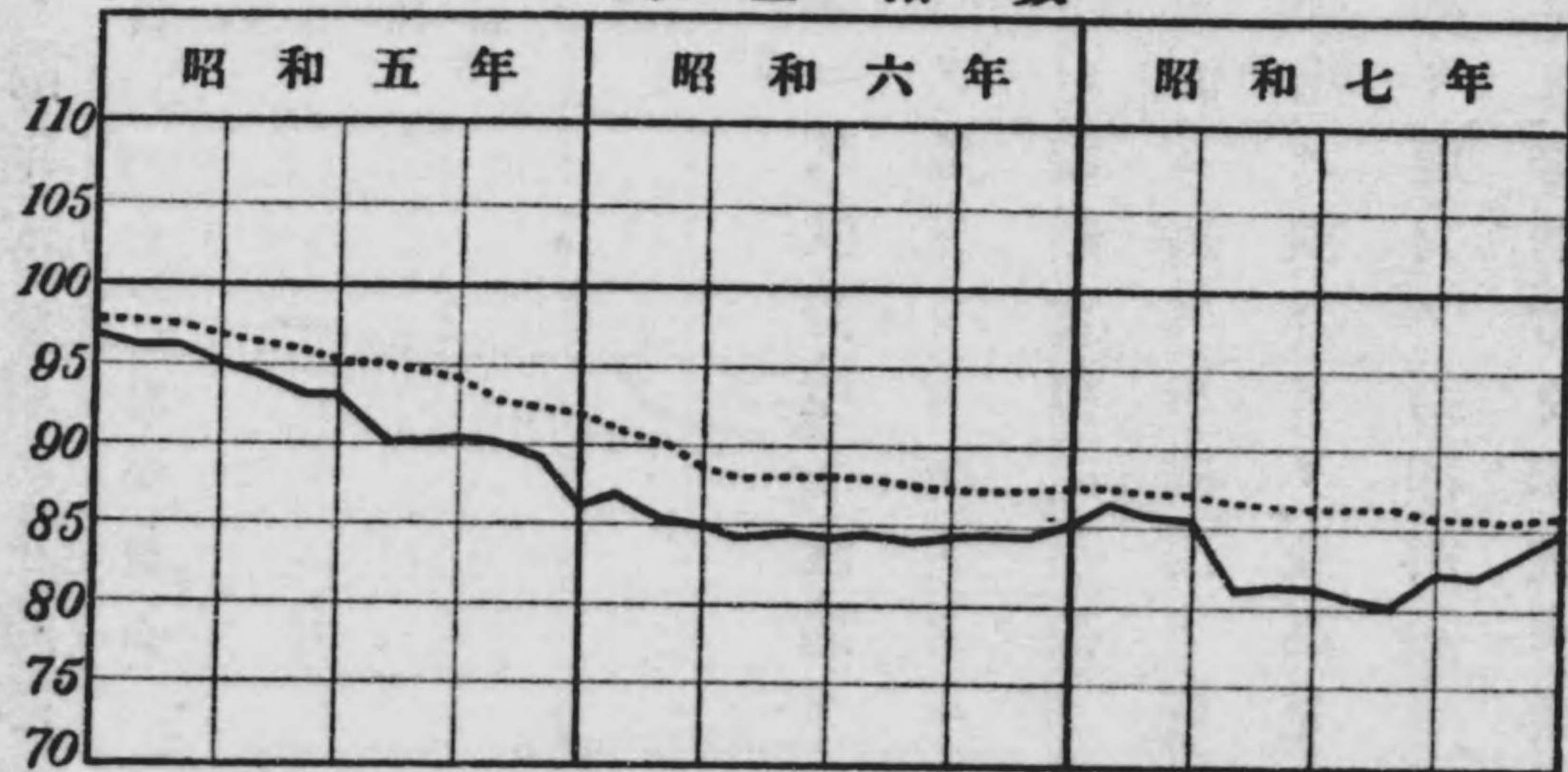
事情右ノ如クナルヲ以テ労働人員指數ハ年初來三月ニ於ケル微落ヲ除キ大體保

窯業

労働人員指數



賃金指數



比シ四七ポイント方ノ低落ヲ告ケタルモ、九月以降ハ業界ノ好轉旁々昂騰歩調ニ轉

シ年末指數ハ八四・八ト前年末同様ノ状態ニ恢復スルニ至レリ。
今主要業種別ニツキ年末指數ノ前年末ニ對スル騰落割合ヲ示セハ次ノ如シ。

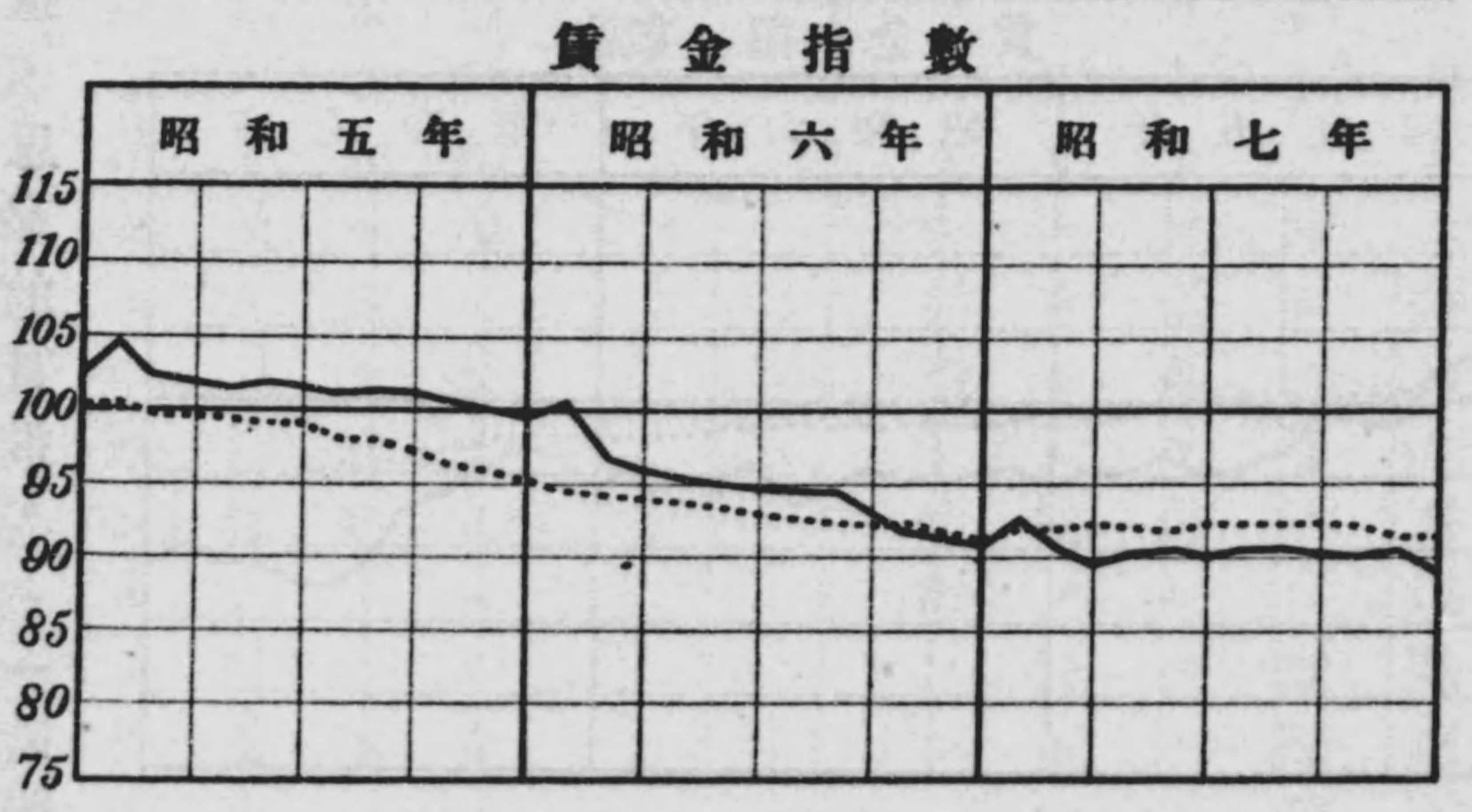
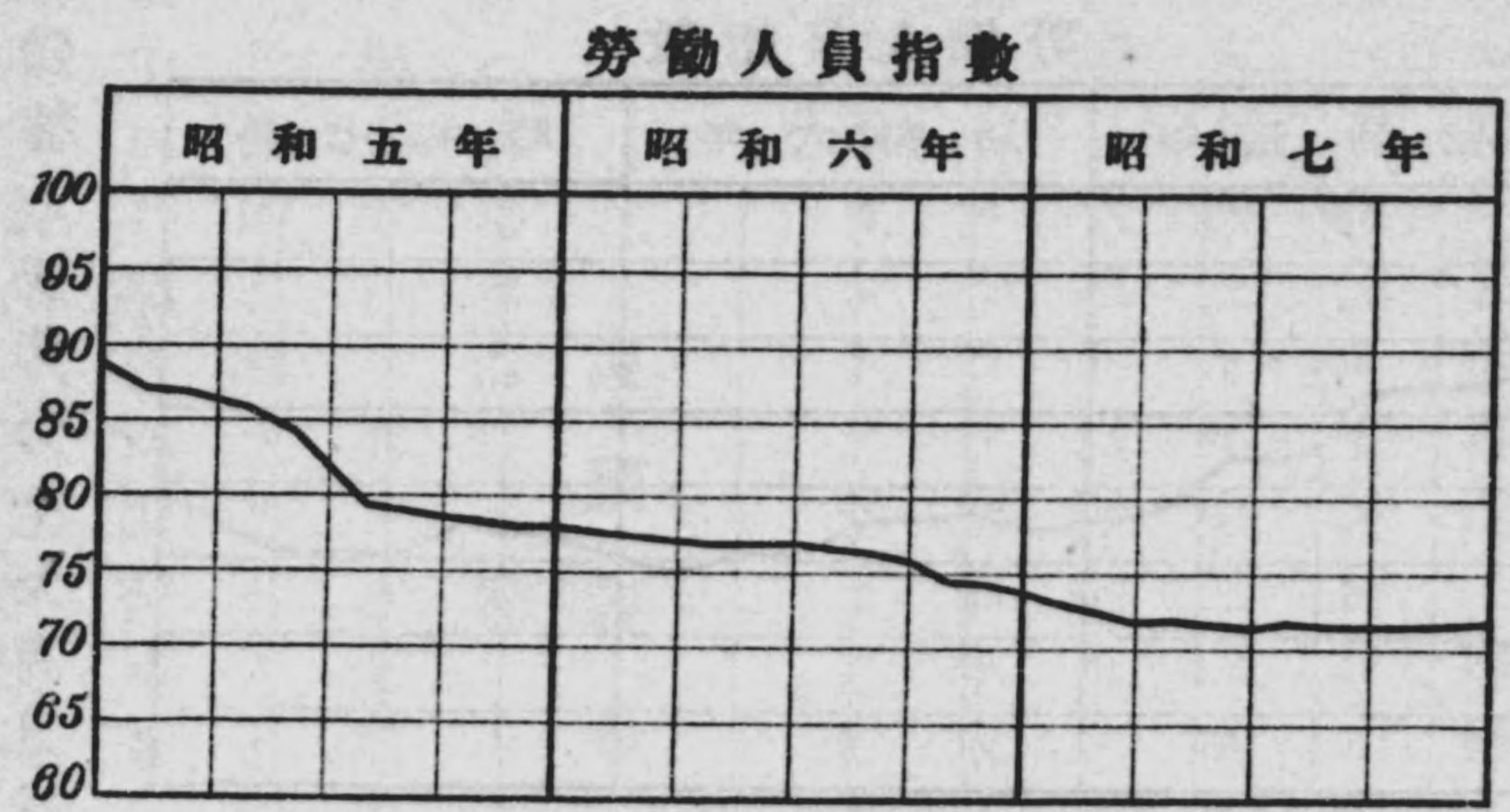
業種	労働人員	定額賃金	實收賃金
陶磁器	+ 八・六%	- 三・二%	+ 四・七%
硝子瑯琊	- 一・七%	- 一・五%	- 六・四%
洋灰	- 〇・四%	- 〇・三%	- 二・四%
煉瓦	- 二・五%	- 二・〇%	+ 六・五%
其他	-	-	-

製紙業

外紙ノ重壓ト内地需要ノ減退等ニ久敷苦境ニ沈淪セル斯界ハ金輸出再禁止後爲替低落ノタメ次第ニ輸入紙ノ壓迫ヲ免ル、ニ至リタルモ、他方上海事變勃發ニ伴ヒ對支輸出商談ハ殆ト停頓ノ狀ヲ呈シ依然實勢ノ不振ヲ免レサリシカ、下期ニ入り爲替ノ落潮愈々甚シク印度及南洋方面ニ對スル輸出ノ好轉ヲ見ルニ至リタルト、内地需要亦一般環境ノ立直リニ伴ヒ漸増ノ振合アリ、先高見越ニ思惑的買進ミモ加ハリ荷動キ好勢ヲ呈シ共同管理紙ノ如キ連月ノ封印解除ニ滯貨ノ減少著シク殊ニ三大製紙會社ノ合併發表以來販賣競争ノ終熄旁々市價モ騰勢ヲ辿リ斯界ハ漸ク恢復歩調顯著ナルニ至レリ。

從ツテ労働人員指數ハ年初三月間ハ前年來ノ落勢ヲ續ケタルモ四月以降保合ヒ

製紙業

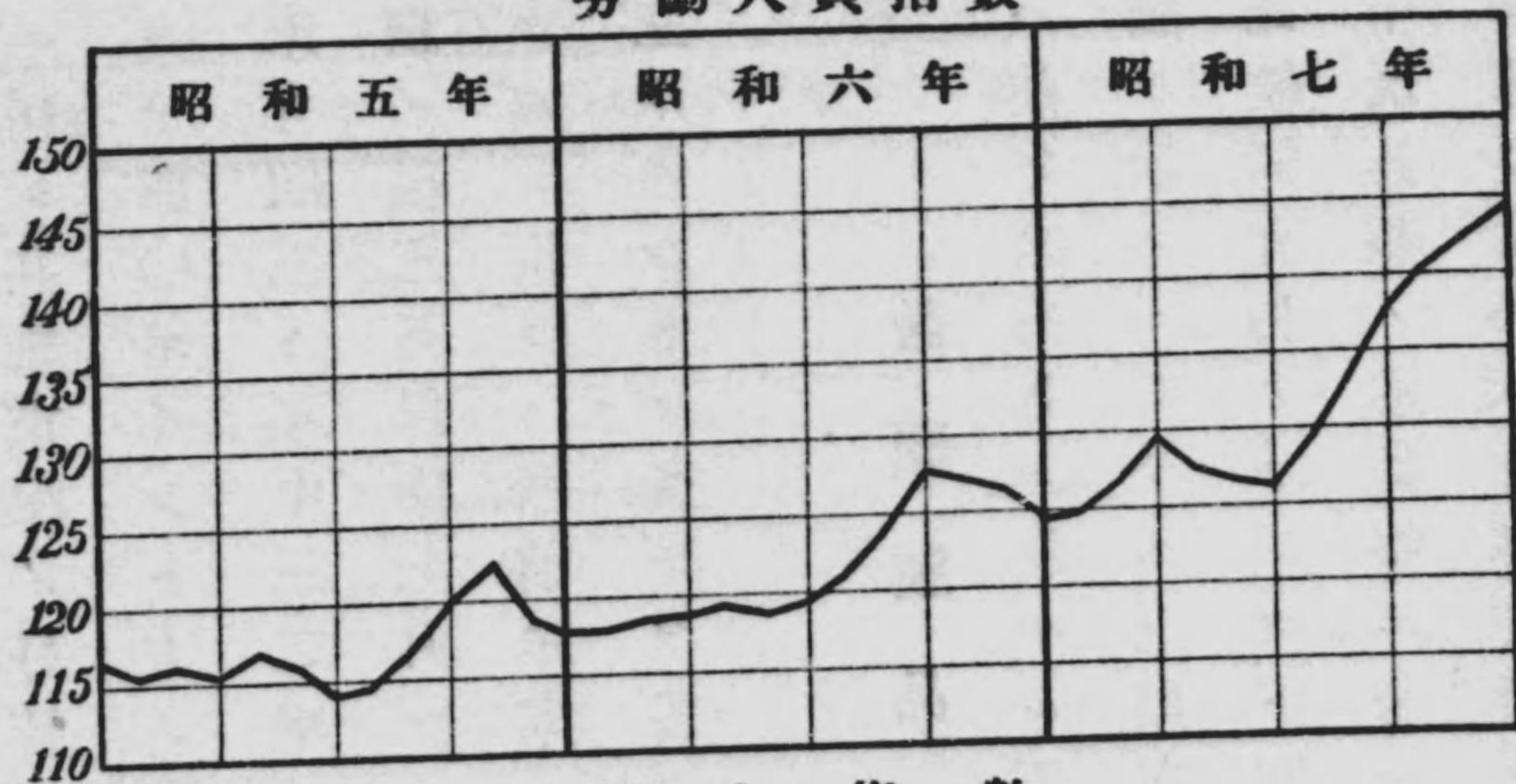


年末指數ハ七一・七ト前年末ニ比シ二・〇ポイントノ低下ニ止マリ、又定額賃金指數モ通年保合ヒ年末指數九一・三ト年中僅カニ〇・三ポイントノ低下ニ過キス、實收賃金指數亦年初微騰ノ後三月マテ軟勢ヲ辿リタルカ爾後保合ヲ續ケ、結局年末指數ハ八九・〇ト前年末ニ比シ是亦二・〇ポイント方ノ低下ニ止

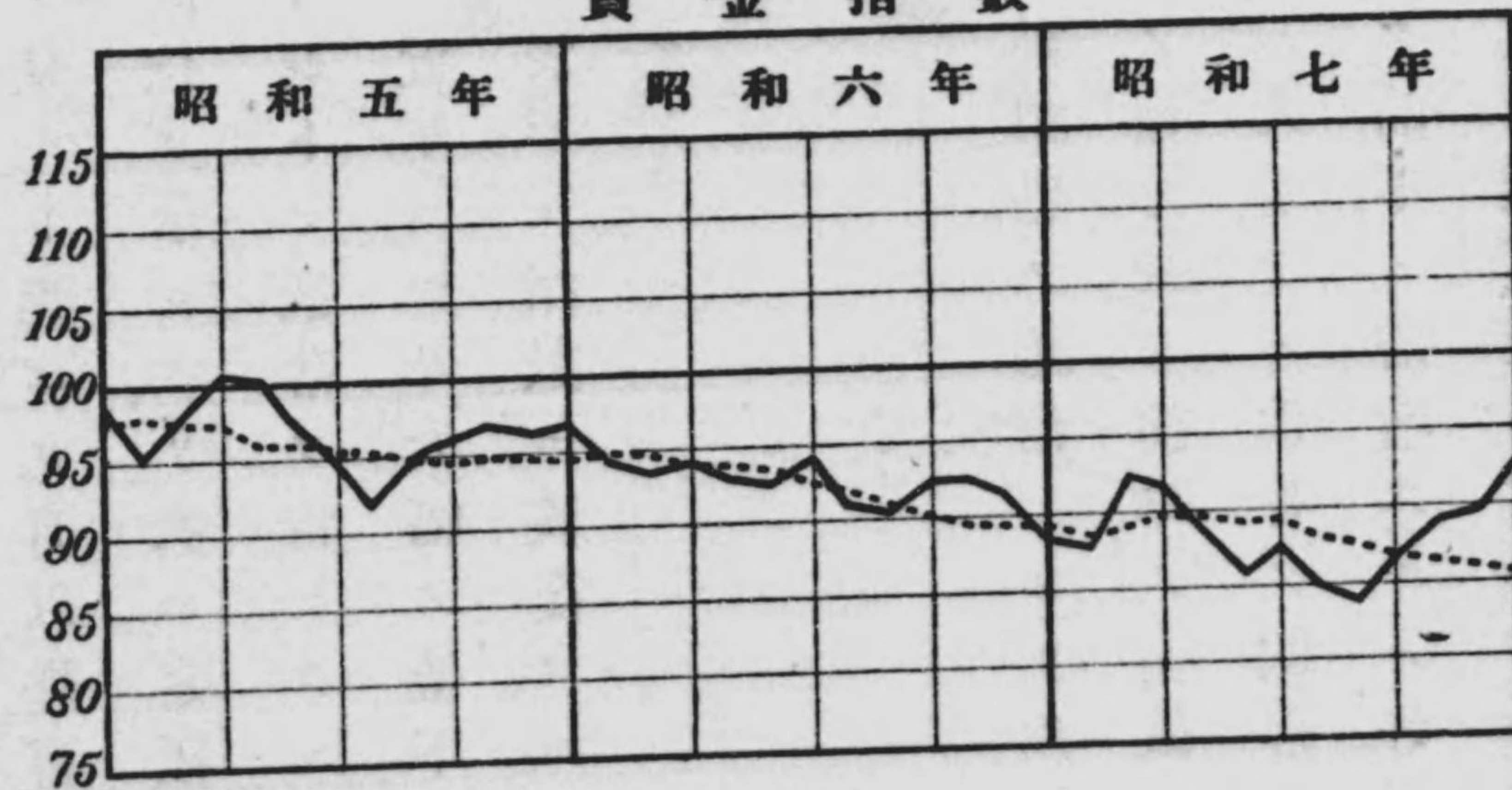
マレリ。

護 謨 製 品 業

勞働人員指數



貨金指數



上期中大體保合ヒ七月以降人員指數ノ上昇ニ反シテ低下傾向ヲ辿リ年末八五八ト

從ツテ勞働人員指數ハ年初ニ於ケル一二四・九ヨリ三月一二九・七ト上昇シ其ノ後六月マテハ小反落ヲ示シタルモ、七月以降再ヒ急激ナル上昇ヲ演シ、結局年末指數ハ一四四・〇ト本統計創始以來ノ最高記録ヲ示現シ前年同期ニ比較シ實ニ一九六ポイントノ激騰ヲ見ルニ至レリ、然ルニ定額賃金指數ハ

前年末ニ比シ三五ポイント方ノ低下ヲ告ケ、實收賃金指數ハ二月及六月ノ上騰以外八月マテ概シテ落勢ヲ辿リタルカ、九月以降急激ナル上昇ヲ續ケタル爲メ年末指數ハ九二・九ト前年末ニ比シ四四ポイント方ノ昂騰ヲ告ケタリ。今最近三箇年間ニ於ケル製品別輸出高ヲ示セハ次ノ如シ。

年次	靴		タイヤ		玩具		其他		合計
	數量	金額	數量	金額	金額	金額	金額		
昭和五年	一、四二二 <small>千打</small>	六、五九二 <small>千円</small>	四九 <small>十萬斤</small>	五、二七三 <small>千円</small>	二、〇四九 <small>千円</small>	一、二七九 <small>千円</small>	一、五、一九五 <small>千円</small>		
昭和六年	一、〇四〇	四、三九四	四八	三、八五八	二、一九八	一、〇四四	一、一、四九六		
昭和七年	一、〇二二	四、八八九	六四	四、三七七	五、五〇六	一、四七九	一、六、二五三		

(外國貿易月表ニ據ル)

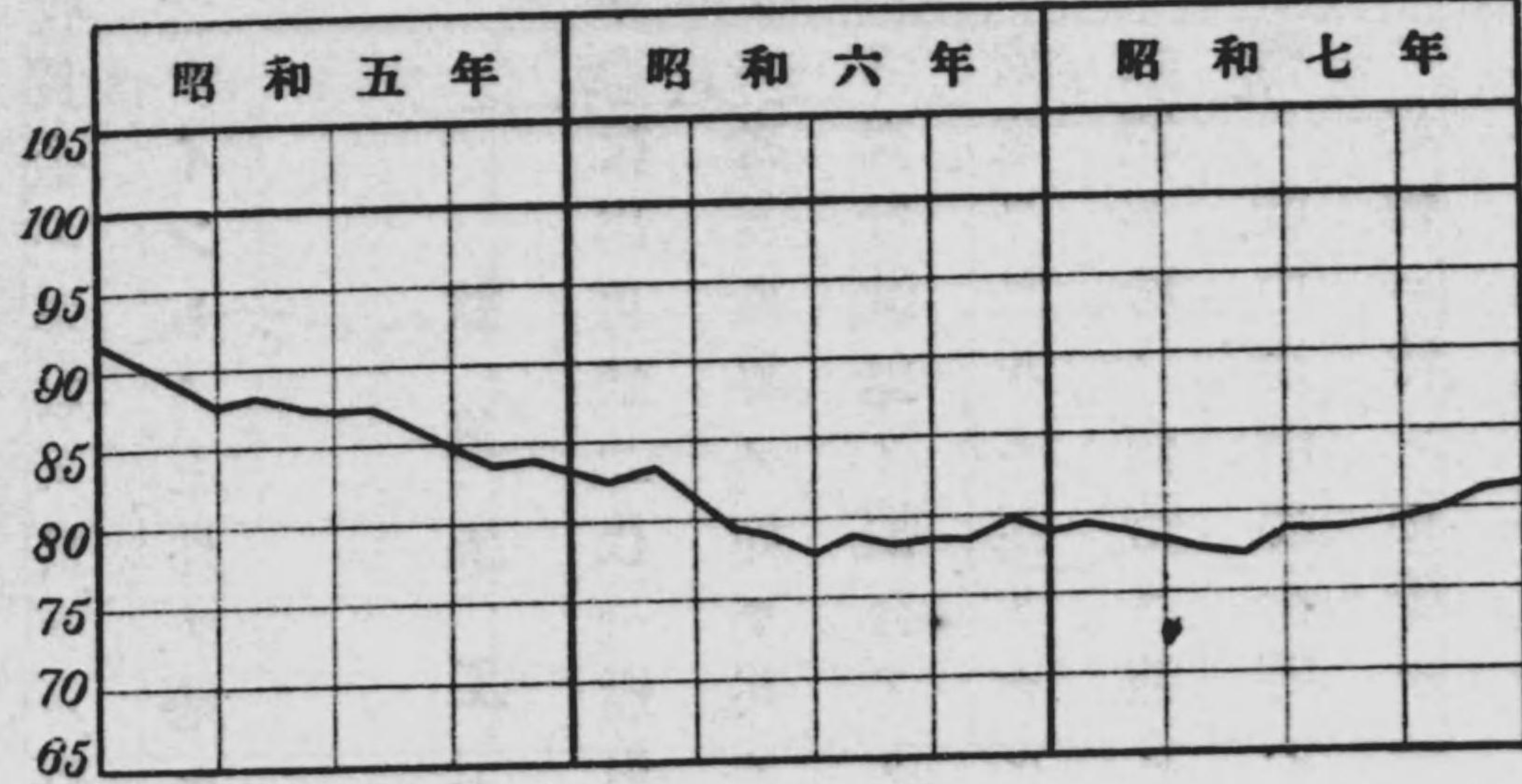
人 造 肥 料 業

人造肥料業界ハ金輸出再禁止實施ノ影響ヲ承ケテ年初市價ハ奔騰ヲ演シタルモ農村購買力ノ萎縮ニ實需ノ不振依然タル折柄相場モ再ヒ反落ニ轉シ取引ハ一段ト不勢ヲ示シタリ、然ルニ下期ニ入り一般財界ノ好轉ニ伴ヒ農産品市價ノ恢復旁々需

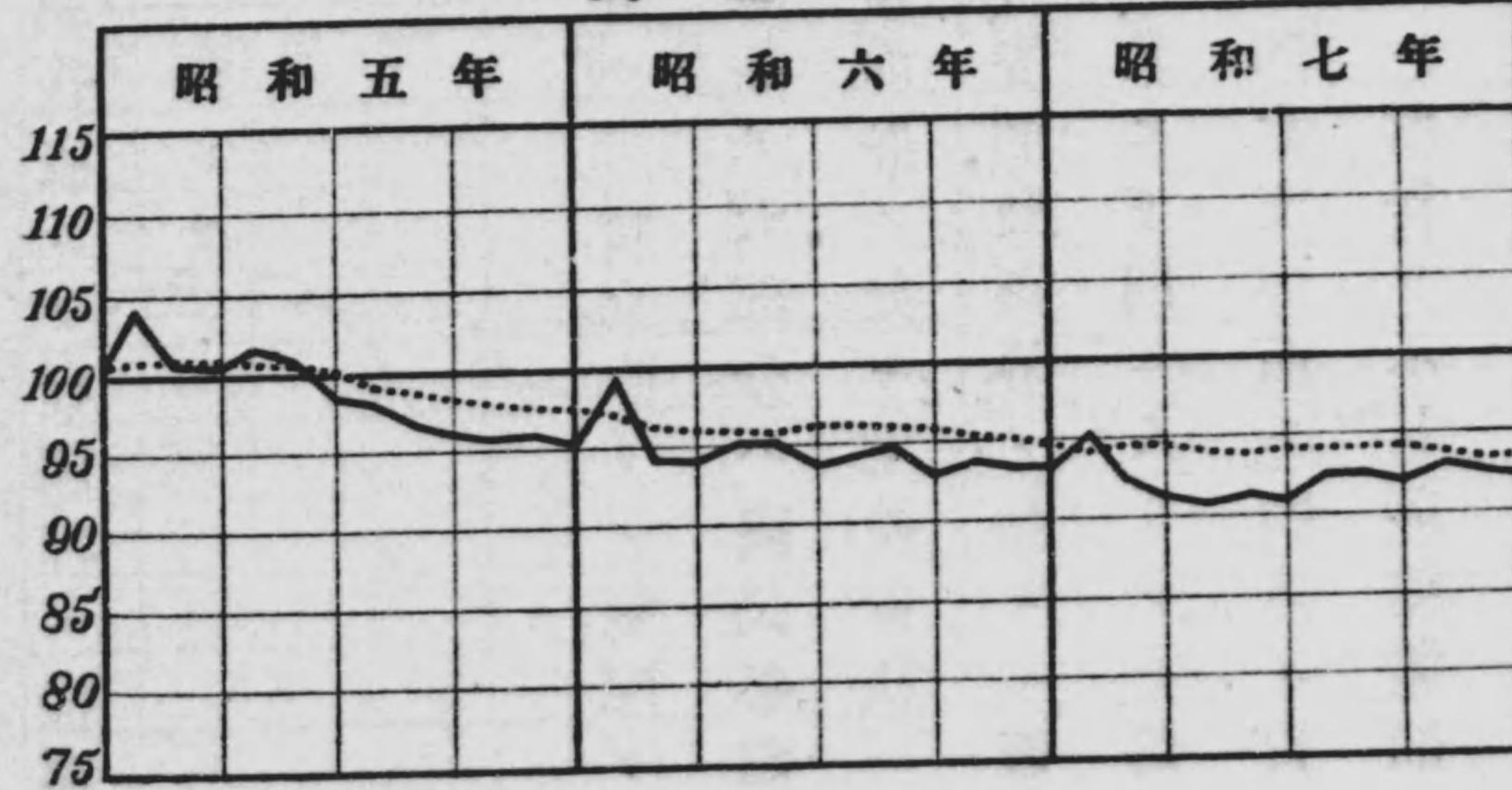
好轉シタルヲ以テ、勞働統計指數モ之ヲ反映シ五月迄漸落歩調ヲ辿リタル人員指數

飲食物工業

勞働人員指數



賃金指數



末指數ハ九二・五ト前年末ニ比シ〇・七ポイントノ低下ヲ示セリ。

ハ、六月以降漸騰傾向ニ轉シ結局年末指數ハ八一・三ト年中二・四ポイント方ノ上昇ヲ見ルニ至レリ、又賃金指數ヲ觀ルニ定額賃金ハ通年軟調保合ヲ續ケ年末九四・〇ト前年末ニ比シ〇・九ポイント方ノ低下ヲ示シ、實收賃金亦四月迄漸落シ五、六月ハ保合ヒ其ノ後七月ニハ反騰シ爾來保合歩調ヲ續ケ結局年

今事業別ニツキ年末人員指數並ニ賃金指數ノ前年末ニ對スル騰落割合ヲ列記スレハ次ノ如シ。

製糖業	製粉業	製菓業	其他業
+	+	+	+
四・五%	〇・九	四・六	〇・二
+	+	-	-
二・七%	〇・二	一・〇	一・八

印刷製本業

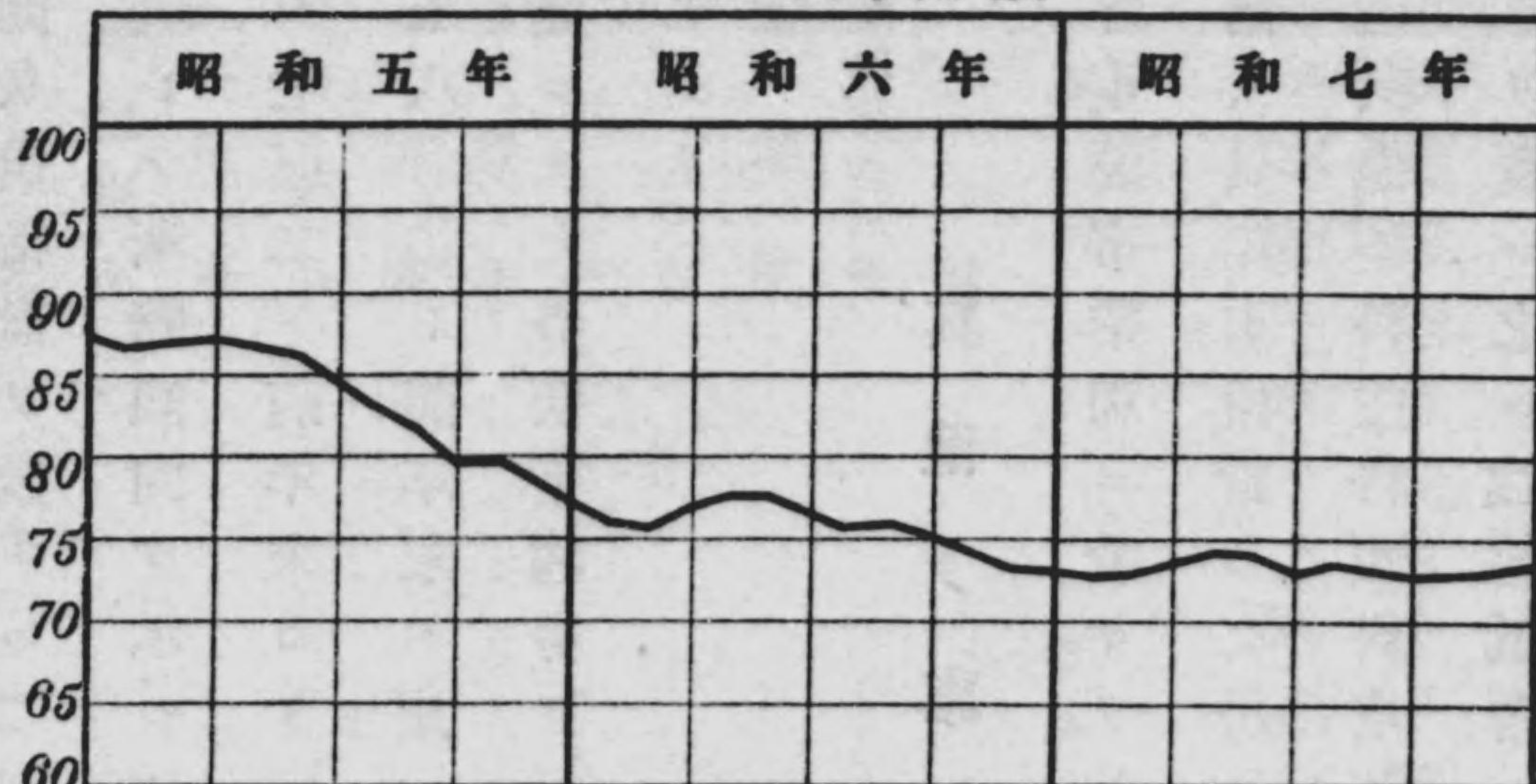
本業ハ依然前年來ノ不振ヲ持續シ何等恢復ノ徵ナク、諸材料ノ昂騰ニ拘ラス業者間ノ競争不相變激甚ヲ極メ、單價ノ引上ヲ行フコト能ハサル等ノ事情アリ、自然採算モ不利ナルヲ免レス通年不況裡ニ終始セル模様ナリ。

從テ之ヲ勞働統計ニ就キテ觀ルニ人員指數ハ年初來八月迄ハ大體前年來ノ落勢ヲ持續シ、九月以降年末迄季節關係ニ依リ反騰ヲ示シタルモ結局年末指數ハ九一・五ト年中一・八ポイント方ノ低下ヲ告ケタリ、次ニ賃金指數ヲ觀ルニ定額賃金ハ逐月漸

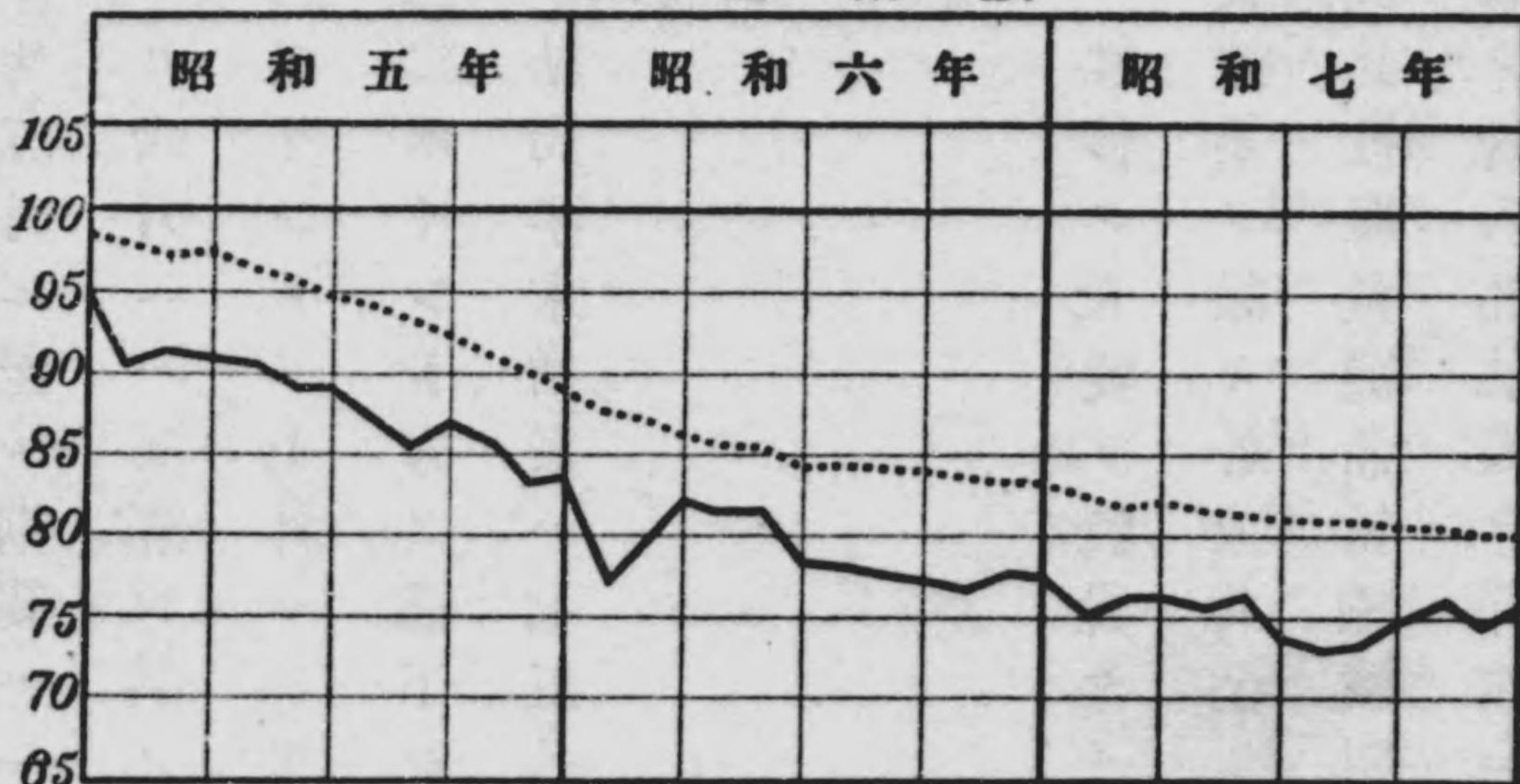
状態ヲ續ケ消化モ抄々シカラス相場ノ昂騰ニ賣行ハ寧ロ減退ノ形勢トナリ米材並

製材家具工業

労働人員指數



賃金指數

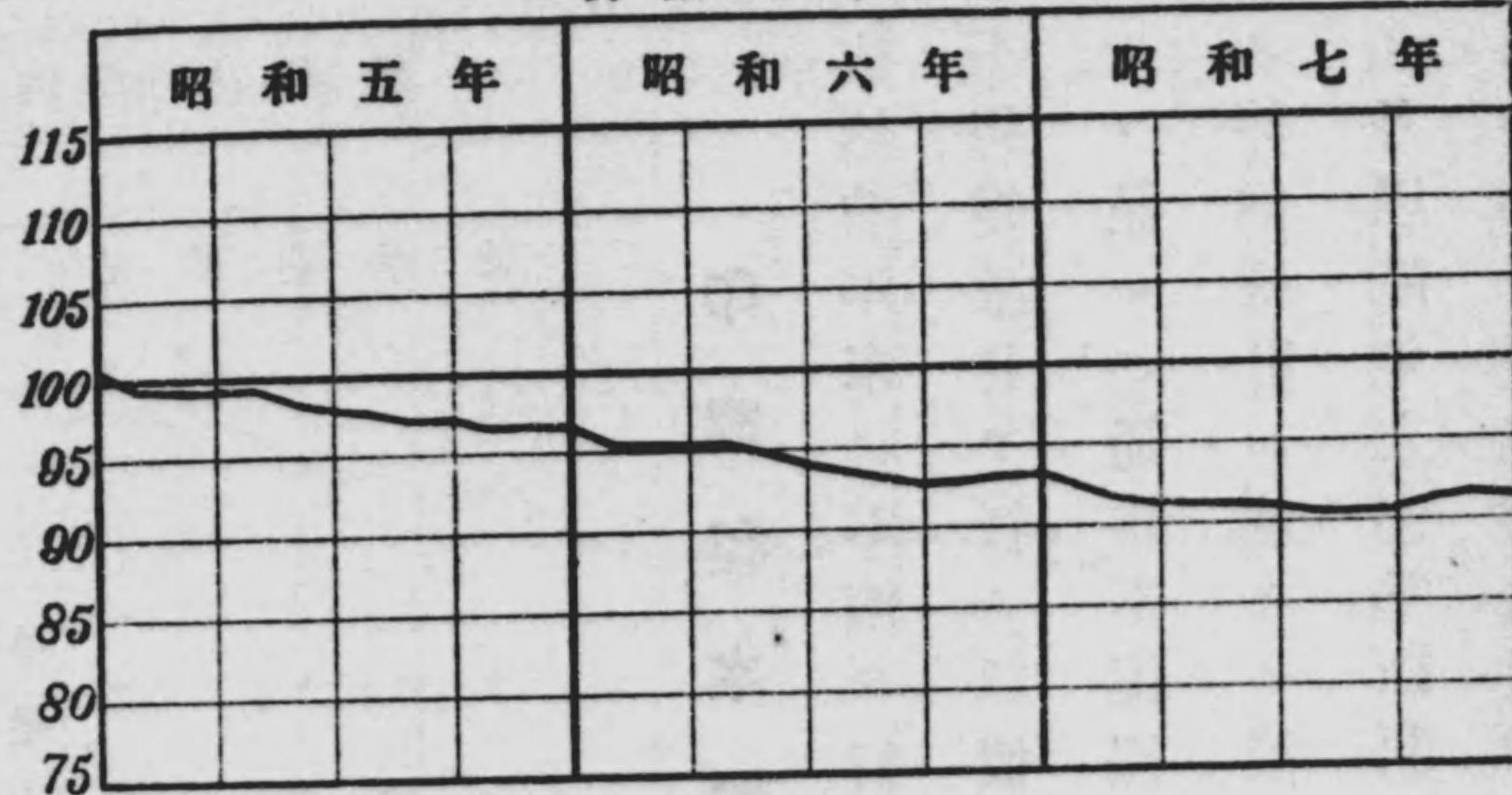


一般實勢ノ不振ニ再ヒ落潮ニ轉シ三、四月ニハ前年末相場ヲ下廻ルニ至レリ、然ルニ

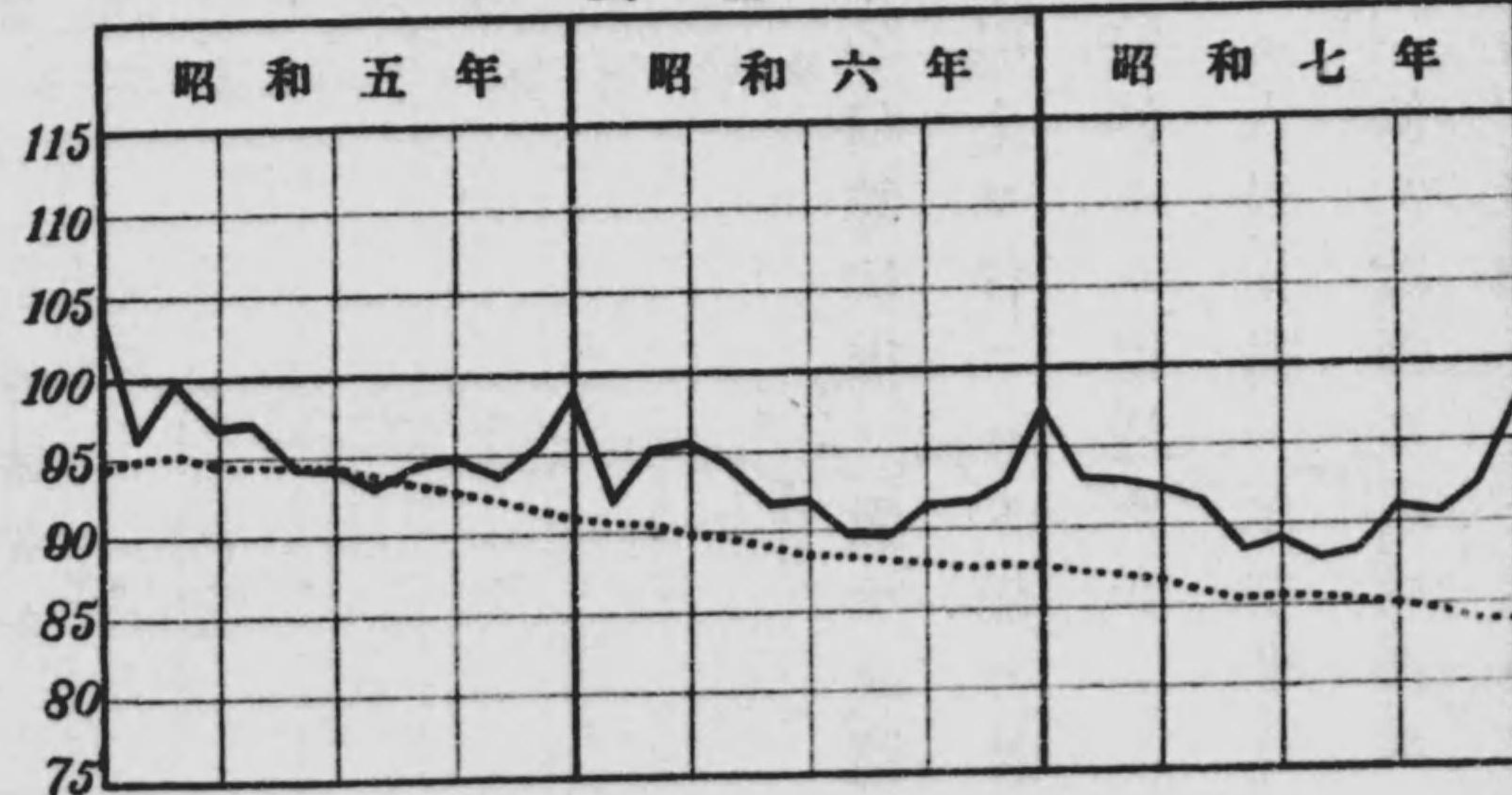
下期ニ入り爲替ノ低落愈々甚シク米材ノ如キ輸入採算ハ著シキ昂騰ヲ見ルニ至リタルト、北洋材モ統制組合ノ成立旁々出材制限實行セラレタルニ加ヘ、時局匡救費ノ撒布ニ先行樂觀氣配濃化シ、假需要ニ基ク取引好勢ヲ告ケタル爲メ相場ハ内外材共騰勢顯著ナルニ至リタリ、尤モ實需方面ハ依然氣迷

印刷製本業

労働人員指數



賃金指數



木材界ハ前年末金輸出再禁止實施ノ影響ヲ承ケテ相場ハ年初昂騰ヲ演シタルモ

製材家具工業

落ノ一途ヲ辿リ年末八三・九ト前年末ニ比較シ三・六ポイントヲ低下シ、又實收賃金ハ年初以來七月迄漸落歩調ヲ續ケ其ノ後季節關係旁々反騰趨勢ニ轉シタルモ結局年末指數ハ九七・六ト前年末ニ比シ〇・四ポイント方ノ低下ヲ見ルニ至レリ。

北洋材共輸入額ハ前年ヨリ可ナリノ減少ヲ告ケタリ。

今労働人員指數ヲ觀ルニ二月ヨリ五月ニ至ル期間ハ一時的景氣出現ト需要季關係ヲ反映シテ漸騰傾向ヲ示シタルカ、六月ニハ反落シ其ノ後大體保合状態ヲ續ケ年末指數ハ七三・二ト前年末ヨリ〇・三ポイントヲ上昇セリ、又定額賃金ハ通年軟調ヲ免レス年末八〇・〇ト前年末ニ比シ三・二ポイント方ヲ低下シ、實收賃金亦季節的騰落ヲ見タル裡ニモ大勢低下趨勢ヲ示シ結局年末指數ハ七五・八ト年中一・七ポイントノ低下ヲ告ケタリ。

其他ノ事業

以上各重要事業別ニ就キテ其ノ推移ノ大要ヲ概説セルカ尙前掲以外ノ事業ヲ觀ルニ、労働人員年末指數ハ文房具製造業ヲ除キ各業共前年末以上ニ上昇シ、就中人造絹絲製造其他、染料塗料顔料、皮革製品、被服裁縫品、紡織機附屬品等ニ於テ其ノ顯著ナルヲ見タリ、蓋シ之レ爲替低落ニ基ク輸入品値段ノ昂騰ニ自然内地製品ノ需要増進セラレタルニ加ヘ、輸出方面ニ於ケル伸展亦相應顯著ナリシ事實ヲ證スルモノナリ。

次ニ賃金指數ヲ觀ルニ定額賃金ハ各業共何レモ低下傾向ヲ免レサリシカ、前年中概ネ落勢ヲ續ケタル實收賃金ハ業界ノ好轉ヲ反映シテ本年ニ入り昂騰セルモノ稍増加シ、人員指數同様作業上ノ繁忙ヲ窺フニ足ルモノ尠カラサリキ。
今此等ノ事業ニ就キテ昭和七年中ニ於ケル指數ノ騰落割合ヲ表示スルニ次ノ如シ。

事業別	労働人員	定額賃金	實收賃金
總計	+ 三・九	- 六・三	- 一・八
人造絹絲製造其他	+ 九・四	- 七・四	- 八・四
製革製品	+ 六・一	- 五・四	+ 七・七
化粧品	+ 三・四	- 六・三	-
染料塗料顔料	+ 一・三	- 四・八	- 一・五
皮革製品	+ 八・〇	- 一・二	+ 一・一
製網製網	+ 三・一	- 五・四	- 六・九
被服裁縫品	+ 一五・二	- 一・一	+ 四・五
帽子製造	+ 四・八	- 三・三	+ 五・七
紡織機附屬品	+ 一・五	- 六・九	+ 二・二
文房具	- 八・五	- 一・六	+ 七・〇

第三 地方別概況

昭和七年中ニ於ケル一般事業界ノ趨向ハ前述ノ如クナルカ、更ニ地方別ニ就キ其ノ概況ヲ考察センニ、各地方ニ於ケル事業分布狀況ノ相違、特殊事情ノ存在等ニ依リ多少其ノ趣ヲ異ニセルモノナキニアラス、今昭和七年末現在ニ依リ各地方別ニ就キ主要工業ニ従事スル労働人員ノ割合ヲ示セハ左ノ如シ。

地方別	労働人員ノ割合 (%)			
	繊維工業	機械工業	化学工業	其他
京濱地方	二三%	四三%	一四%	二〇%
阪神地方	五一	二六	一二	一一
名古屋地方	七〇	一四	九	七
北九州地方	二三	四一	二七	九
其他地方	六三	一三	一二	一二
合計				

(繊維工業中ヨリハ製絲業ヲ除ク)

更ニ昭和七年末ニ於ケル労働人員並ニ賃金指數ヲ前年末ト比較シ其ノ騰落割合ヲ舉クレハ左ノ如シ。

労働人員指數

地方別	労働人員指數		騰落割合
	昭和六年末	昭和七年末	
京濱地方	七三・六	七七・七	+
阪神地方	六八・七	七一・一	+
名古屋地方	七二・二	七六・七	+
北九州地方	七九・四	八一・一	+
其他地方	七七・六	八二・七	+
合計			五・六%

地方別	賃金指數		騰落割合
	昭和六年末	昭和七年末	
京濱地方	九四・四	九〇・七	-
阪神地方	九三・二	九〇・五	-
名古屋地方	八五・六	八三・七	-
北九州地方	九七・五	九五・三	-
其他地方	八六・一	八三・九	-
合計			二・六%

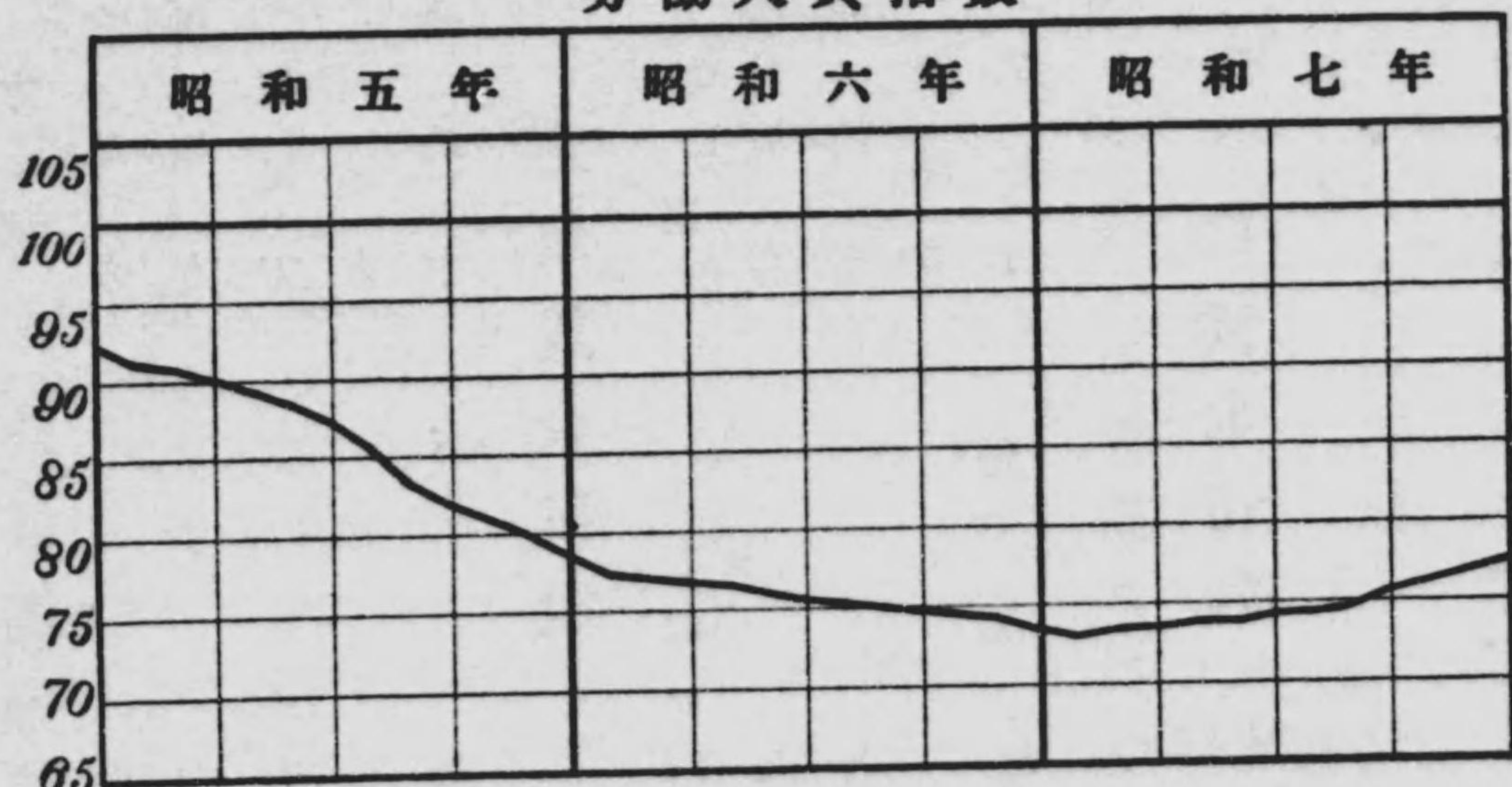
地方別	實收賃金指數		騰落割合
	昭和六年末	昭和七年末	
京濱地方	九七・七	一〇二・七	+
阪神地方	九一・五	九五・三	+
名古屋地方	八三・〇	八七・四	+
北九州地方	九三・八	九四・六	+
其他地方	八三・〇	八三・四	+
合計			四・五%

京濱地方

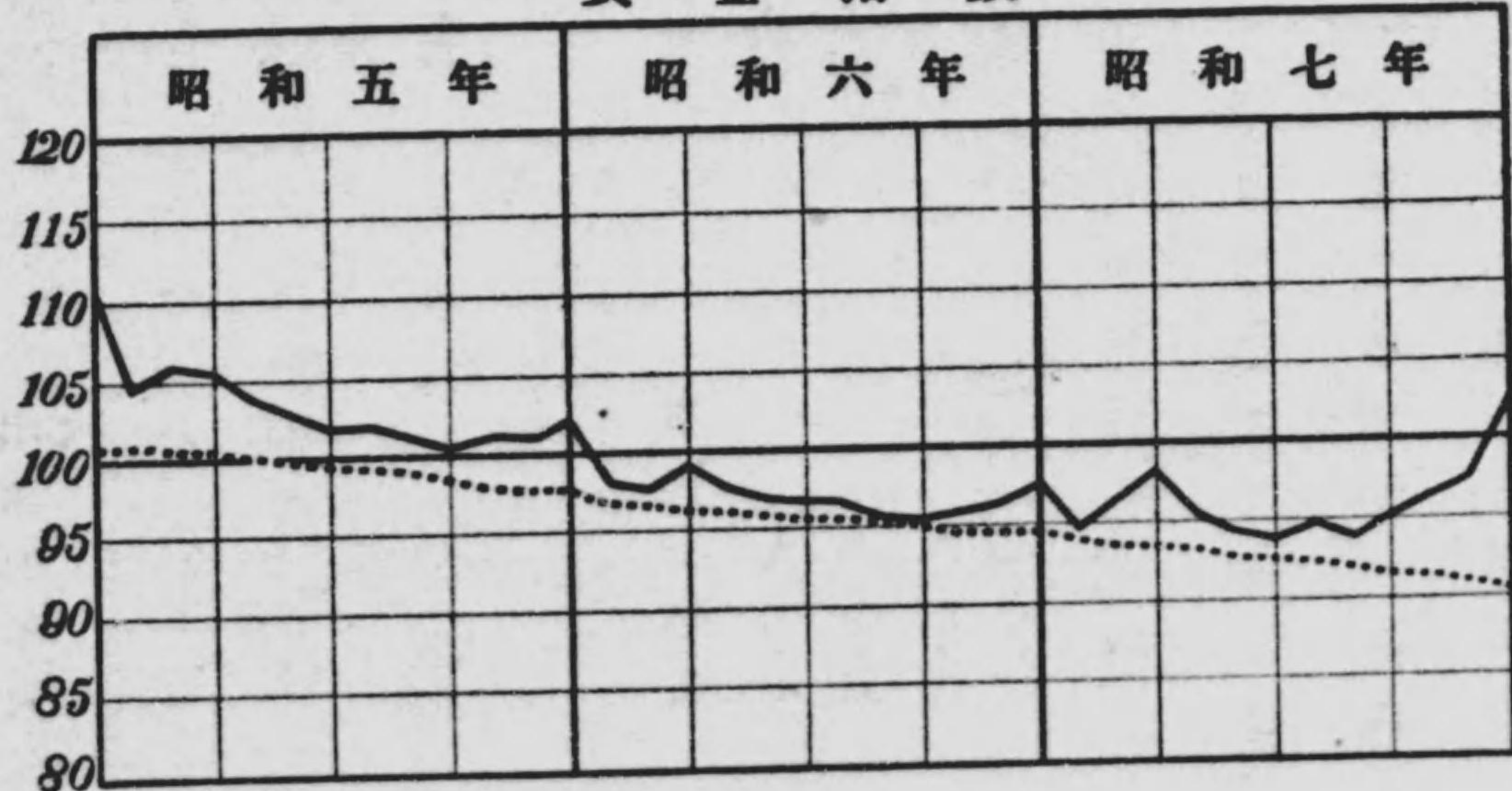
當地方ニ於ケル人員指數ハ前々年來重工業方面ノ不況ニ累セラレテ遂月漸落ノ

京濱地方

労働人員指數



賃金指數



一途ヲ辿リシカ、本年ニ入リテハ年初ノ季節的微落ヲ除キ大勢緩慢ナカラモ恢復状態トナリ、殊ニ八月以降ハ主トシテ重工業並ニ化學工業方面ノ活況ヲ反映シテ形勢全ク一變シ、約二箇年振リニテ上昇歩調ヲ現出スルニ至リ、年末指數ハ七七七ト前年末ニ比シ四一ポイントノ上昇ヲ告ケタリ、次ニ賃金

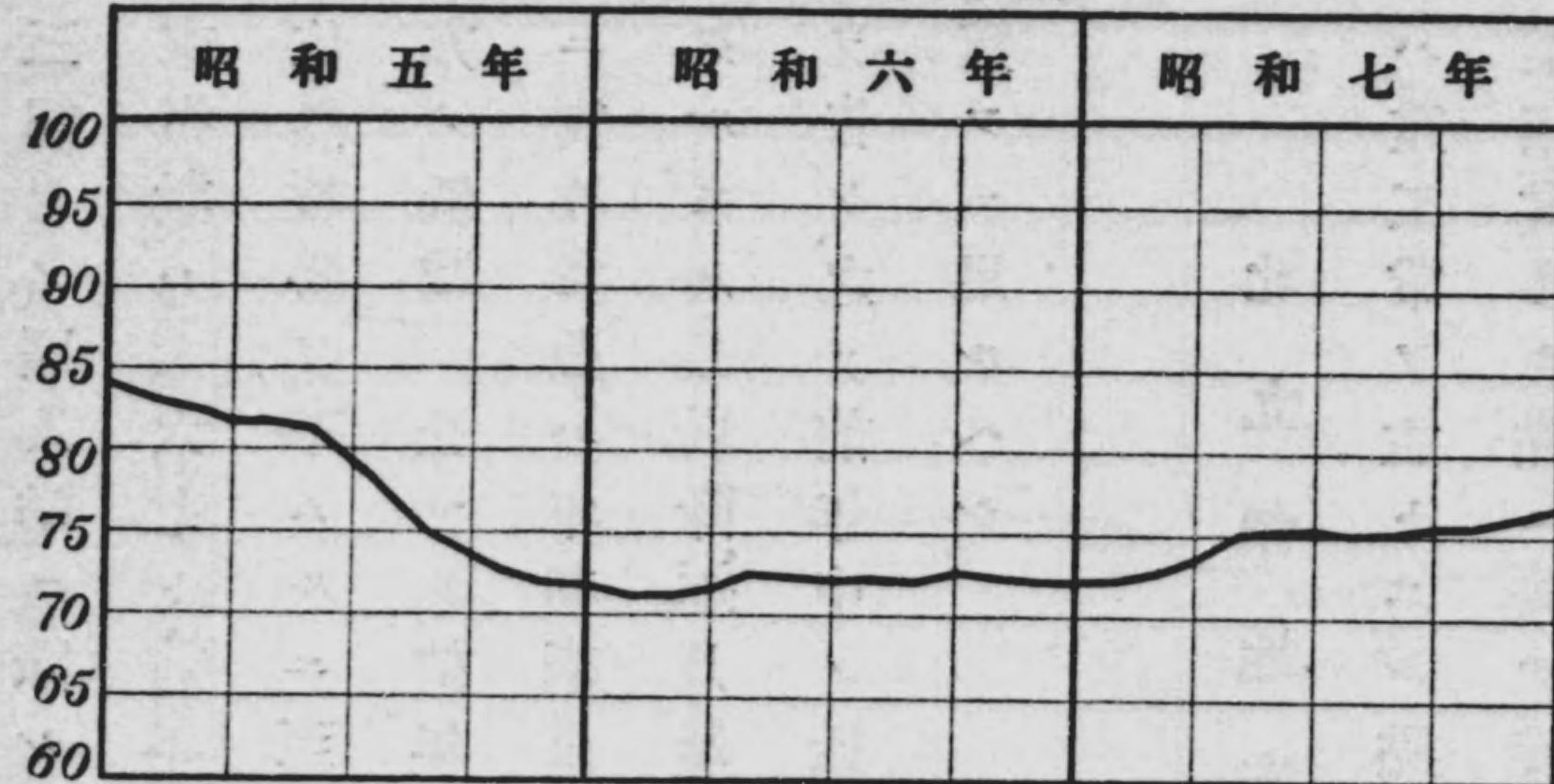
指數ヲ觀ルニ、定額賃金ハ更年後モ從來ノ遞落傾向ヲ革メス、年末指數ハ九〇・七ト前年末ニ比シ三七ポイントノ低下ヲ示シタルカ、實收賃金ハ季節的騰落ヲ辿リタル裡ニモ大體上進趨向ヲ續ケ殊ニ十二月ニハ一躍四八ポイント方ノ昂騰ヲ演シ年末指數ハ一〇二・七トナリ前年末ニ比シ五〇ポイントノ上昇ヲ見ルニ至レリ、右ハ主トシテ重工業方面ノ活況ニ因ルモノニシテ就業時間ノ延長ニ伴ヒテ従業員ノ收入状態モ著シク好轉セルヲ語ルモノナリ。

阪神地方

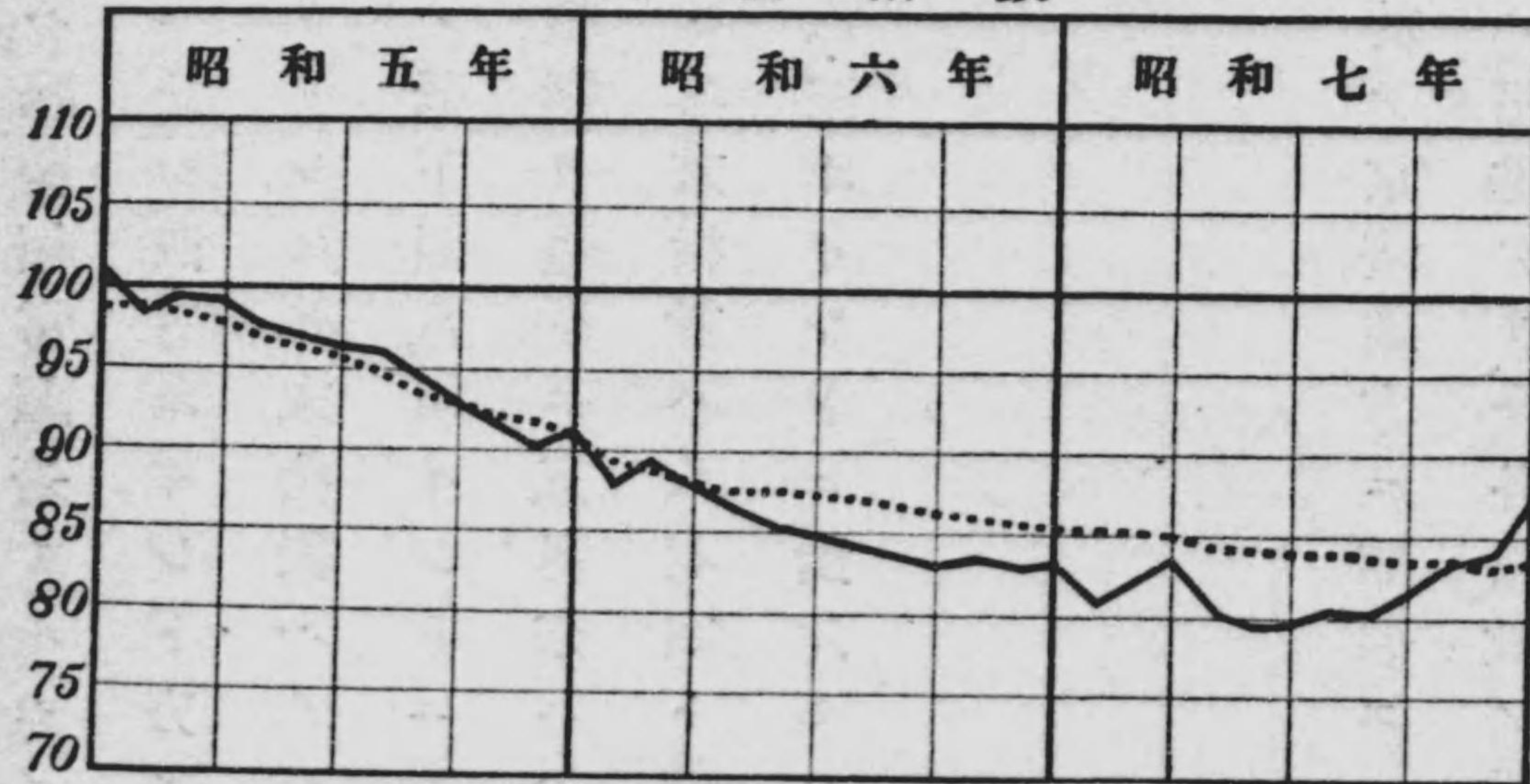
當地方ニ於ケル各指數ノ消長ヲ左右スル綿業界ノ情勢ヲ觀ルニ、對外取引ハ通年概ネ活況ヲ呈シタルモ内需ハ引續キ好轉ノ兆ナク、殊ニ夏枯不需要季ノ如キ不況深甚ナルモノアリ、漸ク秋季ニ入り環境ノ良化旁々内需モ擡頭氣配ヲ示シ相場ノ昂騰著シク採算亦有利ナルニ至リタルヲ以テ、織機ノ増設ヲ計ル向モ尠カラサリシ模様ナリ、從ツテ人員指數ハ之ヲ反映シテ上期中大體保合歩調ヲ續ケ、其ノ後盛夏ノ候ニハ低下趨勢ニ轉シタルカ九月以降反撥傾向ヲ現シ結局年末指數ハ七一・一ト前年末

名古屋地方

労働人員指數



賃金指數



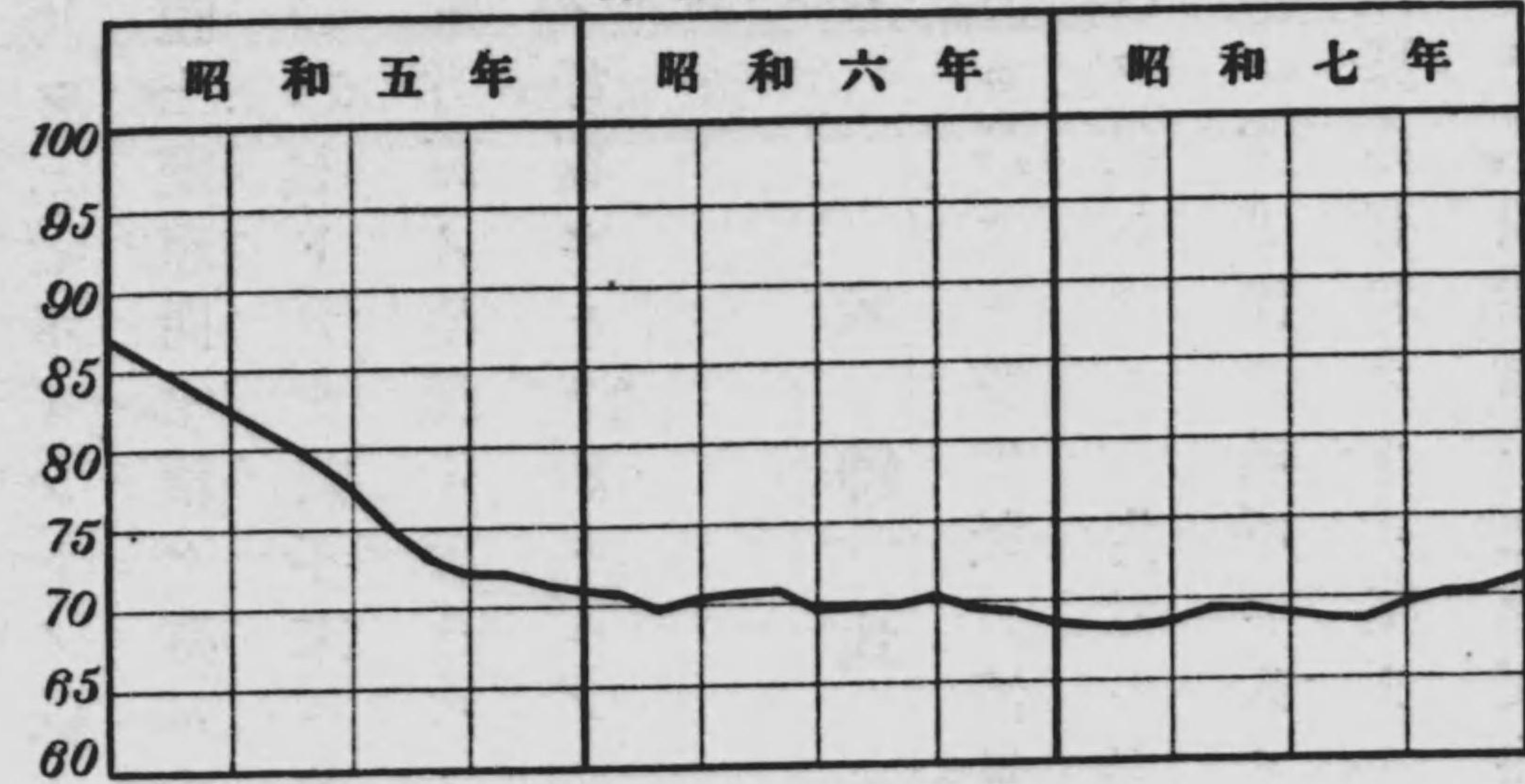
名古屋地方

當地方ニ於ケル主要工業界ノ情勢ヲ觀ルニ、初春金融界ノ動搖ハ機業家竝ニ問屋

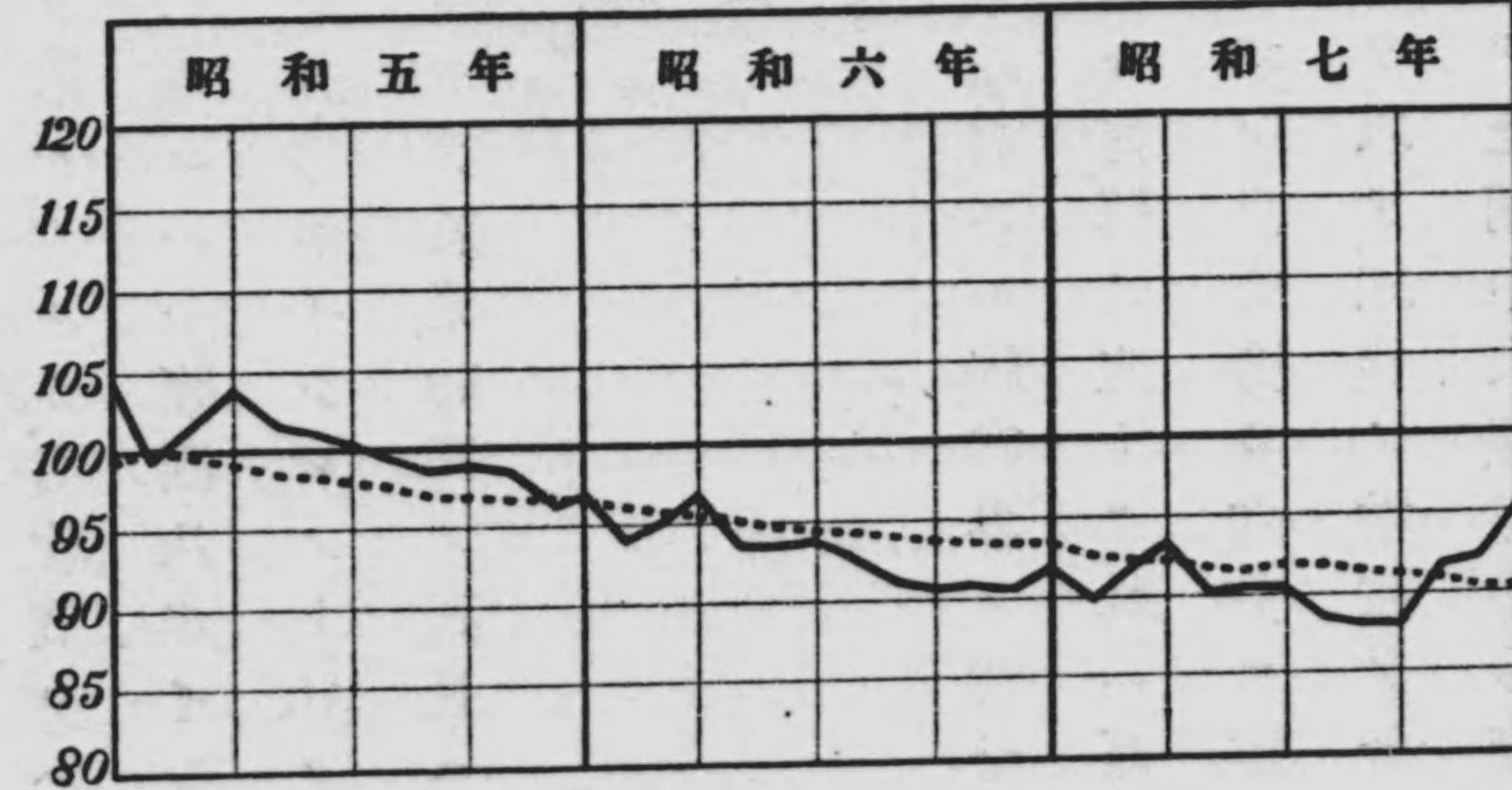
筋ニ影響ヲ與フル所
 尠カラサリシモ他方
 爲替安ニ伴ヒ綿布ノ
 輸出商談相當股賑ヲ
 呈シ、又下期ニ入りテ
 ハ綿織物、毛織物、陶磁
 器等輸出向取引ノ好
 勢ニ加ヘテ内地向製
 品モ漸ク荷動キ良化
 シ、自然生産増加ヲ招
 來スルニ至リタルモ
 ノ、如シ、サレハ人員
 指數モ年初來反騰歩

阪神地方

労働人員指數



賃金指數



ニ比シニ四ポイントノ上進ヲ告ケタリ、他方賃金指數ヲ觀ルニ定額賃金ハ通年漸落

步調ヲ辿リ年末指數ハ
 九〇・五ト前年末ニ比シ
 二・七ポイントノ低下ヲ
 示シ、實收賃金亦季節的
 騰落アリタル裡ニモ大
 體漸落過程ヲ辿リ八・九
 月ニハ八八・三ト從來ノ
 最低指數ヲ現出セルカ、
 十月以降異常ノ躍進ヲ
 告ケタル爲メ年末指數
 ハ九五・三ト前年末ニ比
 シ三・八ポイントノ上昇
 ヲ見ルニ至レリ。

調ニ轉シ三、四月ノ雇入季ニ際シテハ騰勢相當顯著ナルモノアリ、更ニ九月以降上騰ヲ續ケ年末指數ハ七六・七ト前年末ニ比シ四・五ポイント方ノ上昇ヲ示シタリ、一方定額賃金ハ依然軟勢ヲ革ムルニ至ラサリシモ年末指數ハ八三・七ト前年末ニ比シ一・九ポイント方ノ低減ニ止マリ、前年中ノ低下四・八ポイントニ對比シ相應緩和ヲ見ルニ至レリ、更ニ實收賃金ハ年初來兎角軟調ヲ免レス五月末ニハ七九・六ト年中ノ最低指數ヲ示シタルモ八月以降逐月昂騰シ年末指數ハ八七・四ト前年末ニ比シ四・四ポイントノ上昇ヲ告ケ、之ヲ前年中ノ低下八・三ポイントニ對比センカ情勢ノ好轉相當顯著ナリシヲ窺フニ足ルヘシ。

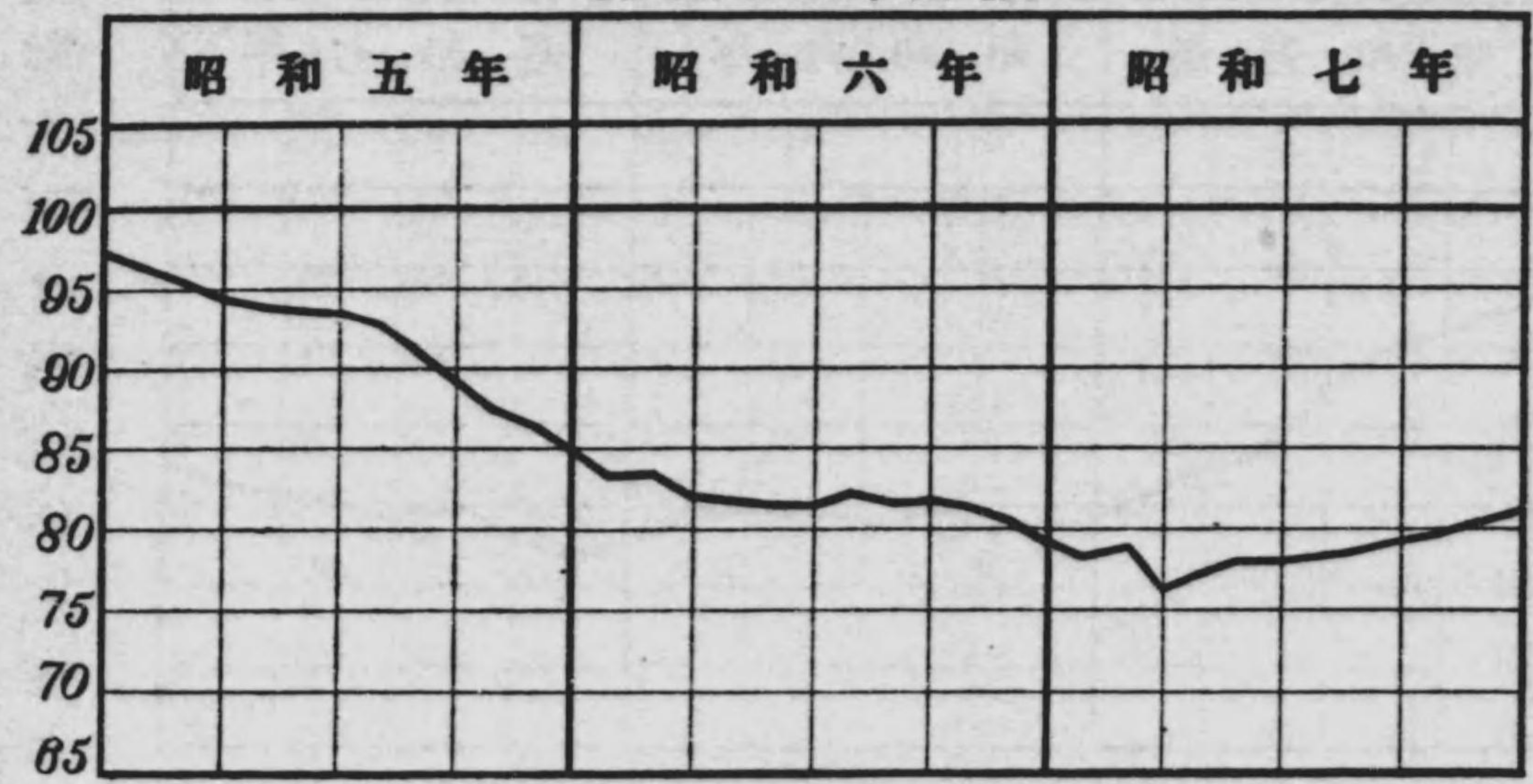
北九州地方

當地方ハ重工業ヲ主トスル點ニ於テ京濱地方ニ酷似スルモ纖維工業ノ尠キニ反シ化學工業相當多キ點ニ於テ幾分ノ相違アリ、今各指數ノ推移ヲ觀ルニ久シク軟調ヲ續ケタル人員指數ハ上期後半ニ於テ恢復步調ニ轉シ、更ニ下期ニ入りテハ逐月上昇シ殊ニ年末接近ト共ニ重工業及化學工業方面ノ活況ヲ反映シテ強調ヲ示シ年末

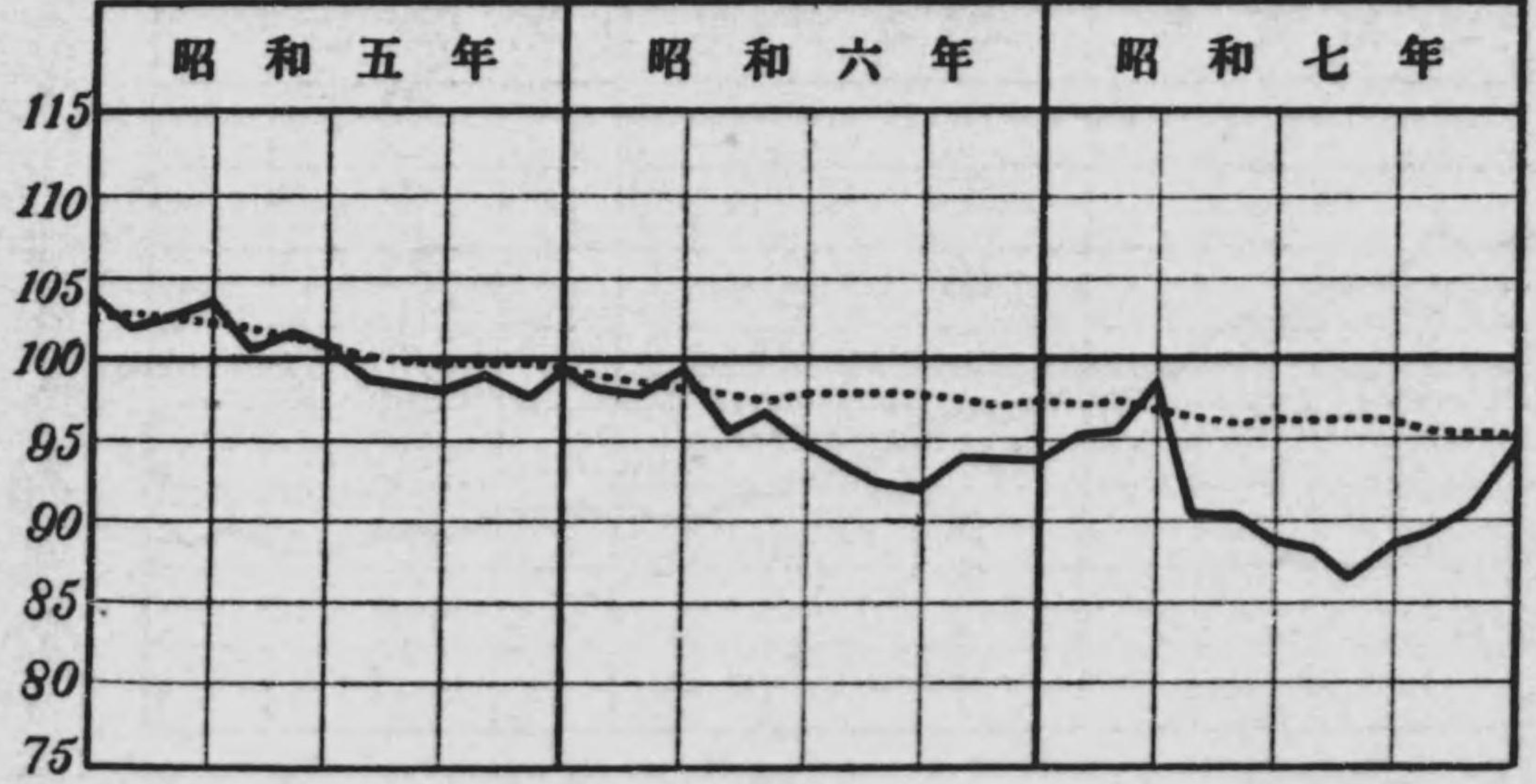
指數ハ八一・二ト前年末ニ比シ一・七ポイントノ上昇ヲ示スニ至レリ、次ニ賃金指數ヲ

北九州地方

労働人員指數



賃金指數



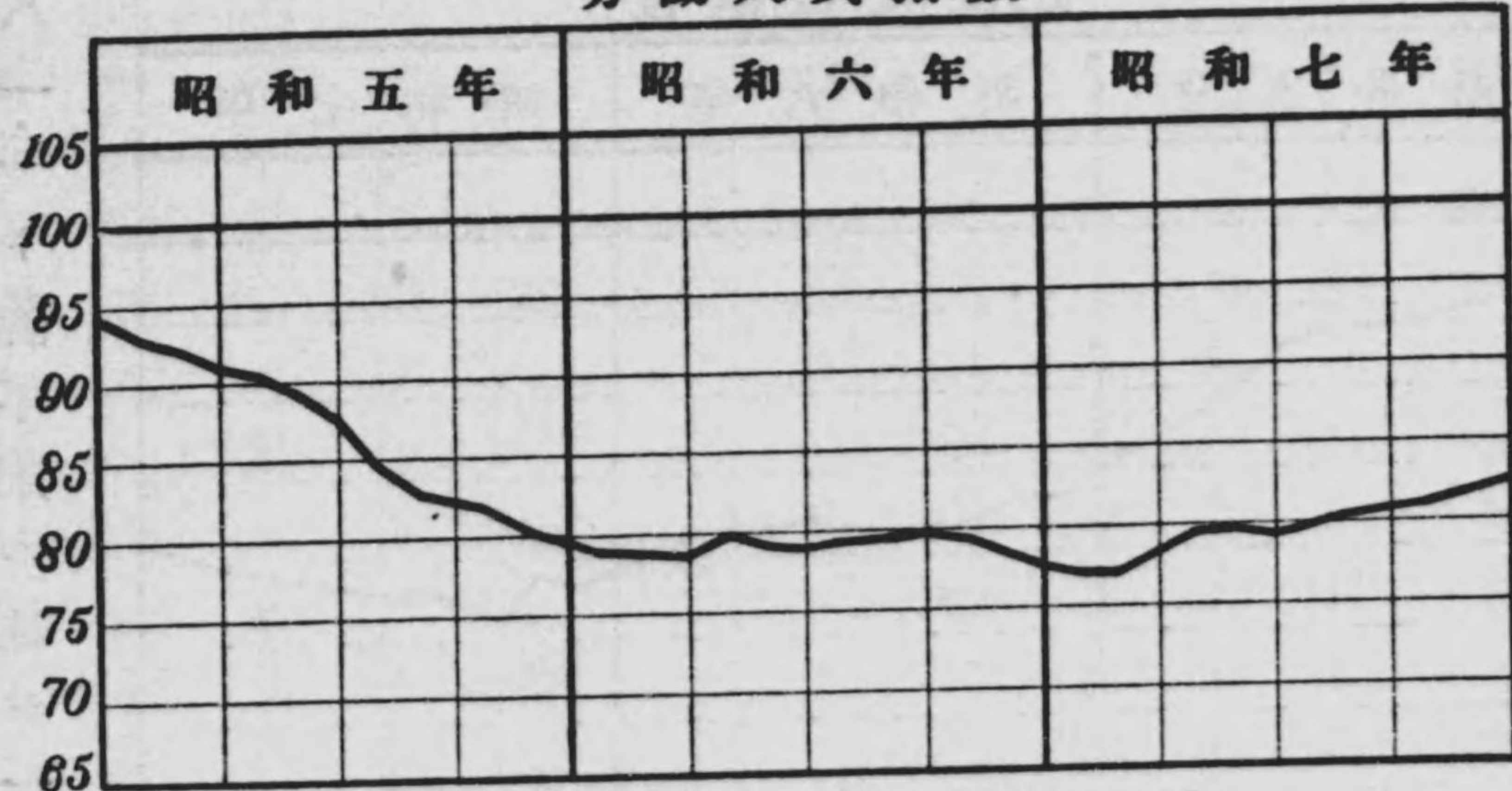
觀ルニ定額賃金ハ大勢漸落傾向ヲ免レス年末九五・三ト前年末ニ比シ二・二ポイント方ノ低下ヲ告ケタルモ、實收賃金ハ四月以降一部化學工業方面ニ於テ賃金引下行ハレタルト季節的關係トニ基キ激落ヲ演シタルニ拘ラス九月以降業界ノ好轉ニ反騰步調著シク結局年末

指數ハ九四・六トナリ前年末ニ比シ〇・八ポイント方ノ微騰ヲ見タリ。

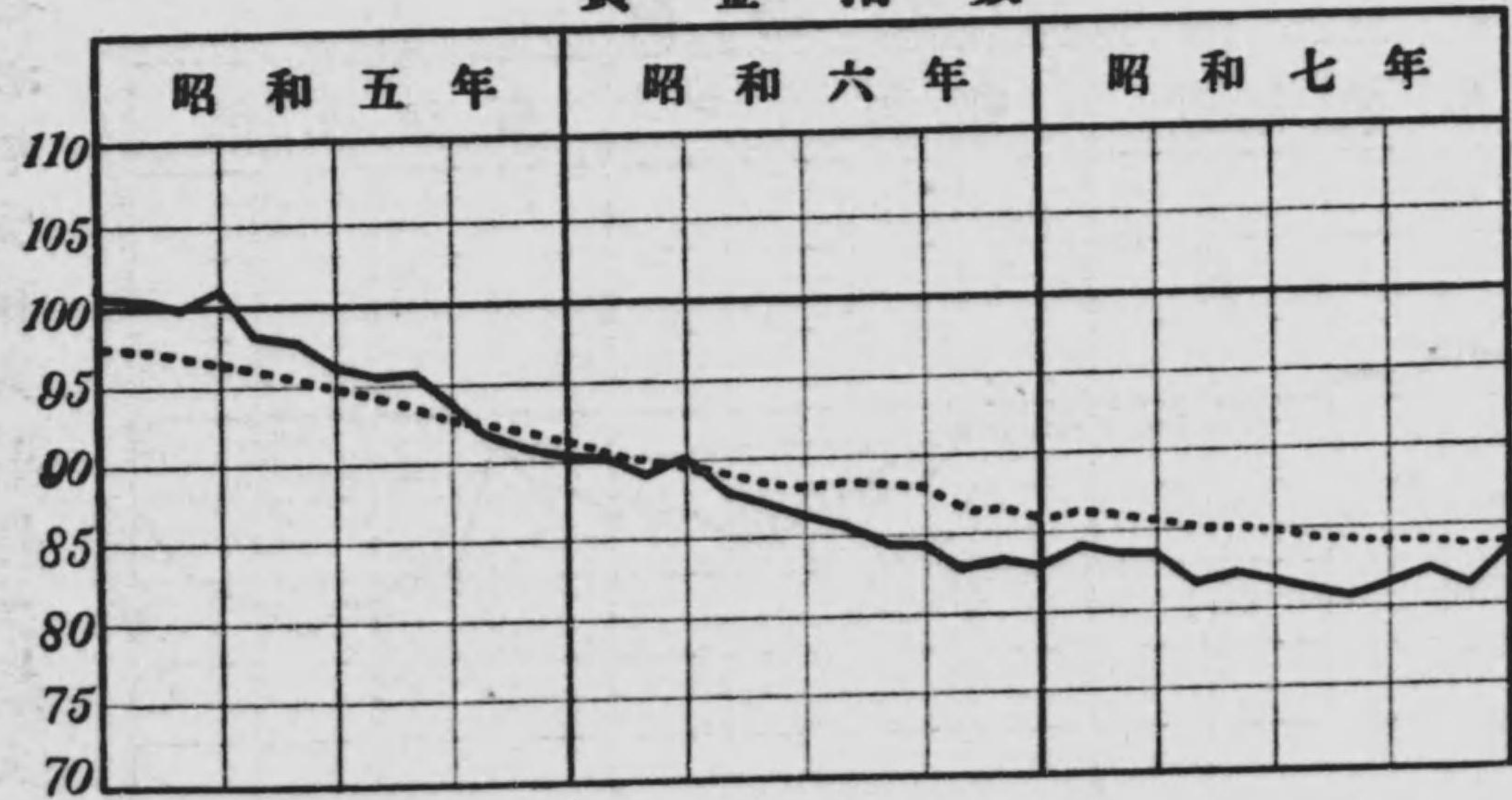
纖維工業方面ノ業況ニ左右セララル、コト多キ點ニ於テ當地方ノ人員指數ハ名古屋地方ト同一動向ヲ迎

其他地方

労働人員指數



賃金指數



屋地方ト同一動向ヲ迎
 リ大勢強調ヲ呈シタル
 カ八月以降ノ騰勢特ニ
 顯著ナルモノアリ、年末
 指數ハ八二・七ト前年末
 ニ比シ五・一ポイント方
 ノ上昇ヲ示シタリ、右ハ
 主トシテ人絹工業ノ發
 達ニ因ルモノニシテ輸
 出方面ノ好勢旁々生産
 ハ激増ヲ來スニ至リ自
 然従業員ノ増加ヲ招來
 セル結果ト見ルヘシ、又

定額賃金ハ通年軟調ヲ免レス年末ハ八三・九ト前年末ニ比シ二・二ポイントヲ低下セ
 ルカ、實收賃金ハ年初來落勢ヲ持續シ八月八〇・六ト從來ノ最低記録ヲ現出シタルモ
 九月以降騰勢著シカリシ爲メ年末八三・四ト前年末ニ比シ〇・四ポイント方ノ微騰ヲ
 見ルニ至レリ、斯ク賃金指數ハ昨年中定額五四ポイント、實收七四ポイントノ低下ナ
 リシニ對比シ相應改善ヲ示シタリ。

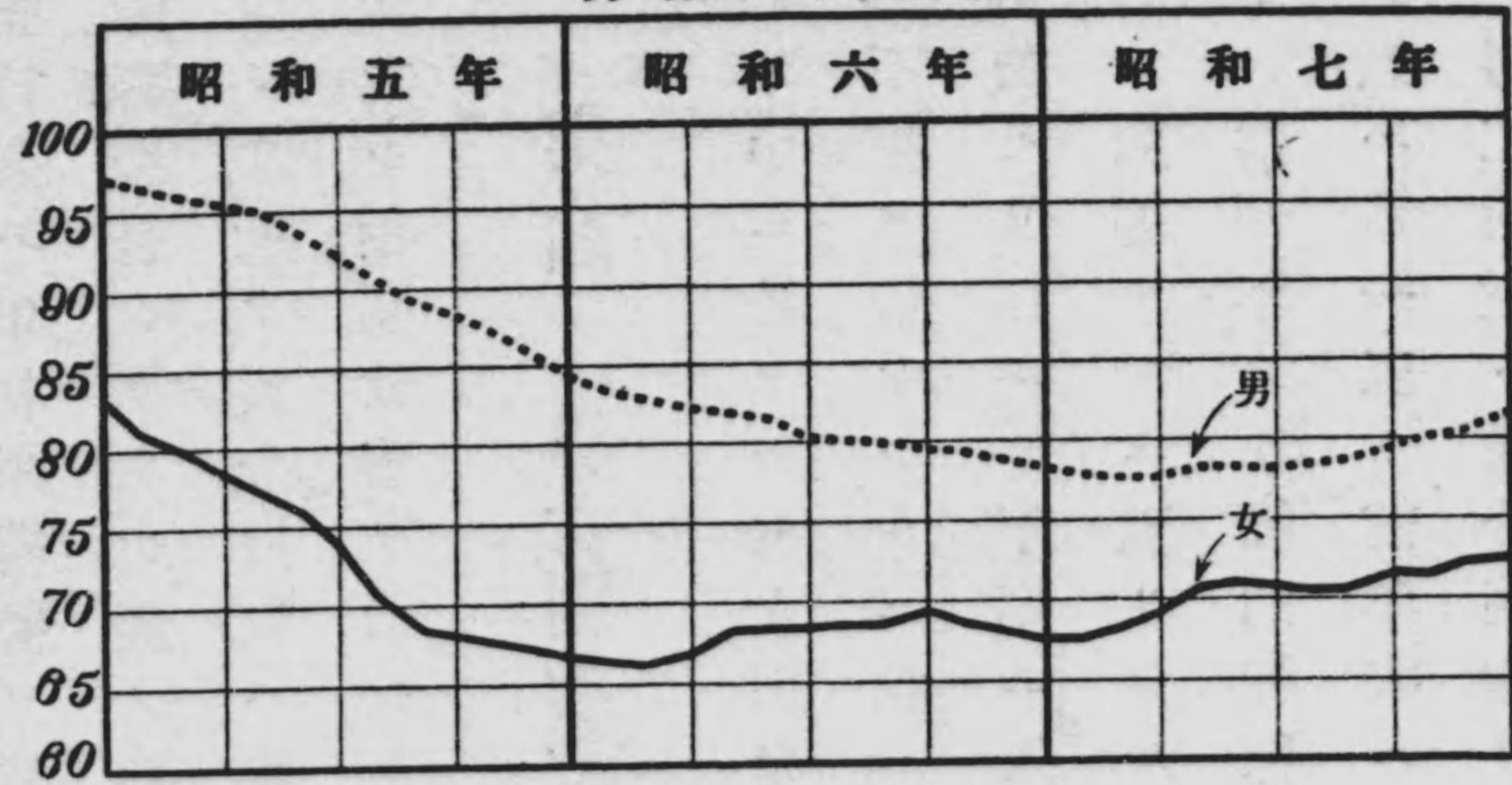
第四 男女別指數推移ノ概要

昭和七年中ニ於ケル男女別指數ノ推移ヲ觀ルニ男工人員指數ハ上期中化學工業
 方面依然不振ヲ告ケタルニ拘ハラス一部重工業方面ノ景氣持直シニ依リ大勢保合
 步調ヲ持續セリ、然ルニ下期ニ入り殊ニ九月頃ヨリ年末ニ懸ケテハ軍需品工業方面
 ノ進展頗ル顯著ナルニ至リタルト、化學工業方面亦爲替安ニ惠マレテ不尠活況ヲ呈
 シタルトノ爲例年ノ季節的關係ニ基ク低下モ遂ニ示現セラレス、逐月漸騰歩調ヲ續
 ケ年末指數ハ八一・五ト前年末ニ比シ三・〇ポイント方ノ上昇ヲ示シタリ、次ニ女工人
 員指數ハ男工指數ト幾分其趣ヲ異ニシ、上期前半ニ於ケル騰勢相應顯著ナルモノア
 リ四月ニハ前年中ノ最高指數六九・五ヲ凌駕シテ七〇・九トナリ、其ノ後四箇月間、體

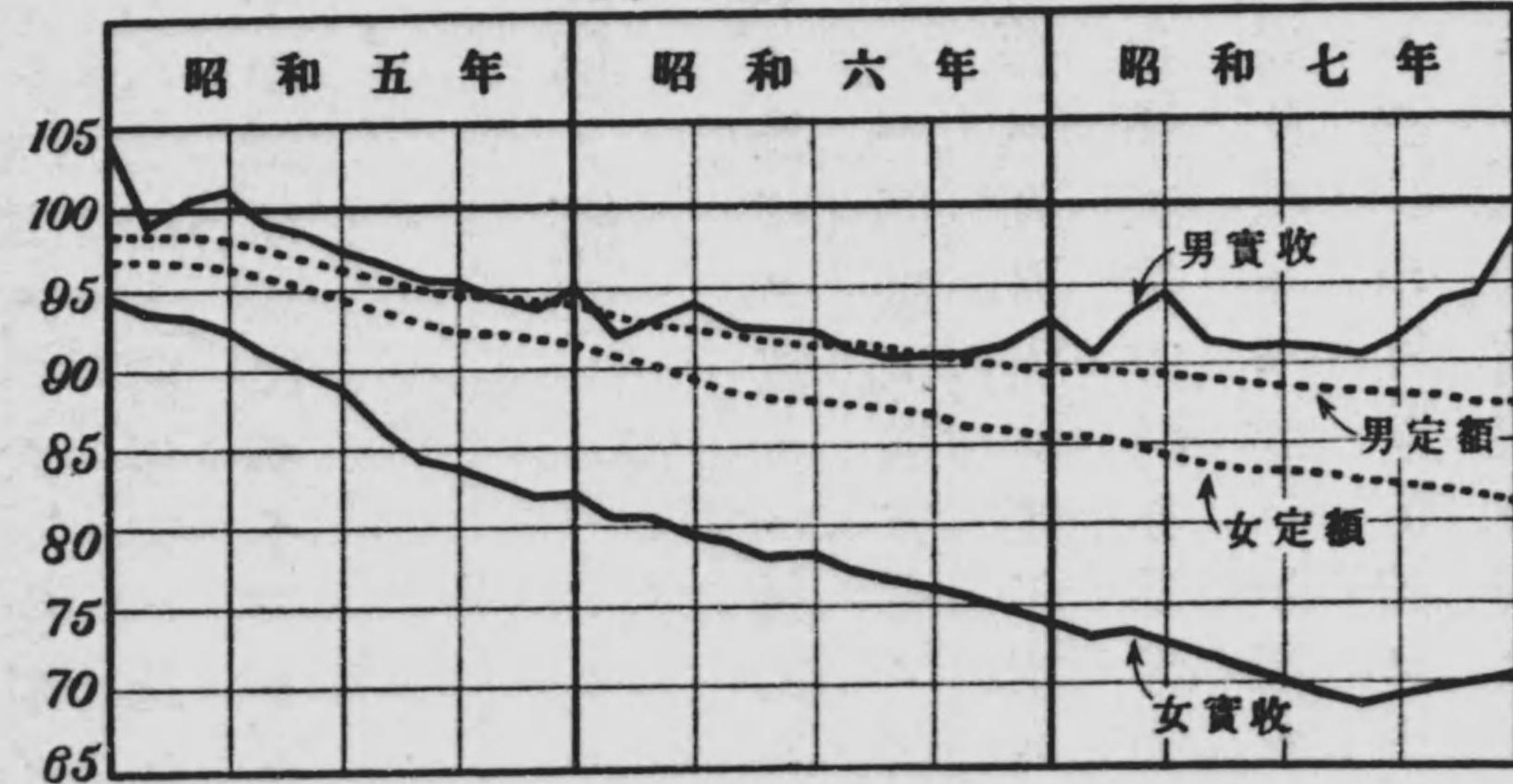
保合裡ニ經過セルカ九月以降再ヒ好轉シ年末ニハ七二・六ト前年末ニ比シ四・七ポイント方ノ上昇ヲ告ケ

男 女

勞働人員指數



賃金指數



勿論ナルカ、右ノ外從來男工ヲ使用セル事業ニ於テ近來女工ヲ使用スルノ傾向漸ク

昂騰率遙カニ大ナリシ所以ハ女工勞働ニ俟ツコト多キ綿絲布、絹織物、莫大小等主トシテ纖維工業方面ノ輸出商談頗ル旺盛ニシテ生産設備ノ擴張ヲ見ルニ至リタル結果人員ノ増加ヲ誘致セル事情ニ因ルコト

顯著トナリシ事亦其一因タル可ク此點特ニ注目ヲ要スル所ナリ、今試ミニ男工ヲ主トスル重工業並ニ化學工業ニ就キ昭和元年以降ノ男女別人員就業割合ヲ示スニ左ノ如シ。

年次	男工	女工	男工ヲ一〇〇トスル女工ノ割合%
昭和元年末	二〇六、七四八	二四、八二〇	一一・〇
昭和二年末	二〇八、九六九	二四、四二五	一一・七
昭和三年末	二二四、九五五	二六、二〇五	一一・六
昭和四年末	二三一、〇〇一	二七、二四六	一一・八
昭和五年末	二〇六、一六七	二五、四七五	一二・四
昭和六年末	一八六、六〇八	二四、六五〇	一三・二
昭和七年末	二〇四、五八九	二九、七五二	一四・五

次ニ賃金指數ヲ觀ルニ定額賃金ハ男女工共依然漸落傾向ヲ辿リ財界ハ幾分好轉ノ兆アルニ拘ハラズ生産費ノ切下ケ引續キ行ハレタルヲ窺知シ得ヘキモ、其ノ落勢ハ稍緩和セラレ年末指數ハ男工八七・五、女工八一・六ト前年末ニ比シ前者ハ二三ポイント後者ハ四一ポイントノ低下ニ止マレリ、又實收賃金中男工指數ハ季節的騰落ヲ見タル裡ニモ從來ノ低下傾向稍緩和セラレ、殊ニ九月以降主トシテ重工業並ニ化學工業方面ノ業況好轉ニ伴レ逐月累増趨向ヲ持續シ、年末九八・五ト前年末ニ比シ五・八

ポイントヲ上昇セルニ對シ、女工指數ハ大勢其ノ人員指數ノ好調ニ伴ハス年初來漸落傾向ヲ續ケ、八月ニハ年中ノ最低六八・八ヲ示シ九月以降稍昂勢ニ轉シタルモ年末七〇・六ト前年末ニ比シ三・三ポイント方ノ低下ヲ告ケタリ、斯ク男工賃金指數ノ上昇ニ對シ女工賃金指數カ反對ノ傾向ヲ現ハシタルハ之レ男工ヲ主トスル重工業及化學工業方面ノ業況前述ノ如ク順調ナリシニ伴ヒ、之等方面ニ於テハ秋季ヨリ年末ニ懸ケ作業殷盛ヲ加ヘ就業時間ノ延長旁々賃金狀態モ好轉セルニ對シ、一方女工ヲ主トスル纖維工業方面ニ於テハ業況好轉ノ徵ナキニ非サリシモ未タ實質的ニ賃金狀態ノ改善ヲ見ルノ程度ニ達スルニ至ラサリシ結果ト看ル可キカ。

今試ニ昭和元年以降各年末男女別實收賃金指數ヲ前年末ト比較スルニ左ノ如シ。

年次	男		女	
	實收賃金指數	騰落割合 %	實收賃金指數	騰落割合 %
昭和元年十二月	一〇四・一	-	九九・九	-
昭和二年十二月	一〇五・七	+ 一・五	一〇〇・四	+ 〇・五
昭和三年十二月	一〇八・〇	+ 二・二	一〇〇・六	+ 〇・二
昭和四年十二月	一〇四・一	- 三・六	九四・六	- 六・〇

第五 鑛山業概況

昭和五年十二月	九四・九	-	八二・二	-	一三・一
昭和六年十二月	九二・七	- 二・三	七三・九	- 一〇・一	
昭和七年十二月	九八・五	+ 六・三	七〇・四	- 四・七	

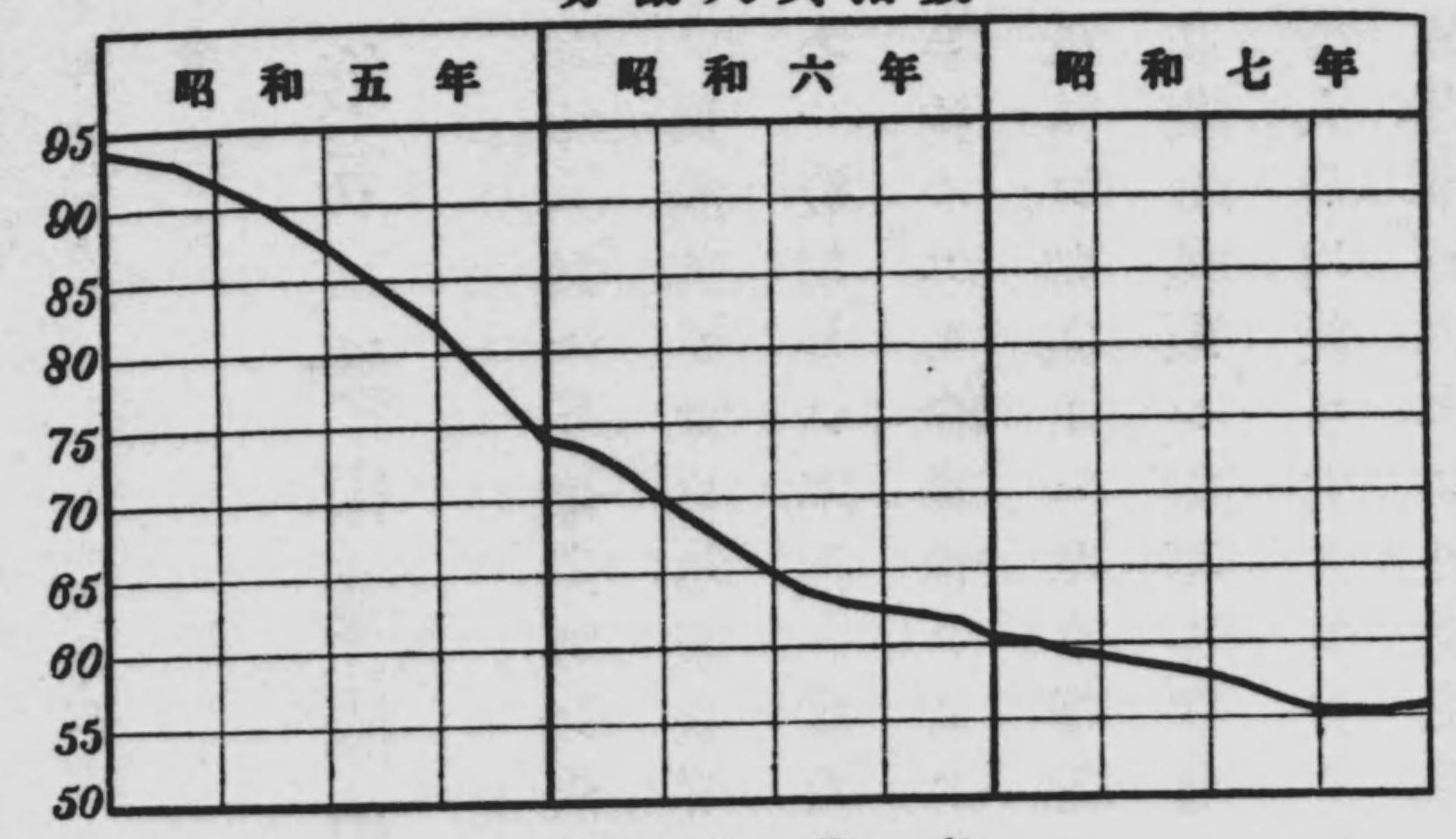
昭和七年中ニ於ケル鑛業界ノ大勢ヲ觀ルニ金輸出再禁止ニ基ク爲替相場ノ低落ニ金相場ノ昂騰著シク自然産金界ハ異常ノ刺戟ヲ受クルニ至リタルカ、其他ノ方面ニアリテハ一般財界ノ不振ニ需要拂々シカラス不況依然タルモノアリ、相場モ上期中爲替安ニ拘ラス兎角伸惱ノ狀ヲ辿リタリ、然ルニ下期ニ入り軍需品關係事業ノ活調ト爲替低落ノ加重トニ依リ業況漸ク好轉ノ兆アリ、特ニ九月以降銅ヲ首メ石炭、石油等ノ需要幾分擡頭シ相場亦騰勢ニ轉シ業績ノ恢復稍見ルヘキモノアルニ至レリ。

從テ勞働人員指數モ右ノ情勢ヲ反映シテ年初以來依然落調ヲ續ケ十一月ニハ五五・五ト本統計創始以來ノ最低記録ヲ現出スルニ至リタルカ、年末稍上昇シテ五五・八ト前年末ニ比較シ五・〇ポイント方ノ低下ヲ示シ、之ヲ五年中ノ一九四ポイント、六年

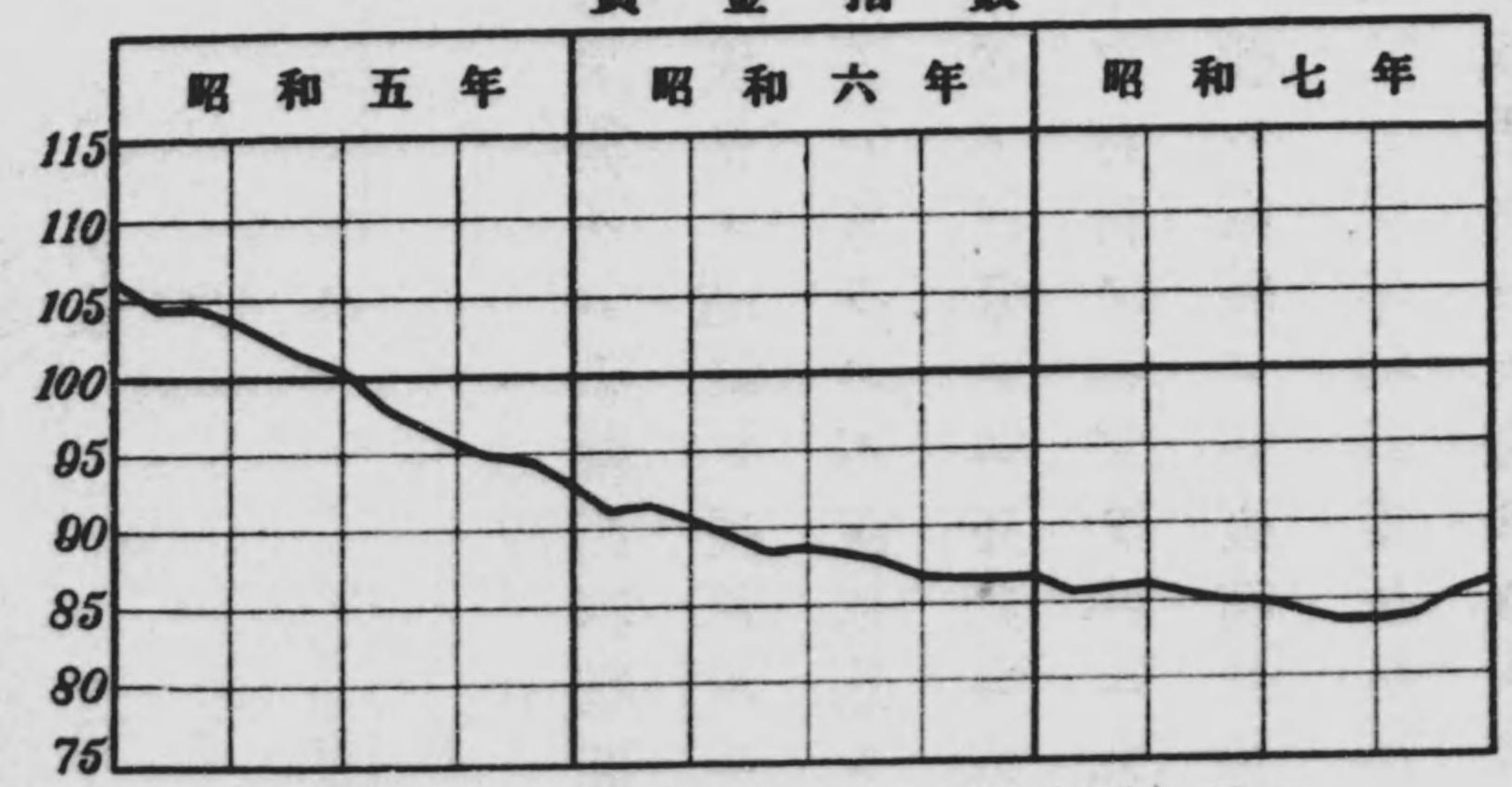
中ノ一三九ポイントノ低落ニ比センカ落勢ノ緩和相應顯著ナルヲ認め得タリ。

總 指 數

勞働人員指數



賃金指數



賃金指數ハ鑛山業ニ在リテハ一人一日當リ(實收)ヲ示ス

○五ポイントノ低落ニ止マリ、之ヲ前年中ノ低下六二ポイントニ比較センカ其ノ落

次ニ實收賃金指數ヲ觀ルニ大體人員指數ト同一傾向ヲ辿リ、緩慢ナカラモ低下步調ヲ持續シ八月ニハ夏枯季ノ關係モ加ハリ八三・八ト之亦從來ノ最低記録ヲ現出スルニ至リタルカ、十月以降反騰シ年末指數ハ八六・〇ト前年末ニ比シ僅カニ

勢ハ極メテ輕微ニ過キサリキ。

金 屬 鑛 業

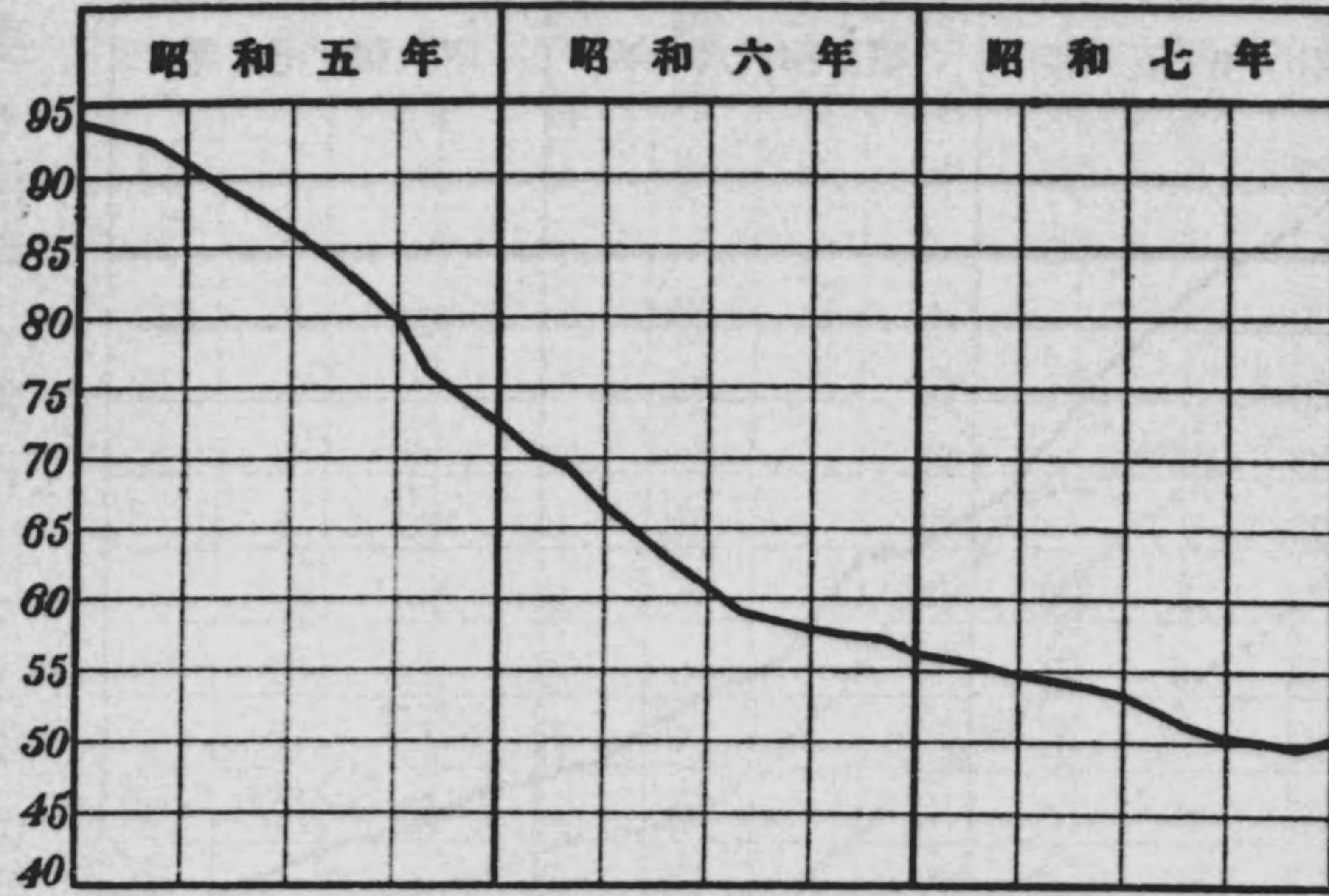
產銅界ハ前年末國際限產協定ノ成立ニ拘ハラズ依然不況状態ヲ辿リ、紐育電氣銅相場ノ如キモ年初來漸落傾向ヲ持續シ五月ニハ五仙右ト新安値ヲ現出スル有様ナリシヲ以テ、本邦市場亦爲替安ニ拘ラス水曜會ノ建値ハ兎角伸惱ミ採算モ好轉スルニ至ラサリシカ、下期ニ入り爲替ノ落潮愈々著シク且又一般事業界ノ好轉ト軍需品關係方面ノ活況ニ需要旺盛ヲ加ヘ年末ノ如キ滯貨ノ減少旁々外銅ノ輸入ヲ見ルニ至リ限產協定モ一時撤廢ニ決シタリ。

尙產金事業ハ金輸出再禁止ニ基ク相場ノ激騰ニ近年稀ナル活況ヲ呈シ、稼行鑛山ノ規模擴張、休業鑛山ノ再開、小金山ノ新規開發等相踵キ產金額亦前年ニ比較シ増加ヲ示シタリ、右ノ外鐵、銀、鉛、錫等ノ諸鑛產物モ概シテ強調ヲ告ケ、採算亦好轉スルニ至レリ。

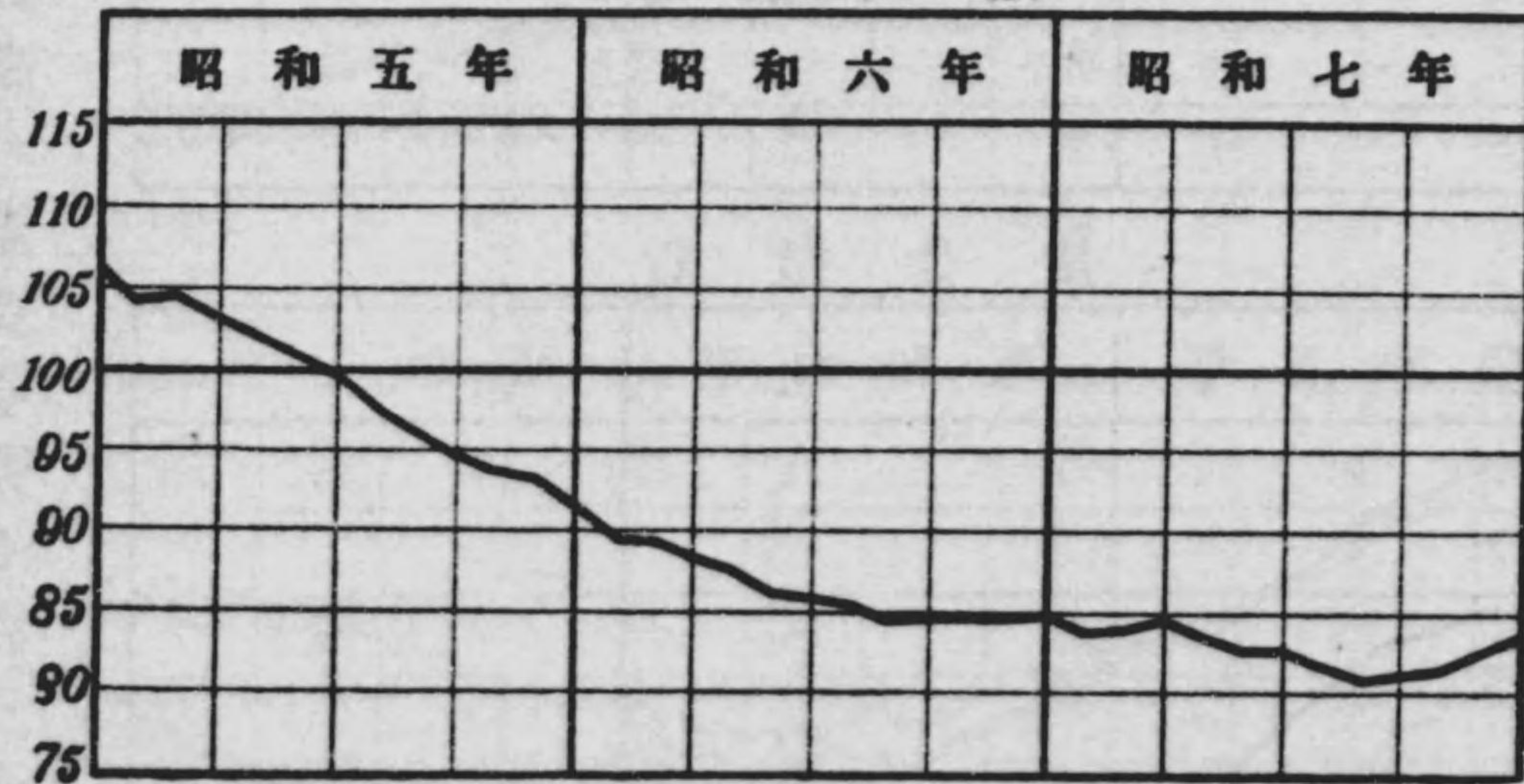
事情右ノ如クナルヲ以テ勞働人員指數モ年初以來五月迄殆ト保合状態ヲ續ケタルカ、六月以降上騰傾向ニ轉シ年末指數ハ八六・八ト年中二三ポイントノ上昇ヲ演シ

石炭鑛業

労働人員指數



賃金指數



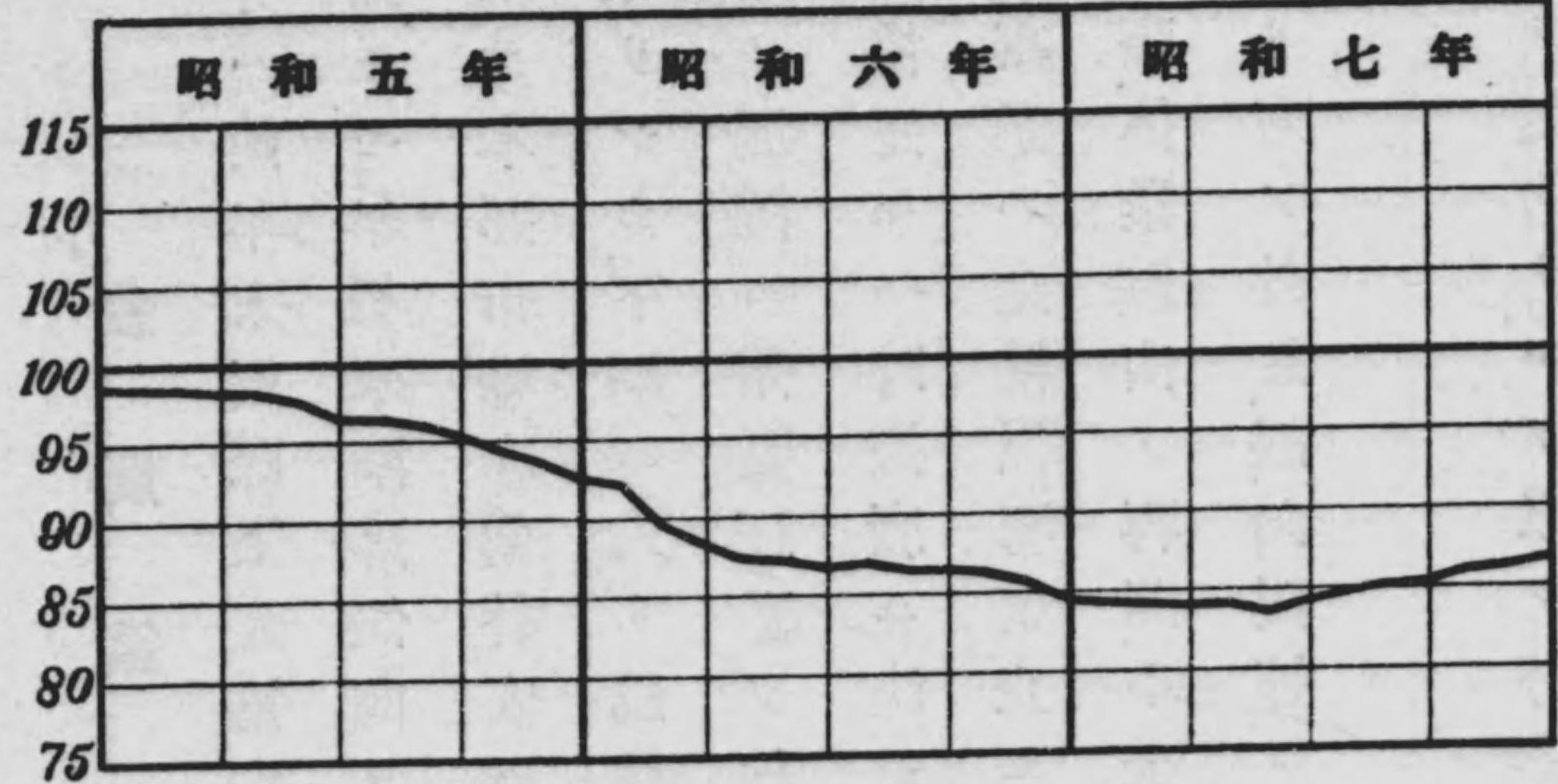
石炭鑛業

久シク不況裡ニ呻吟セル斯界ハ一般産業界ノ不振ト對支輸出ノ杜絶等ニ禍セラ

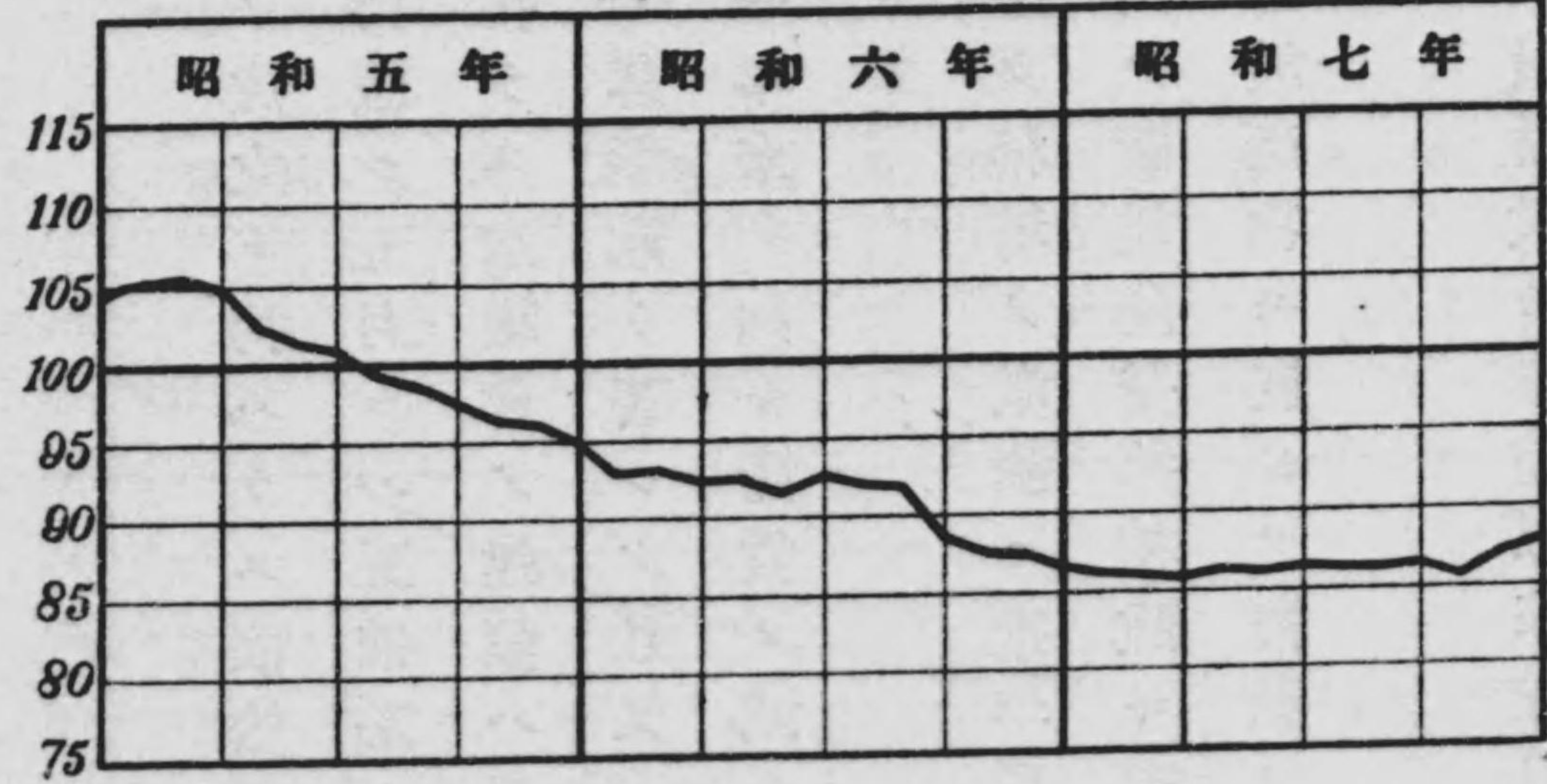
レ需要ノ減退漸ク甚シク貯炭亦累増ノ一途ヲ辿ルニ至リタル爲メ八月ニハ遂ニ内地送炭制限ノ擴張竝ニ撫順炭ノ輸入制限等ヲ實施シ極力需給ノ調節ニ努メタリ然ルニ其ノ後軍需品工業ヲ首メ一般事業界ノ

金屬鑛業

労働人員指數



賃金指數



昇ヲ示シタリ。

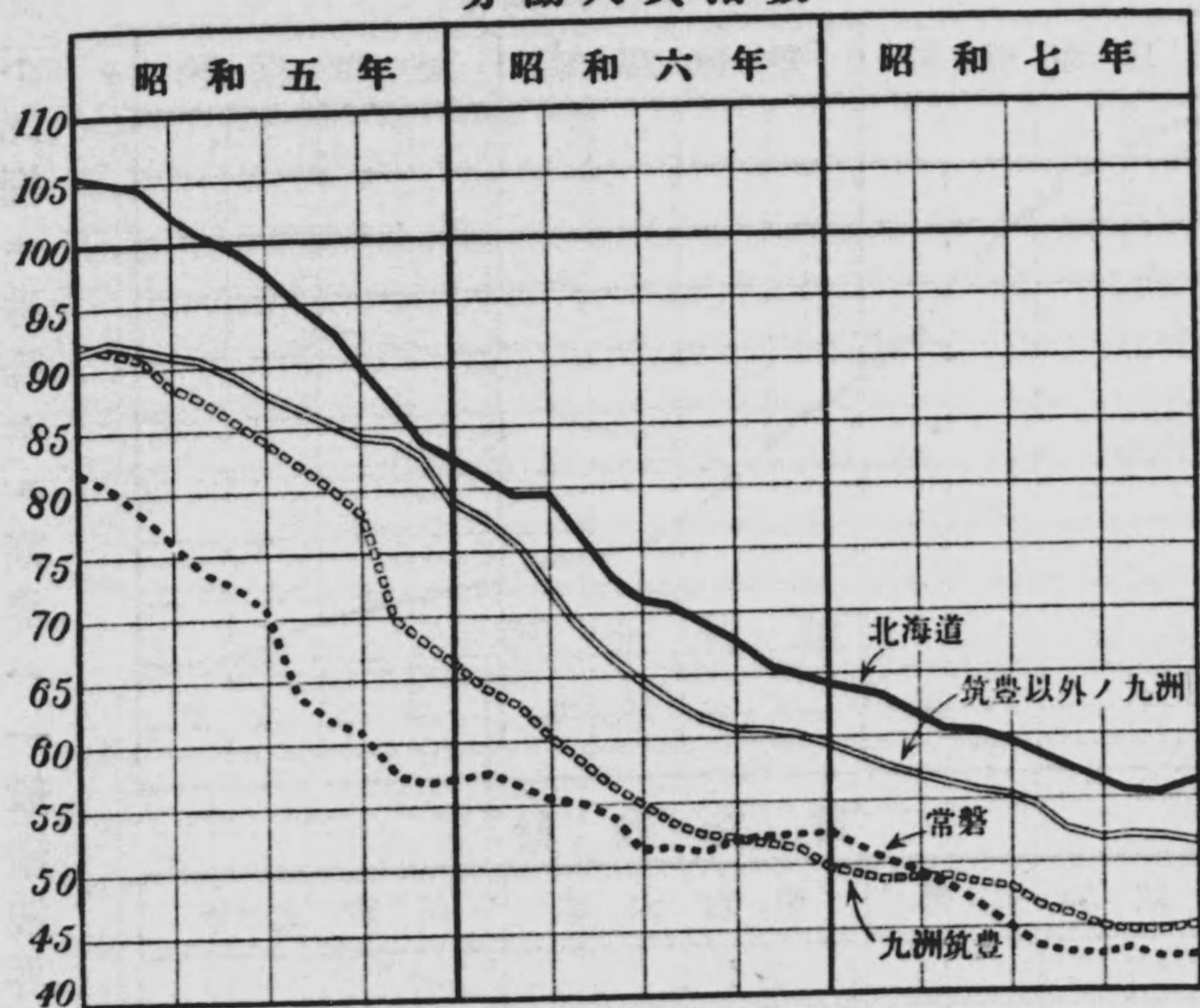
タリ、從來斯界ハ世界的不況ノ深刻化ニ作業ハ縮少ノ一方ニテ、人員指數ノ如キモ昭和五年以來漸落ノ一途ヲ辿リシカ、本年ニ入りテ情勢全ク一變シ右ノ如キ騰勢ヲ示シタルコトハ時節柄注目ヲ要スル所ナルヘシ。

次ニ實收賃金指數ヲ觀ルニ前年末低落ノ後ヲ承ケ大體保合ノ狀ヲ呈シタルカ、年末接近ト共ニ微騰シ結局年末指數ハ八八〇ト前年末ニ比シ一三ポイント方ノ上

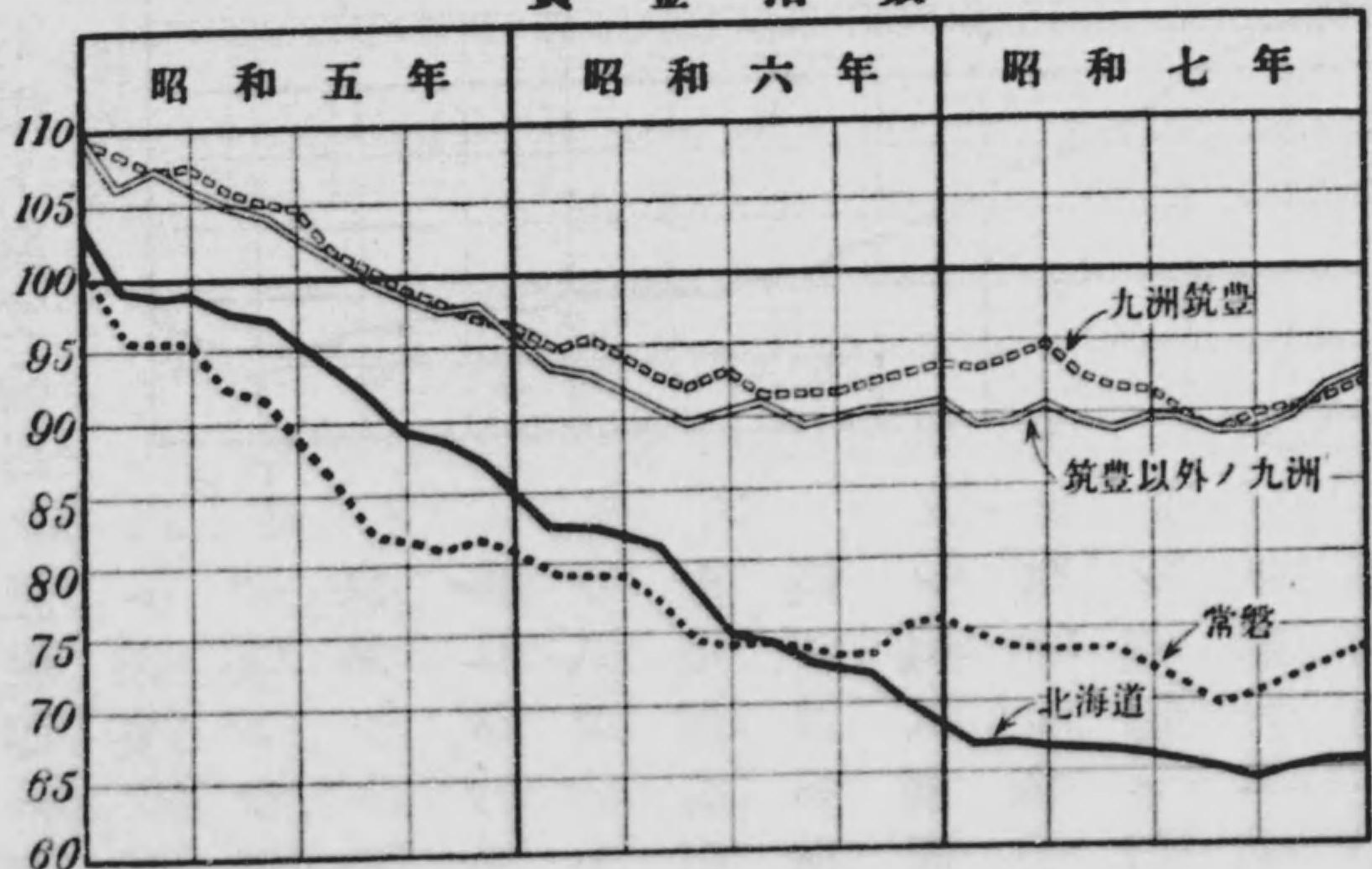
好轉ニ需要ハ漸増ノ傾向トナリ、年末貯炭高ハ需要季旁々百八十萬噸ト近年ニナキ

石炭鑛業地方別

労働人員指數



賃金指數



減少ヲ告ケ、炭價亦之ニ隨伴シテ昂騰歩調ヲ呈シ斯界ハ漸ク好轉ヲ期待セララル、ニ

至レリ。

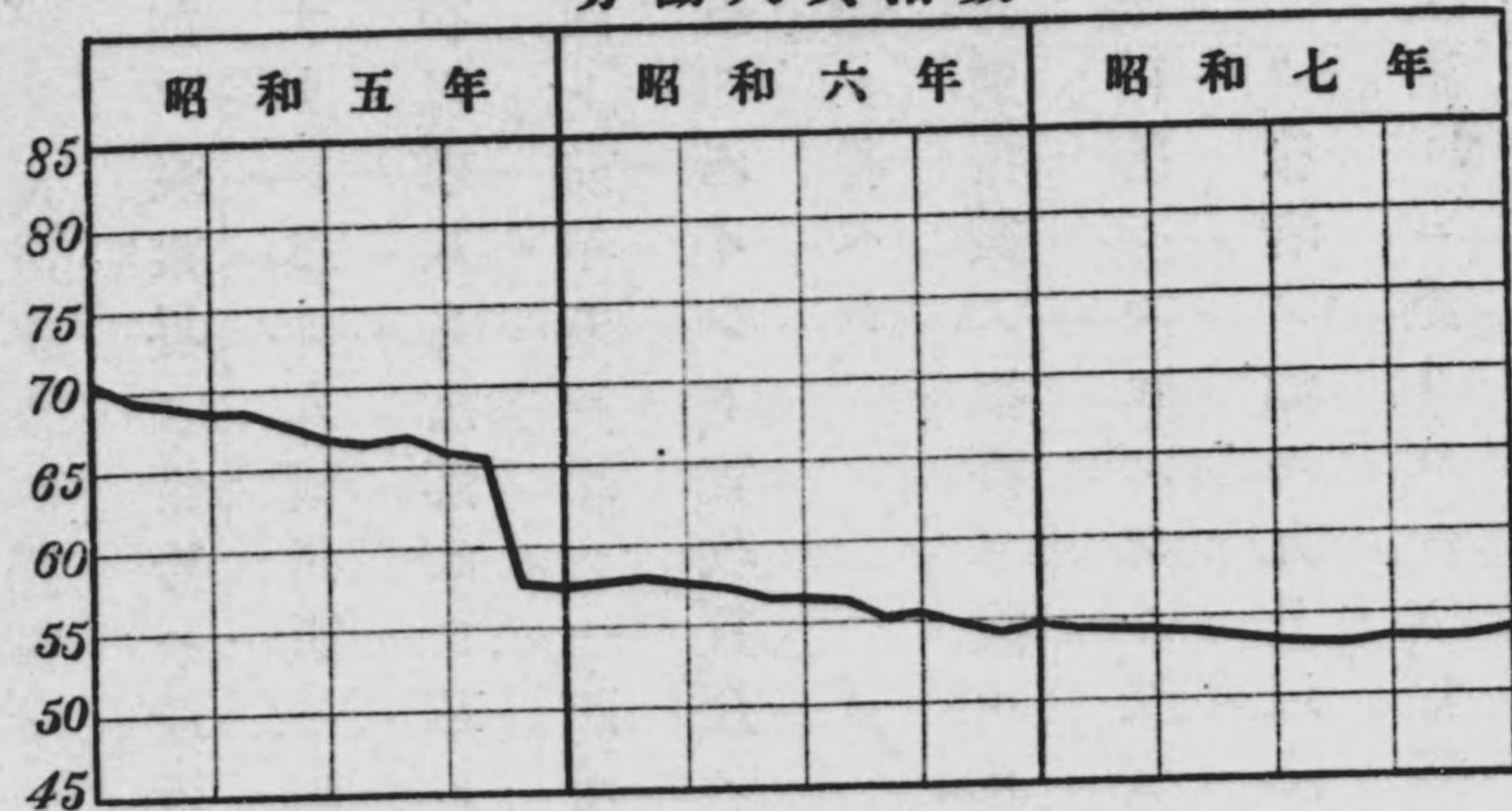
右ノ如ク炭業界ノ情勢ハ最近ニ至リ幾分好轉氣配ヲ呈シタルモ通年概シテ不況ヲ免レサリシ爲メ、人員指數ハ年末五〇・二ト年中六・四ポイントヲ低下シ、實收賃金指數亦年初以來八月迄落潮ヲ革ムルニ至ラス、九月以降漸ク反騰歩調ニ轉シタルモ年末八三・四ト前年末ニ比シ一・四ポイントノ低下ヲ示シタルカ、之ヲ前年中人員指數ノ低下一五・四ポイント、實收賃金ノ低下六・三ポイントニ各對比センカ不況モ既ニ底入レト觀察シ得ヘシ。

尙地方別指數ノ推移ヲ觀ルニ人員指數ハ各地方共依然低下ヲ免レス就中常磐地方ニ於テ稍著シキモノアリ、又實收賃金指數モ九州方面ハ筑豊、其ノ他共概シテ前年ト大差ナク後者ノ如キ九月以降ニ於ケル騰勢稍顯著ナリシ爲メ年末指數ハ前年末指數ヲ上廻ルニ至リタルカ、常磐方面ハ夏季ニ於ケル低下著シク前年ニ比シ幾分ノ劣勢ヲ免レス、又北海道方面ハ通年軟調ヲ辿リ全國中最モ不況ヲ呈シタル模様ナリ。

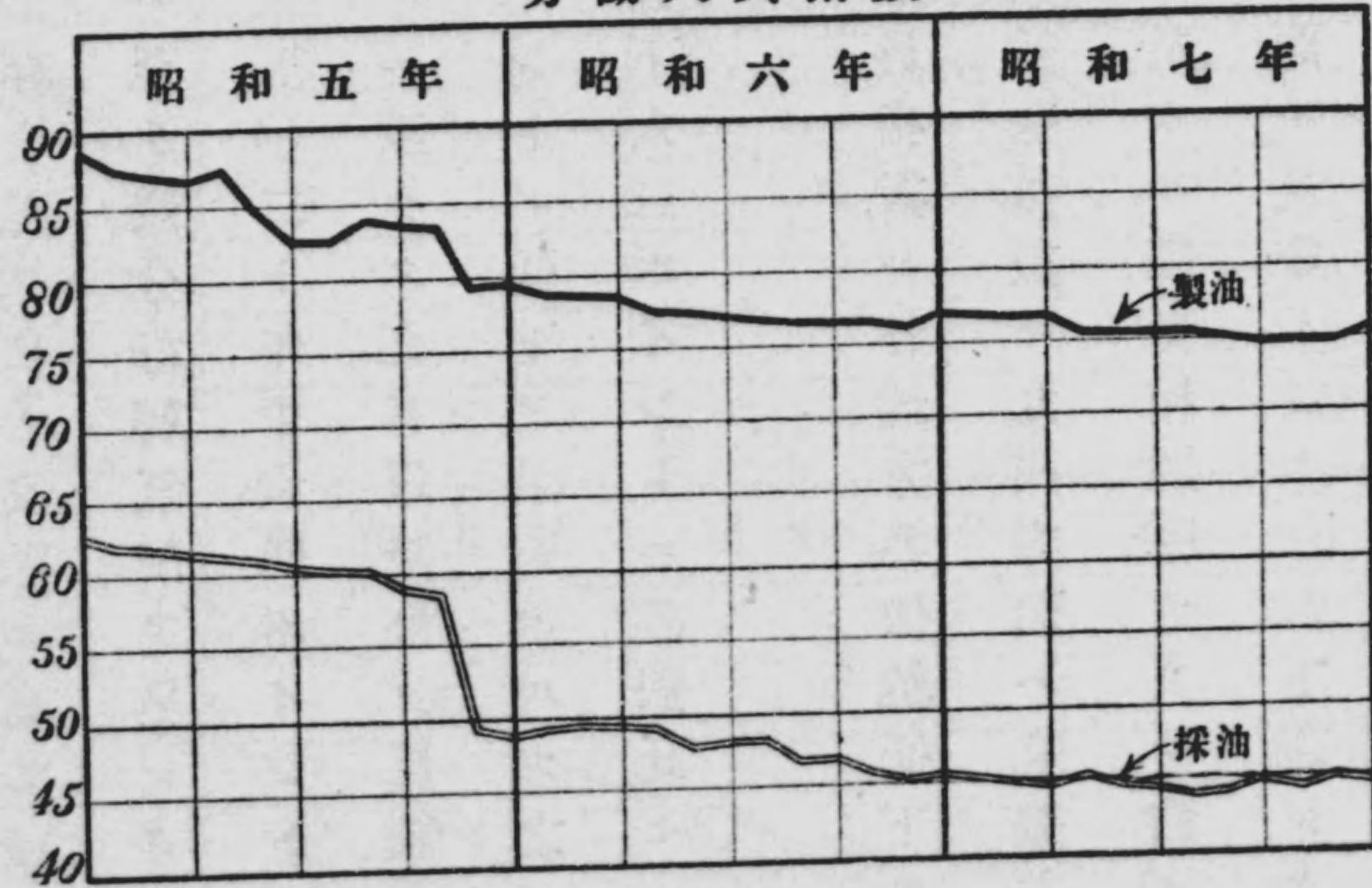
石油界ハ金輸出再禁止以來爲替ノ低落關稅引上等ノ影響ヲ受ケ輸入採算點ハ急

石油鑛業(其一)

勞働人員指數



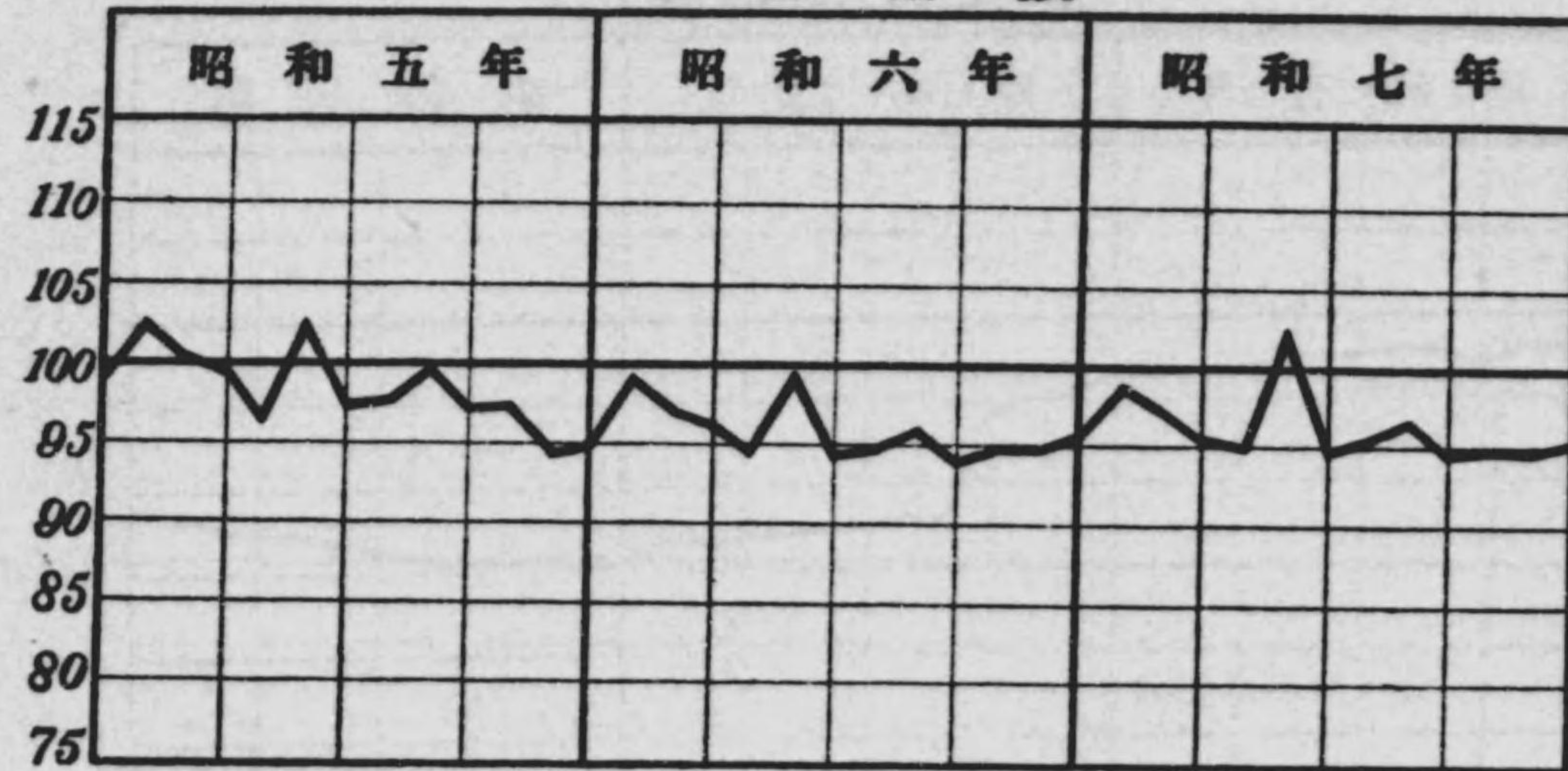
勞働人員指數



激ナル昂騰ヲ來シタルモ、年初來依然實需ノ不勢ト内外各社ノ激烈ナル販賣競争トニ累セラレ市價ハ却テ漸落ヲ演シタリ、然ルニ八月市價維持ヲ目的トスル内外六社ノ協定成立ニ依リ斯界ハ漸ク安定ヲ告ケ、更

石油鑛業(其二)

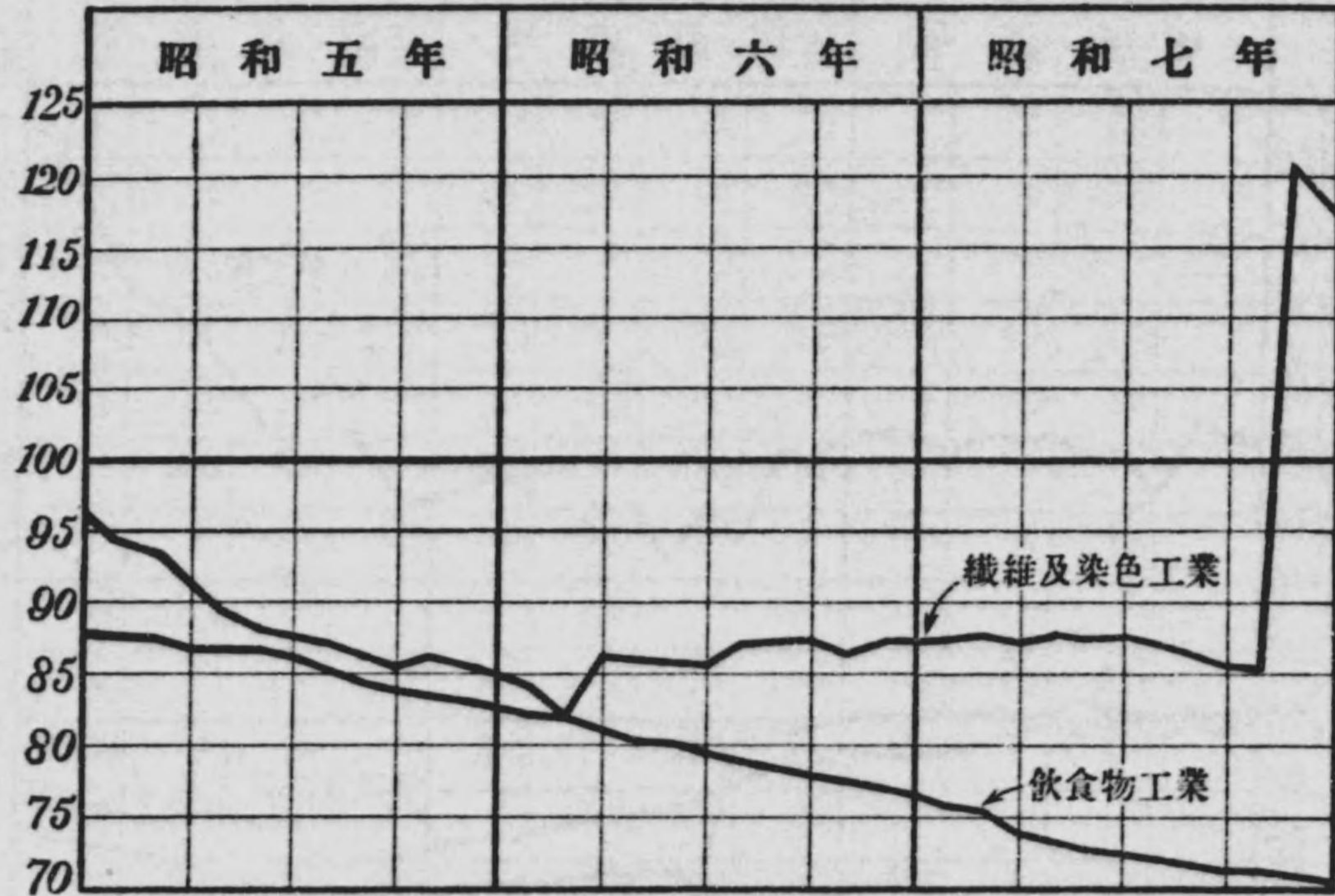
賃金指數



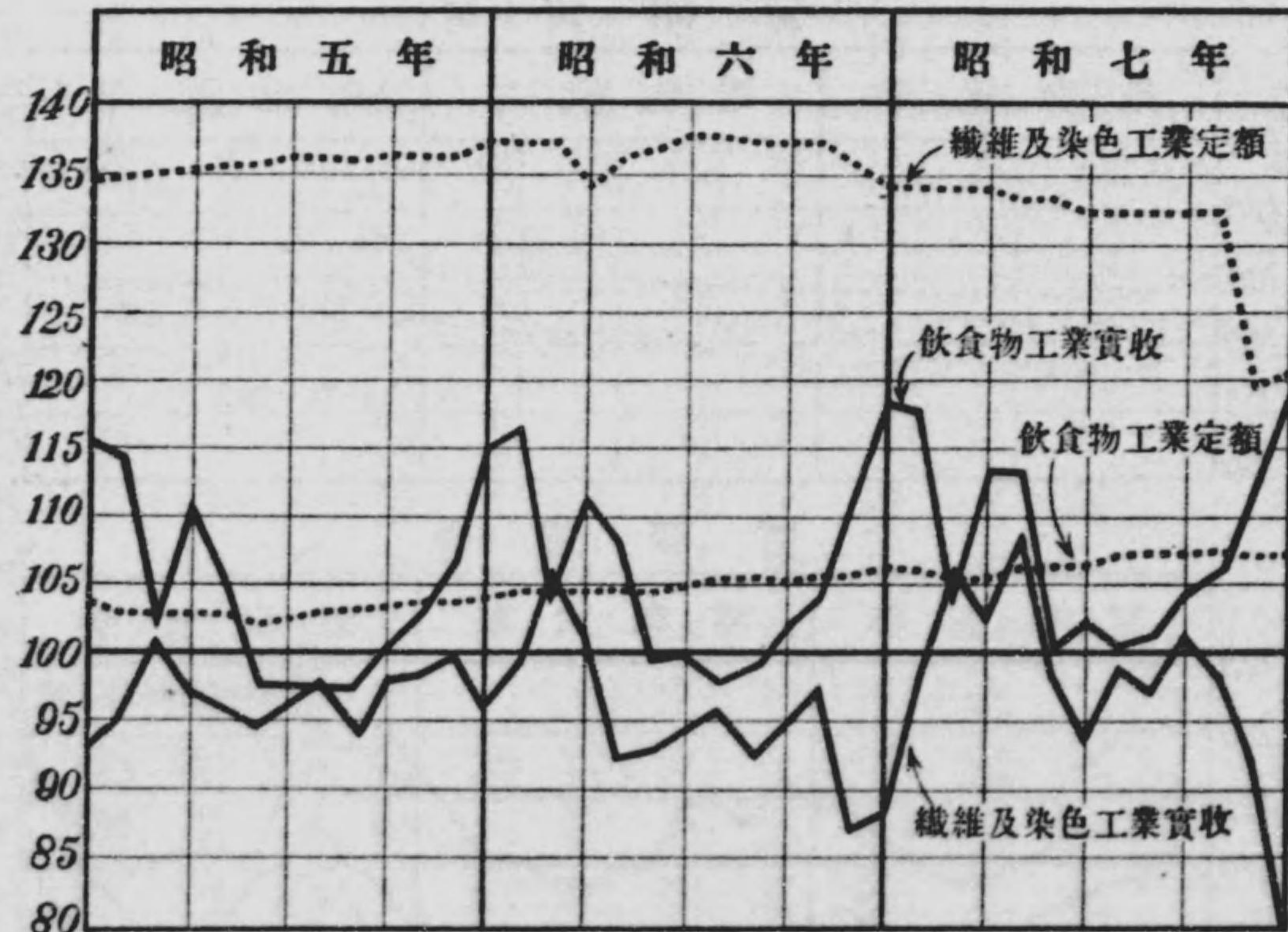
一七ポイント方ノ微落ヲ示セルモ、實收賃金ハ滿洲、上海兩事變動發ノ影響ヲ受ケ陸

事業別指數(其一)

労働人員指數



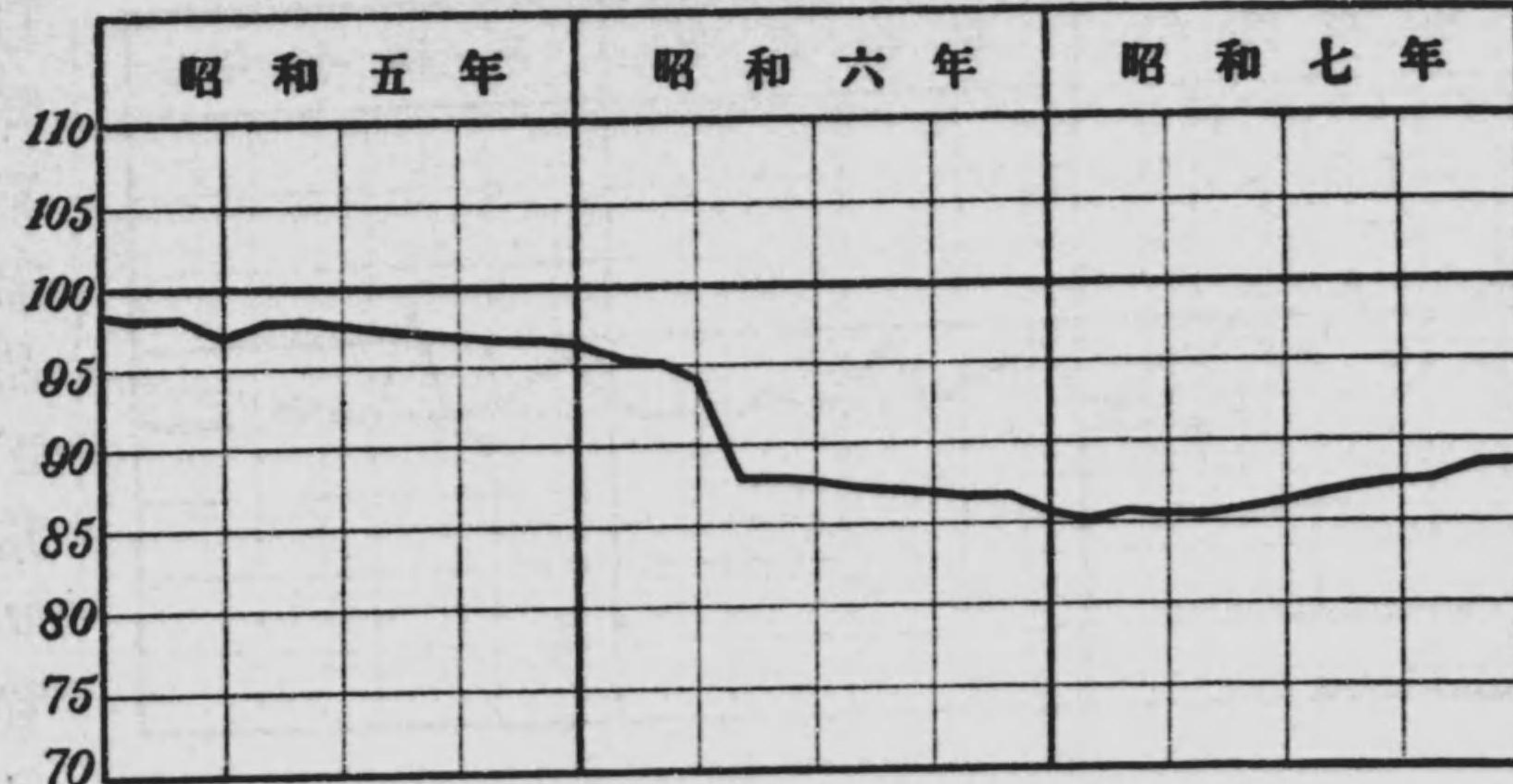
賃金指數



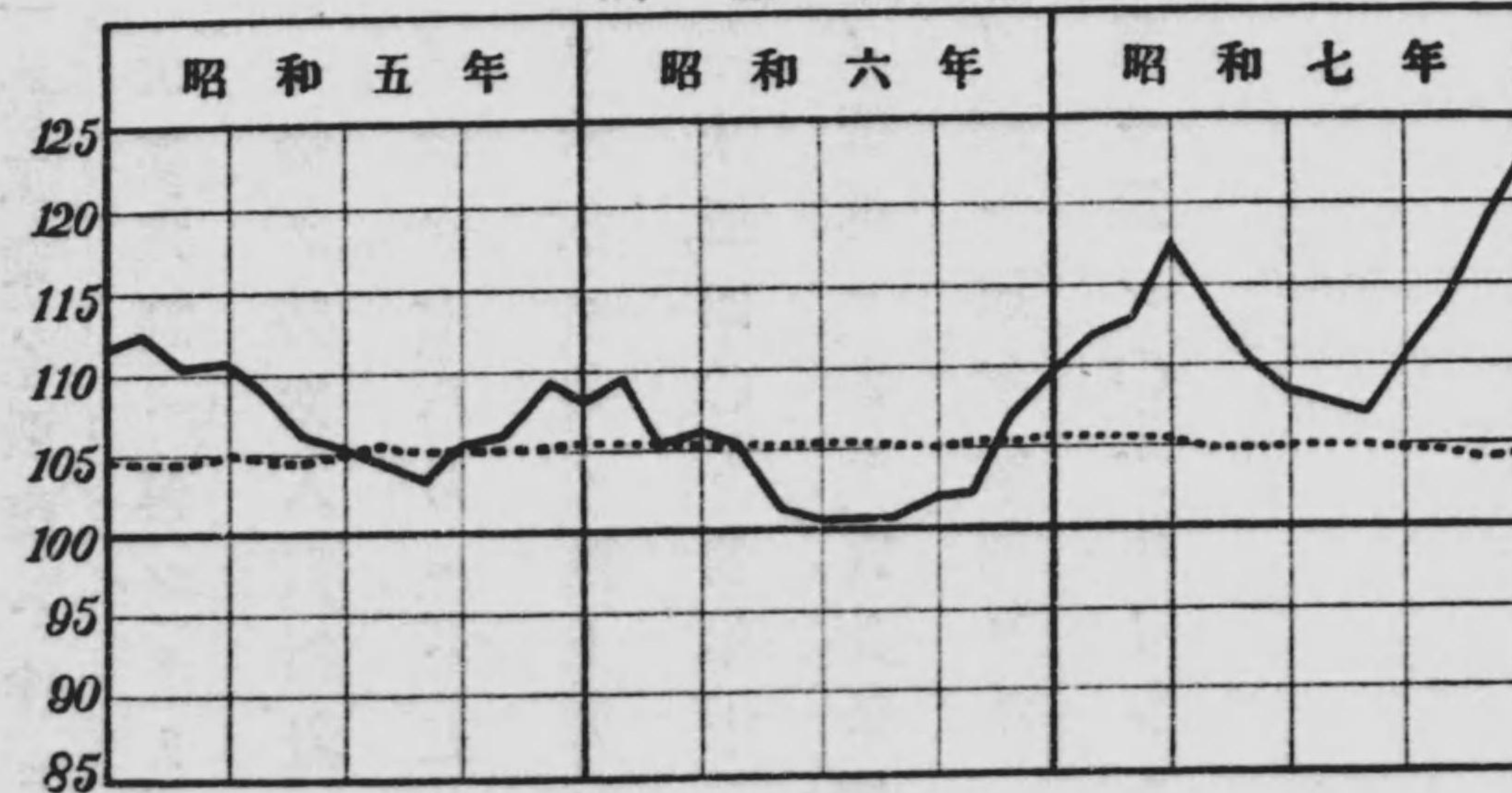
ルニ定額賃金ハ從來ノ漸騰歩調ヨリ遞落傾向ニ轉シ年末一〇四二ト前年末ニ比シ

總指數

労働人員指數



賃金指數

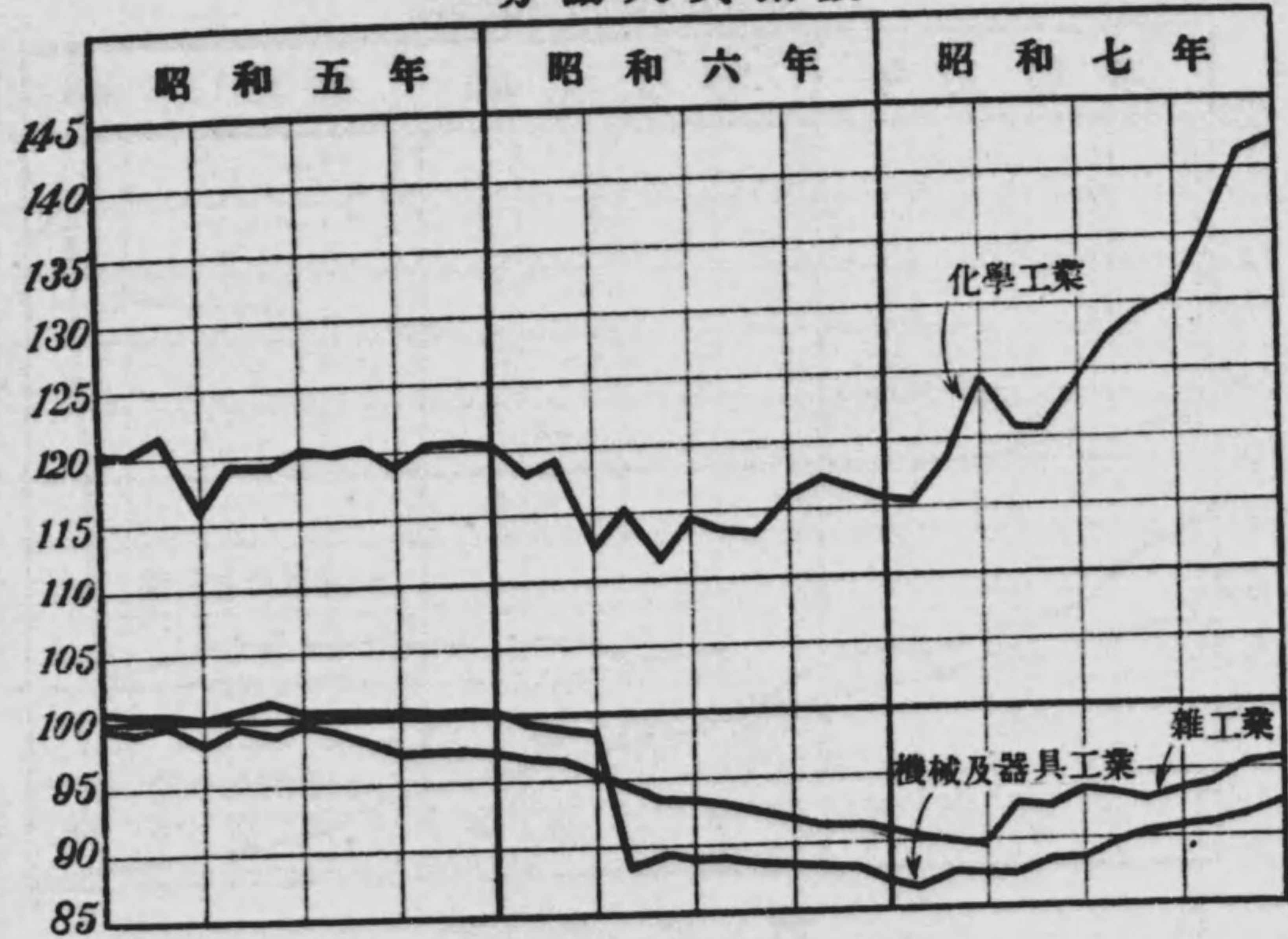


政府事業労働人員指數ハ昭和六年四月ニ於ケル激落後引續キ落潮ヲ革メサリシカ、本年ニ入りテハ年初微落ヲ見タルモ其ノ後保合状態ヲ續ケ更ニ五月以降ハ逐月上昇シ結局年末指數ハ八八八ト前年末ニ比シ三二ポイントノ上昇ヲ告クルニ至レリ、他方賃金指數ヲ觀

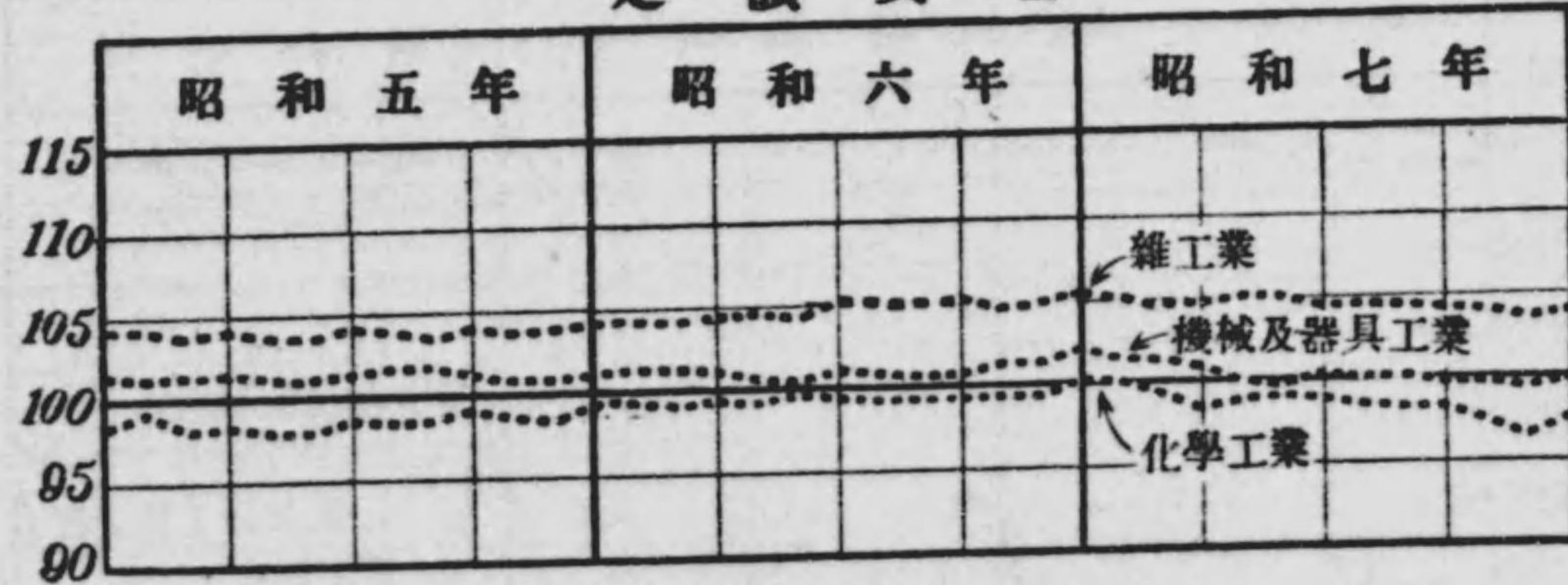
第六 政府事業概況

事業別指數(其二)

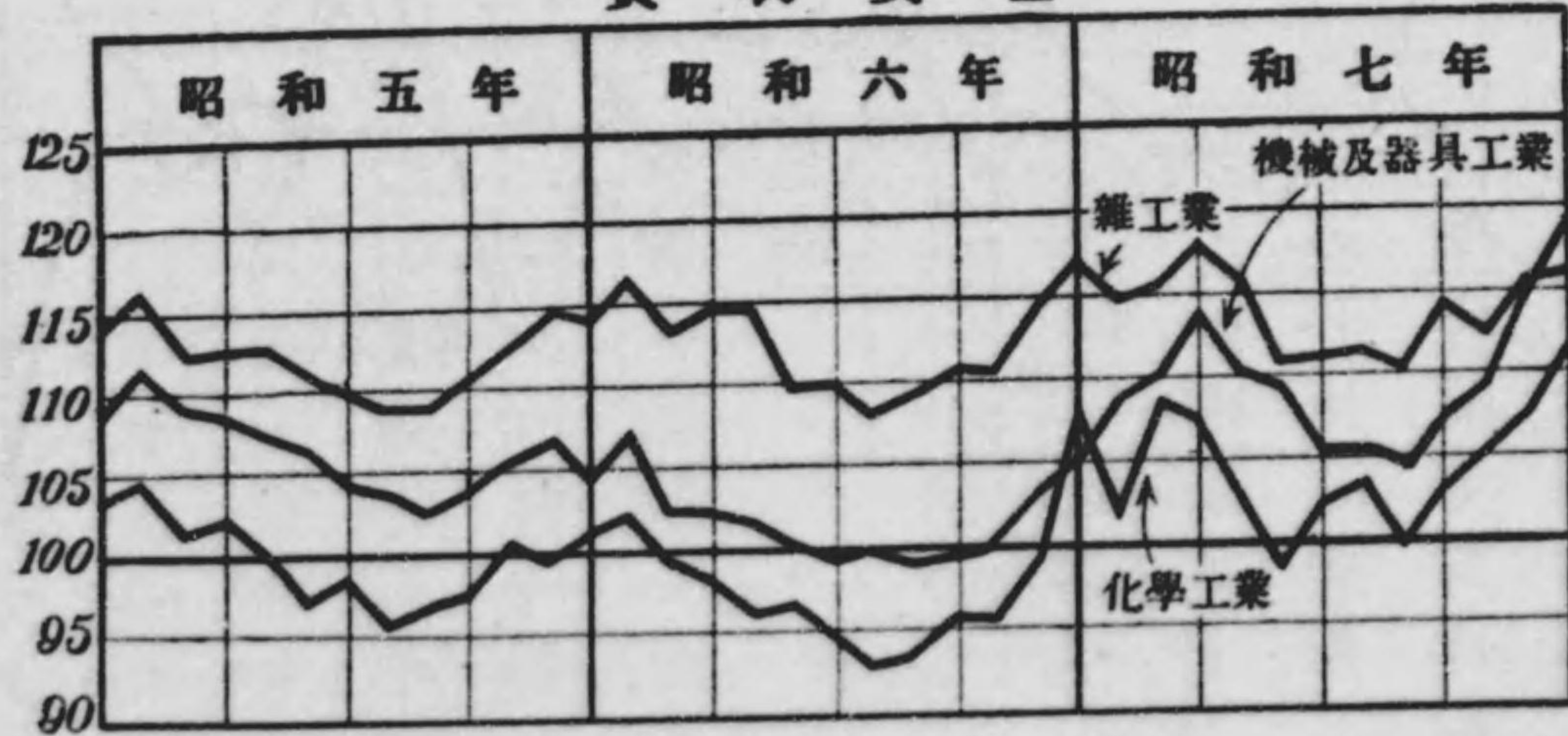
勞働人員指數



定額賃金



實収賃金



一七二ト前年末ニ比シ七・四ポイントノ高位ヲ示シタリ、尤モ其ノ後夏枯閑散季旁々

例年ノ如キ低下傾向ヲ免レサリシモ九月以降ハ季節關係ニヨル作業ノ繁忙ニ伴ヒ指數ハ再ヒ騰勢ヲ辿リ、結局年末一二・四ト前年末ニ比較シ一二・六ポイント方ノ激騰ヲ現出スルニ至レリ。

蓋シ政府事業ハ豫算ニ依リ遂行セラル、關係上、民營事業ニ於ケルカ如ク直接經濟界ノ影響ヲ蒙ル事尠ナキ事情アレトモ、從來採用セラレタル財政緊縮方針ハ漸次緩和ノ傾向アルニ加ヘ滿洲、上海兩事變ノ突發及其ノ後ニ於ケル軍事行動ノ影響ヲ受ケ、陸海軍所屬工場ニ於テ多數人員ノ雇入ヲ見タル結果化學、機械及器具、雜工業方面ニ於ケル人員指數ハ異常ノ奔騰ヲ現出シ唯飲食物工業方面ニ於テハ引續キ人員ノ減少ヲ免レサリシ爲メ總指數ノ騰勢ハ相應減殺セラレタレトモ猶前年中ノ低下一〇・五ポイントニ對シ本年ハ前記ノ如ク三一・一ポイント方ノ上昇ヲ演スルニ至レルモノナリ、又定額賃金ハ一般工業トハ稍趣ヲ異ニシ從來緩慢乍ラモ騰勢ヲ持續シ來レルニ拘ハラズ本年々初以來漸落傾向ヲ辿ルニ至リタルカ、是ハ職工ノ新規採用ニ際シ時節柄可及的低賃率ヲ以テセル關係ニ因ルモノナルヘシ、尙實收賃金ハ通年船舶、器具、化學工業等ヲ首メ金屬品、飲食物關係方面ノ作業繁忙ニ伴フ就業時間ノ延長ヲ反映シ、殊ニ年末ニハ纖維工業以外ノ各方面ニ於テ相應活況ヲ呈シタル爲メ指數ノ昂騰著シキモノアリ、結局年末指數ハ從來ノ最高記録ヲ現出スルニ至レリ。

日誌

一月

- 三日(日) ○日本軍錦州入城
- 十五日(金) ○鐵道省金鐵石運賃四割引下
- 十八日(月) ○昭和六年度產額九千七百七萬二千餘貫(前年比八分八厘減)ト農林省發表
- 日本輸出織物染色工業組合設立認可
- 全國蠶種業組合聯合會及全國製絲業組合聯合會創立
- 二十一日(木) ○衆議院解散、貴族院停會
- 昭和六年度米實收高五千五百二十一萬餘石(前年比一割七分四厘減)ト農林省發表
- 伊太利輸入制限令公布
- 二十二日(金) ○佛國政府輸入陶磁器關稅引上實施ノ旨報道セラレ
- 二十八日(木) ○上海ニ於テ日支兵衝突
- 日本標準電球工業組合創立
- 二十九日(金) ○在上海邦人紡績工場一齊ニ閉鎖

二月

- 二日(火) ○橫濱生絲取引所立會停止
- 三日(水) ○橫濱生絲取引所後場ヨリ立會再開
- 商工省ハ製水ヲ重要工產品ニ指定
- 七日(日) ○上海ハ陸兵派遣ニ關シ政府中外ニ聲明
- 八日(月) ○人絹操短率(四月以降六月迄)二割五分據置ト決定
- 九日(火) ○英國新關稅(從價一割)設定ノ財政決議案下院ニ於テ可決
- 十三日(土) ○セメント限產率(三月以降五月迄)五分緩和五割二分ト決定
- 十八日(木) ○佛領印度支那政府ハ金輸出禁止國ノ輸入品ニ對シ關稅附加稅課徵案ヲ可決
- 二十日(土) ○總選舉施行
- 上海派遣陸軍行動開始
- 二十二日(月) ○南阿聯邦ノ對日關稅實施

三月

- 一日(火) ○滿洲國ノ建國宣言發布
- 英國ノ一割新關稅實施
- 二日(水) ○橫濱及神戸生絲輸出業組合創立
- 三日(木) ○上海派遣軍ニ對シ停戰命令下ル
- 四日(金) ○金地金買上要項大藏省ヨリ發表
- 五日(土) ○染料建値引上

- 二十三日(火) ○人絹織物染色料商工省裁定ニ依リ決定
- 二十四日(水) ○紡績操短率(四月以降三箇月間)據置ト決定
- 二十五日(木) ○絹紡系操短率五月末迄據置ト決定
- 濠洲政府關稅引下實施
- 二十六日(金) ○米國大統領ハ聯邦準備銀行ノ成規外擔保貸出ヲ認メ又米國國債ヲ準備券發行擔保ニ充當ヲ許可シ財界振興ニ資セントスル法律案ヲ裁可

- 十一日(金) ○本行利子引下發表(十二日ヨリ實施)
- 十四日(月) ○日本中央蠶絲會創立
- 十六日(水) ○人絹共同保管絲ノ處分方法決定
- 二十日(日) ○第六十一回帝國議會開會
- 二十一日(月) ○佛國政府ハ日本ヲ原產地トスル輸入商品ニ對シ一率一割五分ノ從價附加稅ヲ課スル旨閣令ヲ以テ布告
- 倫敦ゴム相場未會有ノ安値ニ慘落
- 二十四日(木) ○日支停戰會議上海ニ開催
- 二十五日(金) ○第六十一回帝國議會閉會
- 二十八日(月) ○紡績操短率(七月以降九月迄)現行三割一分四厘據置ト決定
- 二十九日(火) ○國際砂糖協定成立
- 三十日(水) ○商工省合理局輸出護謄靴工業改善委員會ニ於テ統制策決定

三十一日(木)

- 輸出補償施行規則中改正公布
- 米穀調査會官制廢止
- 米穀委員會開催、基準米價改定決定
- 中央蠶絲會總會開催、滯貨生絲處分案其他決議案可決

四月

一日(金)

- 輸出補償法改正案實施
- 福井人絹取引所設立認可

二日(土)

- 三井、三菱對滿融資二千萬圓發表

十一日(月)

- 米穀委員會ニ於テ政府所有古米五十萬石買換決定

十二日(火)

- 昭和七年度一般會計實行豫算十五億四千四百萬圓閣議決定

- 第十六回國際勞働會議開會

十九日(火)

- 五大電力會社(東電、東邦、大同、宇治、日電)ノ電力聯盟成立

- 絹紡操短率(六月以降十一月迄)一割八分据置ト決定

二十一日(木)

- 英國關稅諮問委員會ノ追加關稅發表(本月二十五日ヨリ實

七二

施)

二十五日(月)

- 絲價委員會ニ於テ滯貨生絲處分決定

二十六日(火)

- 上海邦人紡績工場操業開始

五月

五日(木)

- 日支停戰協定調印
- 山本農相ハ滯貨生絲處分ニ關シ海外へ聲明發表

六日(金)

- 滯貨生絲處分ノ流言ニ關シ農林省聲明書發表

七日(土)

- 米穀委員會ニ於テ五十萬石古米買換ノ要項決定

十三日(金)

- 工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戻稅法施行規則中改正及製鐵所官制中改正ノ勅令公布
- 五月一日現在全國殘存米三千二百八十七萬石ト農林省發表(前年比八分八厘減)

十四日(土)

- 福井人絹取引所開市

十五日(日)

- 犬養首相遭難

十六日(月)

- 滯貨生絲ノ買上處分案臨時閣議ニ於テ決定

七日(火)

- 本行利子引下發表(八日ヨリ實施)

十五日(水)

- 第六十二回帝國議會閉院式舉行

十六日(木)

- 新關稅法實施
- 賠償會議瑞西ローザンヌニ開催

十八日(土)

- 兌換銀行券條例中改正法律、日本銀行納付金法及日本銀行參與會法公布(七月一日實施)

二十二日(水)

- フーヴァー大統領全世界軍備ノ三分ノ一縮少ヲ軍縮會議ニ提案

二十四日(金)

- 鋼材聯合會ハ製鐵、製鋼認可制採用ヲ當局へ要望

二十七日(月)

- 大藏省金地金買上價格發表中止

二十八日(火)

- 滿鐵當局撫順炭輸入數量減額承認報道

二十九日(水)

- 疏安ノ供給制限及市價維持ヲ目的トスルシンヂケート成立

三十日(木)

- 過燐酸減產率(七月以降明年二月迄)五割据置ト決定

六月

一日(水)

- 第六十二帝國議會開院式舉行

五日(日)

- 政府所有内地米五十萬石買換米穀委員會ニ於テ決定

七三

七月

- 一日(金) ○資本逃避防止法、國債優遇法及滯貨絲處分法等實施
- 日銀制度改正實施
- 滿洲國中央銀行開業
- 四日(月) ○紡績業者ハ印度綿布關稅對策ヲ申合ス
- 七日(木) ○セメント減産率(七、八月)二分五厘擴張五割六分ト決定
- 工業組合中央會創立
- 國際砂糖會議オステンドニ開催
- 八日(金) ○ローザンヌ賠償協定(獨二十億マルク支拂)成立
- 金買上新方針決定
- 十一日(月) ○全國春蠶收購高豫想四千九百三十九萬九千餘貫(前年比一割三分八厘減)ト農林省發表
- 十二日(火) ○七月一日現在全國在米高二千三百八十萬石(前年比九分減)ト農林省發表
- 十三日(水) ○商工省主催當業者貿易振興懇談會開催
- 歐洲國際窒素協定成立
- 十六日(土)

七月

- 買收生絲審查會ヲ農林省ニ設置
- 撫順炭輸入ニ關シ滿鐵ト石炭聯合會間ニ妥協成立
- 國際砂糖會議閉會
- 十八日(月) ○大藏省金買上値段再發表
- 二十一日(木) ○英帝國經濟會議加奈太オツタワニ開催
- 二十二日(金) ○生絲需要増進調査會官制公布
- 八月
- 三日(水) ○預金部資金運用委員會ニ於テ中小商工業農村其他ノ資金融通條件決定
- 中華民國關稅引上決定
- 八日(月) ○米棉收穫豫想千百三十萬六千俵ト米國農務省發表
- 十日(水) ○人絹限産率現行二割五分ヲ十月一割五分十一月一割ト緩和決定
- 十一日(木) ○八月一日現在全國在米見積千九百四十九萬石ト農林省發表
- 十二日(金) ○英帝國經濟會議ハ物價並ニ通貨問題ニ關シ聲明書發表

十六日(火)

- 商工省主催綿製品輸出増進懇談會開催
- 十六日(火) ○郵便貯金利子一分二厘引下三分ト改定、十月一日ヨリ實施ニ關議決定
- 商工省中小工業救済施設要綱發表
- セメント限産率(九月以降十一月迄)一分五厘擴張、五割七分五厘ト決定
- 十七日(水) ○本行利下發表(十八日實施)
- 商工省主催陶磁器、漆器其他一般工藝品輸出振興ニ關スル懇談會開催
- 二十日(土) ○紡績操短率十月以降五分擴張、三割六分四厘ト決定
- 英帝國經濟會議終了
- 二十二日(月) ○預金部資金運用委員會ニ於テ時局匡救融資額一億九千萬圓ト決定
- 二十三日(火) ○第六十三回帝國議會開院式舉行
- 二十四日(水) ○農村救済對策貫徹ノタメ全國農會大會開催
- 二十五日(木) ○銑鐵共販會社創立
- 二十六日(金)

九月

- 米穀應急施設法要綱發表
- 二十七日(土) ○英國ランカシャ織布工罷業決行
- 二十九日(月) ○帝國議會會期三日間延長
- 橫濱及神戸生絲清算市場立會停止
- 三十日(火) ○印度政府ハ英國品以外ノ綿製品ニ對シ綿布關稅從價五割ニ引上グ
- 九月
- 一日(木) ○橫濱生絲清算取引立會再開
- 英國關稅引上發表
- 五日(月) ○第六十三回帝國議會閉院式舉行
- 六日(火) ○金錢債務臨時調停法公布(十月一日ヨリ實施)
- 八日(木) ○本年春蠶收購高四千六百四十萬貫(前年比一割二分弱減)ト農林省發表
- 米棉收穫豫想一千百三十一萬俵ト米國農務省發表
- 九日(金) ○米棉暴落ノ爲メ大阪三品取引所一時立會停止

- 十日(土) ○絹紡操短率(十一月以降六箇月間)一箇月四晝夜休業基準 一割八分休鍾繼續決定
- 十一日(月) ○九月一日現在夏秋蠶摺立豫想八千六百三十萬グラム(前年比三分六厘減)ト農林省發表
- 九月一日現在内地在米見積高千五百十四萬石(前年比一割三分減)ト農林省發表
- 十四日(水) ○人絹聯合會協議會ニ於テ人絹操短解除(十二月以降)ヲ決議
- 十五日(木) ○日滿兩國議定書滿洲國新京ニ於テ調印
- 十七日(土) ○石炭販賣統制準備委員會ニ於テ統制原案決定
- 陸軍省ハ軍需品製作ヲ中小商工業者救済ノ爲下請工場(請負ハス事ニ決定セル旨報道
- 十九日(月) ○印刷紙模造紙建値約五分引上決定
- 二十一日(水) ○横濱、神戸生絲取引所ハ輸出生絲販賣統制反對聲明書發表
- 硫安配給組合創立
- 二十二日(木)

- 昭和製鋼所設立ニ關スル滿鐵側具體案決定
- 二十四日(土) ○日露石油賣買契約締結
- 二十七日(火) ○船舶改善協會創立
- 英國ランカシャ織布工罷業終結
- 三十日(金) ○不動產融資及損失補償法、産業組合中央金庫特別融通及損失補償法施行期日、施行規則等ノ勅令公布

十月

- 一日(土) ○郵便貯金利下實施
- 米收穫豫想六千五百五十五萬九千石(前年比一割一分五厘増)ト農林省發表
- 二日(日) ○リットン報告書公表
- 四日(火) ○改正米穀法實施
- 生絲輸出組合ハ生絲販賣統制ニ反對聲明書發表
- 六日(木) ○九月二十五日現在夏秋蠶收滿豫想高四千八萬三千四百四十貫(前年比九分七厘減)ト農林省發表
- 農山漁村經濟更生計畫助成規則公布即日實施

- 七日(金) ○商工省合理局自轉車工業改善委員會ニ於テ自轉車部分品工業統制案決定
- 八日(土) ○米棉第三回收穫豫想一千四百十二萬俵ト米國農務省發表
- 十一日(火) ○商工省ハ除蟲菊製品、懷爐灰、石灰、皮革及同製品、木蠟、燃絲、内燃機關ヲ重要工產品ニ指定
- 十二日(水) ○英國政府ハオツタワ協定ノ内容ヲ發表
- 十三日(木) ○内地米二百萬石買上要綱發表
- 晒粉共販會社創立
- 南阿、加奈太及新西蘭關稅引上實施
- 十四日(金) ○製絲業法施行規則公布(二十日ヨリ實施)
- 濠洲及英領馬來聯邦關稅引上實施
- 十八日(火) ○王子、富士、樺太三製紙會社合併調印
- 商工省主催雜貨輸出振興ニ關スル懇談會開催
- 十九日(水) ○洋紙建値引上實施
- 英領諸邦人絹關稅引上
- 英國輸入護謄靴關稅附加率課徵

十一月

- 二十一日(金) ○米國電球製造業者ハ日本電球ノダンピング防止ヲ其筋ヘ要求
- 二十三日(日) ○英國各地失業業者倫敦ニ向ケ飢餓行進開始
- 二十四日(月) ○全國米穀取引所組合聯合會ニ於テ米ノ專賣反對ヲ決議
- 二十五日(火) ○米國漁業者、マツチ業者ハ本邦產罐詰、燻寸ノ輸入制限ヲ其筋ヘ陳情
- 二十八日(金) ○セメント滿洲出荷問題聯合會各社協議會ニ於テ解決
- 統制委員會ハ二硫化炭素製造業、精糖製造業、揮發油製造販賣業ヲ重要産業トシテ統制ヲ決定
- 米國大統領ハ日本品ノ競争ニハ關稅引上ニ依リ對抗スベシト演說

十一月

- 二日(水) ○玖瑪產糖制限決定(一九三三年產糖二百萬噸)
- 三日(木) ○米國財務當局ハ日本品輸入防衛策實行ヲ言明
- 七日(月) ○本年全國麥實收高、大麥七百五十七萬石、裸麥六百五十五

萬石、小麥六百四十九萬石ト農林省發表

八日(火)

○米穀統制調査會官制公布

○米國大統領選舉舉行、ルーズヴェルト當選

九日(水)

○米棉第四回收穫豫想(十一月一日現在)一千九百九十四萬七千俵ト米國農務省發表

十日(木)

○紡績操短率(明年一月以降三月末迄)八分八厘方緩和決定

十一日(金)

○米穀統制制度要綱發表

○第二回米收穫豫想六千十八萬石(第一回比百萬石減)ト農林省發表

十二日(土)

○英國下院日本製ゴム靴ニ關稅增徴可決

○米國關稅委員會ハ日本商品ノ不當廉賣ニ非ザルヲ認定

十六日(水)

○農村經濟更生中央委員會規程告示

十七日(木)

○セメント限產率(十二月以降三箇月間)二分五厘方緩和、五割五分ト決定

十八日(金)

○明年度石炭送炭調節高ハ本年度調節高(二千四十六萬噸)ヲ繼續ト決定

七八

○王子、富士兩製紙總會ニ於テ三製紙合併案可決

二十一日(月)

○國際聯盟理事會開會

○印度政府オッタワ協定關稅率ヲ公表

二十四日(木)

○爲替取引内容ヲ大藏省ニ報告方實施

二十五日(金)

○明年度一般會計豫算二十二億三千九百萬圓ト閣議決定

二十六日(土)

○昭和石炭株式會社創立

二十八日(月)

○米穀貯藏獎勵規則公布

二十九日(火)

○世界產銅業者協議會紐育ニ於テ開催

十二月

一日(木)

○鮮米五十萬石買上發表

過燐酸限產率(明年二月迄)五割繼續ト決定

六日(火)

○硫酸アンモニア輸出入許可規則撤廢ノ省令公布

國際聯盟臨時總會開會

八日(木)

○米棉收穫最終豫想(十二月一日現在)一千二百七十二萬七

千俵ト米國農務省發表

○獨逸本邦產紙關稅引上

九日(金)

○國際聯盟總會閉會

○世界產銅業者協議會限產問題ニテ決裂

十三日(火)

○國際石油協定巴里ニ於テ成立

十四日(水)

○英國下院日本棉製品ダンピングヲ問題トス

十五日(木)

○外價評價委員會官制公布

○米穀委員會ニ於テ基準米價ノ引上其ノ他決定

○滿鐵疏安計畫(一箇年十八萬噸)主務省認可

十九日(月)

○綿絲操短率據置決定(昭和八年四月以降六月迄)

○商工省合理局タオル工業改善委員會ハタオル工業統制ヲ決定

二十一日(水)

○米及靱輸入稅增加ノ繼續ニ關スル勅令公布

○比律賓新關稅規則實施

二十二日(木)

○商工省合理局セルロイド刷子工業改善委員會ニ於テ統制策決定(三月一日實施)

○英國議會日本製陶器輸入増加ヲ問題トス

二十三日(金)

○昭和八年度撫順炭輸入高百八十五萬噸ニ協定成立

二十四日(土)

○第六十四回通常議會召集

二十六日(月)

○商工省ハ度量衡器及計算器ヲ重要工產品ニ指定

二十八日(水)

○商工省ハ清涼飲料ヲ重要工產品ニ指定

七九

勞働人員及勞働賃金指數

一般工業	總指數及男女別指數.....	1
"	重要事業別指數.....	2
"	地方別指數.....	8
政府事業	總指數及男女別指數.....	10
"	事業別指數.....	11
鑛山業	總指數及男女別指數.....	13
"	事業別指數.....	14

一般工業

大正十五年基準

總指數及男女別指數

年 月	總 指 數			男			女		
	勞働人員	定額資金	實收資金	勞働人員	定額資金	實收資金	勞働人員	定額資金	實收資金
昭和三年 平均	90.4	99.1	105.3	97.2	99.1	103.3	83.8	98.3	99.8
四年 ≧	91.1	98.6	103.9	98.6	98.6	102.6	83.8	97.4	96.4
五年 ≧	82.0	96.2	98.7	91.3	96.2	97.3	73.0	94.0	87.4
六年 ≧	74.4	91.3	90.7	81.0	91.5	92.0	68.0	87.9	77.4
七年 ≧	74.7	88.1	88.1	79.0	88.8	92.7	70.6	83.4	70.9
昭和五年 一月	88.7	98.6	100.4	96.6	98.5	98.8	81.0	96.9	93.4
二月	87.8	98.4	101.8	96.1	98.4	100.7	79.9	96.6	93.3
三月	86.9	98.2	102.8	95.6	98.1	101.0	78.4	96.4	92.5
四月	86.1	97.6	100.6	95.0	97.5	99.1	77.4	95.6	90.8
五月	84.9	97.1	100.1	93.8	97.0	98.6	76.3	95.0	89.7
六月	83.1	96.6	98.9	92.5	96.6	97.5	74.0	94.4	88.5
七月	80.5	95.8	98.5	90.7	95.9	96.6	70.7	93.5	85.5
八月	78.7	95.3	97.8	89.1	95.4	95.6	68.6	92.9	84.1
九月	77.9	94.7	97.0	88.3	94.8	95.4	67.9	92.3	73.7
十月	77.2	94.3	96.2	87.2	94.4	94.7	67.5	92.0	82.6
十一月	76.2	94.1	95.1	85.6	94.1	94.0	67.1	91.6	81.9
十二月	75.6	93.7	95.6	84.7	93.8	94.9	66.8	91.3	82.2
昭和六年 一月	74.9	93.2	92.6	83.6	93.2	92.0	66.5	90.6	80.2
二月	74.6	92.8	93.1	83.1	92.8	92.8	66.3	90.1	80.3
三月	74.6	92.4	94.2	82.6	92.5	93.8	66.9	89.2	79.6
四月	75.3	91.9	91.9	82.5	92.1	92.6	68.2	88.8	79.0
五月	75.0	91.6	91.3	81.8	91.8	92.4	68.4	88.2	78.1
六月	74.3	91.2	91.0	80.6	91.5	92.2	68.2	87.9	78.3
七月	74.5	91.4	90.1	80.5	91.5	91.4	68.6	87.8	77.3
八月	74.4	91.0	89.0	80.3	91.3	90.8	68.7	87.4	76.4
九月	74.8	90.7	88.7	80.2	90.9	90.8	69.5	87.0	76.1
十月	74.2	89.9	88.4	79.7	90.2	90.9	68.9	86.4	75.3
十一月	73.7	89.7	88.5	79.1	90.0	91.4	68.4	86.1	74.8
十二月	73.1	89.5	89.1	78.5	89.8	92.7	67.9	85.7	73.9
昭和七年 一月	72.9	89.5	87.6	78.1	90.0	91.0	67.8	85.8	73.1
二月	73.0	89.3	89.4	77.9	89.8	93.0	68.3	85.0	73.3
三月	73.5	89.1	90.2	77.9	89.7	94.4	69.2	84.7	72.8
四月	74.5	88.6	87.2	78.3	89.3	91.6	70.9	83.9	71.8
五月	74.6	88.3	87.0	78.3	89.1	91.2	71.0	83.6	70.9
六月	74.5	88.2	86.8	78.3	88.9	91.3	70.7	83.5	70.2
七月	74.5	88.0	86.2	78.5	88.8	91.1	70.6	83.2	69.3
八月	74.7	87.8	86.1	78.8	88.6	90.7	70.7	82.9	68.8
九月	75.5	87.5	86.5	79.5	88.3	91.7	71.6	82.4	69.4
十月	75.8	87.3	88.8	80.1	88.2	93.9	71.6	82.2	69.9
十一月	76.4	86.8	88.7	80.8	87.6	94.6	72.1	81.9	70.0
十二月	77.0	86.6	92.1	81.5	87.5	98.5	72.6	81.6	70.6

總指數及男女別指數ノ計算ニハ製糸業ヲ含マス。

一般工業

大正十五年基準

重要事業別指數(1)

年 月	* 製 糸 業			* 紡 績 業			* 織 物 業		
	勞働人員	定額資金	實收資金	勞働人員	定額資金	實收資金	勞働人員	定額資金	實收資金
昭和三年 平均	89.0	95.5	95.9	82.2	101.1	101.1	83.6	96.2	98.4
四年 ≧	94.6	94.3	94.2	82.3	99.1	96.4	80.7	95.4	95.4
五年 ≧	89.1	86.4	82.7	69.7	94.7	86.8	70.0	86.4	83.8
六年 ≧	70.8	72.7	67.8	62.4	83.3	74.5	65.2	78.1	74.3
七年 ≧	66.9	63.7	61.5	63.2	75.2	65.9	66.4	73.1	68.5
昭和五年 一月	41.9	94.7	92.9	81.2	99.6	93.6	75.7	93.0	91.7
二月	74.4	90.8	87.4	79.5	99.8	93.3	75.1	92.0	91.1
三月	96.5	89.3	84.2	77.6	99.8	92.6	74.2	91.2	90.2
四月	97.1	88.4	82.9	75.7	97.3	90.6	73.2	89.8	88.2
五月	93.5	88.0	82.5	74.2	95.6	89.7	72.4	88.6	86.9
六月	95.9	87.2	83.0	71.6	95.3	89.0	70.7	87.0	85.0
七月	98.0	85.7	82.9	67.0	94.0	85.9	68.0	84.8	81.4
八月	97.0	85.5	81.8	63.7	92.9	83.9	66.7	82.8	79.1
九月	97.0	83.3	80.0	62.3	91.8	82.3	66.4	82.2	78.8
十月	96.8	82.2	79.1	61.6	90.8	80.9	66.2	82.2	77.8
十一月	96.1	81.5	77.7	61.2	90.0	79.8	65.8	82.1	77.5
十二月	84.9	80.3	77.9	61.2	89.1	79.7	65.4	81.4	77.9
昭和六年 一月	76.9	78.9	75.9	61.0	88.7	79.0	64.6	81.0	76.2
二月	21.9	78.4	75.3	60.5	87.7	78.0	64.6	80.4	77.0
三月	5.7	72.1	60.3	61.0	86.0	77.2	64.9	79.5	76.0
四月	89.0	74.2	68.5	62.1	85.0	76.2	65.9	78.8	76.0
五月	89.3	73.6	66.6	62.5	83.9	75.2	65.7	78.5	75.0
六月	88.1	73.0	67.5	62.5	83.2	75.3	65.5	78.1	75.6
七月	88.6	72.2	68.4	63.0	82.4	74.1	65.5	78.5	74.9
八月	87.2	72.1	67.8	63.1	81.5	73.2	65.4	78.2	74.3
九月	86.3	71.2	67.1	64.0	80.8	72.6	65.8	77.7	73.4
十月	86.0	69.5	65.6	63.5	80.4	71.8	65.1	76.3	71.8
十一月	84.0	68.6	65.1	62.8	79.8	71.1	64.7	75.2	71.1
十二月	46.8	68.2	65.2	62.5	79.6	69.9	64.2	74.7	70.5
昭和七年 一月	44.3	69.2	67.6	62.4	79.4	69.6	63.7	75.2	70.0
二月	65.6	67.6	65.6	62.4	78.0	69.2	64.2	74.3	70.4
三月	74.2	64.6	61.6	62.9	77.2	68.4	64.7	74.4	69.7
四月	74.6	63.7	60.2	64.2	76.4	67.4	66.4	73.4	68.9
五月	68.1	63.1	59.1	64.2	75.7	66.5	66.5	73.1	68.1
六月	67.3	62.6	59.0	63.9	75.6	65.4	66.3	72.5	68.1
七月	72.2	61.8	59.2	63.6	74.7	64.4	66.2	72.3	67.6
八月	72.6	62.1	60.1	63.1	74.1	63.8	66.5	72.4	67.2
九月	73.4	62.2	60.8	63.5	73.2	63.5	67.6	72.2	67.8
十月	73.3	62.1	61.1	62.9	73.0	63.9	67.7	72.4	67.7
十一月	73.1	62.0	61.7	62.8	72.8	64.1	68.4	72.6	67.9
十二月	43.8	63.6	62.2	63.1	73.0	64.2	69.0	73.0	68.4

重要事業別ニ於ケル資金指數ハ*製糸業、*紡績業、*織物業、*組物織物業ニアリテハ女工、其他ノ事業ニアリテハ男工ニツキ作成セリ。
製糸業ニ限リ指數ノ基準ハ大正十五年三月ヨリ十一月ニ至ル九箇月分ノ平均ナリ。

一般工業

大正十五年基準 重要事業別指數(2)

年 月	染色整理業			* 組物編物業			機械製造業		
	労働人員	定額資金	實收資金	労働人員	定額資金	實收資金	労働人員	定額資金	實收資金
昭和三年 平均	102.8	100.4	98.1	80.8	94.6	96.2	106.7	99.2	103.6
四年	99.5	96.8	95.3	79.6	92.8	93.4	111.8	98.1	102.3
五年	86.4	96.3	91.6	75.4	88.8	83.5	107.0	96.3	94.9
六年	81.6	91.4	88.4	74.1	81.8	76.3	96.5	92.1	89.4
七年	80.7	88.2	86.4	72.4	77.3	73.3	100.7	89.1	96.3
昭和五年 一月	94.1	97.1	92.0	76.6	92.0	86.4	111.0	97.7	96.4
二月	92.2	98.2	92.7	76.1	92.5	90.3	110.6	97.7	100.5
三月	91.3	98.4	93.4	75.2	92.5	91.2	110.4	97.5	98.8
四月	90.4	98.3	91.6	76.7	90.7	87.9	109.6	96.6	96.2
五月	87.5	97.4	91.9	77.1	90.2	85.1	108.8	96.5	96.2
六月	83.3	97.6	89.7	76.1	89.0	84.4	108.1	96.2	95.2
七月	81.5	96.7	90.1	75.9	87.7	78.9	107.0	96.0	93.3
八月	83.4	95.3	91.1	75.1	87.4	77.4	105.3	96.0	91.7
九月	85.7	94.1	94.1	74.2	86.8	79.6	105.5	95.8	91.8
十月	83.3	93.9	92.2	74.1	86.5	80.6	104.2	95.7	91.5
十一月	82.2	94.2	89.4	73.8	85.1	79.2	102.4	95.6	92.3
十二月	81.2	94.0	90.7	73.7	85.0	80.5	100.6	95.1	94.3
昭和六年 一月	81.5	93.8	90.5	73.5	83.3	74.4	99.7	94.6	87.3
二月	81.9	93.3	92.1	74.1	82.6	77.5	99.0	94.4	90.0
三月	82.7	93.1	91.1	74.6	83.2	78.8	98.3	93.5	89.9
四月	81.7	92.7	89.2	75.5	81.9	78.3	98.1	93.1	89.2
五月	81.2	92.5	86.6	75.9	81.9	76.2	96.8	92.5	89.6
六月	80.5	91.6	86.5	75.8	81.2	74.0	96.0	92.0	89.7
七月	82.5	91.0	89.4	75.8	81.4	76.3	95.9	91.7	88.7
八月	85.2	90.3	90.5	74.5	81.3	74.9	95.4	91.5	88.2
九月	84.4	90.4	91.1	73.6	81.6	76.7	95.4	90.9	88.5
十月	80.5	89.2	85.4	73.2	81.3	77.0	95.0	90.6	88.9
十一月	78.7	89.5	84.2	72.2	81.4	75.4	94.3	90.2	90.3
十二月	77.8	89.1	84.4	70.1	80.8	76.5	93.8	90.4	92.9
昭和七年 一月	77.1	89.0	87.0	68.7	80.8	73.0	93.5	90.3	87.4
二月	77.6	89.6	87.3	69.0	80.7	76.2	94.0	89.9	93.5
三月	77.5	89.3	89.2	69.5	78.7	77.3	94.8	89.8	97.3
四月	78.5	89.2	86.6	71.4	77.7	75.1	96.5	89.3	94.4
五月	78.1	88.5	85.2	72.5	77.1	74.3	97.0	89.0	92.5
六月	78.1	88.6	86.9	73.4	76.6	71.7	98.2	88.7	92.4
七月	79.8	88.4	85.8	73.2	76.8	72.2	100.4	88.5	94.3
八月	83.2	87.6	85.9	73.7	76.9	70.2	101.8	89.0	93.3
九月	84.5	87.3	86.8	74.4	75.8	71.2	103.9	88.9	95.7
十月	84.2	87.2	85.6	74.3	75.3	71.6	106.4	88.8	100.9
十一月	84.7	86.4	84.8	74.2	75.2	72.7	109.3	88.5	103.5
十二月	85.4	86.6	86.0	74.3	75.6	74.7	112.6	88.3	110.9

重要事業別ニ於ケル賃金指數ハ * 製糸業、* 紡績業、* 織物業、* 組物編物業ニアリテハ女工、其他ノ事業ニアリテハ男工ニツキ作成セリ。

一般工業

大正十五年基準 重要事業別指數(3)

年 月	船舶製造業			車輛製造業			器具製造業		
	労働人員	定額資金	實收資金	労働人員	定額資金	實收資金	労働人員	定額資金	實收資金
昭和三年 平均	106.3	101.2	100.3	108.5	98.6	100.6	89.1	98.9	100.1
四年	113.5	100.9	101.6	108.7	97.0	96.6	92.2	98.2	97.4
五年	102.2	100.0	94.1	100.4	95.6	89.9	90.2	96.2	89.5
六年	78.1	95.4	86.6	85.8	90.3	85.0	84.8	92.8	86.1
七年	73.9	94.2	90.6	77.2	90.3	85.9	88.7	89.7	87.8
昭和五年 一月	111.1	101.3	96.0	105.3	97.0	91.7	91.1	97.6	91.8
二月	111.2	101.4	99.9	104.8	97.1	93.2	90.8	97.6	94.2
三月	111.1	101.0	100.5	103.2	96.7	93.8	91.0	97.8	93.4
四月	110.6	100.8	98.5	102.4	96.7	91.2	91.1	97.1	90.6
五月	108.4	101.0	96.7	101.7	95.6	90.0	91.1	96.8	89.3
六月	106.1	101.0	95.5	101.0	95.5	88.1	90.5	96.7	87.7
七月	103.2	100.5	92.9	100.8	94.9	88.4	90.2	95.9	88.8
八月	98.5	100.0	90.5	100.2	95.1	88.5	89.7	95.8	87.4
九月	97.6	99.2	91.8	99.3	94.8	87.2	89.7	95.1	87.8
十月	95.4	98.2	89.2	97.2	95.0	87.2	89.5	94.8	87.2
十一月	87.2	97.4	88.2	95.4	94.9	88.0	89.1	94.8	87.5
十二月	86.5	97.6	89.5	94.0	94.6	91.4	88.4	94.5	88.1
昭和六年 一月	83.8	97.2	85.5	93.2	92.5	83.6	87.5	93.9	83.9
二月	83.7	96.6	86.3	91.5	92.7	83.2	86.6	93.7	85.9
三月	83.0	96.3	89.0	90.8	92.8	84.5	86.0	93.2	88.0
四月	83.7	95.8	87.5	90.6	92.1	86.0	86.5	92.6	86.4
五月	81.1	95.7	85.8	90.3	90.3	86.7	84.3	93.0	86.4
六月	74.9	94.9	88.5	85.1	89.6	85.8	83.6	92.8	85.1
七月	74.7	94.7	85.4	83.6	89.8	85.0	83.5	93.0	84.2
八月	74.5	94.7	85.8	82.4	89.3	84.6	83.8	92.9	85.0
九月	74.8	94.6	85.2	81.6	88.6	83.7	83.8	92.5	84.9
十月	74.6	94.7	85.5	80.7	88.7	84.9	84.0	92.3	85.6
十一月	74.4	94.7	86.5	80.4	88.7	84.1	83.9	92.1	88.3
十二月	73.8	94.5	87.9	79.9	88.9	87.5	84.0	91.8	89.8
昭和七年 一月	73.7	94.7	88.9	78.0	90.9	86.9	84.1	91.8	85.6
二月	73.3	94.7	89.9	77.7	91.6	85.9	85.4	91.6	88.9
三月	74.0	94.5	92.4	77.4	91.1	86.5	86.4	91.3	90.6
四月	74.9	94.1	88.8	77.3	91.0	84.2	85.7	91.3	87.0
五月	75.0	94.1	89.5	77.0	90.9	83.3	86.8	90.7	84.6
六月	74.1	93.3	92.5	76.1	91.0	84.1	87.6	89.9	85.5
七月	73.3	93.7	87.2	75.8	89.9	85.1	87.7	89.7	84.7
八月	73.0	94.1	85.9	76.7	90.1	84.1	88.6	89.2	84.9
九月	73.0	94.8	87.4	76.9	89.7	84.8	90.2	88.3	86.7
十月	73.9	94.3	90.7	76.8	89.5	86.9	92.3	87.9	87.5
十一月	74.0	94.0	93.6	78.3	88.9	87.1	93.9	87.5	91.3
十二月	74.4	94.3	99.7	78.4	88.8	92.4	95.1	87.3	96.0

一般工業

大正十五年基準 重要事業別指數(4)

年 月	金屬品製造業			窯 業			製 紙 業		
	勞働人員	定額資金	實收資金	勞働人員	定額資金	實收資金	勞働人員	定額資金	實收資金
昭和三年 平均	103.8	101.3	103.5	91.7	99.8	100.6	93.1	100.1	102.4
四年	107.5	100.4	103.7	91.7	98.5	98.8	90.6	100.8	102.5
五年	101.1	97.8	97.6	82.4	95.0	91.9	82.2	98.3	101.7
六年	90.3	94.4	93.7	69.9	88.3	84.7	76.2	93.2	94.7
七年	89.8	91.2	94.2	66.1	86.2	82.8	71.9	92.1	90.4
昭和五年 一月	105.4	99.5	98.8	89.2	97.8	96.1	87.1	100.3	104.6
二月	105.0	99.2	101.7	88.7	97.5	96.1	86.9	99.9	102.7
三月	104.8	98.7	101.5	88.4	96.7	94.9	86.6	99.9	102.3
四月	104.8	98.2	100.4	87.5	96.2	94.4	85.8	99.7	101.8
五月	103.4	98.0	99.7	84.8	96.0	92.9	84.5	99.3	102.1
六月	102.4	98.0	99.0	83.6	95.3	92.6	82.0	99.3	101.7
七月	100.9	97.9	97.2	81.4	95.0	90.0	79.9	98.3	101.4
八月	99.6	97.5	95.7	80.3	94.7	90.1	79.2	98.3	101.7
九月	98.3	97.1	94.3	79.0	93.9	90.3	78.7	97.6	101.5
十月	97.5	96.6	94.4	77.2	92.7	90.2	78.7	96.4	100.7
十一月	96.2	96.5	93.3	75.6	92.1	88.8	78.1	96.0	100.2
十二月	94.4	96.0	94.5	73.7	91.8	86.1	78.1	95.0	99.6
昭和六年 一月	93.3	96.0	92.6	72.3	90.9	86.9	77.9	94.9	100.6
二月	92.4	95.8	94.1	71.8	90.2	85.7	77.4	94.3	96.7
三月	91.5	95.4	95.7	71.3	88.7	85.0	77.3	94.2	96.0
四月	91.2	95.1	94.7	71.4	88.0	84.1	77.0	94.1	95.5
五月	90.6	94.8	95.2	70.7	88.1	84.4	77.0	93.8	95.1
六月	90.5	94.3	94.1	70.4	88.1	84.3	77.0	93.4	94.8
七月	89.9	94.1	92.9	70.4	88.1	84.4	76.6	93.0	94.7
八月	89.8	93.8	91.9	69.3	87.7	83.9	76.3	92.6	94.8
九月	89.6	93.8	92.7	69.0	87.3	84.1	76.0	92.4	93.5
十月	89.3	93.4	93.7	68.4	87.3	84.4	74.4	92.4	92.2
十一月	88.4	93.3	93.7	67.9	87.3	84.4	74.2	91.9	91.8
十二月	87.5	93.1	93.7	66.4	87.3	84.8	73.7	91.6	91.0
昭和七年 一月	87.5	92.5	92.3	66.2	87.3	86.4	73.1	92.3	92.9
二月	88.3	92.4	94.6	65.9	87.1	85.7	72.5	92.1	90.6
三月	88.9	92.4	96.5	64.8	87.0	85.4	71.9	92.4	89.8
四月	88.7	92.0	93.7	65.4	86.4	81.1	72.0	92.1	90.1
五月	88.7	91.5	92.1	65.8	86.3	81.3	71.8	92.0	90.6
六月	88.6	91.1	91.9	65.9	86.1	81.2	71.4	92.3	90.1
七月	88.7	91.3	91.7	66.0	86.1	80.5	71.8	92.2	90.4
八月	89.3	91.0	91.2	66.0	86.2	80.1	71.6	92.3	90.7
九月	90.8	90.5	92.5	66.2	85.7	82.0	71.6	92.4	90.3
十月	92.0	90.1	95.3	66.7	85.7	81.9	71.5	92.1	90.0
十一月	92.7	89.7	98.3	67.0	85.4	83.2	71.5	91.5	90.6
十二月	93.6	89.6	100.8	67.3	85.6	84.8	71.7	91.3	89.0

一般工業

大正十五年基準 重要事業別指數(5)

年 月	製 藥 業			護 謨 製 品 業			人 造 肥 料 業		
	勞働人員	定額資金	實收資金	勞働人員	定額資金	實收資金	勞働人員	定額資金	實收資金
昭和三年 平均	100.4	101.6	100.7	107.5	98.2	103.4	88.4	102.9	101.1
四年	102.7	101.1	101.6	118.5	96.9	104.6	86.4	103.6	101.7
五年	98.0	100.3	97.7	117.1	95.7	96.5	87.0	102.5	101.3
六年	91.5	98.4	94.9	122.0	92.2	92.2	77.6	100.5	94.4
七年	91.6	95.8	91.3	132.4	88.1	88.3	72.5	99.4	94.9
昭和五年 一月	102.6	100.7	103.5	115.3	98.0	95.2	85.3	103.6	102.9
二月	102.2	101.0	102.2	115.9	97.7	98.2	84.9	103.5	101.8
三月	101.9	100.5	98.6	115.2	97.2	100.7	86.3	103.5	103.7
四月	101.7	100.8	99.0	117.0	96.0	100.0	87.9	103.3	103.9
五月	101.5	100.6	99.5	116.1	95.7	97.0	88.4	103.4	108.0
六月	97.3	100.3	96.6	114.1	95.5	94.4	88.8	103.2	104.3
七月	96.9	100.6	95.7	114.7	95.3	92.2	88.3	102.6	104.7
八月	97.0	100.6	95.3	117.3	94.9	94.7	87.9	101.8	101.7
九月	95.5	100.0	96.8	120.6	94.2	96.0	87.2	101.5	100.2
十月	93.5	99.4	95.3	122.8	95.0	97.1	88.3	101.1	95.0
十一月	92.8	99.4	95.9	118.6	94.3	96.1	85.8	101.3	95.1
十二月	92.6	99.6	93.8	117.6	94.2	96.7	84.9	100.9	94.7
昭和六年 一月	92.1	99.1	96.1	117.7	95.0	94.6	79.9	101.2	96.8
二月	92.5	99.0	95.6	118.6	94.8	93.4	79.2	101.1	96.1
三月	93.2	98.9	94.9	118.8	94.0	94.0	78.5	100.8	96.1
四月	92.7	98.5	94.9	119.3	93.8	92.9	78.6	100.6	94.1
五月	92.9	98.7	95.6	118.6	93.7	92.6	79.1	100.5	95.3
六月	92.7	98.5	94.0	119.3	92.8	93.5	78.7	100.6	97.2
七月	90.9	98.5	93.3	121.4	91.9	90.8	79.1	100.5	95.3
八月	90.4	98.4	95.5	124.3	91.2	90.2	76.3	100.3	92.2
九月	90.5	98.0	94.8	127.9	90.3	92.1	76.0	100.4	93.7
十月	89.8	97.7	94.6	127.2	89.7	92.4	75.8	100.5	91.5
十一月	89.6	97.7	95.4	126.6	89.5	91.1	75.7	100.3	93.3
十二月	90.2	97.5	94.1	124.4	89.3	88.5	74.0	99.6	91.7
昭和七年 一月	91.0	97.8	96.5	124.9	88.6	87.9	71.7	99.4	97.2
二月	91.9	97.5	97.1	127.0	89.2	92.5	71.2	99.2	94.7
三月	91.6	97.2	95.4	129.7	89.8	91.7	71.3	99.3	94.8
四月	92.4	96.8	93.6	127.6	89.7	88.0	72.9	98.9	92.3
五月	91.1	96.3	92.7	126.8	89.3	85.8	72.5	98.7	94.2
六月	90.3	95.5	88.7	126.2	89.4	87.5	73.0	99.7	96.0
七月	90.7	95.8	87.2	129.1	88.0	84.8	72.7	100.1	96.2
八月	90.4	94.7	87.5	133.2	87.8	83.8	72.4	99.9	95.1
九月	90.6	95.2	88.8	137.7	86.8	86.4	72.9	99.9	94.4
十月	91.8	94.9	89.0	140.5	86.3	89.2	72.7	99.5	93.6
十一月	93.0	94.4	90.1	142.0	86.0	89.6	73.2	99.3	94.8
十二月	94.2	94.3	88.8	144.0	85.8	92.9	73.5	98.6	95.0

一般工業

大正十五年基準

重要事業別指數(6)

年 月	飲食物工業			印刷製本業			製材家具工業		
	労働人員	定額資金	實收資金	労働人員	定額資金	實收資金	労働人員	定額資金	實收資金
昭和三年 平均	90.0	100.8	101.1	100.0	97.5	102.7	88.8	98.0	98.8
四年	90.7	100.6	101.7	100.5	95.7	99.5	89.4	98.1	96.5
五年	86.6	99.4	98.6	98.1	93.5	95.8	83.2	94.3	87.9
六年	79.8	96.0	94.5	94.3	88.8	92.8	75.7	85.1	78.9
七年	79.3	94.4	92.4	91.3	85.6	91.4	73.1	81.2	75.1
昭和五年 一月	90.2	100.8	104.4	99.6	94.9	96.0	86.6	98.4	90.4
二月	88.8	100.9	100.9	99.4	95.0	100.0	86.8	97.5	91.5
三月	87.7	101.0	100.6	99.2	94.7	97.0	87.1	97.8	91.1
四月	88.2	100.9	101.5	99.2	94.6	97.1	86.8	96.8	90.8
五月	87.7	100.7	100.7	98.7	94.6	94.3	86.1	95.9	89.5
六月	87.1	100.2	98.3	98.0	94.0	94.1	84.8	94.9	89.2
七月	87.4	98.9	98.0	97.9	93.7	93.1	82.9	94.5	87.0
八月	86.0	98.6	96.5	97.2	93.4	94.5	81.6	93.4	85.3
九月	84.7	98.1	95.9	97.2	92.4	95.0	79.8	92.5	87.0
十月	83.7	97.9	95.7	96.8	92.1	93.5	79.9	91.0	85.9
十一月	83.9	97.8	95.8	96.9	91.5	95.6	78.4	89.9	83.2
十二月	83.3	97.6	95.3	96.9	91.2	98.8	77.2	89.0	83.7
昭和六年 一月	82.7	97.0	99.8	95.6	90.7	92.1	75.9	88.1	77.1
二月	83.2	96.4	94.0	95.5	90.6	95.1	75.7	87.5	79.7
三月	81.4	96.1	94.0	95.4	89.9	95.1	76.8	86.5	82.3
四月	79.7	96.1	95.1	95.4	89.7	94.4	77.8	85.9	81.8
五月	79.1	95.9	95.2	95.0	89.0	91.5	77.8	85.8	81.7
六月	78.0	96.3	93.9	94.2	88.7	91.8	76.8	84.4	78.7
七月	78.9	96.3	94.2	94.0	88.6	89.9	75.8	84.5	78.3
八月	78.7	96.2	94.9	93.6	88.2	89.8	75.9	84.2	77.6
九月	78.8	96.0	93.2	93.0	87.9	91.6	75.3	84.0	77.5
十月	78.7	95.2	93.5	93.2	87.6	91.8	74.7	83.7	76.8
十一月	79.9	95.1	93.2	93.3	87.7	93.1	73.1	83.4	77.7
十二月	78.9	94.9	93.2	93.3	87.5	98.0	72.9	83.2	77.5
昭和七年 一月	79.4	94.6	95.4	92.5	87.3	93.2	72.4	82.5	75.3
二月	79.2	94.8	92.5	91.8	87.1	93.2	72.7	82.1	76.3
三月	78.3	94.7	91.4	91.3	86.9	92.7	73.3	82.2	76.4
四月	77.7	94.3	90.9	91.2	86.0	91.8	74.2	81.7	75.6
五月	77.6	94.2	91.5	91.2	85.5	88.5	74.0	81.4	76.4
六月	79.0	94.4	91.1	91.0	85.6	89.2	72.9	81.0	73.8
七月	79.0	94.5	92.7	90.6	85.6	87.9	73.4	81.2	73.1
八月	79.2	94.6	92.9	90.5	85.2	88.5	73.1	81.1	73.4
九月	79.5	94.5	92.2	90.9	85.0	91.2	72.7	80.7	74.8
十月	80.0	94.1	93.0	91.3	84.7	90.7	72.8	80.7	76.1
十一月	81.1	93.9	92.7	91.7	84.1	92.6	73.0	80.0	74.5
十二月	81.3	94.0	92.5	91.5	83.9	97.6	73.2	80.0	75.8

一般工業

大正十五年基準

地方別指數(1)

年 月	京			演			阪			神			名古屋		
	労働人員	定額資金	實收資金	労働人員	定額資金	實收資金	労働人員	定額資金	實收資金	労働人員	定額資金	實收資金	労働人員	定額資金	實收資金
昭和三年 平均	92.8	101.6	108.3	88.1	99.9	104.5	87.6	98.4	105.0						
四年	94.2	101.0	107.6	88.1	99.9	104.0	85.4	99.1	101.5						
五年	85.7	99.4	102.8	77.1	97.9	99.6	77.5	94.8	95.3						
六年	75.7	95.6	97.1	69.9	94.4	92.8	72.2	87.4	85.4						
七年	75.0	92.5	96.3	69.5	91.7	90.9	74.8	84.2	82.0						
昭和五年 一月	91.2	101.1	104.6	85.2	100.0	99.8	82.9	98.8	98.6						
二月	90.8	100.8	106.0	84.1	99.8	101.6	82.3	98.3	99.4						
三月	90.2	100.7	105.9	82.8	99.4	103.7	81.6	97.6	99.2						
四月	89.6	100.3	103.9	81.2	98.8	101.3	81.6	96.9	97.6						
五月	88.6	100.0	102.9	79.8	98.2	101.1	81.0	96.5	97.3						
六月	87.4	99.7	102.0	77.5	98.0	100.0	79.3	95.6	96.3						
七月	85.4	99.4	102.0	74.8	97.5	99.6	76.6	94.6	95.9						
八月	83.2	99.1	101.3	73.0	97.1	98.3	74.7	93.3	94.3						
九月	82.2	98.6	100.6	72.5	96.9	98.7	73.7	92.5	92.5						
十月	81.0	98.1	101.2	72.1	96.6	98.1	72.7	91.7	91.4						
十一月	80.0	97.7	101.1	71.4	96.6	96.4	72.0	91.6	90.0						
十二月	78.7	97.7	102.1	71.1	96.4	96.7	71.9	90.4	91.3						
昭和六年 一月	77.5	97.1	98.1	70.4	96.0	93.6	71.5	89.5	88.2						
二月	77.2	96.9	98.0	69.9	95.7	95.0	71.4	89.1	89.3						
三月	76.9	96.4	99.6	70.2	95.5	96.6	71.7	88.0	88.0						
四月	76.9	96.2	97.9	70.8	95.0	93.7	72.6	87.8	86.7						
五月	76.1	96.0	97.1	70.9	94.7	93.5	72.5	87.9	85.7						
六月	75.6	95.6	96.8	69.6	94.3	93.6	72.3	87.6	85.2						
七月	75.3	95.5	96.7	69.7	94.2	92.7	72.5	87.4	84.7						
八月	75.0	95.3	95.7	69.8	93.8	91.0	72.3	86.9	83.8						
九月	74.9	94.9	95.6	70.2	93.6	90.7	72.9	86.6	83.4						
十月	74.6	94.6	95.8	69.6	93.3	90.8	72.5	86.2	83.6						
十一月	74.2	94.5	96.4	69.2	93.2	90.5	72.2	85.8	83.0						
十二月	73.6	94.4	97.7	68.7	93.2	91.5	72.2	85.6	83.0						
昭和七年 一月	73.2	94.1	94.9	68.5	92.7	89.9	72.2	85.6	81.0						
二月	73.5	93.8	96.7	68.6	92.6	92.1	72.8	85.4	82.4						
三月	73.7	93.7	98.2	68.8	92.5	93.3	73.5	85.2	83.8						
四月	74.1	93.5	95.6	69.5	92.0	90.3	75.1	84.2	80.5						
五月	74.1	92.9	94.6	69.6	91.8	90.6	75.2	84.1	79.6						
六月	74.5	92.7	94.0	69.2	92.0	90.5	75.1	84.0	79.8						
七月	74.6	92.5	94.9	68.9	91.9	88.5	74.9	84.0	80.5						
八月	74.9	92.1	94.1	68.9	91.5	88.3	75.0	83.9	80.3						
九月	75.9	91.5	95.1	69.8	91.3	88.3	75.4	83.6	81.8						
十月	76.4	91.3	96.8	70.2	91.0	92.0	75.4	83.6	83.0						
十一月	77.1	91.0	97.9	70.6	90.5	92.4	76.0	83.3	83.8						
十二月	77.7	90.7	102.7	71.1	90.5	95.3	76.7	83.7	87.4						

地方別指數ノ計算ニハ製糸業ヲ含マス。

一般工業

大正十五年基準

地方別指數(2)

年 月	北九州			其 他		
	勞働人員	定額資金	實收資金	勞働人員	定額資金	實收資金
昭和三年 平均	96.1	103.7	105.9	92.0	98.5	103.3
四年 〃	97.8	102.6	104.5	94.7	97.9	102.2
五年 〃	91.6	101.0	100.3	86.3	94.3	95.8
六年 〃	81.7	98.1	95.3	79.1	88.4	86.3
七年 〃	78.7	96.4	91.5	80.0	84.8	82.2
昭和五年 一月	96.7	103.0	102.0	93.1	97.0	100.3
二月	95.6	102.6	102.4	92.1	96.8	100.0
三月	94.7	102.9	103.2	91.2	96.6	101.1
四月	94.2	102.1	100.8	90.7	95.9	97.9
五月	93.8	101.4	101.6	89.3	95.4	97.6
六月	93.5	101.3	101.3	87.5	94.9	95.8
七月	92.6	100.1	98.8	84.6	94.0	95.3
八月	91.2	99.7	98.5	82.9	93.3	95.4
九月	89.3	99.7	98.2	82.3	92.6	93.4
十月	87.3	99.8	99.2	81.6	92.3	91.6
十一月	86.5	99.8	97.9	80.1	91.9	90.9
十二月	84.2	99.4	99.4	79.7	91.5	90.4
昭和六年 一月	83.3	99.3	98.6	79.1	90.7	90.1
二月	83.4	98.8	98.2	78.9	90.0	89.0
三月	82.2	98.5	99.5	78.8	89.7	90.1
四月	81.9	98.1	95.7	79.8	89.1	87.9
五月	81.6	97.8	96.8	79.3	88.7	87.2
六月	81.6	98.0	95.0	79.1	88.3	86.8
七月	82.2	98.2	93.3	79.5	88.6	85.6
八月	81.5	98.2	92.5	79.5	88.4	84.7
九月	81.2	98.0	92.3	80.0	88.1	84.5
十月	81.4	97.8	93.9	79.3	86.8	83.0
十一月	80.4	97.4	94.0	78.4	86.4	83.4
十二月	79.4	97.5	93.8	77.6	86.1	83.0
昭和七年 一月	78.5	97.4	95.2	77.3	86.3	84.2
二月	78.9	97.3	95.6	77.3	86.0	83.7
三月	76.6	96.8	98.7	78.2	85.7	83.5
四月	77.2	96.6	90.3	79.8	85.1	81.5
五月	78.0	96.2	90.3	79.9	85.0	82.2
六月	78.0	96.6	89.0	79.6	84.8	81.7
七月	78.4	96.4	88.6	79.9	84.6	81.0
八月	78.8	96.8	86.5	80.4	84.4	80.6
九月	79.3	96.5	88.4	81.1	84.1	81.3
十月	79.8	95.6	89.4	81.3	84.2	82.3
十一月	80.4	95.8	91.1	82.0	83.9	81.3
十二月	81.1	95.3	94.6	82.7	83.9	83.4

政府事業

大正十五年基準

總指數及男女別指數

年 月	總 指 數			男			女		
	勞働人員	定額資金	實收資金	勞働人員	定額資金	實收資金	勞働人員	定額資金	實收資金
昭和三年 平均	98.8	103.6	106.6	100.8	103.0	105.7	92.3	104.5	103.7
四年 〃	98.5	104.2	108.0	101.5	102.7	106.7	89.0	105.9	105.3
五年 〃	97.3	105.1	107.6	101.1	102.9	106.0	85.1	108.0	105.3
六年 〃	89.2	105.5	104.3	92.7	103.4	102.3	78.1	109.4	106.3
七年 〃	86.7	104.9	112.8	91.1	103.1	110.0	72.7	109.0	109.1
昭和五年 一月	97.9	104.8	112.8	101.1	103.1	111.6	87.7	107.5	113.8
二月	97.9	104.8	110.2	101.1	103.0	108.7	87.6	107.0	104.1
三月	97.0	105.0	110.6	100.4	103.1	108.6	86.0	107.6	110.5
四月	97.8	104.9	109.0	101.3	102.8	107.1	86.4	107.7	106.8
五月	98.0	104.7	106.0	101.6	102.5	105.5	86.4	107.4	99.5
六月	97.8	105.3	105.5	101.5	102.9	103.9	85.7	108.4	99.7
七月	97.5	105.5	104.2	101.4	103.1	103.3	85.0	108.8	99.7
八月	97.2	105.2	103.6	101.2	102.9	102.0	84.4	108.3	99.7
九月	96.8	105.2	105.4	100.9	102.9	103.4	83.5	108.3	102.4
十月	96.7	105.2	106.4	100.8	102.8	105.1	83.3	108.2	105.2
十一月	96.5	105.2	109.4	100.8	102.8	107.1	82.9	108.1	108.5
十二月	96.2	105.5	108.6	100.6	103.3	105.4	82.3	108.7	113.6
昭和六年 一月	95.5	105.6	109.5	99.9	103.4	107.9	81.7	108.8	115.2
二月	95.3	105.5	105.6	99.6	103.3	103.1	81.3	108.7	105.6
三月	94.6	105.7	106.4	99.0	103.3	103.4	80.2	108.7	110.7
四月	88.0	105.4	105.3	90.8	103.1	102.6	79.2	109.5	107.8
五月	88.1	105.3	101.5	91.1	102.9	100.6	78.7	109.5	101.4
六月	87.9	105.7	100.9	90.9	103.4	99.2	78.4	109.9	101.5
七月	87.7	105.5	100.7	90.8	103.3	99.7	77.6	109.7	99.5
八月	87.4	105.3	100.9	90.6	103.2	99.2	77.0	109.7	100.1
九月	87.1	105.3	102.1	90.4	103.3	100.2	76.5	109.4	103.2
十月	86.8	105.6	102.3	90.2	103.6	100.6	76.0	109.5	104.2
十一月	86.6	105.5	107.3	90.0	103.6	104.3	75.6	109.4	110.1
十二月	85.7	105.9	109.8	89.0	104.0	106.5	75.0	110.0	116.5
昭和七年 一月	85.2	105.8	111.8	88.6	103.9	109.3	74.3	109.8	116.2
二月	85.9	105.5	112.8	89.6	103.6	110.2	74.0	109.5	107.5
三月	85.7	105.5	117.2	89.7	103.5	113.9	73.1	109.6	114.6
四月	85.5	104.8	113.5	89.4	103.1	110.4	73.0	109.3	112.9
五月	86.0	104.8	110.2	90.2	103.0	108.6	72.6	109.2	102.4
六月	86.2	104.9	108.4	90.5	103.1	105.8	72.6	109.3	104.7
七月	86.8	104.9	107.9	91.4	103.1	105.5	72.3	109.3	103.2
八月	87.2	104.8	106.8	92.0	103.1	104.4	72.0	109.0	102.6
九月	87.4	104.6	110.2	92.3	102.9	107.3	71.6	108.6	106.4
十月	87.7	104.5	113.8	92.6	102.9	111.0	71.9	108.5	108.4
十一月	88.5	104.0	118.4	93.4	102.4	115.0	72.7	107.5	112.9
十二月	88.8	104.2	122.4	94.0	102.6	118.7	72.5	107.8	117.3

政府事業

事業別指數(1)

大正十五年基準

年 月	*纖維及染色工業			機械及器具工業			化學工業		
	労働人員	定額資金	實收資金	労働人員	定額資金	實收資金	労働人員	定額資金	實收資金
昭和三年 平均	105.0	118.2	93.6	100.1	101.0	106.0	117.1	97.3	100.8
四年	101.0	131.9	93.9	100.9	101.4	107.1	120.6	97.8	99.1
五年	88.4	136.1	96.9	100.5	101.1	106.1	119.8	98.8	99.5
六年	86.3	136.5	95.0	91.2	101.0	101.9	115.5	99.6	97.8
七年	92.3	131.1	98.2	89.4	100.3	110.1	127.7	98.7	104.3
昭和五年 一月	94.1	135.0	94.8	100.7	101.3	111.7	120.1	99.5	104.4
二月	93.7	135.0	101.1	100.6	101.3	109.1	121.3	98.7	101.4
三月	91.1	135.4	97.1	99.9	101.3	108.5	116.3	98.3	102.0
四月	89.0	135.6	95.7	100.8	101.1	107.3	119.3	98.1	100.0
五月	88.2	135.6	94.3	101.1	100.9	106.4	119.6	98.2	96.3
六月	87.8	136.5	96.1	100.9	101.3	104.2	120.1	99.0	98.6
七月	87.4	136.5	97.9	100.9	101.4	103.9	120.2	98.8	95.3
八月	86.6	136.4	93.8	100.7	101.3	102.3	120.5	98.9	96.3
九月	85.9	136.7	98.2	100.4	101.2	103.5	119.3	99.2	97.0
十月	86.2	136.5	98.2	100.3	100.8	105.3	120.3	99.2	100.7
十一月	85.5	136.4	99.8	100.3	100.8	107.0	120.5	98.8	99.8
十二月	85.1	137.1	95.5	100.0	101.1	104.4	120.5	99.2	101.9
昭和六年 一月	84.3	137.4	98.7	99.3	101.2	107.4	118.4	99.5	102.8
二月	82.1	137.3	105.4	99.0	101.2	102.7	119.6	99.3	99.7
三月	86.6	133.5	101.3	98.6	101.2	102.6	112.6	99.7	98.6
四月	86.4	136.6	91.9	88.9	100.4	102.1	115.3	99.4	96.2
五月	86.2	136.9	92.5	89.4	100.4	100.8	111.8	99.9	96.8
六月	86.0	137.6	94.2	89.1	101.0	99.1	114.7	99.6	94.9
七月	87.4	137.7	95.5	89.0	100.9	100.0	113.8	99.5	92.9
八月	87.7	137.2	92.6	88.8	100.7	99.2	113.7	99.5	93.8
九月	87.7	137.2	94.6	88.6	100.8	99.9	116.3	99.7	95.7
十月	86.8	137.2	97.8	88.4	101.4	100.3	117.2	99.6	95.6
十一月	87.2	135.7	87.3	88.2	101.3	103.7	116.7	99.6	99.0
十二月	87.5	134.2	88.1	87.1	102.0	105.3	115.8	100.1	107.2
昭和七年 一月	87.5	134.3	98.1	86.7	101.6	109.0	115.4	100.2	101.7
二月	87.9	134.2	106.0	87.7	101.4	110.4	118.7	99.4	108.9
三月	87.3	134.2	103.2	87.7	101.1	114.0	125.1	98.5	107.8
四月	87.9	133.6	108.4	87.6	100.1	110.2	121.0	99.1	102.5
五月	87.5	133.6	98.4	88.6	99.9	109.8	120.8	99.4	98.4
六月	87.7	132.6	94.2	88.7	100.2	105.9	124.3	99.1	102.2
七月	87.0	132.7	99.3	89.7	100.1	105.7	127.6	98.8	103.5
八月	86.6	132.6	97.3	90.4	100.1	104.7	129.4	98.6	99.8
九月	85.4	132.6	101.6	90.7	99.9	107.4	130.9	98.5	103.1
十月	85.4	132.6	98.4	91.0	99.8	109.5	135.5	97.9	105.1
十一月	120.2	119.6	92.6	91.7	99.7	115.4	141.3	96.7	107.4
十二月	117.5	120.6	80.5	92.3	100.0	119.1	142.5	97.5	111.7

事業別ニ於ケル賃金指數ハ *纖維及染色工業、* 飲食物工業ニアリテハ女工、其他ノ事業ニアリテハ男工ニツキ作成セリ。

政府事業

事業別指數(2)

大正十五年基準

年 月	* 飲食物工業			雜工業		
	労働人員	定額資金	實收資金	労働人員	定額資金	實收資金
昭和三年 平均	92.4	102.1	102.6	100.3	105.8	108.9
四年	88.8	102.5	104.2	100.1	103.0	110.6
五年	85.4	103.3	104.1	98.7	104.0	111.8
六年	79.5	105.1	105.9	93.5	104.9	112.5
七年	72.7	106.8	108.0	92.8	104.7	114.0
昭和五年 一月	87.3	102.9	114.6	99.7	104.1	116.2
二月	87.2	102.9	101.9	99.9	104.0	112.1
三月	86.5	103.1	110.3	98.4	104.3	112.4
四月	86.7	103.1	105.7	99.5	103.9	112.5
五月	86.9	102.3	97.7	99.0	103.7	110.2
六月	86.1	102.6	97.7	99.8	104.2	109.6
七月	85.4	103.5	97.6	99.2	104.1	108.8
八月	84.9	103.5	97.6	98.6	103.9	108.5
九月	84.2	103.7	100.7	97.8	104.1	110.3
十月	83.8	104.2	103.0	97.8	103.8	112.0
十一月	83.3	104.0	107.4	97.8	104.0	114.9
十二月	82.9	104.2	115.0	97.3	104.3	114.3
昭和六年 一月	82.4	104.5	116.7	96.8	104.5	116.7
二月	82.0	104.5	104.3	96.7	104.3	113.3
三月	81.2	104.4	111.1	95.7	104.6	114.8
四月	80.6	104.9	107.6	94.5	104.8	114.9
五月	80.4	104.5	99.7	93.7	104.6	109.9
六月	79.8	104.7	99.8	93.6	105.3	110.1
七月	79.2	105.3	97.8	93.1	105.2	108.2
八月	78.7	105.4	99.2	92.4	105.0	109.2
九月	78.1	105.0	102.2	92.1	105.0	110.8
十月	77.6	105.7	103.5	91.4	104.9	110.7
十一月	77.1	105.7	110.3	91.1	104.8	114.4
十二月	76.6	106.0	118.4	90.7	105.4	117.1
昭和七年 一月	75.9	106.0	117.9	90.3	105.4	114.7
二月	75.6	105.4	104.3	90.2	104.7	115.9
三月	74.2	105.3	113.4	89.9	104.9	118.0
四月	73.5	106.3	113.4	92.7	105.1	116.2
五月	73.1	106.7	100.6	92.3	105.1	110.8
六月	72.7	106.8	102.6	93.6	104.4	111.1
七月	72.3	107.3	100.8	93.2	104.6	111.5
八月	71.9	107.4	101.2	92.8	104.7	110.5
九月	71.3	107.4	104.3	93.4	104.6	114.6
十月	71.0	107.7	106.0	94.1	104.3	112.8
十一月	70.7	107.2	112.5	95.6	103.8	115.9
十二月	70.4	107.4	118.9	95.9	104.1	116.2

鑛山業

總指數及男女別指數

大正十五年基準

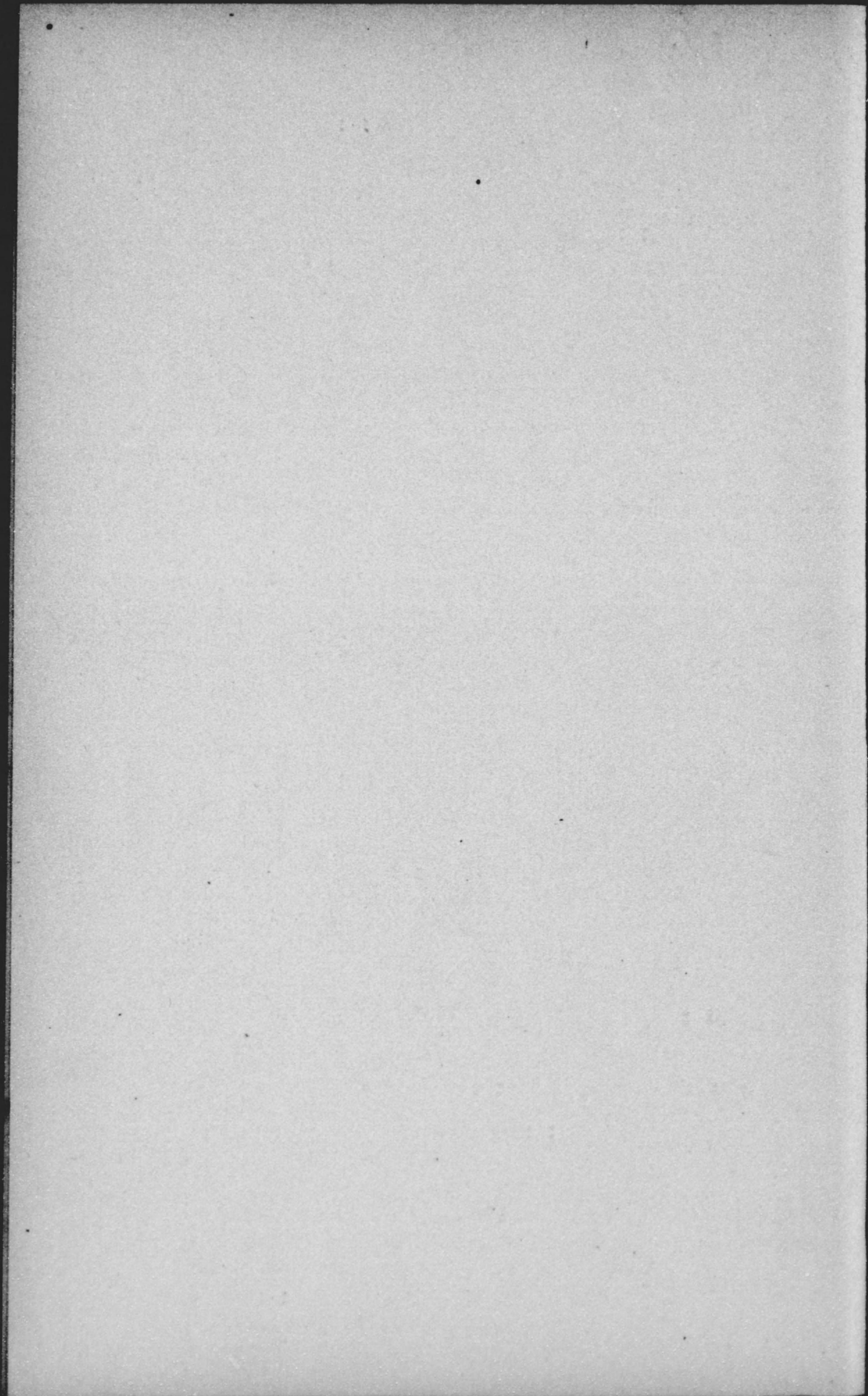
年 月	總 指 數			男			女		
	勞働人員	一工當リ	一人一日	勞働人員	一工當リ	一人一日	勞働人員	一工當リ	一人一日
昭和三年 平均	99.4	105.2	104.6	102.2	105.4	104.6	89.6	101.7	101.8
四年 ≪	95.4	105.4	105.1	100.1	105.4	104.9	79.0	99.3	99.5
五年 ≪	85.3	100.7	99.1	92.8	100.7	98.7	59.2	88.6	88.4
六年 ≪	65.7	91.6	88.5	75.0	91.3	87.7	33.1	68.9	68.2
七年 ≪	57.5	87.8	85.1	67.2	87.4	84.1	23.7	58.1	57.4
昭和五年 一 月	93.5	104.9	104.6	99.8	104.7	104.2	71.2	97.6	97.9
二 月	92.9	104.9	104.6	99.4	104.8	104.2	70.0	95.6	96.0
三 月	91.2	104.6	103.9	98.0	104.5	103.5	67.4	95.0	95.3
四 月	90.1	103.5	102.3	97.1	103.6	101.9	65.6	93.2	93.1
五 月	88.8	102.6	101.3	95.9	102.6	100.9	63.7	91.7	91.9
六 月	87.1	101.8	100.3	94.4	101.9	99.9	61.6	89.9	89.7
七 月	85.3	99.8	98.0	92.6	99.9	97.8	59.8	87.2	86.8
八 月	83.6	98.7	96.7	91.0	98.9	96.4	57.5	85.8	85.3
九 月	82.0	97.5	95.4	89.7	97.7	95.1	54.7	82.9	82.4
十 月	78.4	97.6	94.8	86.9	97.5	94.2	48.7	83.8	82.9
十一月	76.5	97.2	94.3	85.1	97.1	93.7	46.1	81.4	80.6
十二月	74.7	95.6	92.7	83.3	95.5	92.0	44.5	79.4	78.4
昭和六年 一 月	73.6	94.1	91.2	82.2	94.0	90.6	43.4	76.2	75.4
二 月	72.3	94.4	91.4	81.1	94.2	90.7	41.4	76.1	75.3
三 月	69.9	93.7	90.6	79.0	93.5	89.8	37.7	75.6	74.7
四 月	68.0	92.9	89.7	77.4	92.7	89.1	34.8	70.1	69.4
五 月	66.2	91.5	88.4	75.6	91.4	87.7	33.3	68.5	67.8
六 月	64.9	91.7	88.6	74.3	91.5	87.8	31.9	68.6	67.9
七 月	63.7	91.1	88.2	73.1	90.9	87.3	30.8	67.3	66.7
八 月	63.0	90.6	87.7	72.3	90.3	86.8	30.2	65.5	65.2
九 月	62.5	89.8	86.8	71.9	89.5	85.9	29.6	66.1	65.4
十 月	62.2	89.8	86.7	71.5	89.4	85.7	29.2	65.7	65.1
十一月	61.8	89.7	86.6	71.1	89.3	85.7	28.9	65.6	65.2
十二月	60.8	89.6	86.5	70.6	89.2	85.5	26.2	61.1	60.6
昭和七年 一 月	60.2	88.7	85.8	69.9	88.4	84.9	25.9	59.6	59.0
二 月	59.7	89.0	86.0	69.4	88.6	85.1	25.5	59.7	59.0
三 月	59.3	89.3	86.2	68.9	89.0	85.4	25.3	59.9	59.3
四 月	58.9	88.4	85.4	68.5	88.0	84.5	24.9	59.3	58.6
五 月	58.4	88.1	85.1	68.1	87.7	84.2	24.3	58.7	57.9
六 月	58.0	87.9	85.1	67.7	87.5	84.1	24.0	58.2	57.4
七 月	57.2	87.2	84.4	66.7	86.8	83.4	23.6	57.7	57.0
八 月	56.3	86.5	83.8	65.9	86.1	82.8	22.7	56.9	56.3
九 月	55.6	86.5	83.9	65.1	86.1	82.9	22.2	56.7	56.1
十 月	55.6	85.7	84.1	65.1	86.3	83.2	22.0	56.5	55.7
十一月	55.5	87.7	85.3	65.0	87.2	84.2	21.9	56.7	56.1
十二月	55.8	88.2	86.0	65.4	87.7	84.9	21.9	57.4	56.9

鑛山業

事業別指數

大正十五年基準

年 月	金屬鑛業			石炭鑛業			石油鑛業		
	勞働人員	一工當リ	一人一日	勞働人員	一工當リ	一人一日	勞働人員	一工當リ	一人一日
昭和三年 平均	98.5	102.8	102.5	100.0	106.2	105.3	83.4	101.8	101.3
四年 ≪	99.3	104.0	104.8	95.2	105.9	105.2	78.5	100.9	100.5
五年 ≪	96.2	102.5	100.5	83.9	100.2	98.2	66.1	99.5	98.5
六年 ≪	87.3	95.0	90.9	62.1	89.9	86.4	56.3	97.1	96.1
七年 ≪	84.9	90.2	86.6	52.7	86.1	82.8	53.9	96.9	96.2
昭和五年 一 月	98.4	104.8	105.4	93.2	104.8	104.0	69.5	102.4	102.9
二 月	98.3	105.1	105.7	92.5	104.8	104.1	69.3	101.0	100.5
三 月	98.1	105.3	105.0	90.6	104.5	103.4	68.9	100.0	99.7
四 月	98.0	103.9	102.5	89.3	103.7	102.0	68.9	98.2	96.8
五 月	97.6	103.3	101.6	87.8	102.4	100.8	67.9	102.5	102.6
六 月	96.3	103.2	101.1	86.0	101.6	99.8	67.0	98.7	97.3
七 月	96.2	101.9	99.6	83.9	99.4	97.3	66.9	99.5	97.8
八 月	96.0	101.6	98.9	81.8	98.0	95.6	67.2	100.7	99.7
九 月	95.1	101.0	97.8	80.0	96.6	94.2	66.2	98.7	97.2
十 月	94.6	99.9	96.6	75.8	96.7	93.3	65.9	99.4	97.6
十一月	93.5	100.1	96.2	73.9	96.2	93.0	65.9	96.6	94.5
十二月	92.3	99.2	95.0	72.0	94.4	91.1	65.8	96.2	94.9
昭和六年 一 月	92.0	97.1	93.0	70.7	92.9	89.6	65.8	99.5	99.6
二 月	89.5	97.0	93.1	69.6	93.2	89.7	65.8	97.9	97.3
三 月	88.2	96.9	92.6	66.9	92.4	88.8	65.9	97.6	96.6
四 月	87.3	96.7	92.6	64.7	91.4	87.8	65.4	96.2	94.7
五 月	87.2	95.8	91.6	62.7	89.7	86.1	65.6	99.2	99.6
六 月	86.8	97.0	92.7	61.2	89.5	86.0	65.6	95.8	94.6
七 月	86.9	96.1	92.1	59.7	88.9	85.6	65.5	96.1	94.9
八 月	86.6	95.8	92.0	58.9	88.1	84.7	65.3	96.9	96.2
九 月	86.5	92.5	88.6	58.4	88.2	84.7	65.5	95.7	94.2
十 月	86.1	91.9	87.7	58.0	88.3	84.8	64.9	96.9	94.9
十一月	85.5	91.7	87.5	57.7	88.2	84.7	64.4	96.8	94.9
十二月	84.5	91.3	86.7	56.6	88.2	84.8	64.9	96.6	95.2
昭和七年 一 月	84.3	90.3	86.3	56.0	87.3	84.0	64.6	99.0	98.9
二 月	84.3	90.6	86.3	55.4	87.6	84.1	64.4	97.8	97.0
三 月	84.0	90.5	86.0	55.0	88.2	84.8	64.3	96.9	95.6
四 月	84.1	90.4	86.5	54.4	86.8	83.4	64.2	96.4	94.9
五 月	83.6	90.3	86.3	54.0	86.4	82.9	63.9	100.7	102.3
六 月	84.2	90.4	86.7	53.4	86.2	82.8	63.7	95.7	94.6
七 月	84.9	89.7	86.5	52.3	85.3	81.9	63.3	96.3	95.3
八 月	85.1	90.0	86.5	51.2	84.2	80.8	63.3	96.9	96.5
九 月	85.4	89.8	86.7	50.2	84.3	81.0	63.8	95.6	94.5
十 月	86.1	89.2	85.9	50.1	84.9	81.6	63.6	96.2	94.9
十一月	86.3	90.2	87.3	49.9	85.7	82.6	63.8	95.8	94.5
十二月	86.8	90.7	88.0	50.2	86.2	83.4	64.0	96.1	95.1



定 A
450

昭和九年五月

昭和八年
勞働統計概說
(第十二回)

日本銀行調查局

政立
務處
印

10. 3. 定 A
450

凡 例

一本統計ハ職工並ニ鑛夫ノ數及賃金ノ増減ヲ調査シ以テ事業界ノ概況ヲ觀察スル
ノ一資料タラシメントスルモノナリ。

一本調査ノ範圍ハ内地ニ於ケル官營工場及職工三十人以上ヲ使用スル民營工場ノ
職工數並ニ鑛山ノ鑛夫數ノ凡ソ八割ヲ占ム。

一調査項目タル人員及賃金ハ左ノ三者ニ就キ毎月大正十五年ヲ基準トスル指數ヲ
以テ表示ス。

(イ) 勞働人員 各工場又ハ鑛山ノ月末ニ於ケル勞働人員總數。

(ロ) 定額賃金 工場ニ就テハ各工場ノ月末平均定額日給ヲ合計シ之ヲ工場數ニテ
除シタル日給額又鑛山ニ就テハ各鑛山ノ月中賃金支拂高ヲ合計シ之ヲ各鑛山
ノ延工數即チ一定單位時間ノ勞働ヲ一工トセルモノ、合計ヲ以テ除シタル所
謂一工當リ賃金。

(ハ) 實收賃金 工場ニ就テモ鑛山ニ就テモ各工場又ハ鑛山ノ月中賃金支拂高ヲ夫夫合計シ之ヲ各工場又ハ鑛山ノ日々出勤セシ人員ノ一箇月中ノ合計ヲ以テ夫夫除シタル日額又ハ所謂一人一日當リ賃金。

目次

第一 一般工業概況	一頁
第二 事業別概況	四
製糸業—紡績業—織物業—染色整理業—組物編物業	
機械製造業—船舶製造業—車輛製造業—器具製造業—金屬品製造業	
窯業—製紙業—製藥業—護謨製品業—人造肥料業	
飲食物工業—印刷製本業—製材家具工業—其他ノ事業	
第三 地方別概況	四〇
京濱地方—阪神地方—名古屋地方—北九州地方—其他ノ地方	
第四 男女別指數推移ノ概要	四八
第五 鑛山業概況	五〇
金屬鑛業—石炭鑛業—石油鑛業	
第六 政府事業概況	五八
附	
日誌	六二
勞働人員及勞働賃金指數表	

昭和八年

勞働統計概說 (第十二回)

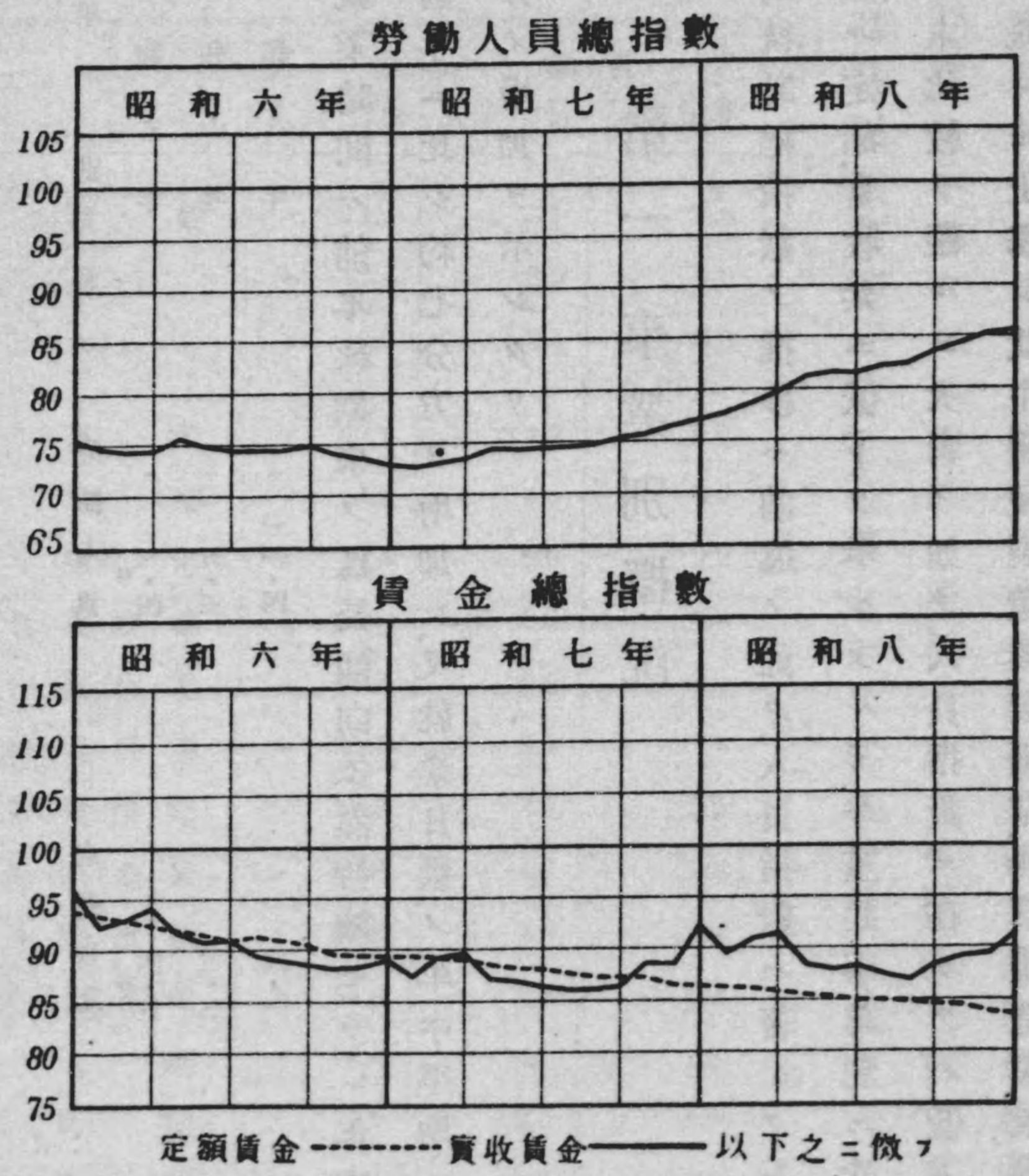
第一 一般工業概況

昭和七年下季以降爲替相場ノ低落加重ニ因リ、我輸出貿易ハ著シク促進セラレタル一方軍需品及時局匡救關係工業ヲ中心トスル一部事業界モ好調ヲ呈シ、尙通貨増發氣構ニヨル思惑取引ノ擡頭ヲモ見ルニ至リタルカ、更年後ハ熱河事件、國際聯盟脫退通告、米國ノ金融恐慌、印度ノ關稅引上等環境ノ惡化ニ稍反動的沈衰ノ狀ヲ現ハシ殊ニ米國ニ於ケル金本位ノ離脫ト其後各種經濟政策ノ實行トハ我經濟界ニ不尠影響ヲ與フル所アリタリ、然レトモ此間對外爲替ハ對米爲替カ下季昂騰ヲ示シタルヲ除キ、對英爲替ヲ首メ概ネ低位ニ安定ヲ保チタルヲ以テ、生産費ノ低廉ト相俟チテ我輸出貿易ハ依然好調ヲ持續シ、海外ノ情勢概ネ不況ナリシノミナラス、國際經濟會議ハ豫期ノ成果ヲ收ムルニ至ラスシテ世界的ニ所謂ブロツク經濟ノ色彩愈濃厚ヲ加ヘ、各國ノ壓迫益加重セラレタルニ拘ラス我商品ハ着々南洋、南米、阿弗利加等ノ方面

ニ新販路ヲ開拓シ、綿織物、人絹織物、罐詰食料品、メリヤス製品、其他一般雜貨類等ノ輸出ハ前年ニ比シ更ニ顯著ナル増進ヲ告ケタリ、而シテ所謂非常時豫算ノ實行ニ依ル軍需品ノ需要増加、時局匡救事業ノ進捗等ニ伴ビ、關係工業モ亦前年ニ引續キ一段ノ繁忙ヲ呈シタルヲ以テ、之等ヲ中心トシテ事業界ハ概ネ順調ナル推移ヲ辿リ、操短ノ緩和、生産設備ノ擴張ヲナス者現ハレ、又低金利ノ出現ニ因リテ業績改善セルモノ増加セリ。

右ノ如ク昭和八年中ノ事業界ハ大體ニ於テ好勢ヲ示現シタルヲ以テ之ヲ勞働統計ニ徴スルモ、人員指數ハ更年後騰勢ヲ續ケ二月以降三箇月間ノ如キハ季節關係旁逐月顯著ナル上昇ヲ見、四月ニハ八一・一ト臺替リヲ演シタルノミナラス、五月以降夏枯季ニ入りテモ猶微弱ナカラ騰勢ヲ續ケ、八月ニ於ケル八二・三ヨリ十一月ニハ八五・二ト奔騰シ、約三年振リニ昭和五年央ノ指數ヲ上廻ルニ至リ、年末八五・八ト前年末ニ比シ八・八ポイントノ激騰ヲ示シタリ、次ニ賃金指數ヲ觀ルニ、定額賃金ハ逐月低下ノ一途ヲ辿リ年末八三・九ト前年末ニ比シ二・七ポイントノ低下ヲ見タリ、右ハ新規雇入者ニ對シ依然低賃率ノ支給ヲ免レサリシ結果トミルヘク、之ヲ前年中ニ於ケル低下ト比較センカ、其落勢稍緩和ノ傾向ナキニ非サルモ生産費低減上ノ效果尠カラサ

總 指 數



ポイントノ高位ヲ保チ業界情勢ノ好況ヲ反映セリ。

リシハ想察ニ難カラサル所ナリ、尙前年末異常ノ昂騰ヲ告ケタル實收賃金ハ、本年ニ入り季節的騰落アリタル裡ニモ大勢軟調ヲ辿リ、殊ニ一月及四月ニ於テ反落顯著ナルニ至リ、八月ニハ八七・〇ト年中ノ最低ヲ示シタルカ、九月以降ハ上騰歩調ニ轉シ、年末指數ハ九一・六ト前年末ニ比シ〇・五ポイントノ微落ヲ告ケタルモ年中平均ニ於テハ前年ニ比シ猶一・一

今參考ノ爲最近三箇年末ニ於ケル各指數ノ對前年末騰落割合ヲ表示スレハ左ノ如シ。

年 別	勞働人員	定額賃金	實收賃金
昭和六年	- 三・四%	- 四・五%	- 六・八%
昭和七年	+ 五・三%	- 三・三%	+ 三・三%
昭和八年	+ 一一・四%	- 三・一%	- 〇・五%

尙就業時間ハ前年秋期來ノ延長傾向依然持續セラレ、年中平均ハ九時間四五分トナリ前年ニ比シ約七分方ヲ増加シ、又就業日數ノ年中平均ハ二六・八日ニシテ前年同様幾分ノ増加ヲ示シタリ。

第二 事業別概況

勞働統計總指數ノ推移ハ前述ノ如ク、人員指數ハ著シク上昇ヲ告ケタルニ反シ賃金指數ハ定額、實收共ニ低下ヲ示シタルカ、今重要事業別ニ就イテ昭和八年末各指數ノ前年末比較ヲ觀ルニ次表ノ如ク、人員指數ニ在リテハ低下セルモノ皆無ニシテ各業種共孰レモ上騰シ就中機械製造業、製藥業、器具製造業、船舶製造業、車輛製造業ハ顯著ナル上昇ヲ告ケタリ、他方定額賃金指數ハ人造肥料業ニ於テ微騰ヲ見、又窯

業ニ於テ保合ヒヲ示シタル外孰レモ低下シ、殊ニ機械製造業、製糸業、紡績業、器具製造業ノ低落稍目立チタルカ、實收賃金指數亦船舶製造業、製紙業、車輛製造業、人造肥料業ニ於テ昂騰ヲ示シタルモ爾餘ノ業種ハ孰レモ低落シ、別ケテ製藥業、機械製造業、護謄製品業、器具製造業等ニ於テ其著シキヲ見タリ。

昭和八年中勞働人員及賃金指數騰落割合

	勞働人員指數	定額賃金指數	實收賃金指數
總指數	+ 11.4%	- 3.1%	- 0.5%
男	+ 13.4%	- 2.9%	- 1.0%
女	+ 9.2%	- 3.4%	- 3.0%
製糸業	+ 20.1%	- 4.9%	- 0.5%
紡績業	+ 4.0%	- 4.8%	- 3.0%
織物業	+ 5.4%	- 2.6%	- 3.2%
染色整理業	+ 11.8%	- 2.2%	- 2.8%
組物編物業	+ 14.8%	- 0.9%	- 4.0%
機械製造業	+ 35.9%	- 5.4%	- 7.4%
船舶製造業	+ 17.3%	- 3.4%	+ 3.2%
車輛製造業	+ 16.8%	- 4.7%	+ 2.8%
器具製造業	+ 22.6%	- 4.8%	- 5.4%
金屬品製造業	+ 14.6%	- 2.8%	- 3.1%
窯業	+ 14.4%	0.	- 1.9%
製紙業	+ 9.9%	- 2.0%	+ 2.9%
製藥業	+ 23.4%	- 2.9%	- 12.3%
護謄製品業	+ 2.2%	- 4.2%	- 6.1%
人造肥料業	+ 7.4%	+ 0.1%	+ 0.4%
飲食物工業	+ 4.7%	- 1.3%	- 0.2%
印刷製本業	+ 3.3%	- 1.9%	- 3.3%
製材家具工業	+ 1.9%	- 4.8%	- 2.5%

備考 總指數及男女別指數ノ計算ニハ製糸業ヲ含マス

前年十月頃ヨリ米國財界ノ惡化ニ伴ヒ不振ノ情勢ヲ迎レル絹業界ハ年初來生糸ノ賣行一段ノ惡化ヲ告ケタル爲メ、相場モ一月末ニハ紐育現物ノ如キ前年六月ノ安値ヲ下廻ハリ、更ニ三月ニ及ンテハ米國金融恐慌ニ依ル紐育市場休會ノ爲メ本邦市場亦休場ノ餘儀ナキニ至リ内地相場モ海外實勢ノ悲觀ニ急落シテ紐育相場ヨリ下鞘ヲ示セリ、然レトモ春繭仕入期ニ際シテハ米國ニ於テインフレーション政策期待ニ依リ諸商品急騰セルニ伴ヒ生糸亦買氣熾烈ヲ加ヘテ相場ハ騰勢ニ轉シ、六月ニハ一昨年末以來ノ高値ヲ示現シ、内地相場モ之ニ追隨、一時千九十圓ト三月中ノ安値六百三十圓ヨリ四百六十圓高ヲ呈シ、端境期品薄ノ折柄現物ノ如キ殆ント奪ヒ合ヒノ活況ヲ告ケ製糸家採算モ相應有利ナルヲ見受ケタリ、尤モ米國財界ハ漫然タル景氣回復期待ノ反動ト世界經濟會議ノ不調等ニ下季以降思惑熱ノ銷沈甚シク、殊ニ生糸ハ人絹ノ壓迫加重、産業復興法實施ニ關スル絹業罷工ノ勃發等ノ惡材料ニ圍繞セラレテ需要著シク減退シ、九月中ニ於ケル日本生糸消費高ハ二萬九千俵ト大正十三年來ノ最低記録ヲ現出シ在荷モ八萬四百俵ト稀有ノ増嵩ヲ見、内地亦夏秋蠶ノ増産豫想ニ先行供給過剩懸念濃厚ヲ加フルニ及ヒ、相場ハ落調漸ク甚シク十一月ニハ遂ニ

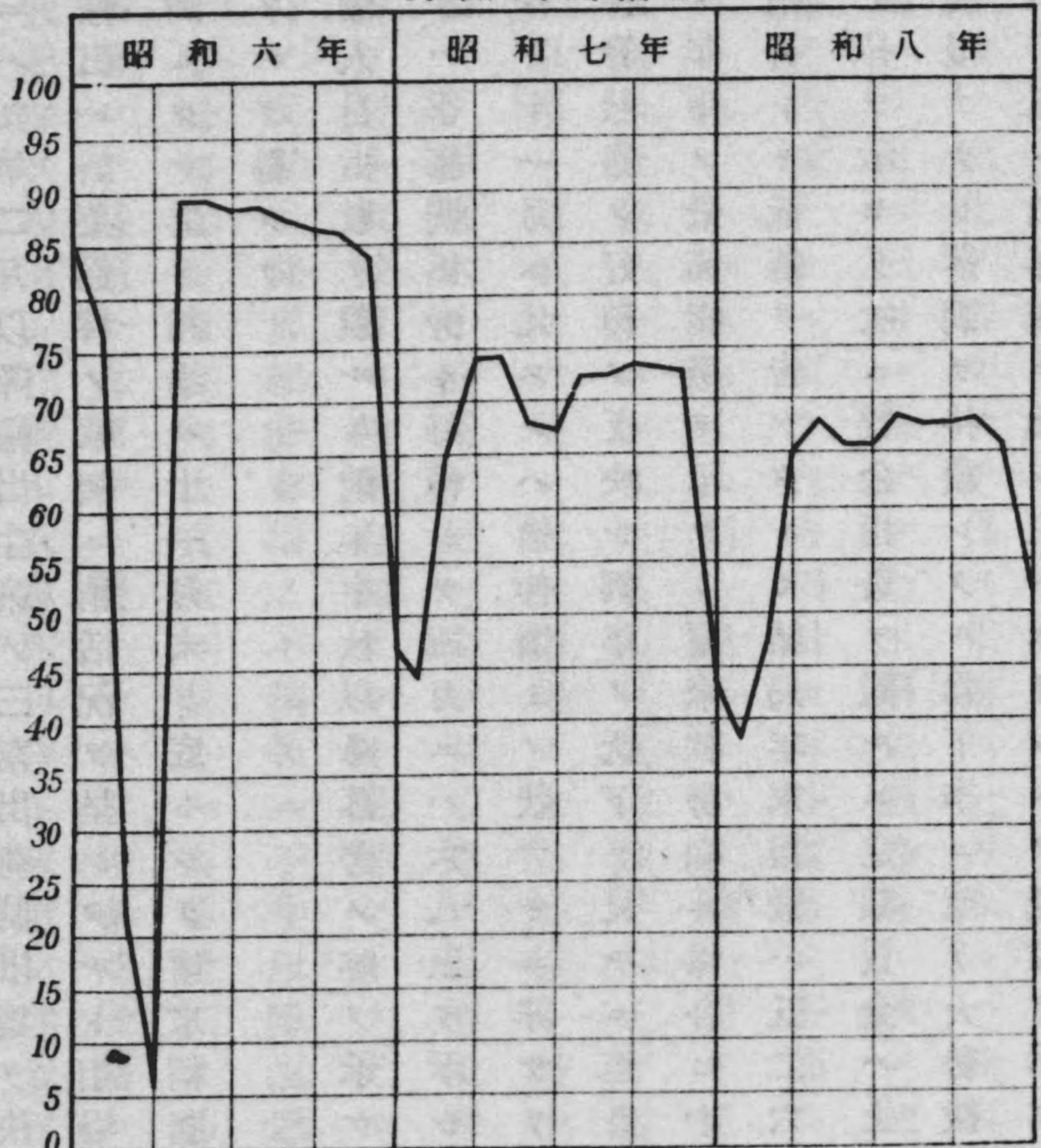
五百圓臺ニ陥ルノ餘儀ナキニ至レリ、斯クテ製糸家ノ採算難旁々操短問題ノ擡頭ヲ見、年末ニハ九年二月以降輸出生糸ノ三割出荷制限案ヲ決議スルニ至リタルカ、他方歐洲向輸出ハ對英爲替ノ軟調ニ稍活況ヲ呈シタルト相場安ニ依ル國用生糸ノ需要旺盛ヲ加ヘタル爲メ相場ハ十一月末ヲ底トシテ爾來稍騰勢ニ轉シ、年末五百六十圓ト恢復スルヲ得タリ。

今勞働人員指數ヲ觀ルニ、前年中秋以降落勢ノ跡ヲ承ケ一月三八・三ト低下シ、次テ二月ヨリハ季節關係旁々好轉シテ四月ニハ六八・三ヲ示シタリ、尤モ之ヲ前年夏挽閉止期前タル十一月ニ比スレハ猶伸惱ミノ狀ナキニ非サリシカ其後端境期ニ及ンテ製糸家採算狀態ノ好轉ヲ反映シ例年ノ低下ヲ見ルニ至ラス、七月ニハ更ニ上昇シテ六八・六ト年中ノ最高指數ヲ示セリ、爾來軟勢裡ニ保合ヒ十一月ニハ内外需給關係ノ惡化ニ稍著シキ低落ヲ告ケタルカ結局年末指數ハ五二・六ト前年末ニ比シ八・八ポイントノ上昇ヲ示セリ、次ニ賃金指數ヲ觀ルニ定額賃金ハ上季ニ於テ低給者ノ雇入増加旁々緩漫ナカラ落調ヲ持續シタル爲、下季ニ至リ大勢微騰傾向ニ轉シタルモ年末指數ハ六〇・五ト前年末ニ比シ三・一ポイントノ低位ヲ示セリ、尤モ之ヲ前年中ノ低下四六ニ比スレハ其落勢稍緩和セラレタルモノト云フヘク又實收賃金ニ在リテハ、春

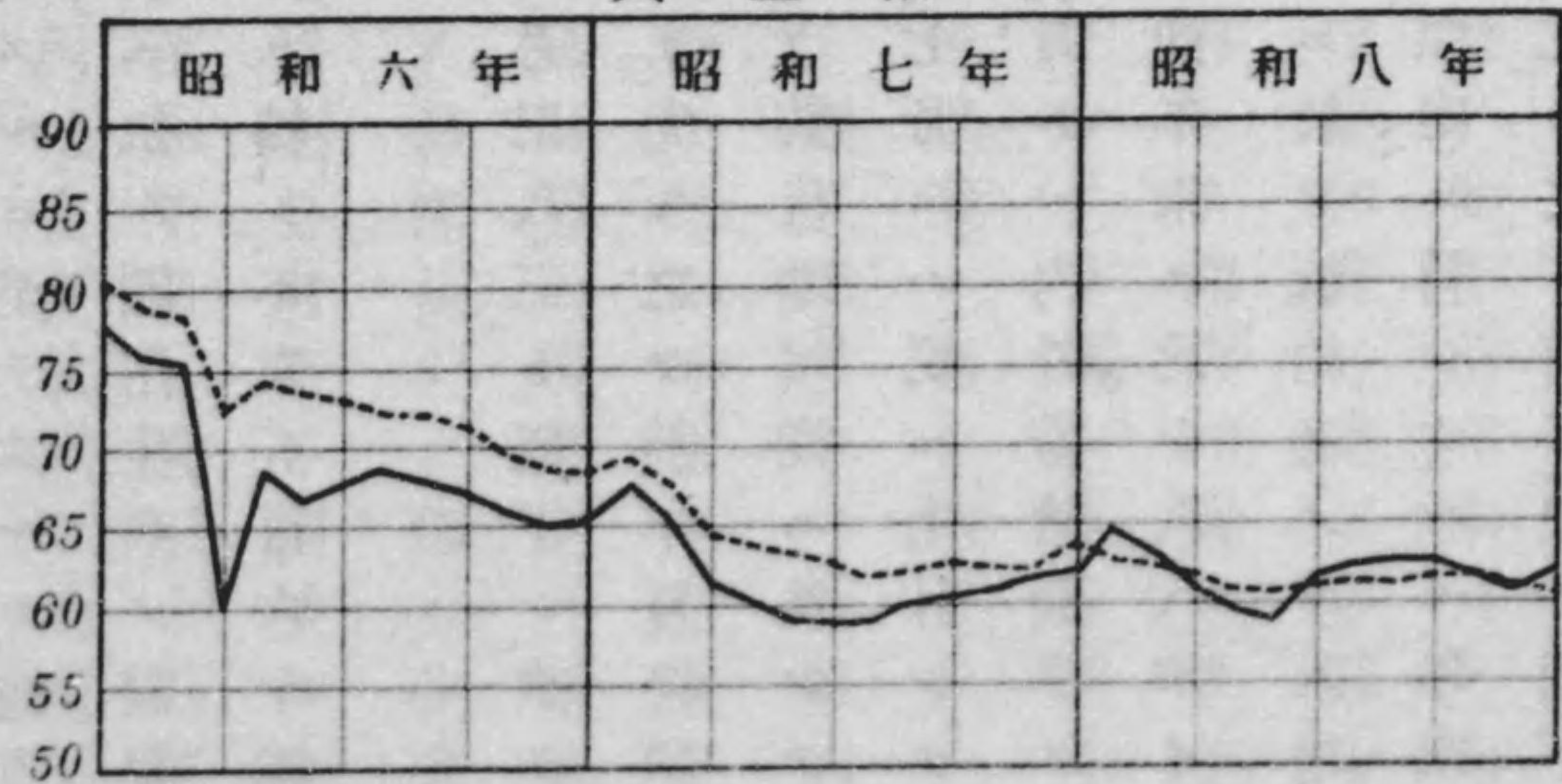
季例年ニ於ケル低下趨勢ヲ辿リ、六月以降三箇月間ハ内外相場昂騰ノ影響ヲ受ケ漸

製糸業

労働人員指數



賃金指數



騰歩調ヲ持續シタルカ其後反落シ、年末指數ハ六一・九ト前年末ニ比シ〇・三ポイント

ノ微落ヲ見タリ。

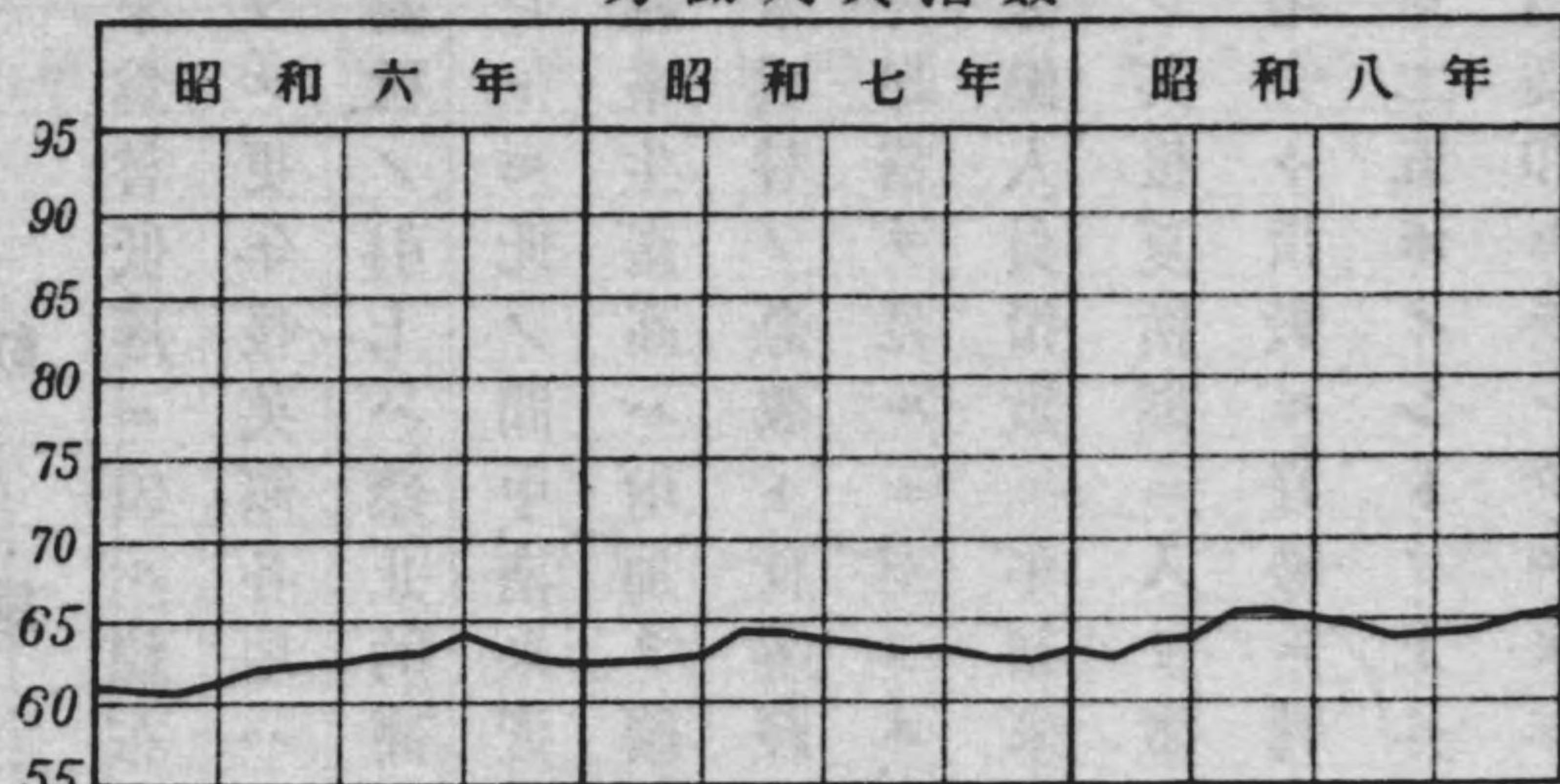
紡績業

前年來爲替低落ニ因ル綿布輸出ノ異常ナル伸展ハ英國綿業界ノ不安ヲ激化スル所尠カラス、更年後英領各地ハ相踵テ關稅引上等貿易阻害ノ舉ニ出テタルカ、殊ニ六月印度關稅ノ引上ハ禁止の高率ナリシ爲メ同國向綿布ノ輸出ハ甚シキ打撃ヲ受ケタリ、然レトモ此ノ間中、南米、近東方面ニ於テ着々新販路ヲ開拓シ結局輸出ノ増進ヲ見、從テ綿糸生産高ハ増加ヲ續ケ相場モ下季以降概ネ強調ヲ呈シタルカ、他方原棉相場ハ對米爲替ノ急騰ト世界經濟會議ノ不調竝ニ米棉增收發表等ノ事情ニ内地着値ハ著シキ昂騰ヲ見ルニ至ラス、勢ヒ採算好轉シ收益ノ増進ヲ齎ラスニ至レリ。

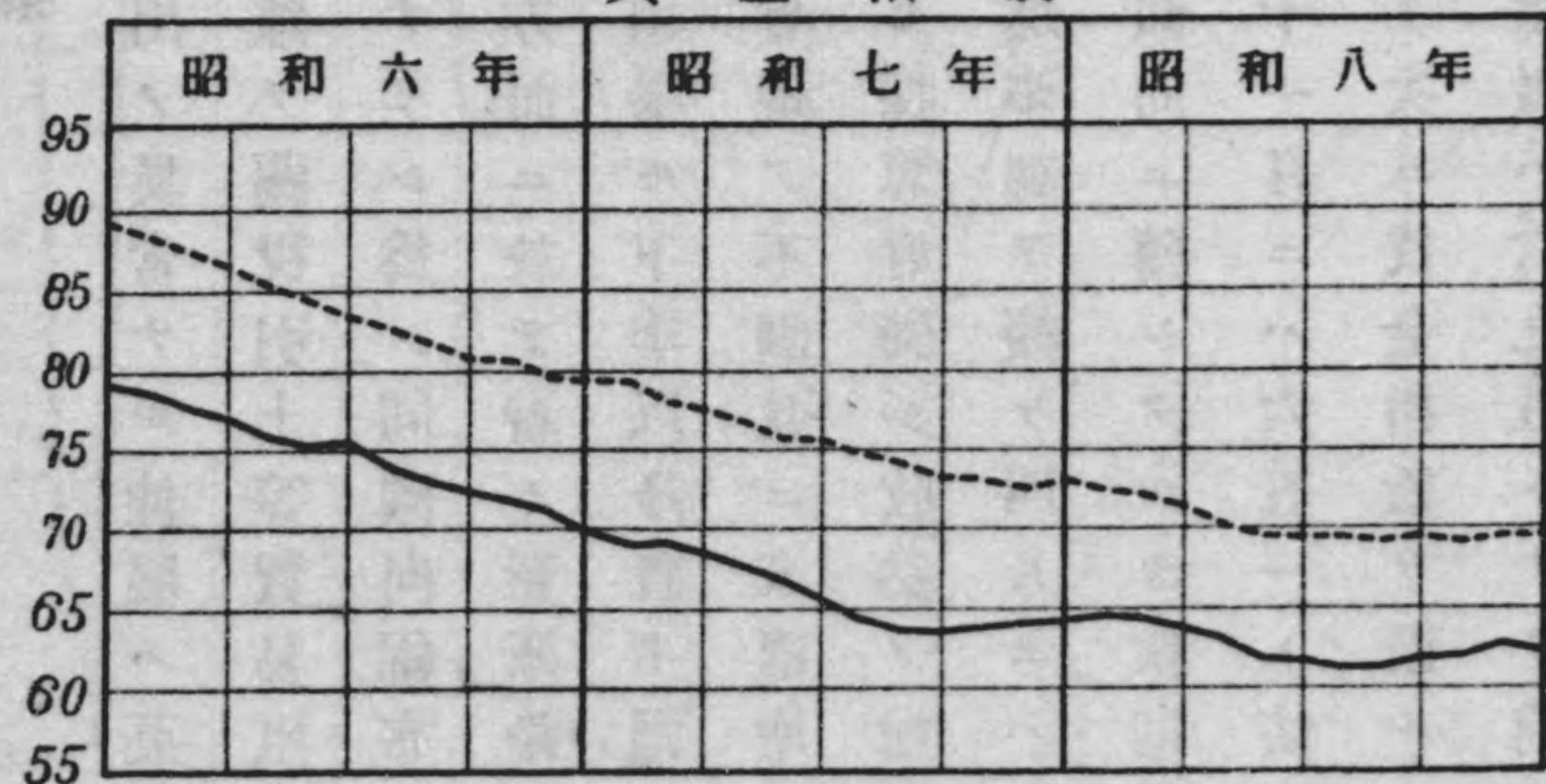
從テ労働人員指數モ年初來上進歩調ヲ續ケ、四月ニハ六五・六ト昭和五年以降ノ高位ヲ示シ、其後夏枯期ニ入り微落傾向ニ轉シタルカ、秋期以來綿糸相場ノ昂騰ト生産高ノ激増旁々指數モ好勢ニ轉シ、十一月ニハ六五・一ト恢復、年末指數ハ六五・六ト前年末ニ比シ二・五ポイントト上昇セリ、次ニ賃金指數ヲ觀ルニ定額賃金ハ七月以降從來ノ落勢稍緩和セラレタルモ年末指數ハ六九・五トナリ前年末ニ比シ三・五ポイントト

紡績業

労働人員指數



賃金指數



一〇
 稍大幅ノ低下ヲ示セリ、尤モ右ハ新規雇入者ニ對スル賃率ノ低下ニ基クモノト見ルヘク、自然實收賃金モ年初小康ノ後ヲ承ケ季節關係ニ七月六一〇ト從來ノ最低記録ヲ現出スルニ至リタルカ、其後作業ノ繁忙旁々漸騰歩調ニ轉シ年末ニハ六二・三ト前年末ニ比シ一・九ポイントノ低下ニ止リタリ。

織物業

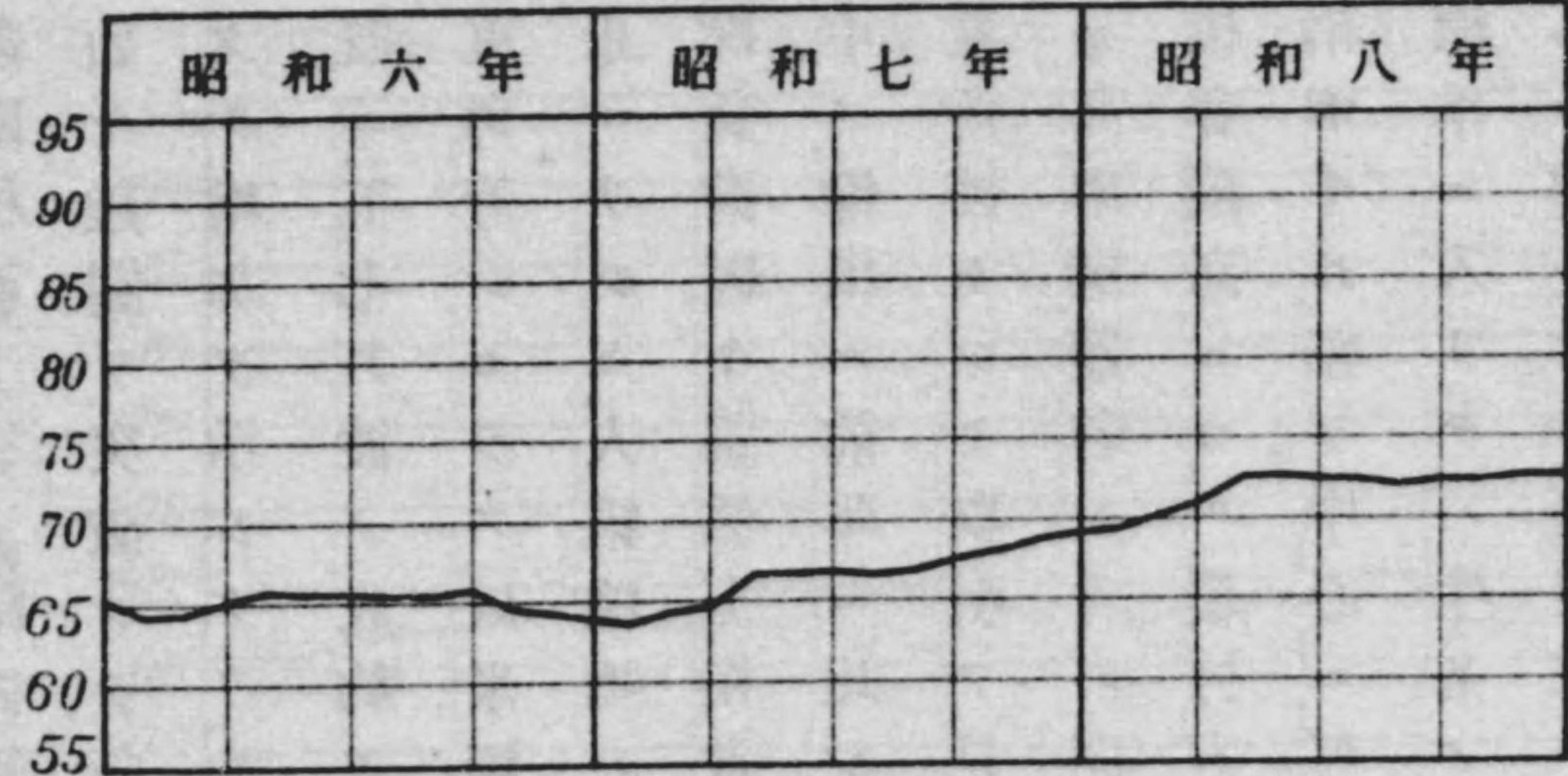
前年來好轉ヲ見タル輸出向織物ハ本年ニ入り更ニ一段ノ好況ヲ呈シタルカ、内地

向織物ハ情勢未タ不味ヲ免レサリシ模様ナリ、即チ輸出ニ於テハ年初來各國ニ於ケル輸入制限、關稅引上等ノ障礙簇出シ、綿布生地物ハ不振ヲ免レサリシモ、加工綿布ハ克ク右ノ如キ難關ヲ突破シテ新市場ヘノ進出著シク、殊ニポプリン、更紗等ノ輸出ハ稍目立チタル増加ヲ示シタリ、絹織物ハ年初來爲替安旁々手合多ク、富士絹、絹紬ノ如キ二月中既ニ五、七月渡ノ成約アル有様ナリシカ、其後ハ生糸相場ノ變動等ニ累セラレテ商談兎角芳シカラス、只米國、印度向朱子、歐洲、埃及向羽二重、縮緬等ノ賣行概ネ順調ナルニ止マリシカ、人絹織物ハ三月以降印度ノ高率關稅賦課ニ拘ラス高級品ニ對シテハ關稅負擔輕キ關係上相當ノ引合アリ、其他ノ方面ニ於テモ相場安旁々進出益著シク、年中ノ輸出ハ前年ニ比シ三割方ノ激増ヲ示スニ至レリ、然レトモ内地向織物ハ年初來兎角抄々シキ取引ヲ見ルニ至ラス、相場モ亦軟調ヲ呈シ產地機業家中ニハ採算惡化ニ高率操短若シクハ同盟休機ヲ斷行セル者アリ、春物取引ハ總シテ不振ヲ免レス、其後春繭高ニヨル農村方面ノ買崩シ等ニ夏物取引ハ幾分好轉ノ氣配アリ、モスリン、人絹ポイル類ヲ中心ニ可ナリノ手合アリテ比較的無難ナル經過ヲ辿リタルモ、冬物製織季ニ入りテハ生糸ノ落勢加重ト人絹、絹紡糸ノ軟調ニ再ヒ不振ヲ免レス、相場モ漸落歩調ヲ示シ、機業家中採算難ニ陥リテ輸出向織物ニ轉機スル向漸ク多キヲ見受ケタリ。

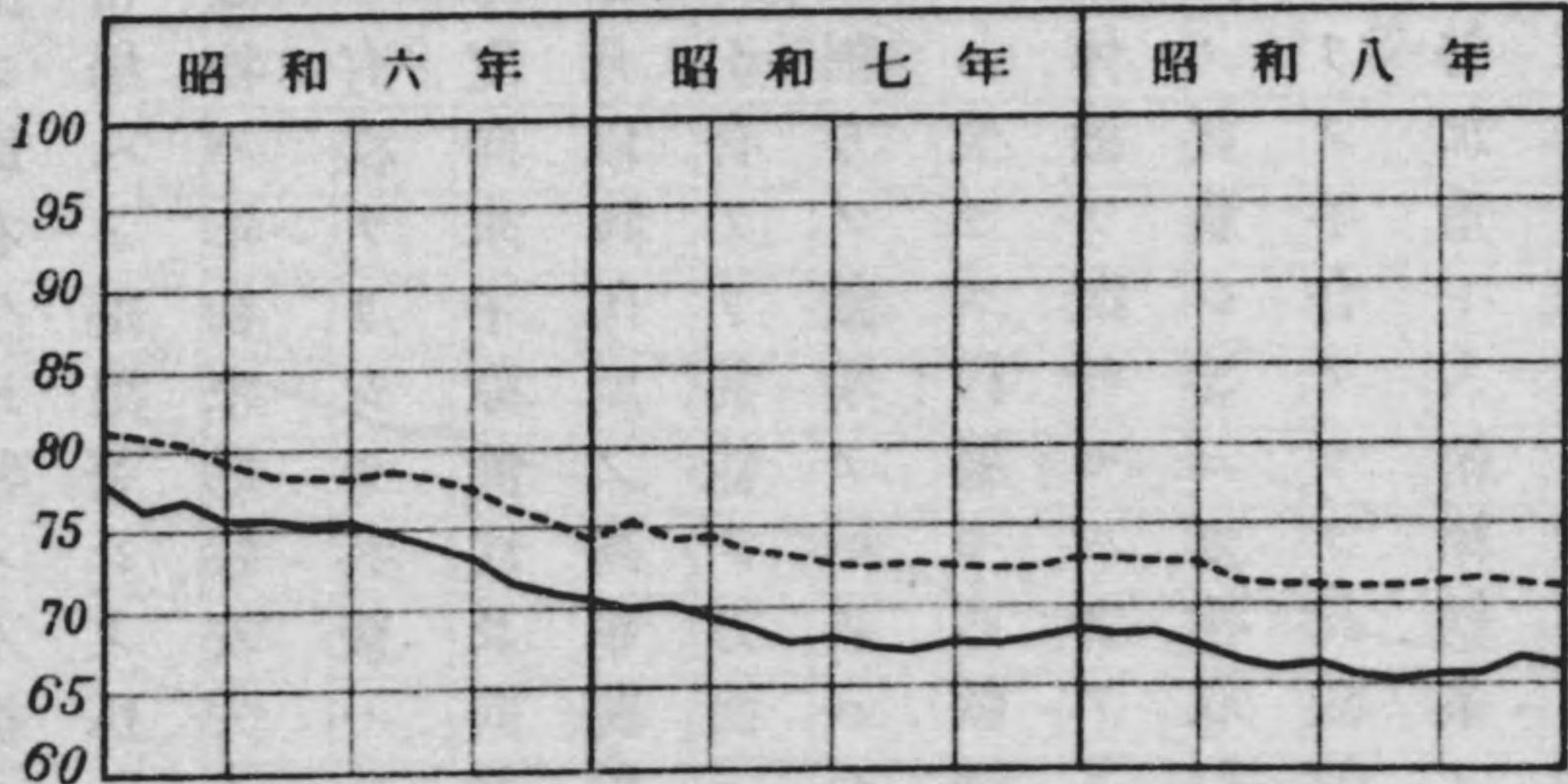
今労働人員指數ノ推移ヲ觀ルニ、前記ノ如ク輸出方面ノ情勢概シテ好調ヲ告ケタ

織物業

労働人員指數



賃金指數



大勢落調ヲ續ケ年末七一・二ト前年末ニ比シ一九ポイントノ低下ヲ示シ、實收賃金亦

八月迄ハ大體軟勢ヲ革メス九月及十一月ニ於ケル幾分ノ上騰ニ拘ラス年末指數ハ六六・二ト前年末ニ比シ二・二ポイントノ低落ヲ告ケタリ。

染色整理業

綿布、人絹織物ヲ首メ一般輸出向織物ハ何レモ増産ヲ告ケ大體順調ナル經過ヲ辿リタルヲ以テ斯界モ之ニ隨伴シテ通年好調ヲ呈シタルカ、最近輸出向綿布中生地物ニ代リ加工物増加ノ傾向益顯著ヲ加へ、全輸出數量中加工綿布ハソノ大半ヲ占ムルニ至リタルト、高級人絹織物ノ進出ハ斯界ノ好調ニ寄與スル所尠カラサリシ模様ナリ。

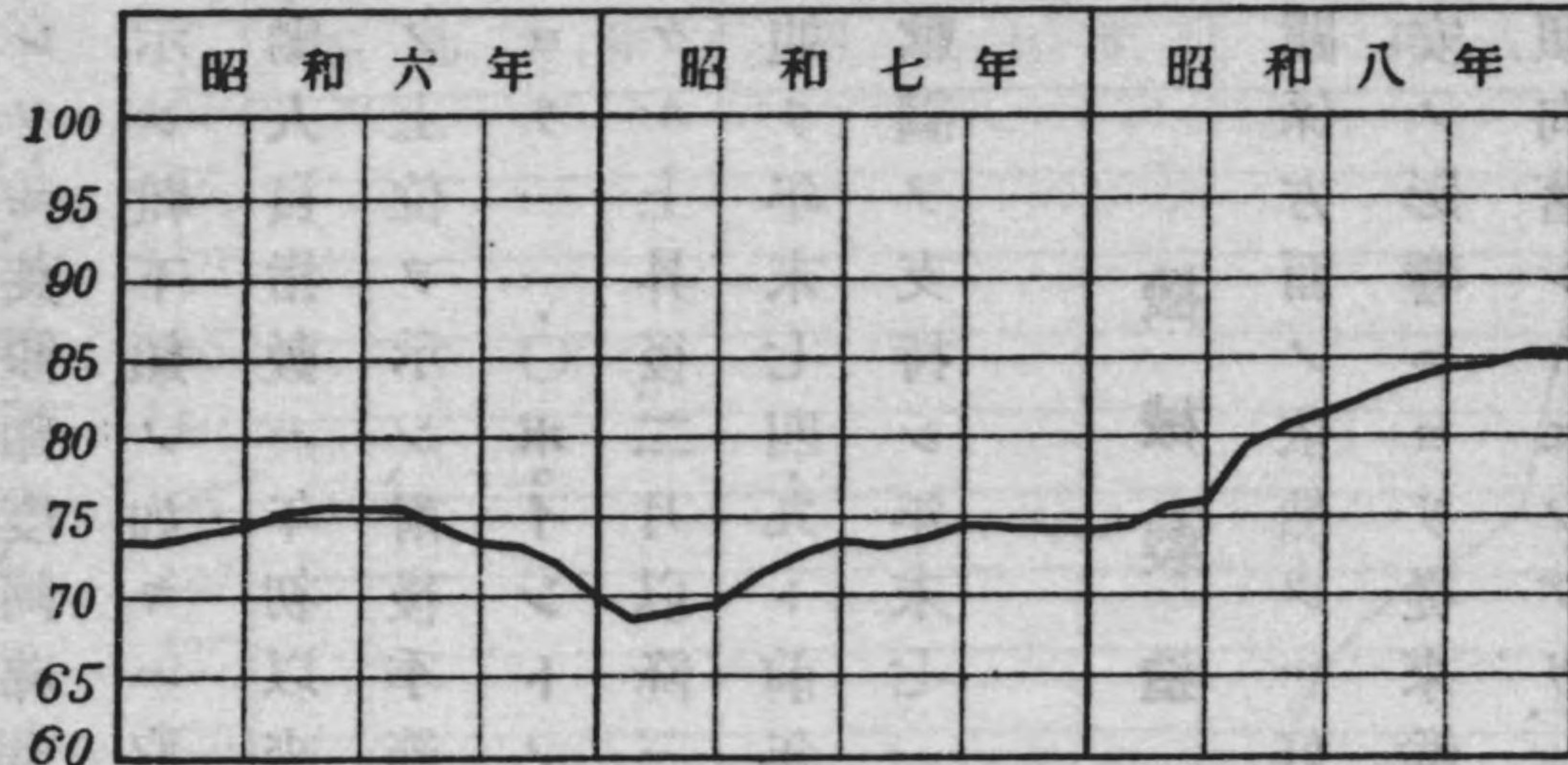
今參考ノ爲過去三年間ニ於ケル生地綿布ト加工綿布ノ輸出數量ヲ對比スレハ次ノ如シ。

計	昭和六年		昭和七年		昭和八年	
	數量	百分比	數量	百分比	數量	百分比
生地綿布	五五九、八八六	四〇	七四八、九一八	三七	六〇九、七三二	二九
加工綿布	二八九、九九三	一三	三五九、五九二	一七	四六三、六八九	二二
合計	六六二、一九二	四七	一一〇八、四一〇	四六	一、〇七三、四二一	四九
前年比	一、四二二、〇七一		二、〇三二、七一九		二、〇八八、三八二	

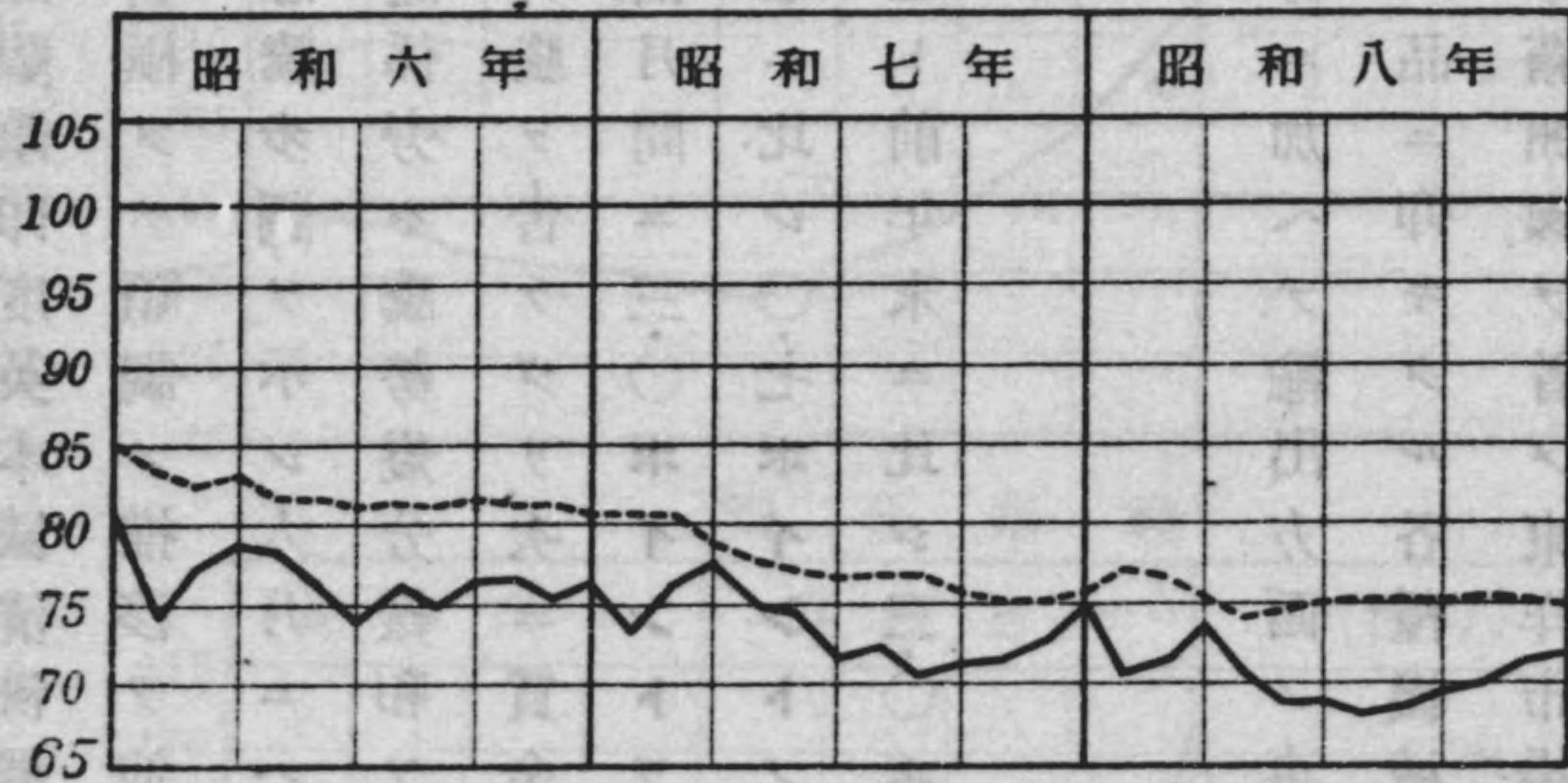
(大日本紡績聯合會調査ニ據ル)

組物編物業

労働人員指數



賃金指數



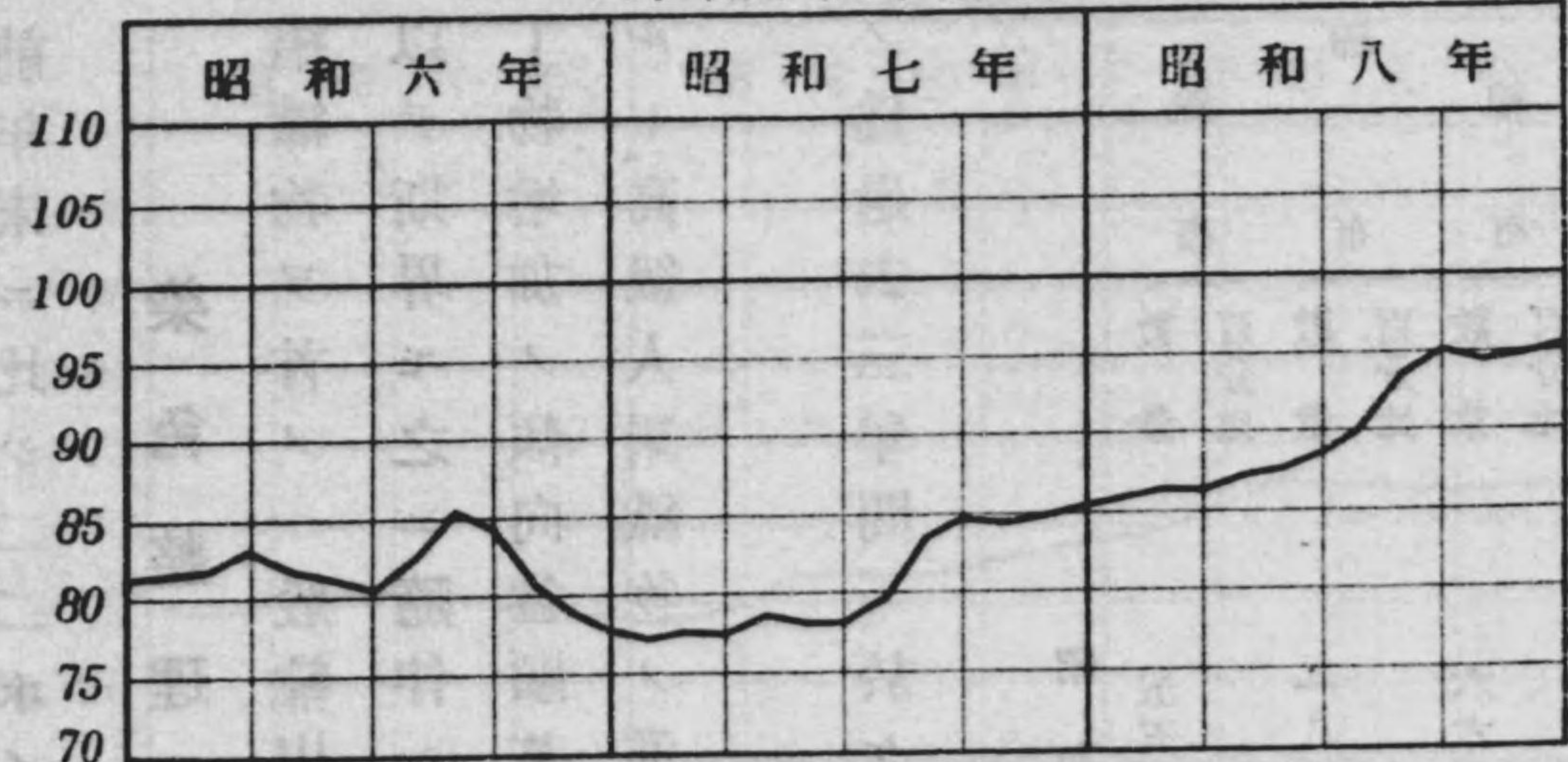
前年來小康ヲ得タルメリヤス界ハ爲替安ノ影響ヲ受ケテ輸出方面ノ好勢持續セ

組物編物業

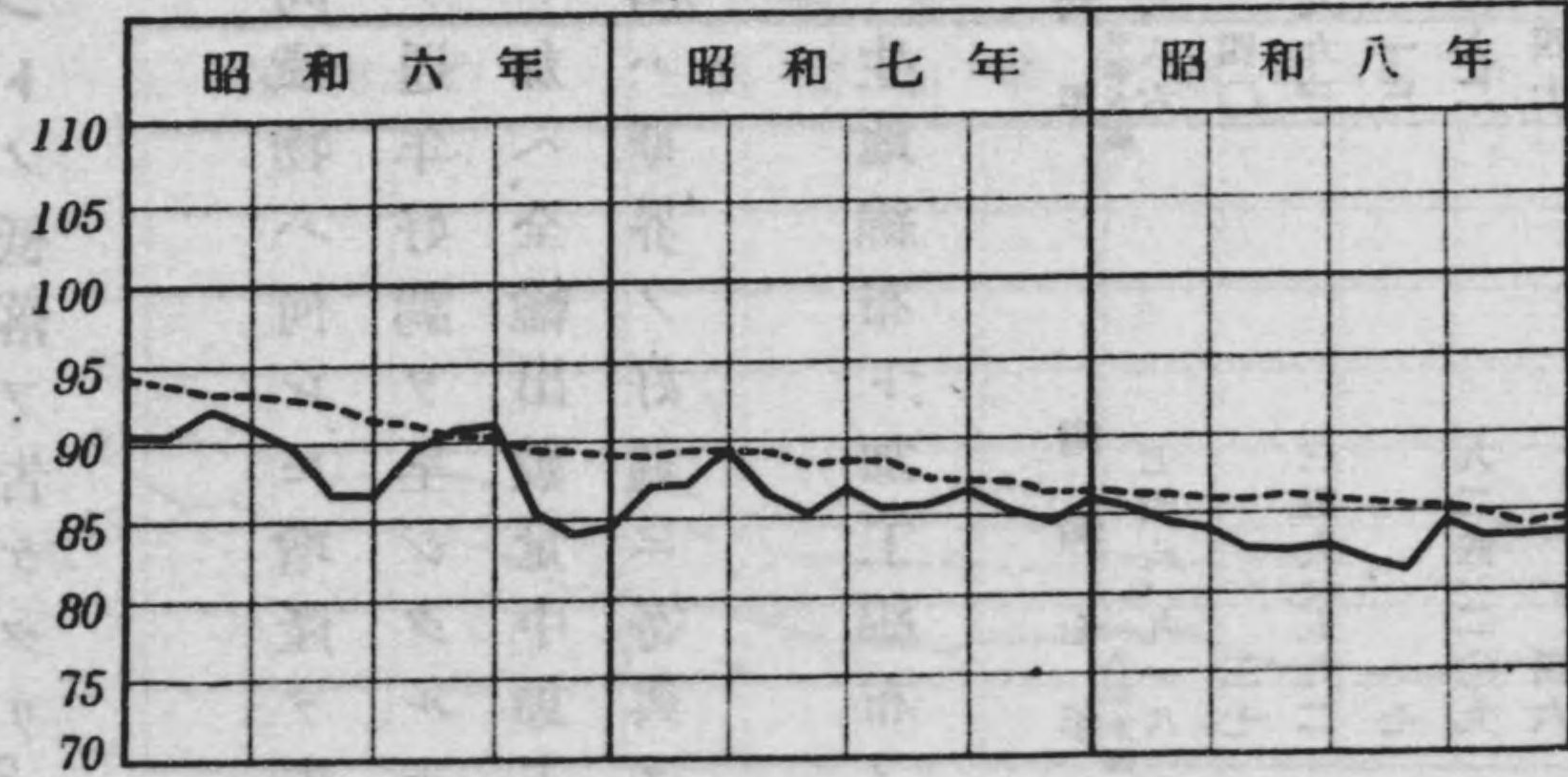
ルニ加ヘ内地向亦概ネ
順調ヲ辿リ市況一段ト
活況ヲ呈シタリ、即チ内
地向ハ初冬温暖ナリシ
爲メ需要最盛期ニ直面
シテ一時却テ賣行停頓
ノ狀ナキニ非サリシモ
一般財界ノ好調旁々通
年シテ之ヲ見レハ取引
好勢ヲ支持シ、輸出方面
亦海外諸國ノ關稅引上、
輸入制限等ニ依リ本邦
製品ノ進出ハ不尠阻害

染色整理業

労働人員指數



賃金指數



四ポイントノ低落ヲ告ケタリ。

從テ労働人員指數ハ三月及十月ニ於ケル微落ヲ除キ各月共上昇傾向著シク七月

ニハ九〇・一トナリ、更ニ
年末九五・五ト前年末ニ
比シ一〇・一ポイントノ
高位ヲ占ムルニ至レリ、
然ルニ賃金指數ヲ觀ル
ニ定額賃金ハ依然落調
ヲ免レス年末ニ至リ微
騰シ八四・七ヲ示セルモ
之ヲ前年末ニ比スレハ
一・九ポイントノ低下ト
ナリ、實收賃金亦同様ノ
低下傾向ヲ辿リ年末八
三・六ト前年末ニ比シ二・

セラレタレトモ、英領印度、阿弗利加、蘭領印度、英本國、滿洲國等ノ各方面ノ需要ハ漸増ノ傾向ヲ示シ靴下類ノ如キハ取引極メテ順調ノ推移ヲ辿リタリ。

從テ勞働人員指數ハ年初以來急騰歩調ヲ示シ六月ニハ八一・八ト前年末ヨリ七五ポイントノ上位ヲ示シ、爾後季節關係旁々騰勢幾分緩和ヲ免レサリシモ年末八五・三ト前年末ヨリ一〇・〇ポイントノ奔騰ヲ告ケタリ、次ニ賃金指數ヲ觀ルニ定額賃金ハ一月ニ於ケル上昇後、二月以降三箇月間ニ三〇・〇ポイントヲ低下シタルカ爾後大體上昇傾向ヲ辿リ年末七四・九ト前年末ニ比シ〇・七ポイントノ微落ニ止マレリ、又實收賃金ハ大勢軟調ヲ支持シ年末七一・七ト前年末ニ比シ三〇・〇ポイントノ低下ヲ示セリ。

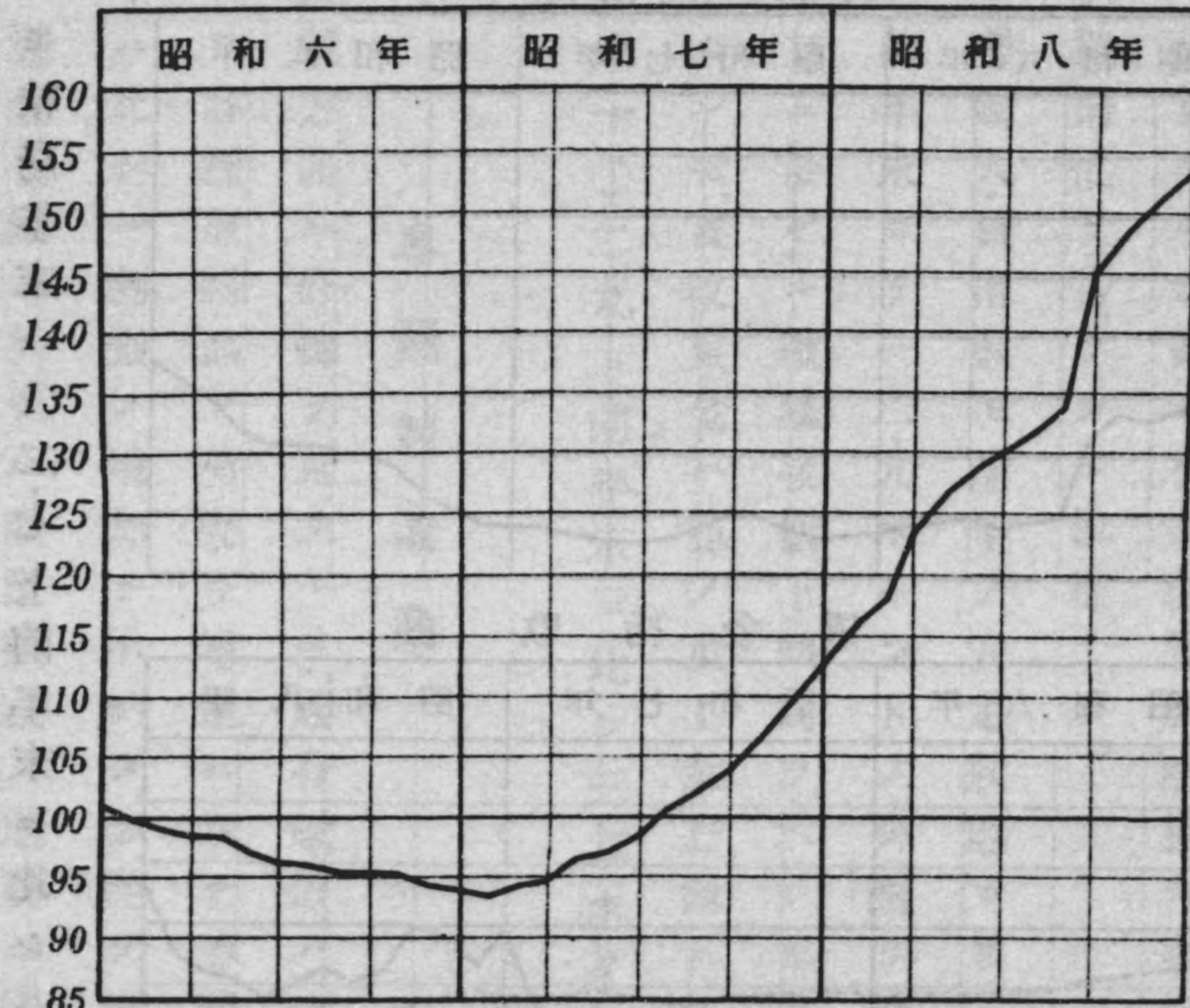
機械製造業

軍需品關係方面ノ依然タル好勢ニ加ヘテ輸出方面ノ事業ハ益順調ナル推移ヲ辿リ、且爲替安ノ影響ニヨリ從來輸入品ニ仰キタル各種機械類モ内地品ヲ以テ充足セントスル傾向著シキモノアリ、一方滿洲國ヲ首メ東洋市場ニ對スル輸出亦漸増氣配ナル等ニテ斯界ハ近年ニナキ好調ヲ示現スルニ至リ從テ設備ノ新設、擴張ヲ行フ向勢カラサリシ模様ナリ。

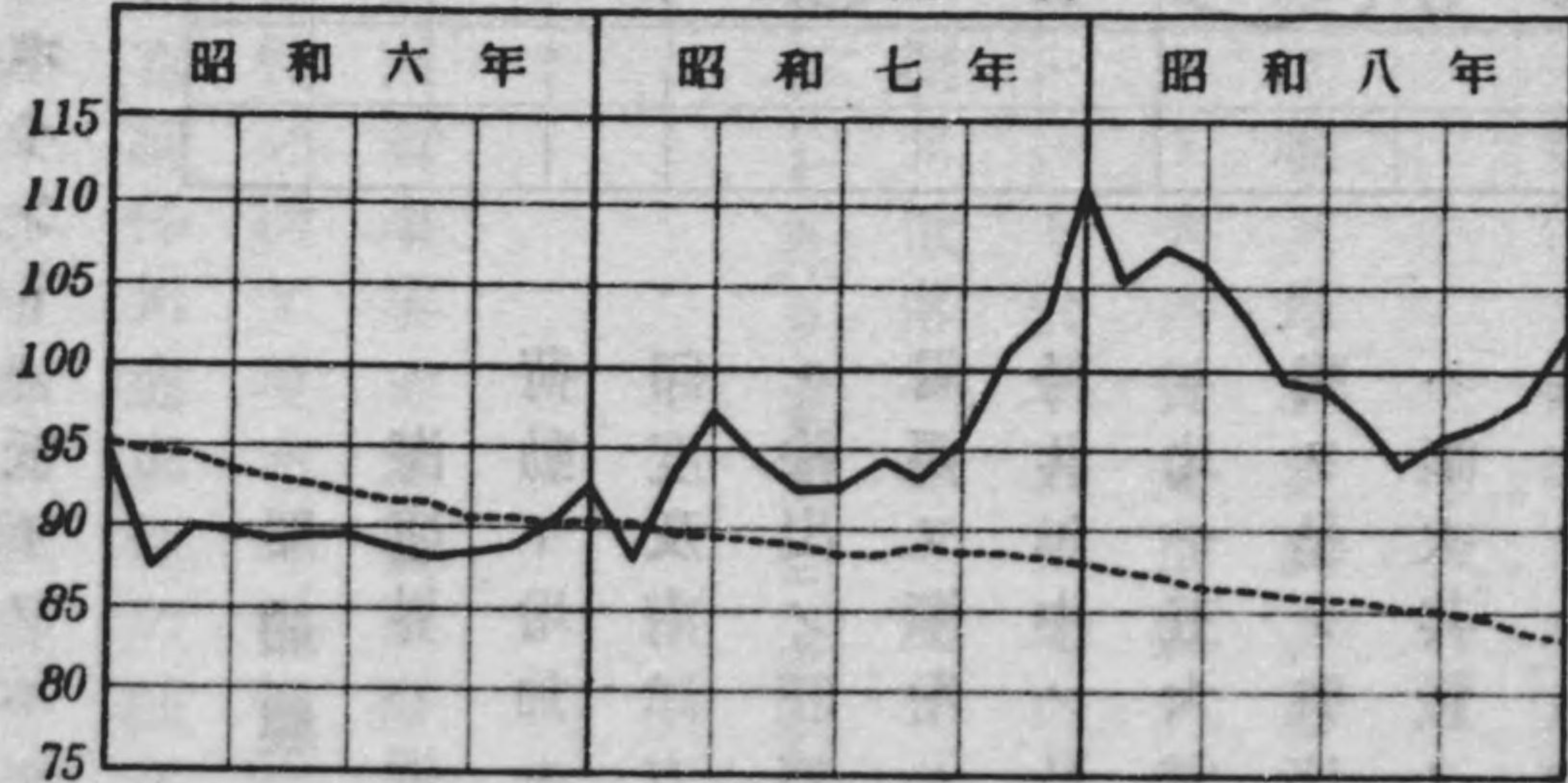
以上ノ事情ヲ反映シテ勞働人員指數ハ年初來逐月躍進ヲ續ケ、年末一五三・〇ト前

機械製造業

勞働人員指數



賃金指數



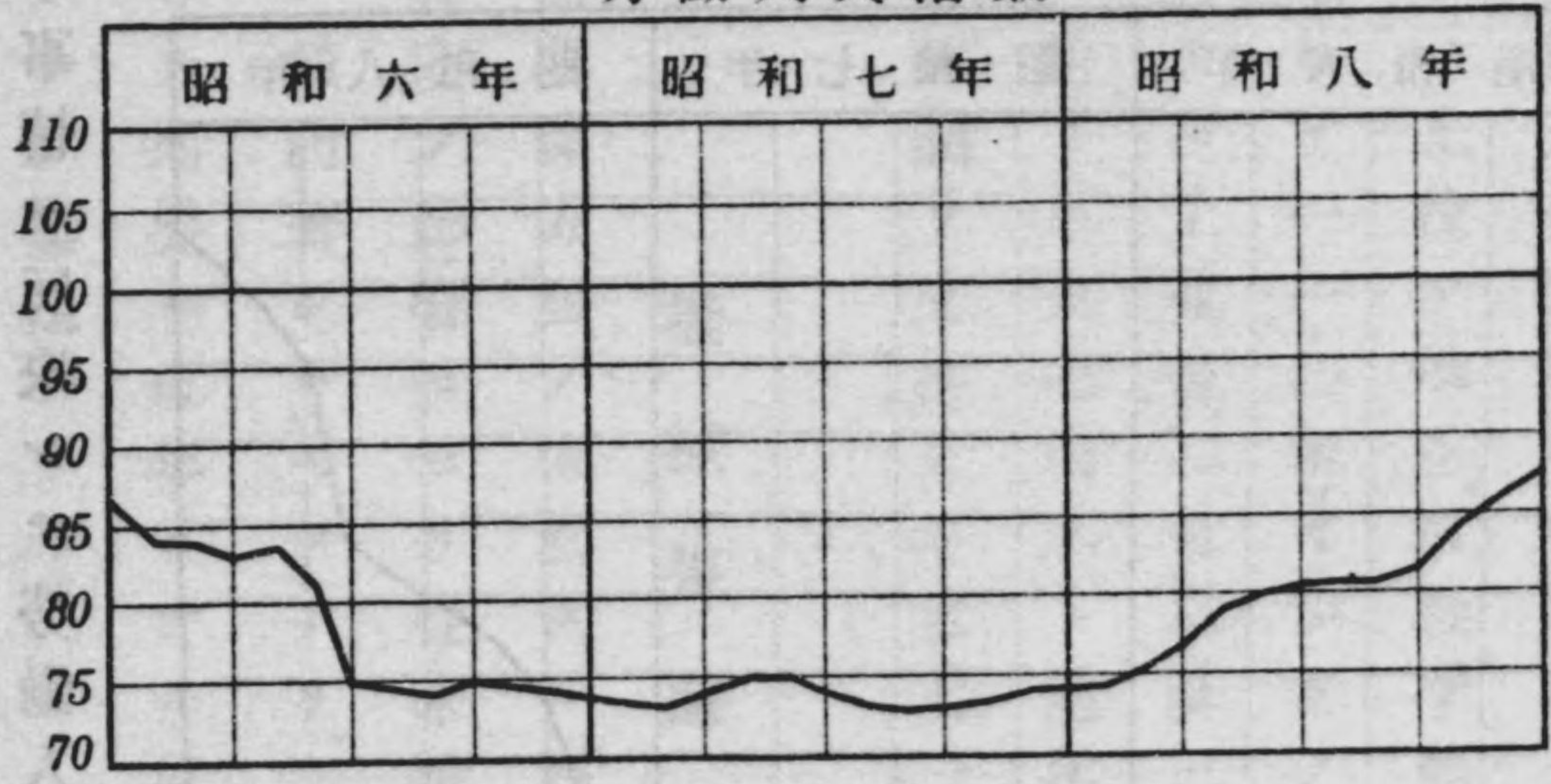
ク定額賃金ハ通年軟調ヲ辿リ年末八三・五ト前年末ニ比シ四・八ポイントヲ低下シ、實

落勢甚シ
數ハ反之
方賃金指
タルカ、他
ルニ至リ
ヲ演出ス
例ノ激騰
ントト異
〇・四ポイ
シ實ニ四
二・六ニ比
ケル一
年末ニ於

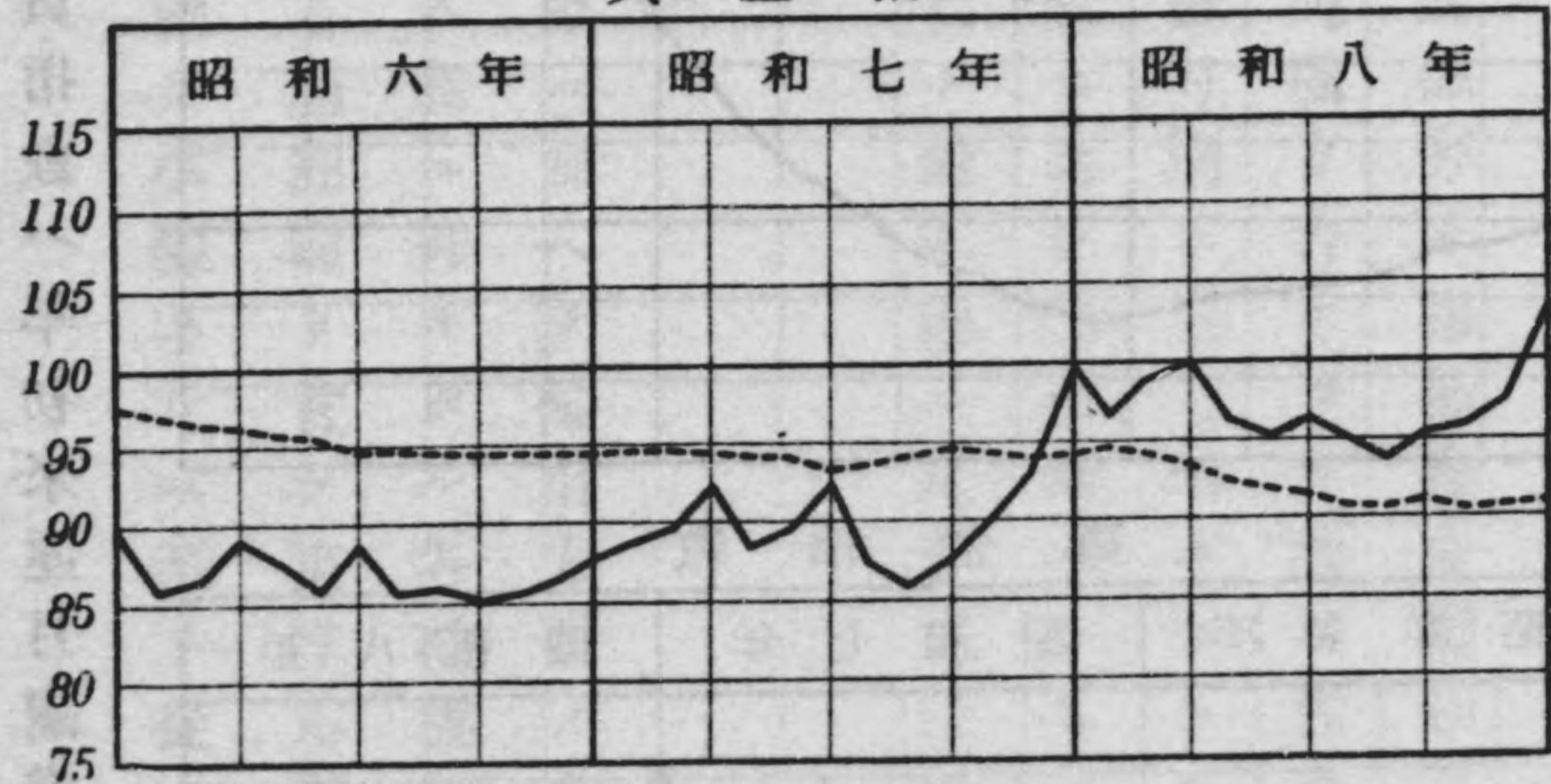
收賃金亦二月ノ微騰以外、八月迄ニ一三・三ポイントト大幅ノ低下ヲ告ケ其後騰勢ニ轉シタルモ結局年末一〇・二七ト前年末ニ比シ八・二ポイントノ低下ヲ示シタリ。

船舶製造業

労働人員指數



賃金指數



船舶製造業

海運界ハ近海方面ノ荷動キ増加ト滿洲、蘭領印度及南洋方面ニ對スル輸出ノ旺盛ニ船腹ノ需要ヲ漸増シ、運賃備船料共年中ノ最低ハ前年ニ比シ五、六割見當ノ昂騰ヲ呈シ、繫停船ノ如キハ漸次其數ヲ減スルニ至リタルニ加ヘ、船質改善助成施設モ着々進捗

シ年末既ニ豫定噸數ニ到達スルノ盛況ヲ演シタル爲メ、斯界ハ近年ニナキ活況ヲ示現スルニ至リタルカ、更ニ本業以外航空機、自動車等ノ製作ニ從事スル方面ニアリテモ作業依然繁忙ヲ告ケタル模様ナリ。

サレハ労働人員指數モ前年ノ安定状態ヨリ一步ヲ進メ、昂騰歩調ヲ辿リ年末ニハ八七・三ト前年末ヨリ一・二九ポイントノ奔騰ヲ演シタリ、次ニ賃金指數ヲ觀ルニ定額賃金ハ年初ニ於ケル微騰後低下傾向ヲ示シ年末九一・一ト前年末ニ比シ三・二ポイントト下セルモ、實收賃金ハ他ノ重工業方面ニ於テ概ネ低落セルニ反シ大體強調ヲ持續シ、年末一〇・二九ト前年末ニ比シ三・二ポイントノ上昇ヲ見ルニ至レリ。

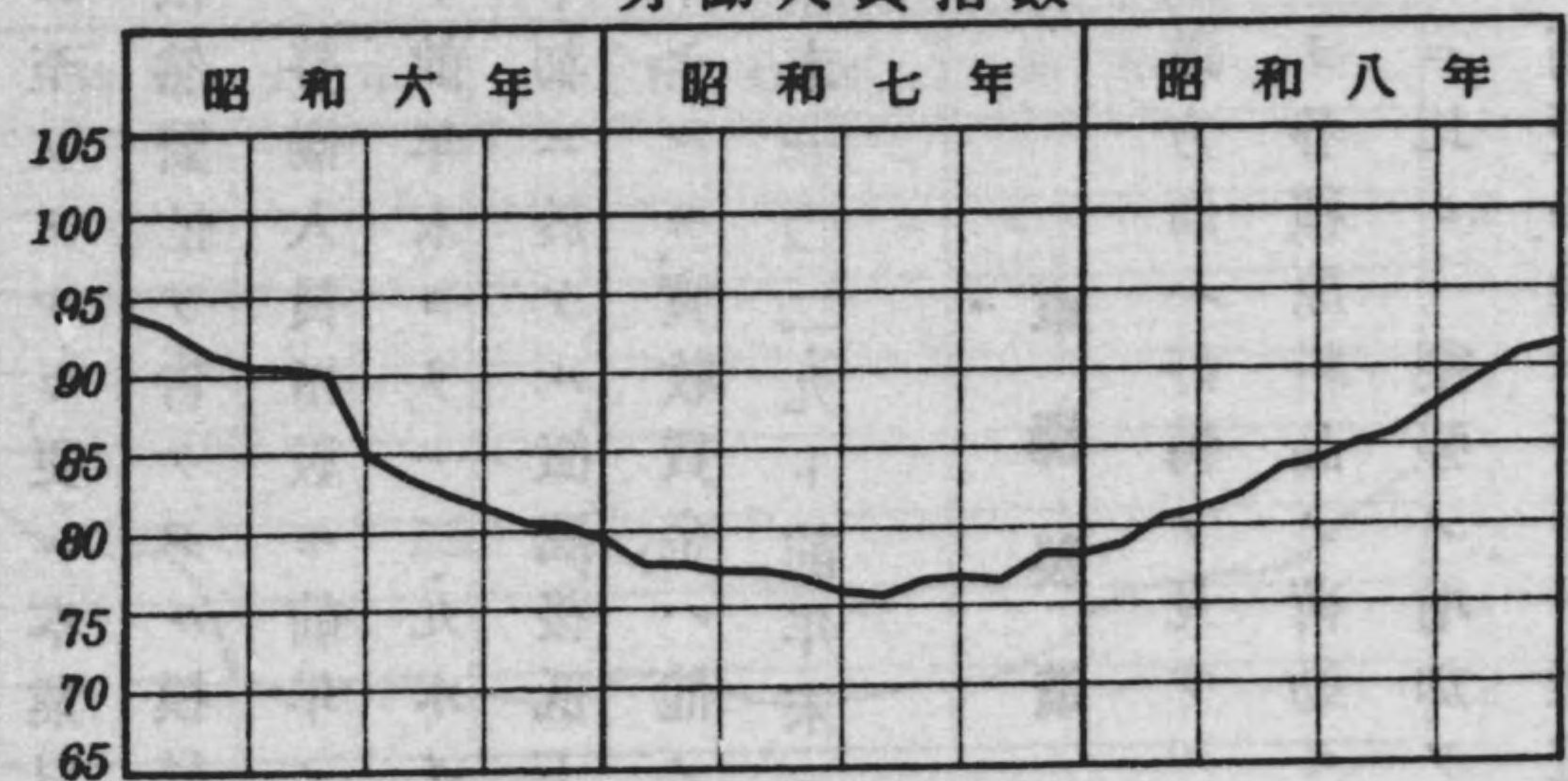
車輛製造業

民營鐵道方面ハ好轉ヲ見サルモ、國有鐵道ハ時局匡救事業ノ進展、軍需品工業ノ殷盛ニ加ヘテ各種原料品ノ荷動キ増進ニ漸ク業績好轉ノ徵ヲ現ハシ、貨物輸送高ノ如キモ前年ニ比シ一割強ノ増加ヲ示シタリ、從テ鐵道省關係新造車輛ノ注文輻輳スルト同時ニ滿蒙各地ニ於ケル鐵道敷設ノ進展ニ伴フ注文亦増加ノ傾向ヲ辿リタルト、他方自動車、自轉車界モ一般情勢ノ好轉ニ連レ活況ヲ呈シ殊ニ自動車ハ軍部並鐵道

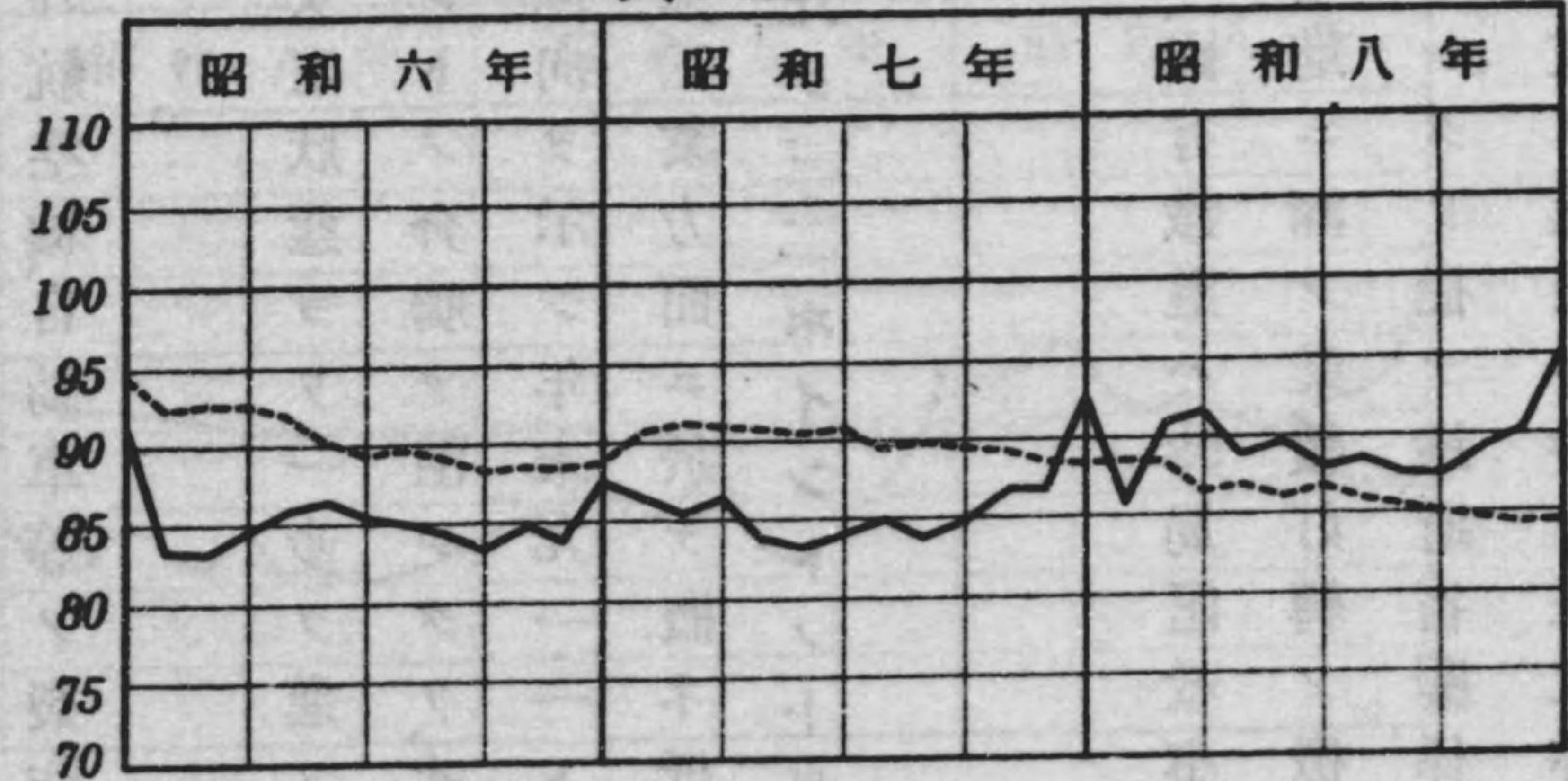
省關係ノ註文多ク、又自轉車ハ海外ヘノ進出著シキモノアル等ニテ斯界ハ近年ニナ

車輛製造業

勞働人員指數



賃金指數



年末八四・六ト前年末ニ比シ四・二ポイントノ低下ヲ告ケタルモ、實收賃金ハ大體好調

ニハ遂ニ九一・六ト前年末ニ比シ一三・二ポイントノ奔騰ヲ示現セリ、次ニ賃金指數ヲ觀ルニ定額賃金ハ落勢稍著シダ

ヲ續ケ殊ニ春季及秋季以降ノ騰勢著シク結局年末指數ハ九五・〇トナリ前年末ヨリ二・六ポイントト比較的目立タル上昇ヲ見ルニ至レリ。

今參考ノ爲メ最近四箇年間ニ於ケル鐵道省ノ民間車輛製造業者ニ對スル新造註文車輛數ヲ掲クレハ左ノ如シ。

鐵道省民間註文車輛數

年	蒸汽機關車	電氣機關車	客車	貨車	電車
昭和五年	九四	二〇	一六四	一、二一〇	一一五
昭和六年	三〇	一二	六九	二三〇	九八
昭和七年	六五	一	一一一	六九三	五一
昭和八年	六五	四	一二四	一、〇三八	一三五

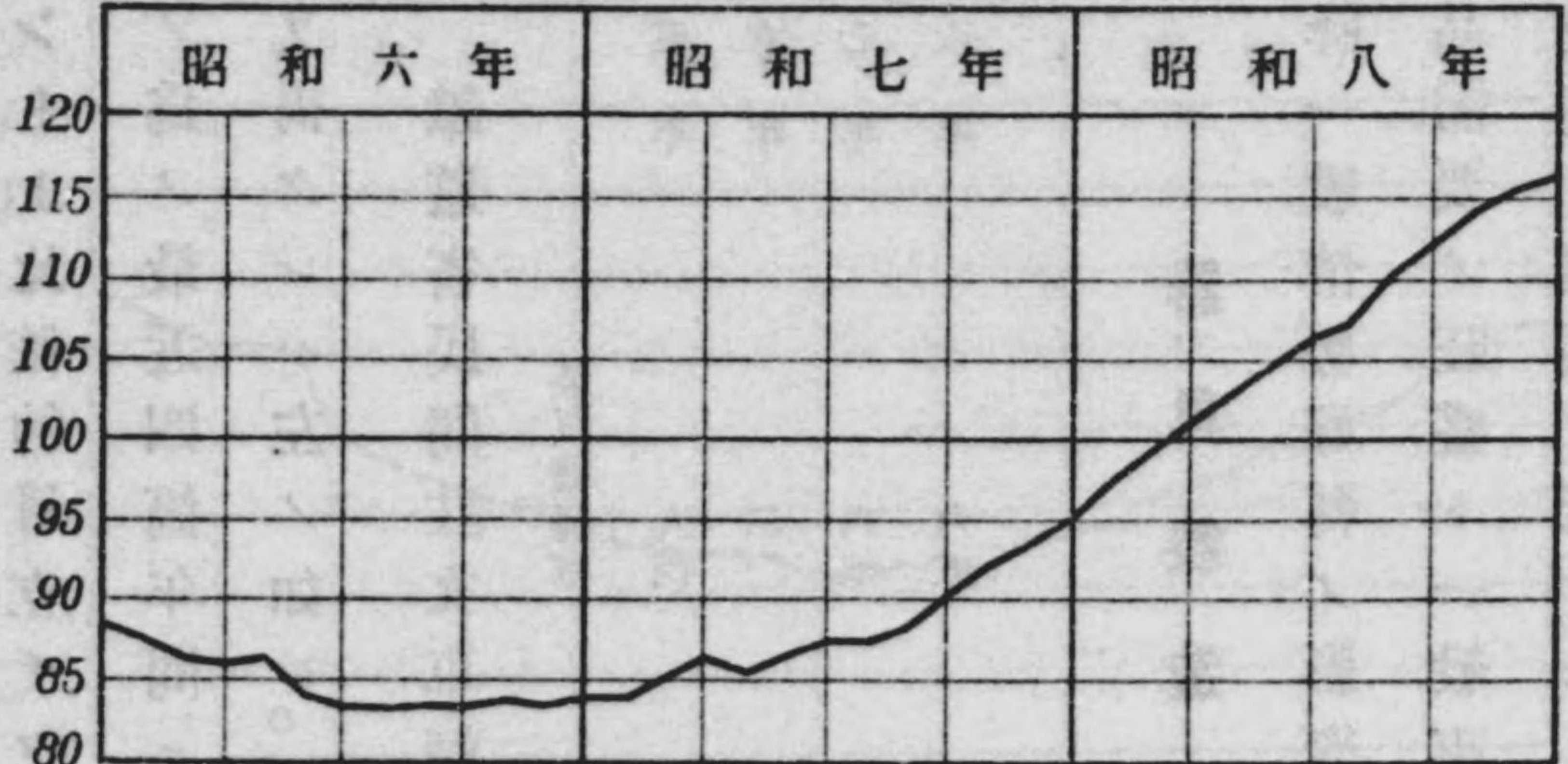
器具製造業

昨秋以降一般情勢好轉ノ影響ヲ受ケ順調ナル經過ヲ辿リタル斯界ハ、本年ニ入りテモ軍需品需要ノ旺盛ト一般事業界ノ恢復ニヨル註文ノ激増トニ依然好況ヲ持續シ爲メニ設備ノ擴張ヲ行フモノ尠カラサリシ有様ニテ、電球其他ノ製品ノ海外市場進出ニツキテハ依然各種ノ手段ヲ講シテ本邦品ノ驅逐ヲ計ルモノ尠カラサリシカ、

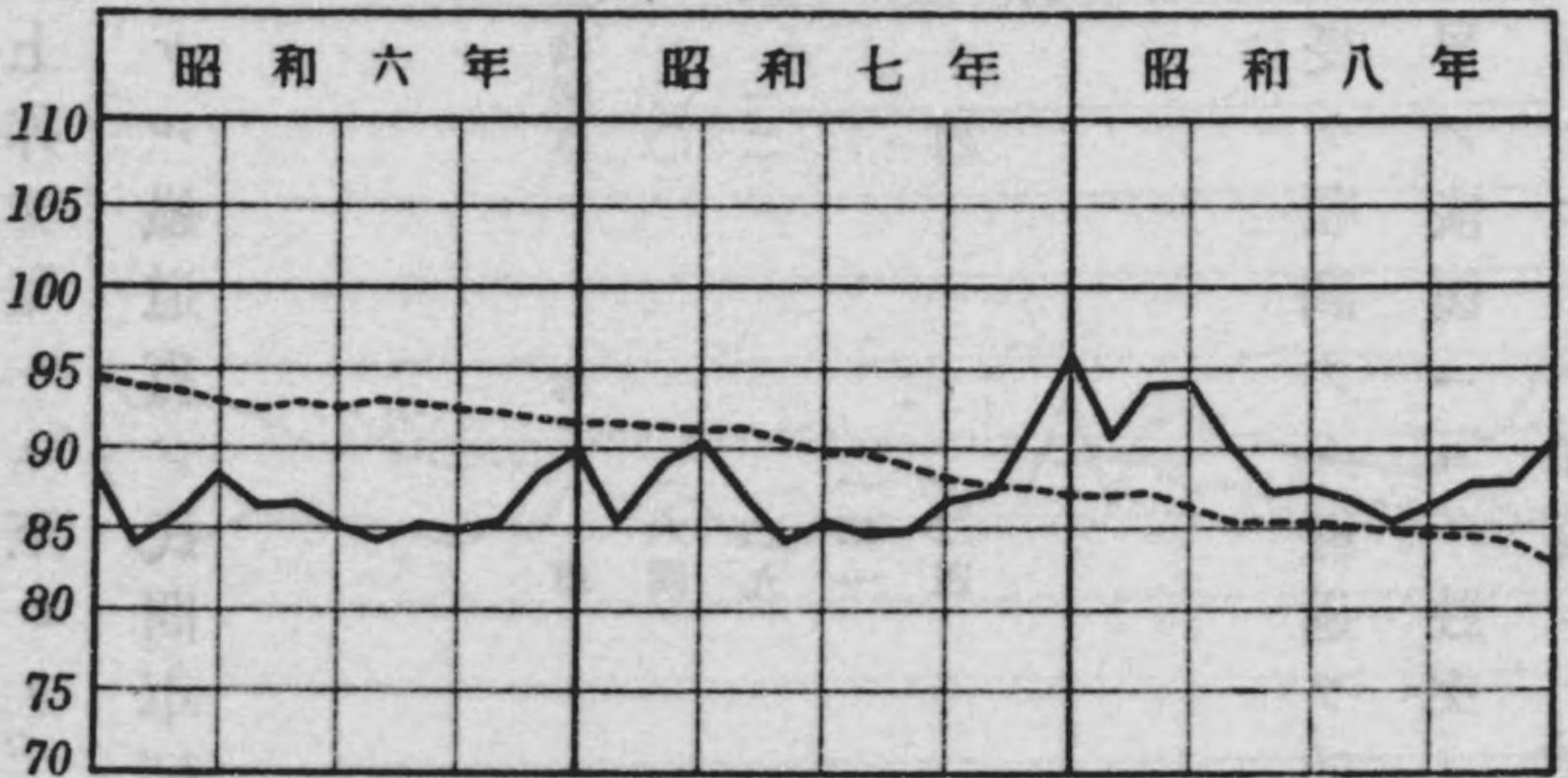
幸ヒ輸出モ大體順調ナル推移ヲ辿リ、斯界ハ機械製造業ト共ニ頗ル好調裡ニ終始ス

器具製造業

労働人員指數



賃金指數



金指數亦季節的騰落裡ニ大勢落調ヲ辿リ年末九〇・八ト前年末ニ比シ五・二ポイント

ルヲ得タリ。

事情右ノ如クナルヲ以テ労働人員指數ハ年初以來逐月躍進ヲ續ケ、年末一一六・六ト前年末ニ比シ二一・五ポイントヲ激騰シ、機械製造業ノ四〇・四ポイントニ次ク上昇ヲ告ケタリ、然レトモ定額賃金指數ハ依然落調ヲ免レス年末八三・一ト前年末ヨリ四・二ポイントヲ低下シ、實收賃

ノ低下ヲ告ケタリ。

今主要製品別ニ就キ各指數ノ年中騰落割合ヲ見ルニ左ノ如シ。

計器學術器	樂器寫眞器	電氣器具類	工匠農具類
+ 一六・九	+ 二六・七	+ 二五・七	+ 一五・六
労働人員	定額賃金	實收賃金	
三・四	〇・六	五・〇	
六・三	五・三	七・三	
八・九			

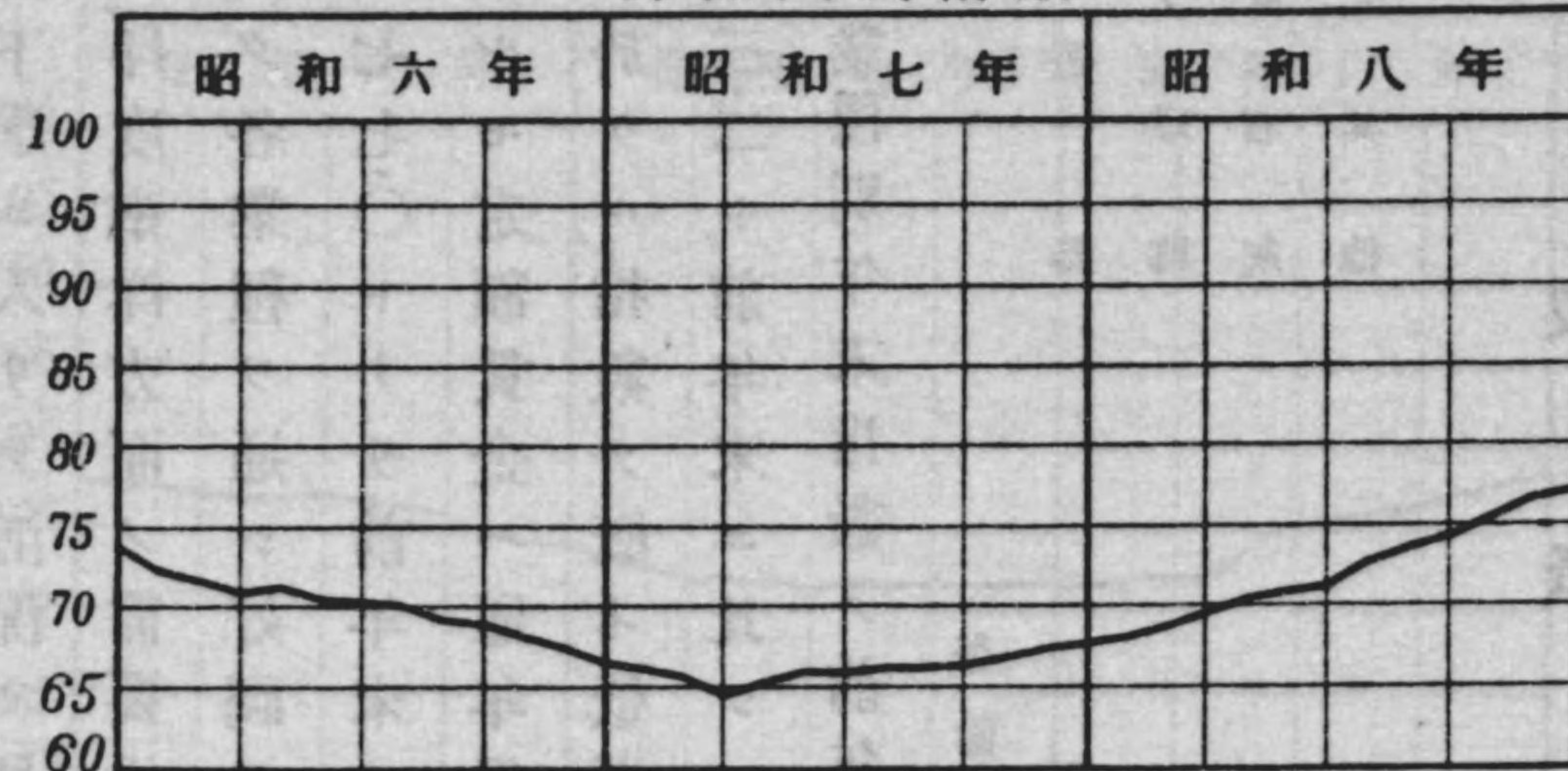
金屬品製造業

鐵鋼界ハ昨秋以降軍需工業方面ノ需要擡頭ニ俄然活況ヲ呈スルニ至リタルカ、本年ニ入りテモ機械製造業並ニ造船業ノ好調、内地及滿洲方面ニ於ケル土木建築事業ノ股賑等幾多好條件ニ恵マレ銑鋼生産高ノ如キハ昨年ニ比シ三割見當ノ増加ヲ示シ、他方相場モ爲替低落ト歐洲鋼材界ノ強調ニ概シテ前年以上ノ高値ヲ支持スルヲ得タリ、尙銅製品界ハ軍需工業ノ活況、電氣事業界ノ立直リニ加ヘテ電線類ノ輸出増加シ、内地產銅ヲ以テ之カ需要ニ應シ兼ネタル有様ニシテ相場モ海外高ニ強含ミノ狀ヲ呈スル等斯界ハ引續キ好調ノ一途ヲ辿レリ。

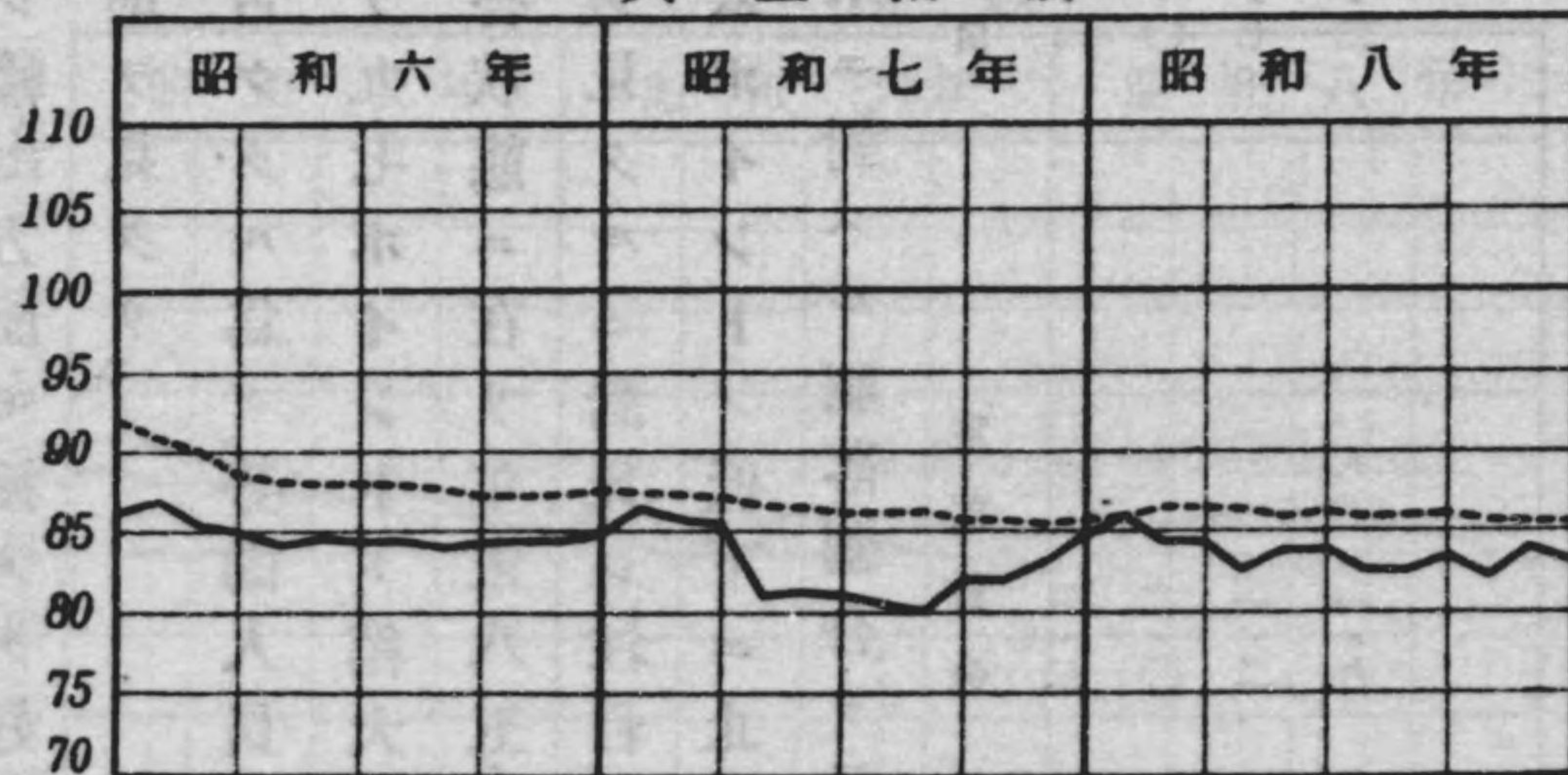
ノ勃興トニ此等方面ニ對スル需要ハ不尠増進シ、生産額ノ如キ前年ニ比シ二割八分

窯業

労働人員指數



賃金指數

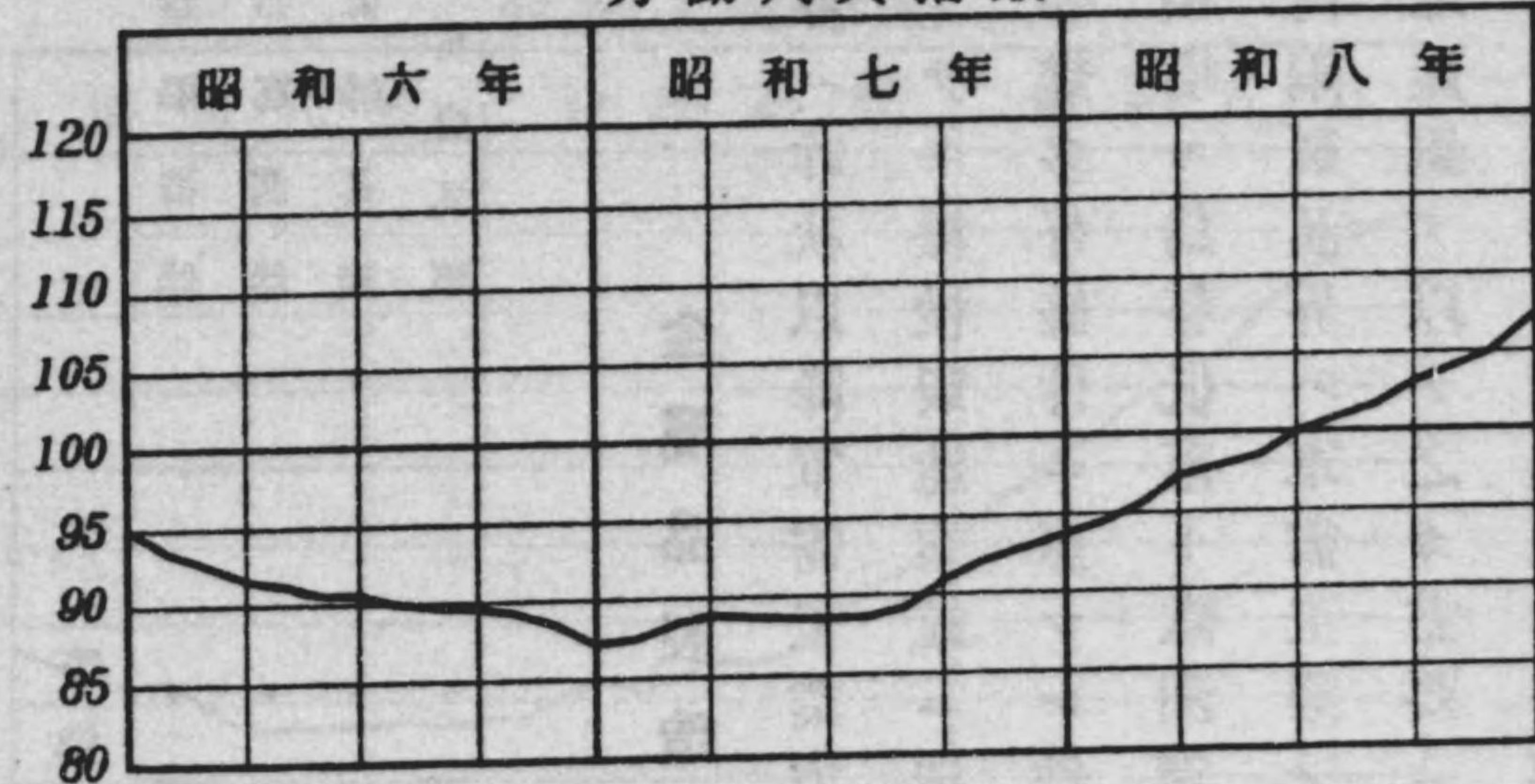


前年來爲替安ニ輸出向商談漸ク好調ヲ呈シタル陶磁器界ハ更年後モ依然順調ヲ

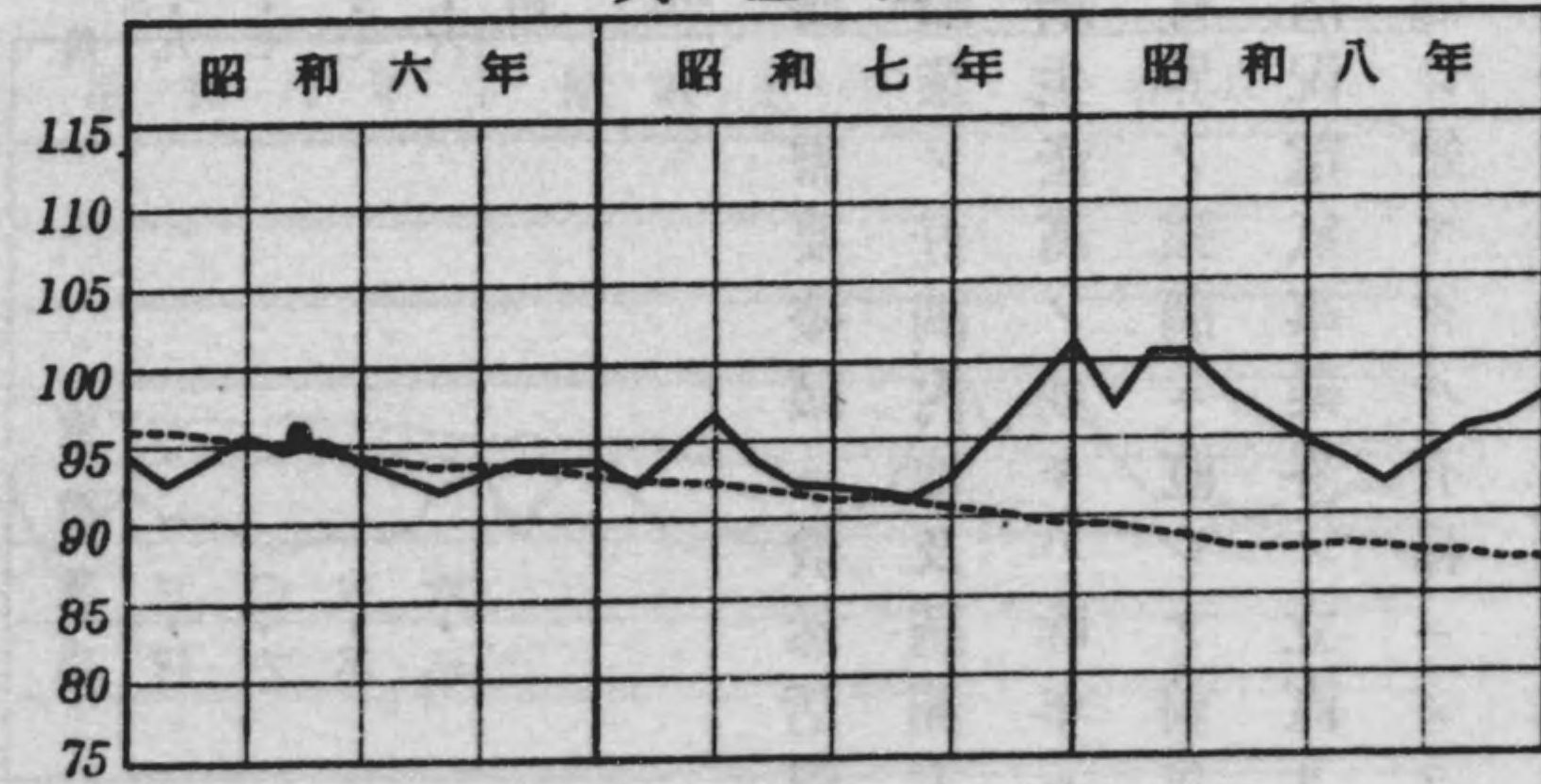
續ケ、下季ニ入りテハ米國、南洋方面等ヨリノ注文漸増シ支那市場亦一時ニ比シ相應恢復ヲ示セル等ノ事情ニ、輸出額ハ前年ニ比シ五割見當ノ増進ヲ告クルニ至レリ、又セメントモ輸出方面ハ海外諸國ノ關稅障壁ニ禍セラレ市場ノ縮少ヲ免レサリシモ、時局匡救事業ノ進捗ト滿洲方面ニ於ケル建設事業

金屬品製造業

労働人員指數



賃金指數



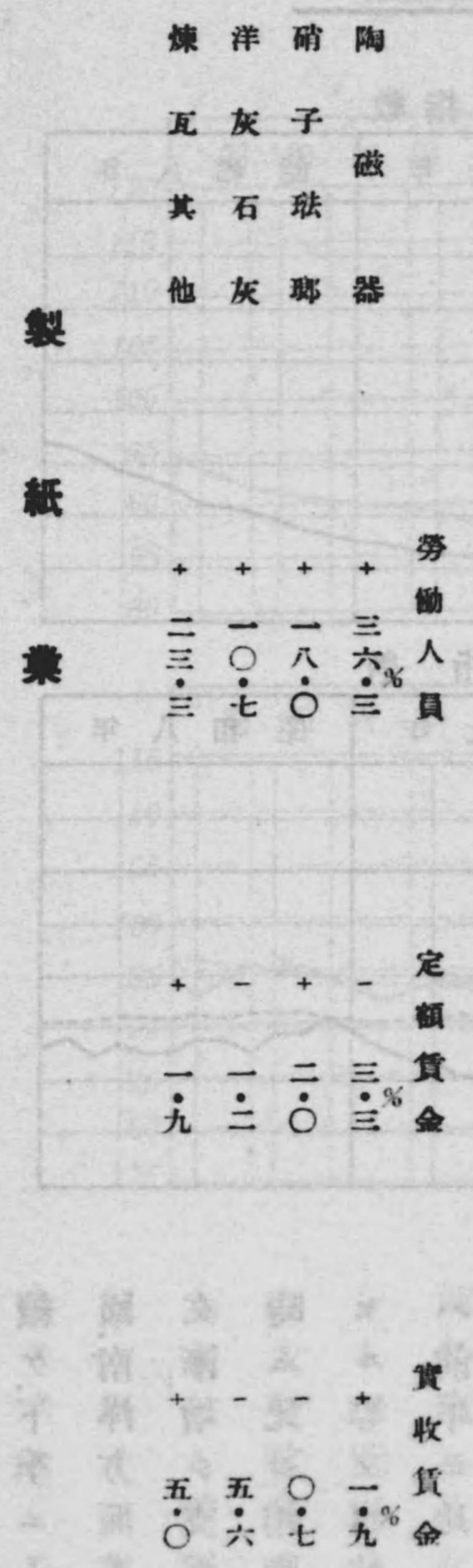
窯業

從テ労働人員指數ハ年初來逐月上昇氣勢著シク年末一〇七・三ト前年末ニ比シ一三・七ポイントノ奔騰ヲ見ルニ至リタルカ、賃金指數ハ却テ低下歩調ヲ免レス、定額賃金ハ年末八七・一ト前年末ニ比シ二・五ポイントヲ低下シ、實收賃金亦大勢軟調ヲ辿リ年末九七・七ト前年末ニ比シ三・一ポイントノ低下ヲ告ケタリ。

見當ノ増加ヲ告ケ操短ノ緩和ヲ行フ等斯界ハ相當好況ヲ呈シタリ、尙硝子及珙瑯界モ亦大體下季ニ入りテ活況ヲ呈シ輸出方面モ極メテ好勢ヲ辿リタルカ殊ニ珙瑯鐵器ハ滿洲印度南洋方面ノ需要増進ヲ見タリ。

右ノ如ク各業種ヲ通シ好調ヲ告ケタル爲メ、労働人員指數ハ年初以降上騰ヲ續ケ年末ニハ七七〇トナリ前年末ヨリ九七ポイントト稍大幅ノ上昇ヲ示シタリ、尙賃金指數ヲ觀ルモ定額賃金ハ通年保合状態ニ在リ年末八五・六ト前年末同様ノ指數ヲ示シ他業ニ於ケル指數カ概ネ低落ヲ見タルニ對比シ注目セラレタルカ、更ニ實收賃金亦年末八三・二ト前年末ニ比シ一六ポイントノ低下ニ止マレリ。

今主要業種別年末指數ノ前年末ニ對スル騰落割合ヲ示セハ次ノ如シ。

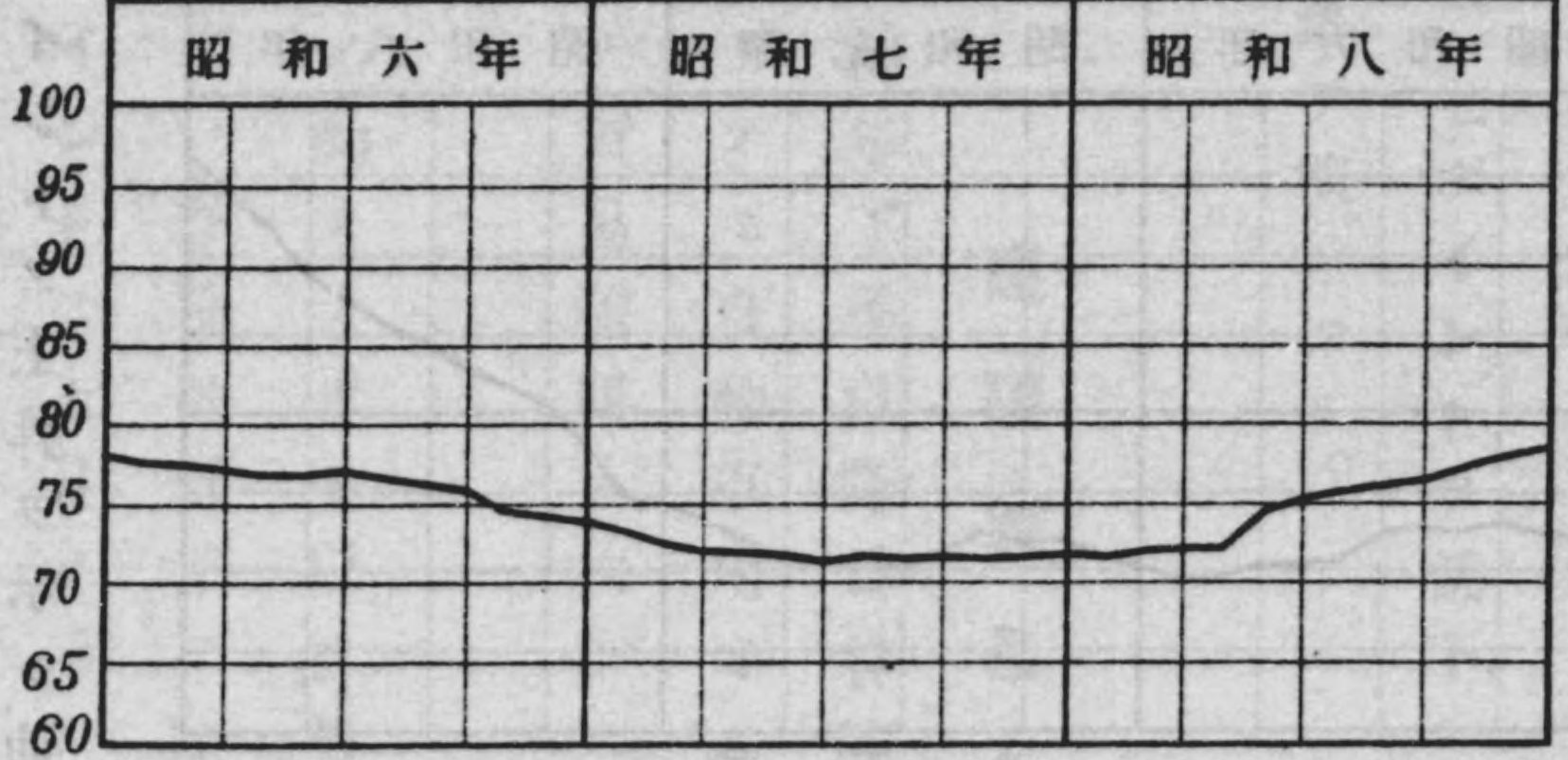


爲替相場ノ低落ニ基ク輸入品相場ノ昂騰ニ外紙ノ重壓ヲ免カレ恢復歩調ニ轉シ

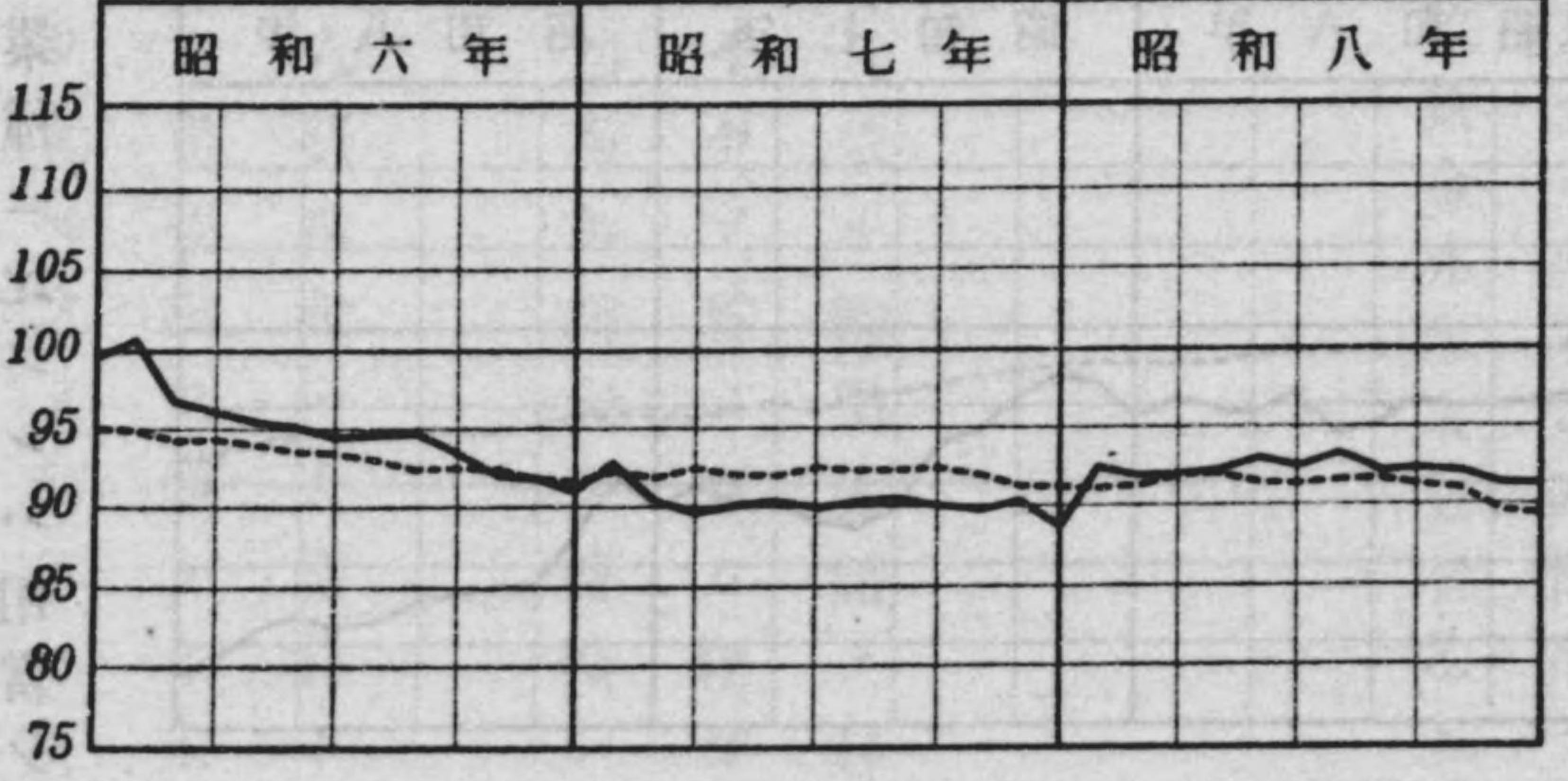
製紙業

タル斯界ハ、五月三大會社ノ合同ヲ實現シテ業界ノ統制ヲ強化シタルカ、一般環境ノ

労働人員指數



賃金指數



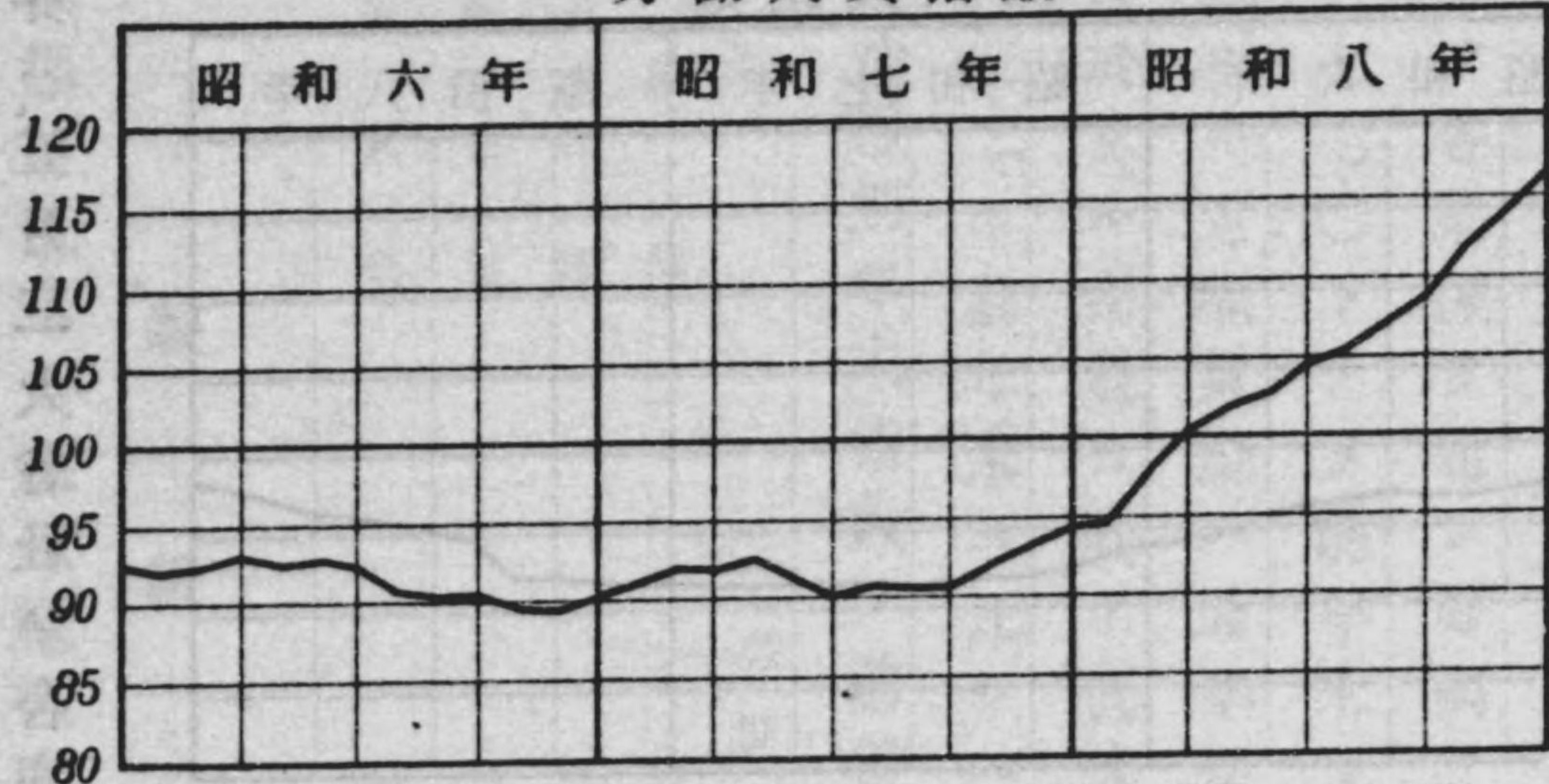
月迄微騰ノ傾向アリタルモ五月以降漸落シ、年末八九・五ト前年末ニ比シ一八ポイント

好轉ニ伴フ需要増加ニ賣行増加シ、八月以降數度ニ互リ封印解除並ニ限産緩和ヲ行フニ至リ市價亦昂騰ニ向ヒ斯界ハ相當好調ヲ告ケタリ。右ノ情勢ヲ反映シテ労働人員指數ハ通年上昇歩調ヲ持續シ、就中五月以降ニ於ケル騰勢著シク年末七八・八ト前年末ニ比シ七一ポイントノ上昇ヲ告ケタリ、又定額賃金指數ハ年初來四

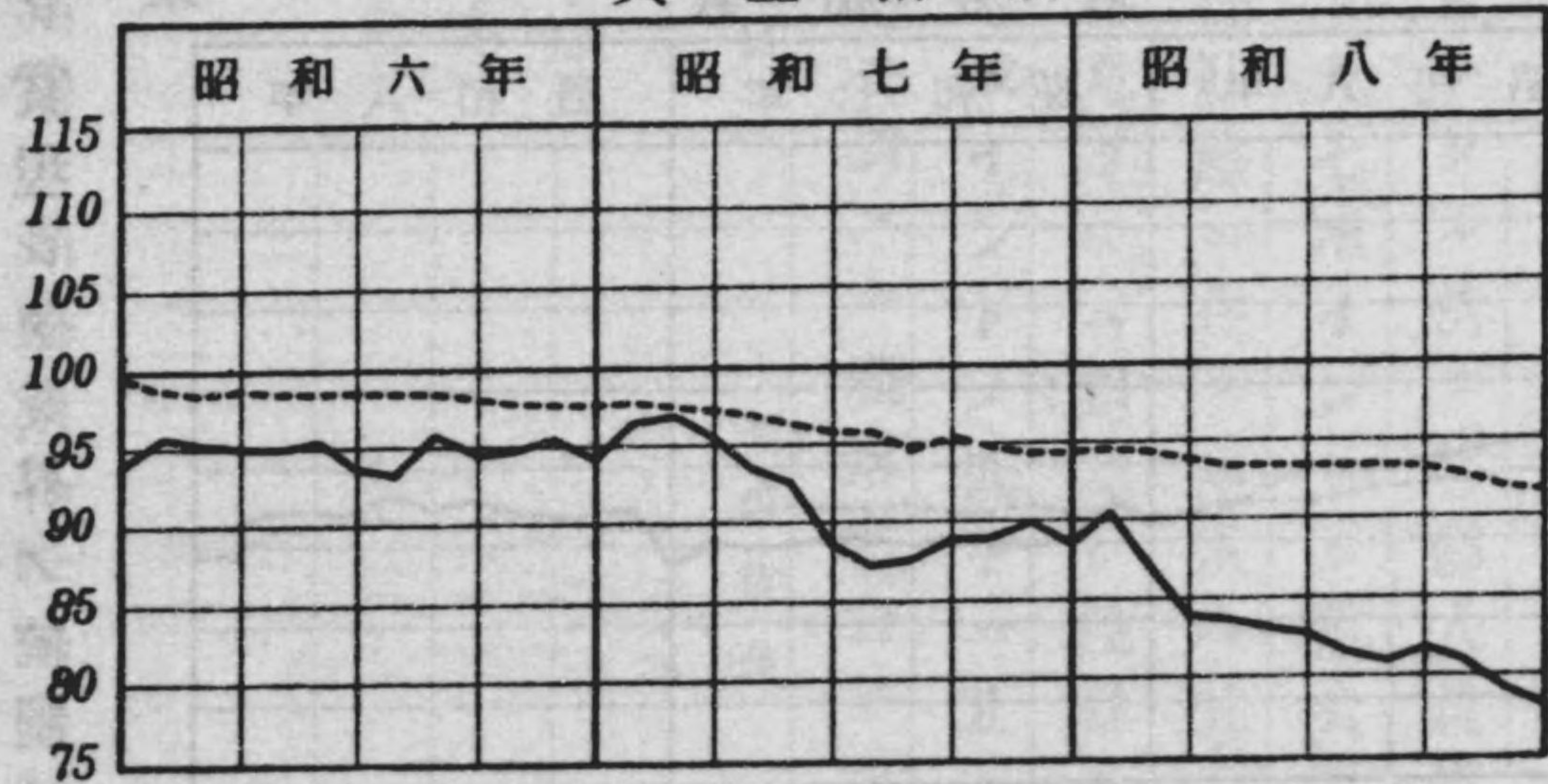
トノ低落ヲ示シタルカ實收賃金指數ハ大體好調ヲ持續シ年末九一・六ト前年末ニ比シ二・六ポイントノ上昇ヲ示シ、他ノ業種ニ比スレハ相當ノ好轉ヲ見ルニ至レリ。

製 藥 業

勞働人員指數



賃金指數



製 藥 業

前年下季以降立直リタル斯界ハ一般環境ノ好化ト輸入品代用ニ依ル工業用藥品ノ需要増加トニ加ヘテ滿洲及南洋方面ニ對スル輸出モ激増ヲ告クル等大體順調ナル推移ヲ辿リタリ。從ツテ勞働人員指數ハ通年堅實ナル上騰歩調ヲ辿リ三月ニ八一〇

○臺ヲ超ヘ年末一一六・二ト前年末ニ比シ二二・〇ポイント方ノ奔騰ヲ示シタルカ、他方賃金指數ハ反之軟勢ヲ辿リ定額賃金ハ年初以降漸落ヲ免レス年末九一・六ト前年末ニ比シ二・七ポイントヲ低下シ、實收賃金亦年末七七・九ト前年末ニ比シ一〇・九ポイントノ激落ヲ演シタリ。

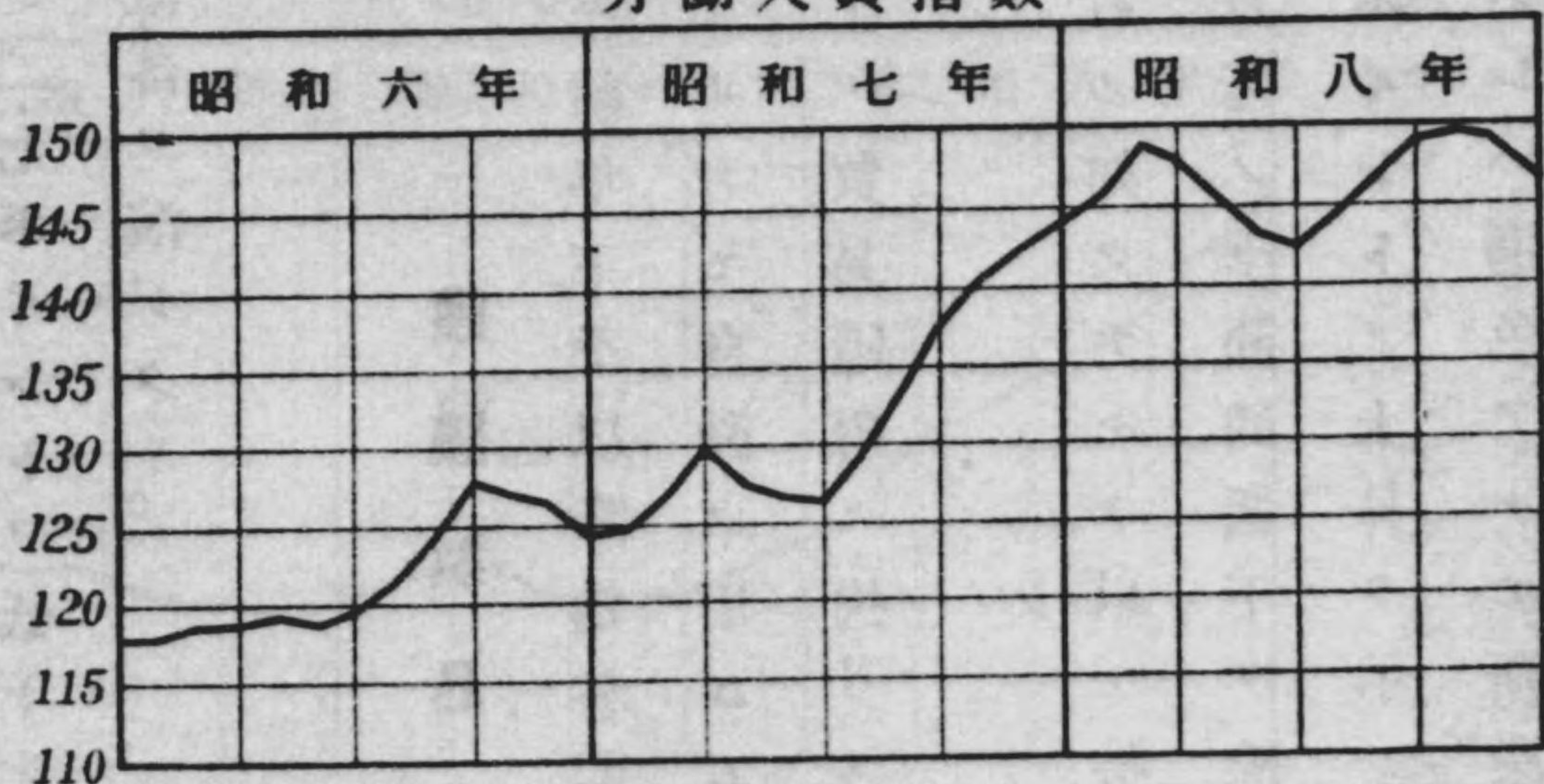
護 謨 製 品 業

斯界ハ前年下季以降爲替關係ニ依ル輸出方面ノ好勢ニ順調ヲ示シタルカ、本年ニ入りテモ自動車用ゴムタイヤヲ首メゴム靴、ゴム製玩具等ノ輸出ハ各國ニ於ケル貿易障礙ニ拘ラス依然増加傾向ヲ持續シ活況裡ニ終始スルヲ得タリ。

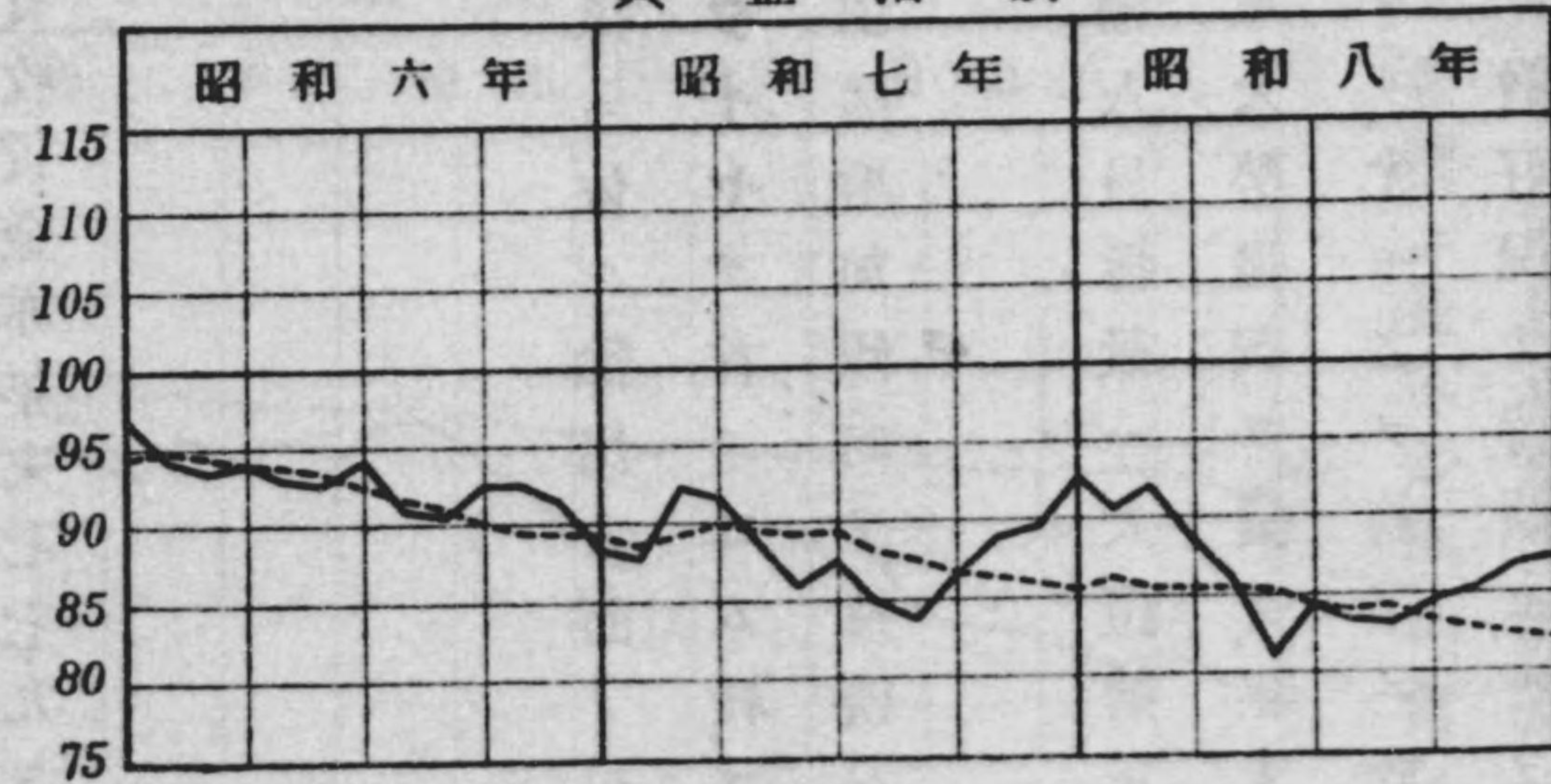
事情右ノ如クナルヲ以テ勞働人員指數ハ大體前年ト同一步調ヲ辿リ三月以降六月迄ノ季節的低下ヲ除キ大勢強調ヲ續ケ、年末一四七・一ト前年末ニ比シ三・一ポイントノ上昇ヲ示シタリ、尤モ之ヲ前年ニ於ケル上騰一九・六ポイントニ比スレハ遜色アルモ斯業カ猶好況ヲ持續セルヲ知ルニ足ルヘシ、次ニ定

護 謨 製 品 業

勞 働 人 員 指 數



買 金 指 數



今最近三箇年間に於ケル製品別輸出高ヲ示セハ次ノ如シ。

額賃金指數ハ年初以降引續キ漸落歩調ヲ辿リ年末八二・二ト前年末ニ比シ三・六ポイントノ低落ヲ告ケ、實收賃金指數亦上季中ニ於ケル落調稍顯著ナリシ爲メ秋季以降漸騰歩調ニ轉シタルモ年末八七・二ト前年ニ比シ五・七ポイントノ低下ヲ示シタリ。

人 造 肥 料 業

前年下季以降稍好轉ヲ見タル斯界ハ、年初來農村購買力ノ恢復遲々タル折柄、米國ニ於ケル重要農産物ノ下落ヲ首メ環境不良ニ人氣ノ銷沈甚シク、殊ニ生糸ノ先行悲觀ハ一段ト實需ノ不振ヲ誘致シ春季施肥ノ如キ幾分頓挫ヲ免レサリシモノ、如ク、五月末ニハ藪高ヲ映シテ稍立直リ氣配ヲ示シタルモ、其後端境期ニ入り市價亦漸落歩調ヲ辿ルニ至レリ、然レトモ硫安ハ爲替安ニ因ル輸入ノ減退ト相場ノ昂騰旁々内地生産モ増加傾向ニシテ採算亦有利トナリ、石灰窒素界モ共販組合ノ統制宜シキヲ得テ豫想外ノ活調ヲ呈シタリ、只過燐酸ハ當業者間ニ於ケル統制難旁々濫賣甚シク相場モ五月以降續落シテ八月ニハ遂ニ再禁止前ニ逆轉スルニ至リタルカ、秋季統制

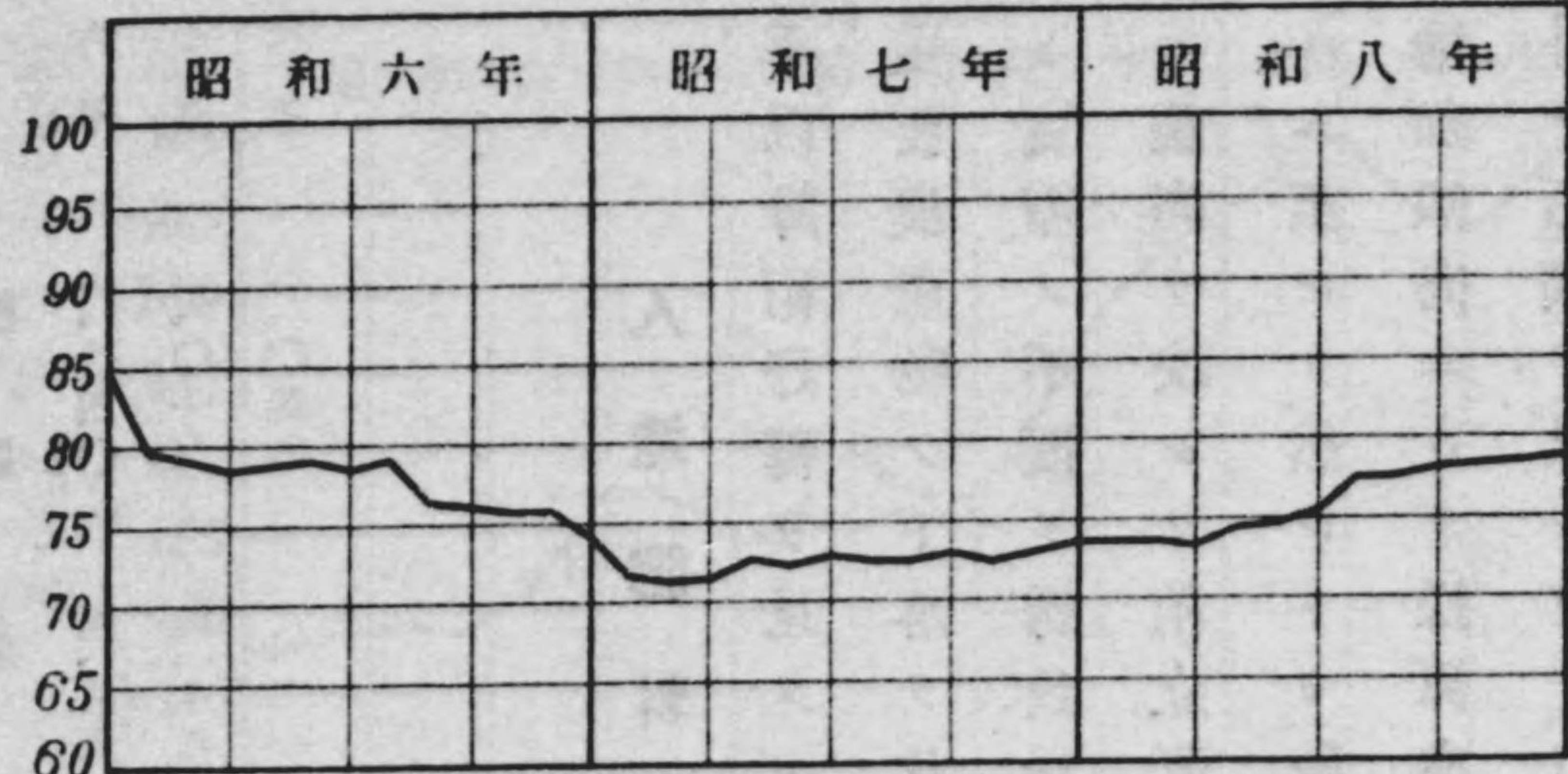
昭 和 六 年	昭 和 七 年	昭 和 八 年	數 量	金 額	數 量	金 額	數 量	金 額	數 量	金 額	合 計
一、〇四〇	一、〇一二	一、〇四六	靴	四、三九四	四、八八九	八、二一三	四八	三、八五八	二、一九八	一、〇四四	一、四九六
一、〇四六	一、〇一二	一、〇四六	タイヤ	四、三三七	四、三三七	八、八三九	一三二	八、八三九	八、六三三	三、三二七	二九、〇一二
			玩具	二、一九八	五、五〇六	八、六三三					
			其他	一、〇四四	一、四七九	一、四七九					
			合計	一、〇四四	一、四七九	一、四七九					

(外國貿易月表ニ據ル)

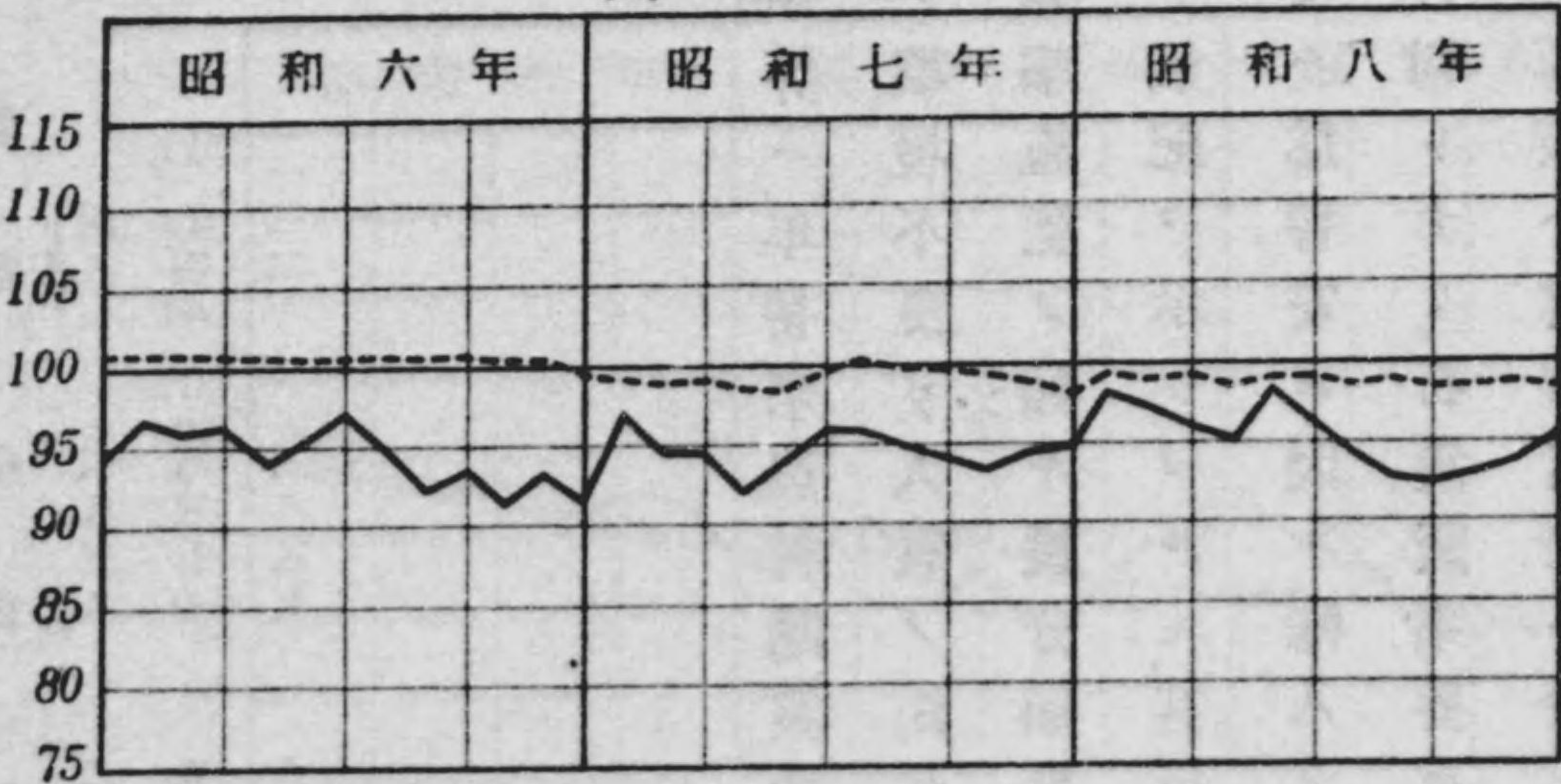
機關ノ確立セラル、ニ及ヒ漸ク恢復スルニ至レリ、斯クテ人造肥料界ハ時ニ多少ノ

人造肥料業

労働人員指數



賃金指數



消長ナキニ非リシモ概シテ堅實ナル市況ヲ迎リ、各生産會社共業績ノ好轉顯著ナルモノアリタリ。

ハ他ノ業種ニ於テ概ネ落調ヲ示シタルニ反シ稍落付模様ヲ呈シ、年末九八・七ト前年

從テ労働人員指數ハ年初三箇月間略々保合裡ニ經過セルモ、四月ニ於ケル反騰以來逐月漸騰シ、年末七八・九ト前年末ニ比シ五・四ポイントノ上昇ヲ示シタルカ、他方賃金指數モ定額賃金

末ニ比較シ〇・一ポイントノ微騰ヲ見、實收賃金亦一月及五月稍顯著ナル上伸ヲミタル外、年初來低下傾向ヲ示シタルモ十月以降ハ好勢ニ轉シ、年末九五・四ト前年末ニ比較シ〇・四ポイントノ微騰ヲ告クルニ至レリ。

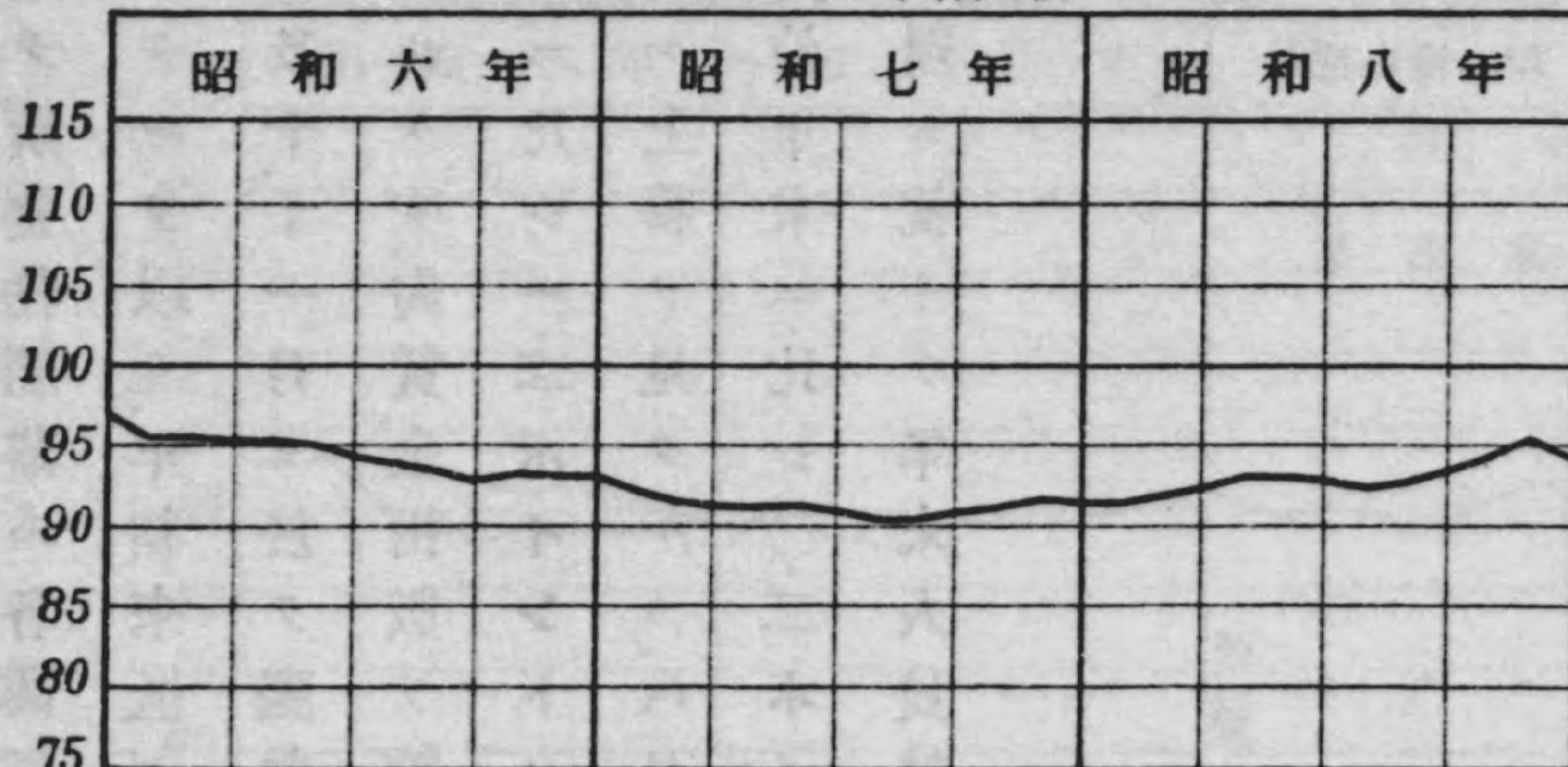
飲食物工業

麥酒界ヲ觀ルニ五月麥酒釀造ヲ合併セル大日本麥酒ハ其後麒麟麥酒トノ共同販賣協定成立ニ依リ從來ノ濫賣風潮ヲ一掃シ業界ヲ安定スルニ至リタルカ、更ニ夏季需要期ニ入り天候頗ル好順ナリシヲ以テ、特ニ都會地ニ於ケル消費ノ増進ヲ見タルニ加ヘ、輸出方面ニ在リテモ滿洲、關東洲、南洋方面ヲ首メ米國向亦活況ヲ呈シ、下季不
需要季ニ至リテモ賣行旺盛ヲ告ケ、釀造高ノ如キ前年ニ比シ約三割一分方ノ激増ヲ示シタリ、醬油界ハ原料高、製品安ニ市況引續キ不振ニシテ賣行亦良好ナラサリシカ、製糖界ハ前年末ヨリ外糖ノ日本向投資敢行ト附加稅廢止案等ニ加ヘテ、米國ノ金本位離脫實現後和蘭ノ追隨懸念等ニ年初國內糖價ノ浮動ヲ免レサリシモ、歐洲金本位
フロツクノ成立ヲ見ルニ及ンテ不安人氣ヲ解消シ、輸出方面亦滿洲、北支向出荷相當
殷盛ヲ告ケタリ、製糖界ハ農村ノ疲弊依然タル折柄内需漸減ノ狀勢ナリシモ、滿洲及

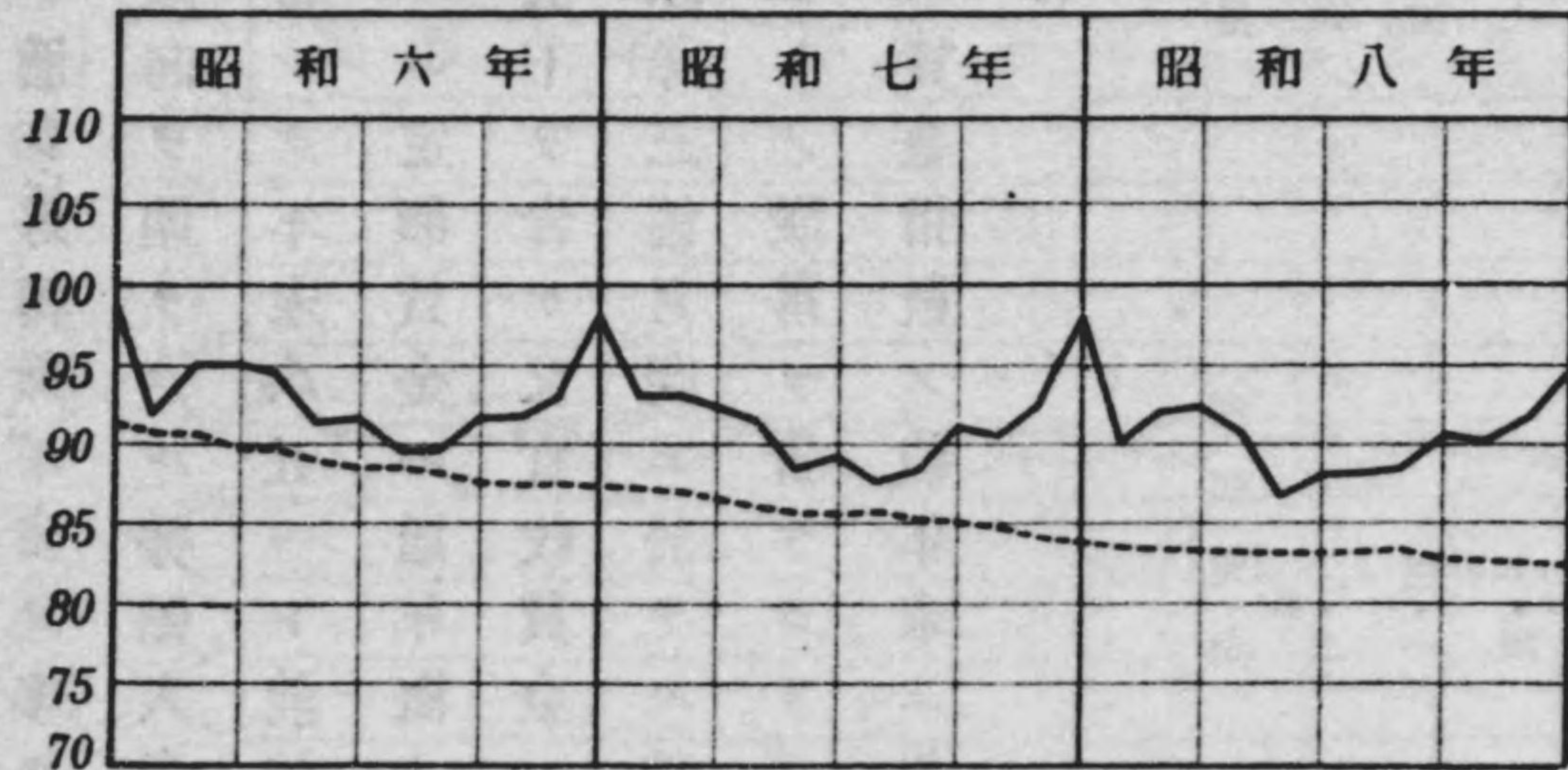
近來一部事業界ノ活況ニ伴ヒ印刷物ノ受註ハ漸増傾向ニ在リ、尙單價ノ如キ略最

印刷製本業

労働人員指數



賃金指數



低ニ達シテ安定セルヤノ感ナキニ非レトモ、當業者ノ増加ニ因ル競争依然激烈ヲ極メ、且諸材料ノ昂騰甚シキ折柄、多年不況裡ニ沈滞セル斯界ノ成績ハ未タ改善ヲ見ルニ至ラサル模様ナリ。

從テ労働人員指數ハ需要増加ニ因ル作業ノ繁忙ヲ反映シテ六、七兩月ニ於ケル微落以外概

シテ漸騰歩調ヲ辿リ、年末九四・五ト前年末ニ比シ三〇ポイントノ上昇ヲ告ケタルモ、賃金指數ハ同業者間ニ於ケル競争ノ結果賃金ノ引下ケニ努メタルモノ、如ク、定額賃金ハ通年漸落傾向ヲ辿リ、年末八二・三ト前年末ニ比シ一六ポイントノ低下トナリ、實收賃金亦季節的騰落裡ニ大勢軟調ヲ呈シ、殊ニ一月及ヒ五月ニ於ケル低落著シク、年末九四・四ト前年末ニ比シ三二ポイントノ低位ヲ示スニ至レリ。

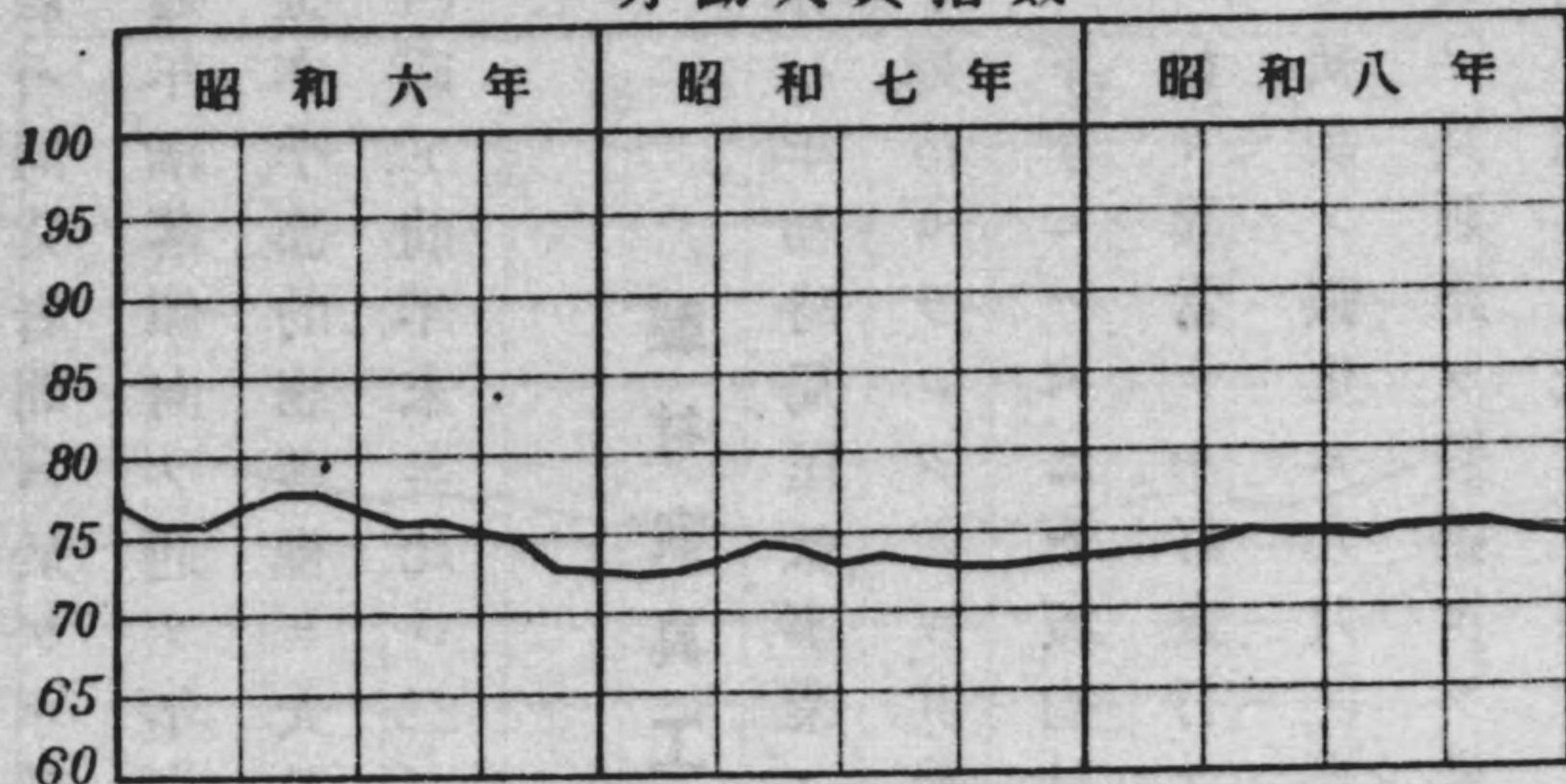
製材家具工業

木材界ハ年初時局匡救事業ノ進捗ト製紙、人絹業等ノ發展ニ伴ヒ需要増加シ一段ノ好調ヲ期待セラレタルモ、其後實需ノ減退ニ在荷漸増シテ市況ヲ壓迫スルニ至レリ、然ルニ下季ニハベニヤ板、楢材等ノ特殊木材竝ニ一般雜貨類ノ輸出旺盛ニ伴レ包装用材ノ如キ異常ナル好賣行ヲ告ケ漸ク好轉氣配見受ケラレ、殊ニ北洋材ハ出材量ノ減少ト統制ノ強化ニ九月ノ實需季ニハ市價昂騰シ、内地材亦米材、北洋材ニ比シ割安ナル爲メ其販路ヲ擴張セリ、米材ハ爲替低落ト產地價格ノ騰貴ニ終始採算不引合ノ狀ヲ呈シ輸入ノ減少ヲ招キタルカ、南洋材ハ建築竝ニ家具製作方面ノ需要増大ニ入荷激増ヲ告ケタリ。

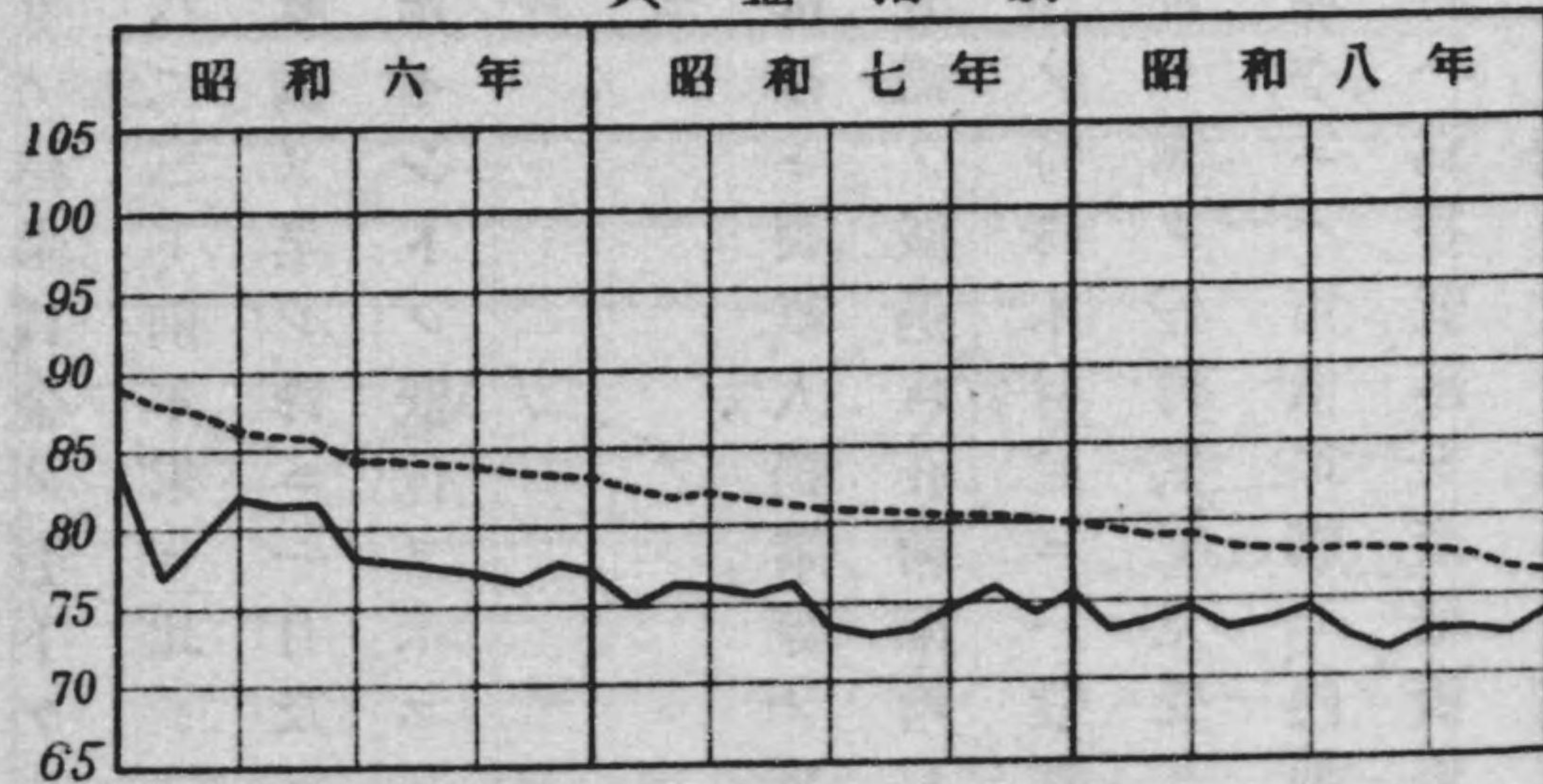
從テ勞働人員指數モ年初ニ於ケル續騰後五月以降落勢ニ轉シタルモ、八月以來再

製材家具工業

勞働人員指數



賃金指數



モ大勢軟調ヲ辿リ年末七三・九ト前年末ニ比較シ一九ポイントノ低下ヲ告ケタリ。

ヒ強調ヲ呈シ十一月ニ於ケル反落ニ拘ラス年末七四・六ト前年末ニ比較シ一・四ポイントノ上昇ヲ見タリ、次ニ賃金指數ヲ觀ルニ、定額賃金ハ前年同様低下傾向ヲ辿リ、年末七六・二ト前年末ニ比較シ三八ポイントノ低位トナリ、實收賃金亦一月ニハ季節關係旁二・七ポイントト稍目立ちタル低落ヲ示シ、其後

其他ノ事業

前掲以外ノ十一業種ニ就イテ見ルニ、大體前年來爲替安ニ因ル内地市場ノ擴大ト輸出方面ノ實績好轉ノ爲メ好況ヲ呈シ、從テ年末勞働人員指數ヲ前年末ト比較センカ人造絹絲製造其他、染料塗料顏料、紡織機附屬品、帽子製造、化粧品、製網製網等ノ業種ハ各一割以上ノ激騰ヲ演シ、其他ノ業種亦一齊ニ上伸ヲ告ケタルカ、他方賃金指數ハ、定額賃金ニ在リテハ被服裁縫品、紡織機附屬品、製網製網、皮革製品ノ四業、實收賃金ニ於テハ製網製網、紡織機附屬品ノ二業カ夫々上騰セル以外孰レモ低下ヲ示シタリ。今之等ノ事業ニ就イテ昭和八年中ニ於ケル指數ノ騰落割合ヲ示セハ左ノ如シ。

事業別	勞働人員	定額賃金	實收賃金
總計	+ 七・七%	- 三・四%	- 二・四%
人造絹絲製造其他	+ 三一・二	- 一・一	- 〇・八
製革製品	+ 九・八	- 一・一	- 二・〇
化粧品	+ 一一・九	- 二・九	- 一〇・〇
染料塗料顏料	+ 二四・五	- 一・七	- 五・六
皮革製品	+ 三・一	- 一・二	- 三・六
製網製網	+ 一〇・二	+ 一・四	+ 一・七
被服裁縫品	+ 六・五	+ 二・八	- 九・八

帽子製造	+ 一四・二	-	-	四〇
紡織機附屬品	+ 一八・五	+ 二・三	-	九・三
文房具	+ 三・〇	- 四・六	-	三・一

第三 地方別概況

一般事業界ノ概況ハ大體前述ノ如クナルカ、今之レヲ本統計調査上ノ地方別ニ就キテ觀察センニ、事業分布狀況ノ相異其他ニ依リ各地方ニ於ケル事情ノ推移軌ヲ一ニセサルモノアリ、左ニ昭和八年末現在ニ依リ各地方別ノ主要工業従業人員割合ヲ表示スヘシ。

地方	繊維工業	機械工業	化學工業	其他	合計
京濱地方	二二%	四七%	一二%	一八%	一〇〇
阪神地方	四七	二八	一三	一二	一〇〇
名古屋地方	六九	一六	九	六	一〇〇
北九州地方	二三	三四	二二	二一	一〇〇
其他ノ地方	七〇	一一	一〇	九	一〇〇

各地方ニ於ケル主要工業ノ占ムル割合ハ前表ノ如クニシテ、京濱地方ニ於ケル機械工業、阪神地方及名古屋地方ノ繊維工業、北九州地方ノ機械工業、其他ノ地方ノ繊維

工業ハ各夫等地方ニ於ケル主要産業トシテ確固不動ノ地歩ヲ占メツ、アルコト明カナルカ、最近重工業方面ノ殷盛ニ伴ヒ、京濱、阪神、名古屋ノ各地方ニ於ケル機械工業ノ割合ハ上昇ヲ告ケ、又人絹業ノ發達ニ伴レ其他ノ地方ニ於ケル繊維工業ノ割合亦上騰ヲ示セルハ顯著ナル事實ニシテ注目ヲ要スル所ナリ。
更ニ昭和八年末現在ニ依リ各地方別ノ労働人員及賃金指數ノ前年末比較騰落割合ヲ示セハ左ノ如シ。

地方	労働人員指數	定額賃金指數	實收賃金指數
京濱地方	+ 一一・四%	- 二・四%	- 〇・八%
阪神地方	+ 九・九	- 二・六	+ 〇・七
名古屋地方	+ 一三・九	- 〇・九	+ 二・一
北九州地方	+ 八・〇	- 三・四	- 七・五
其他ノ地方	+ 一一・七	- 二・九	+ 〇・二

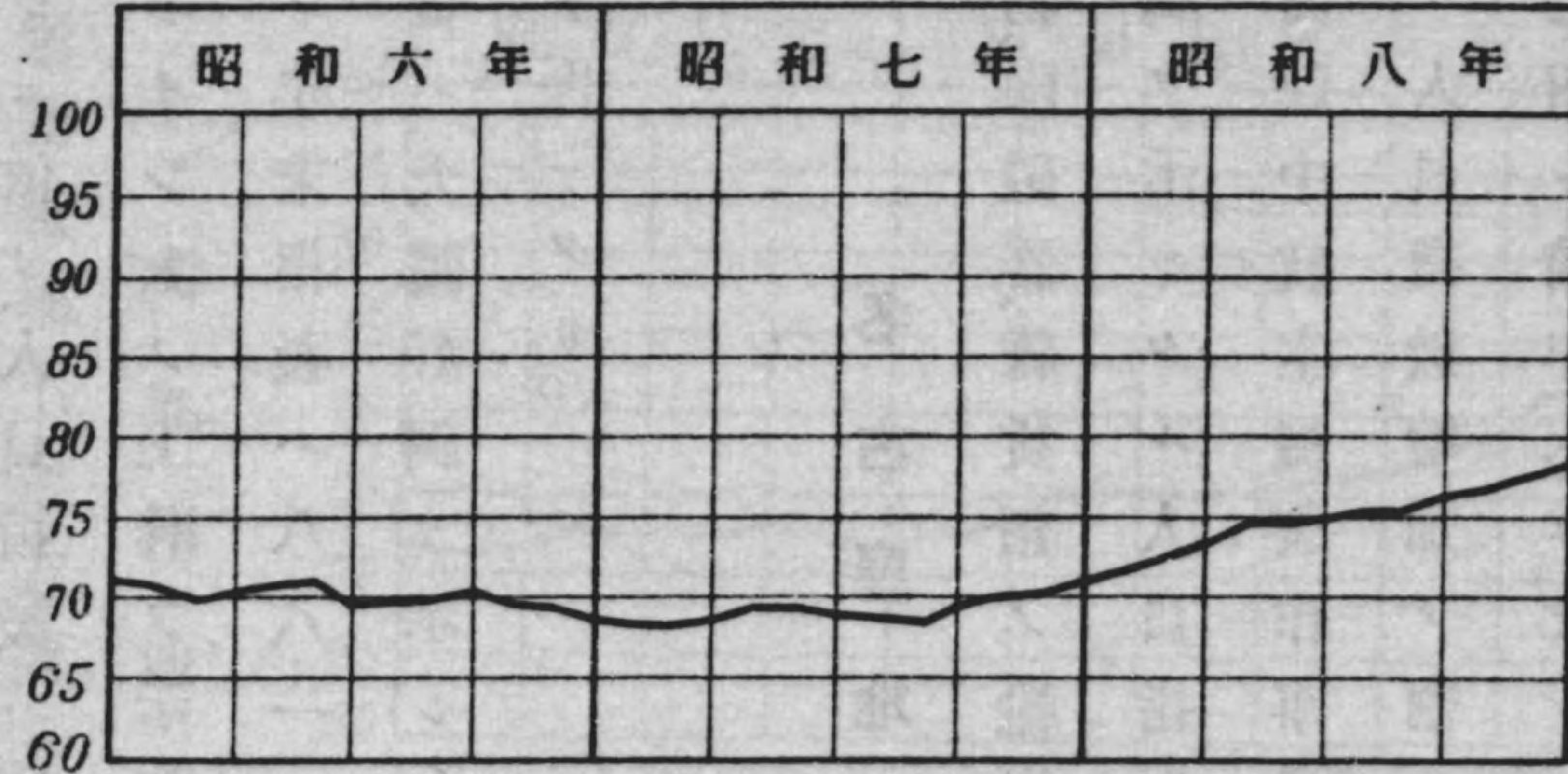
之ヲ概觀スルニ労働人員指數ハ各地方ヲ通シ一齊ニ奔騰ヲ演シタルカ、定額賃金指數ハ之ニ反シ孰レモ低下シ、實收賃金指數ハ騰落約半セルヲ見タリ。

京濱地方

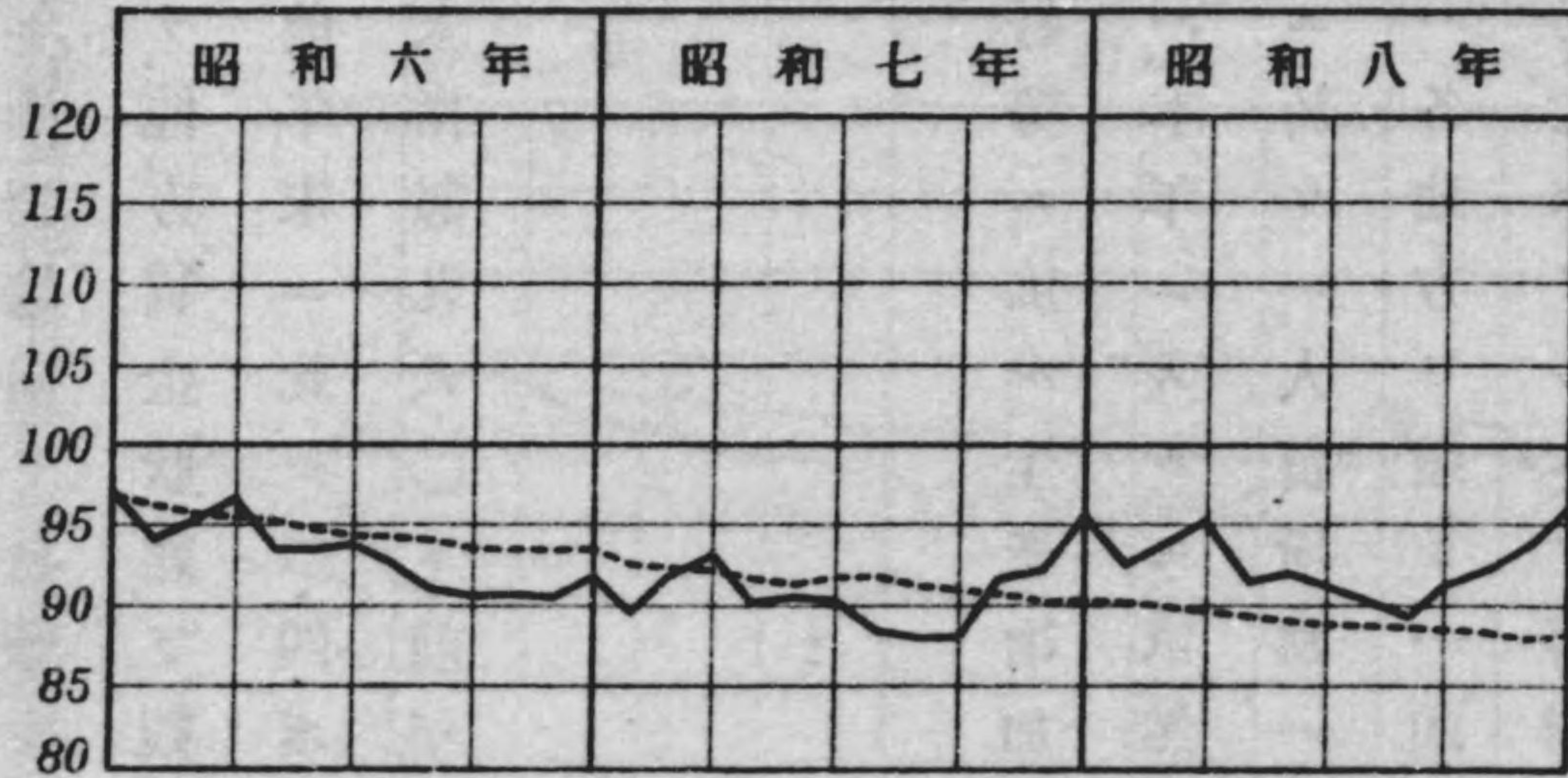
當地方ニ於ケル人員指數ハ重工業方面ノ殷盛ヲ反映シテ前年八月以降上昇歩調

阪 神 地 方

労働人員指數



賃金指數



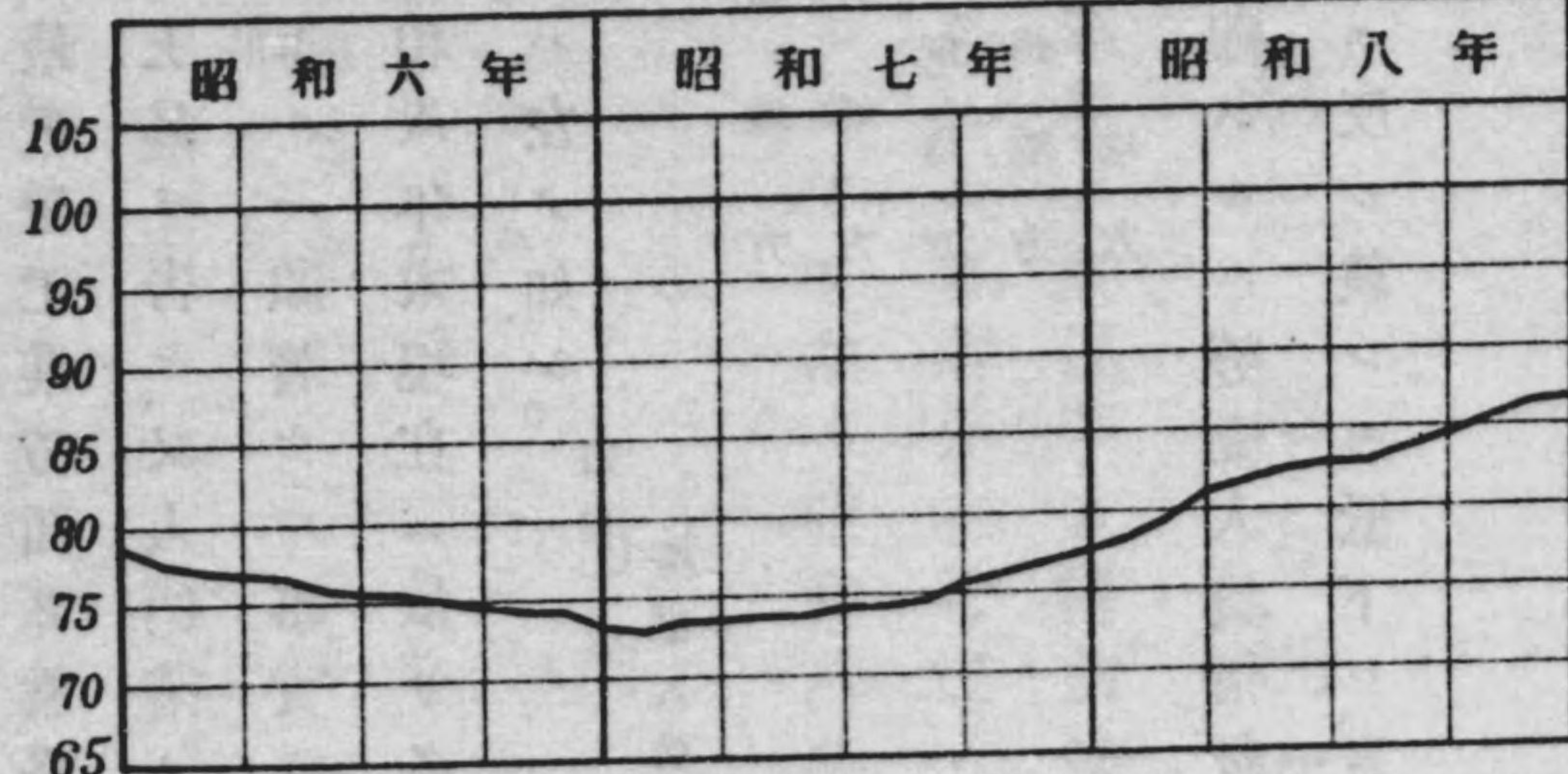
セラレ、實收賃金亦季節的騰落ノ裡ニモ大體前年來ノ好調ヲ支持シ年末指數ハ一〇八・一ト前年末ニ比シ〇・九ポイントノ微落ニ止マレリ。

阪 神 地 方

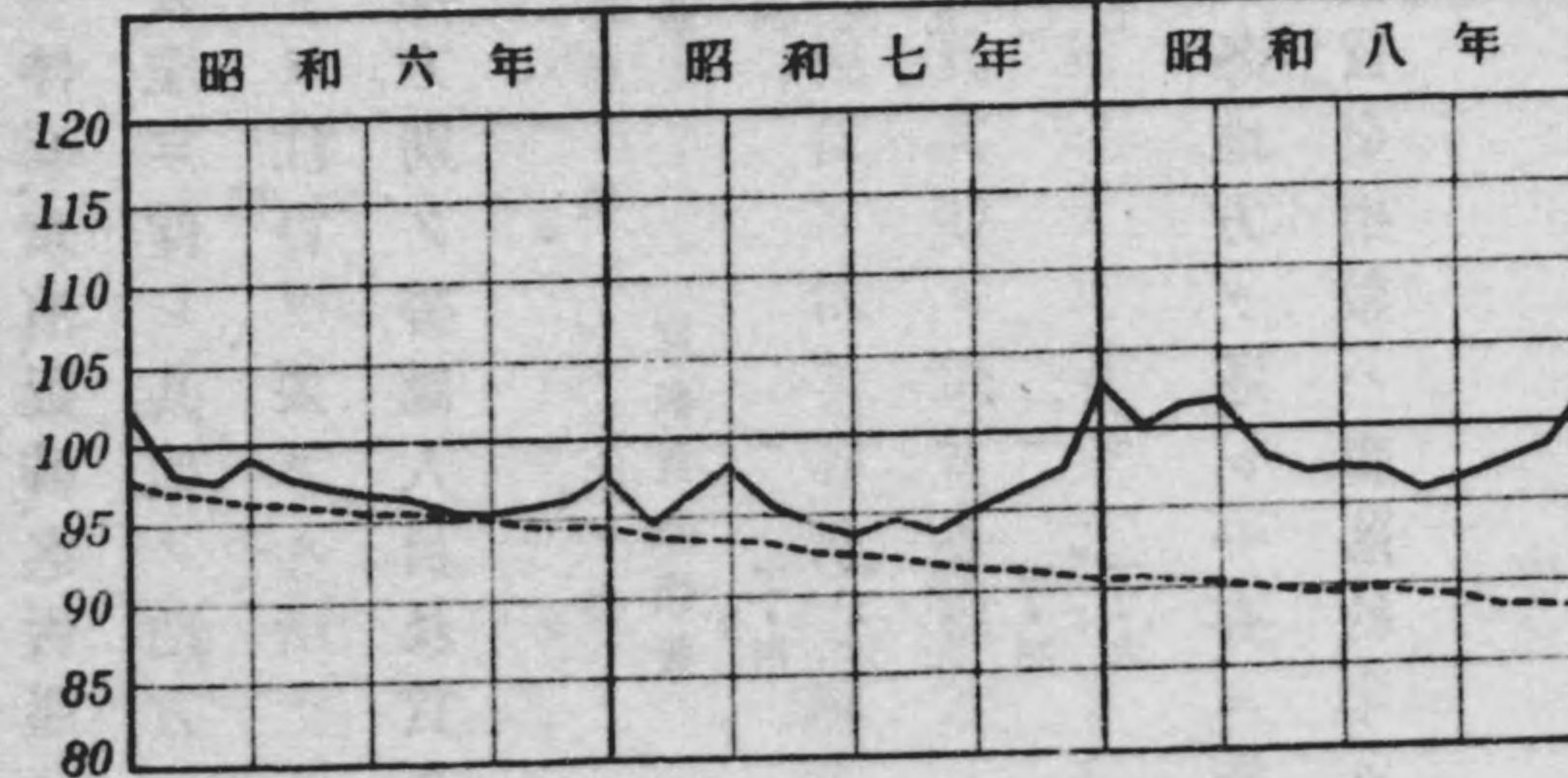
當地方ノ重要産業タル綿業界ハ海外諸方面ニ於ケル邦品進出防禦策ニ因リ頗ル多難ナル經過ヲ辿リタルモ、産額ハ却ツテ激増ヲ見、増錘モ前年ニ引續キ行ハレタル等ノ爲此方面ニ於ケル従業員數相應増加シタル外、機械工業及化學工業方面ノ業況亦順

京 濱 地 方

労働人員指數



賃金指數



ントノ低下ヲ示セルモ之ヲ前年ノ低下三・七ポイントニ對比スレハ落勢ハ相應緩和

ニ轉シタルカ、本年ニ入リテハ其傾向益顯著トナリ指數ハ累月上進シ年末ハ八六・六

ト前年末ニ比シ八・九ポイントノ上昇ヲ告ケ、之ヲ前年ノ四・一ポイントニ比較センカ二倍以上ノ上騰ヲ見ルニ至レリ、是當地方ノ主要業種タル機械工業カ通年順調裡ニ經過セルヲ語ルモノト見ルヘシ、次ニ賃金指數ヲ觀ルニ定額賃金ハ依然低下傾向ヲ免レズ、年末指數ハ八八・五ト前年末ニ比シ二・二ポイ

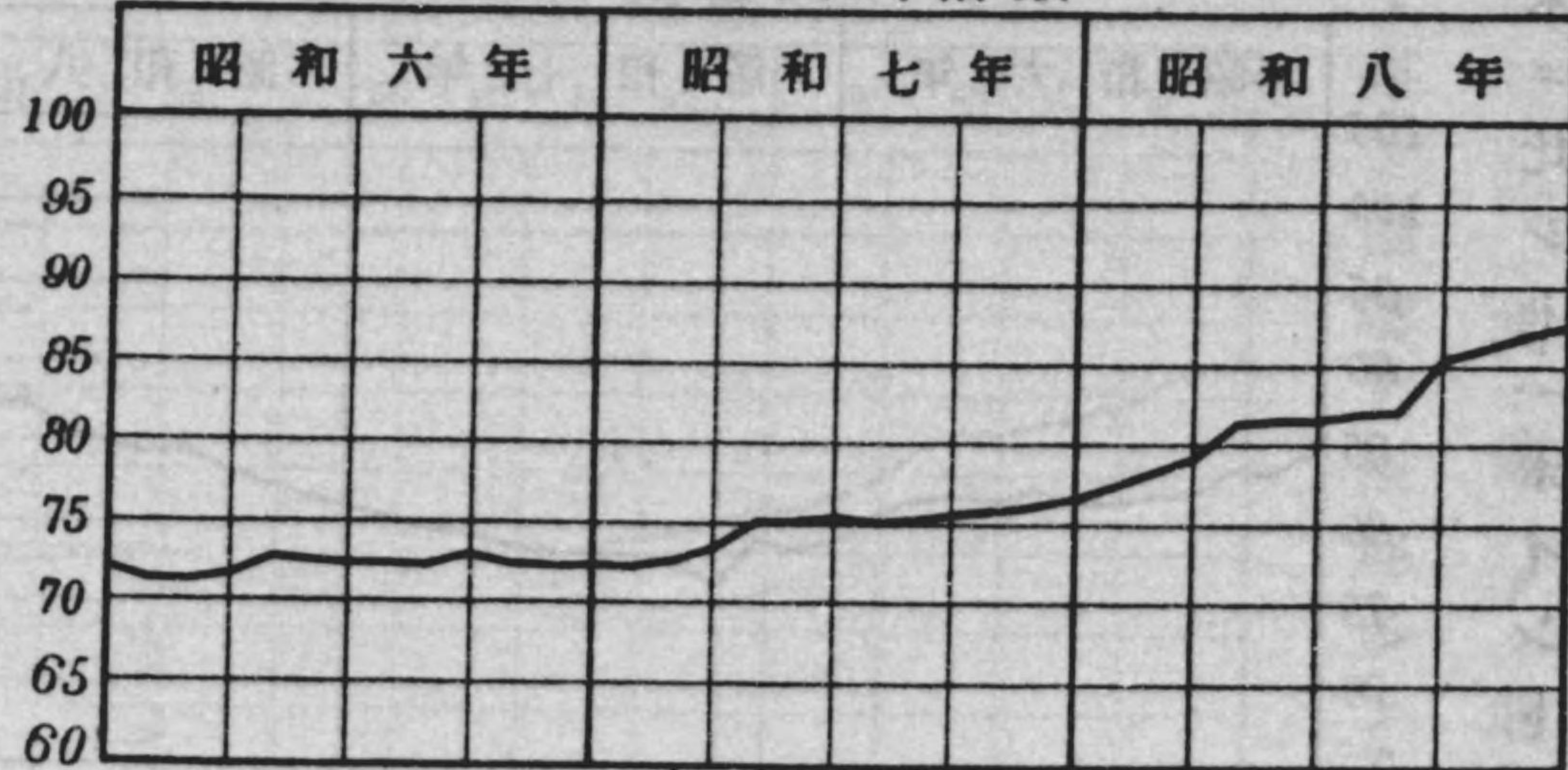
調ナリシニ依リ、人員指數ハ通年漸騰趨向ヲ持續シ年末七八・二ト前年末ニ比シ七一ポイントノ上昇ヲ示セリ、他方賃金狀態ヲ觀ルニ定額賃金ハ依然漸落ヲ免レス年末指數ハ八八・一ト前年末ニ比シ二・四ポイントノ低下ヲ見タルカ、實收賃金ハ大體好調ヲ示シ年末指數九六・〇ト前年末ニ比較シ〇・七ポイントノ上騰ヲ告ケタリ。

名古屋地方

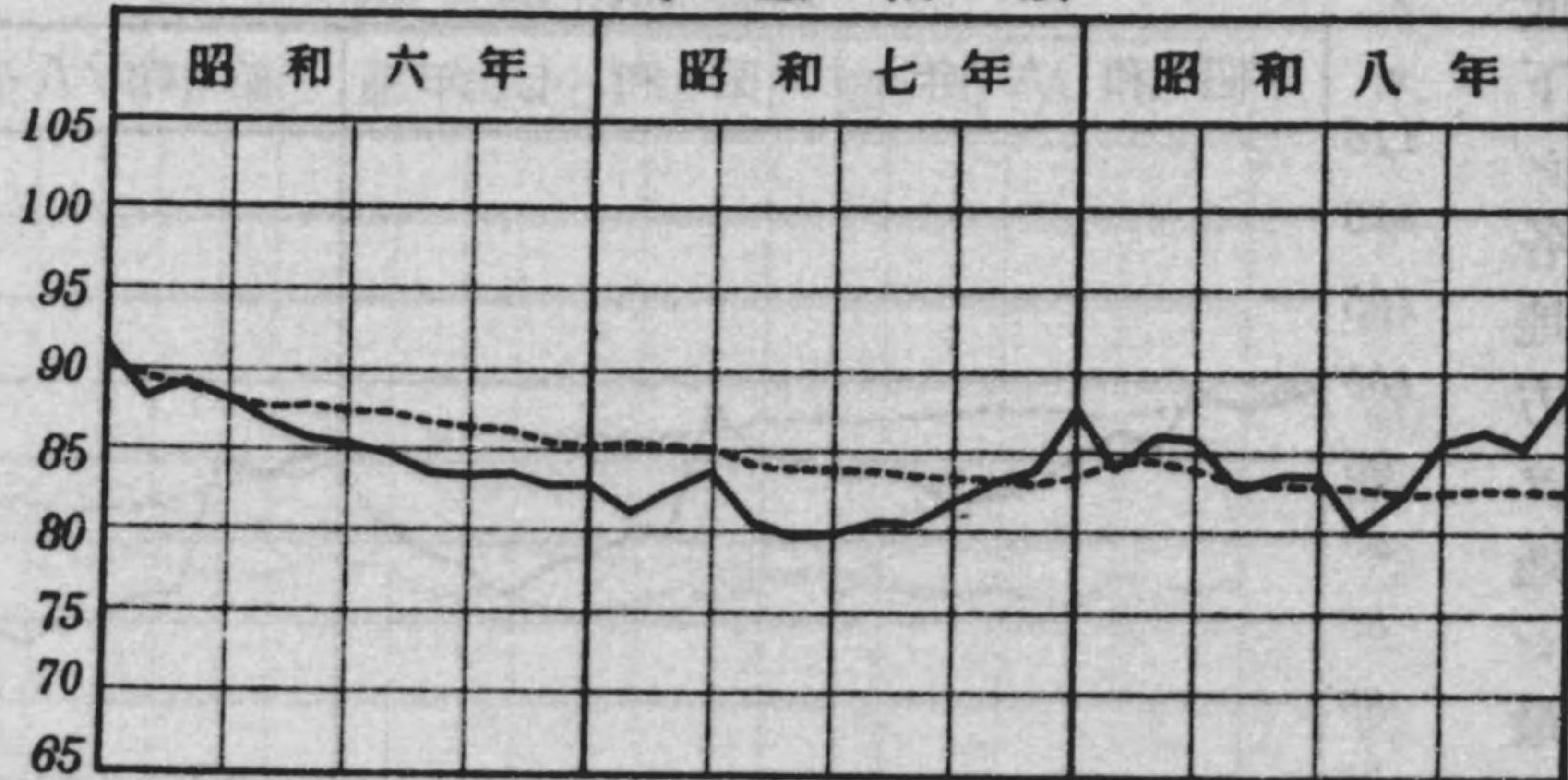
綿織物、陶磁器、雜貨類ノ輸出好勢ニ依ル生産増加ヲ反映シテ前年春季以降漸騰歩調ヲ示シタル人員指數ハ、本年ニ入ルモ依然騰勢ヲ續ケ特ニ秋季機械工業方面就中航空機製作事業ニ於ケル人員増加ハ頗ル顯著ニシテ、機械工業ニ於ケル人員指數増加ノ割合ハ各地方ヲ通シ一頭地ヲ抜ケルモノアリ、年末指數八七・四ト前年末ニ比シ一〇・七ポイントノ奔騰ヲ演出シタリ、他方賃金指數ヲ見ルニ定額賃金ハ依然漸落歩調ヲ革メサルモ年末指數八二・九ト前年末ニ比シ〇・八ポイントノ微落ニ過キスシテ各地方ヲ通シ最少ノ低落ヲ示シ、實

名古屋地方

労働人員指數



賃金指數



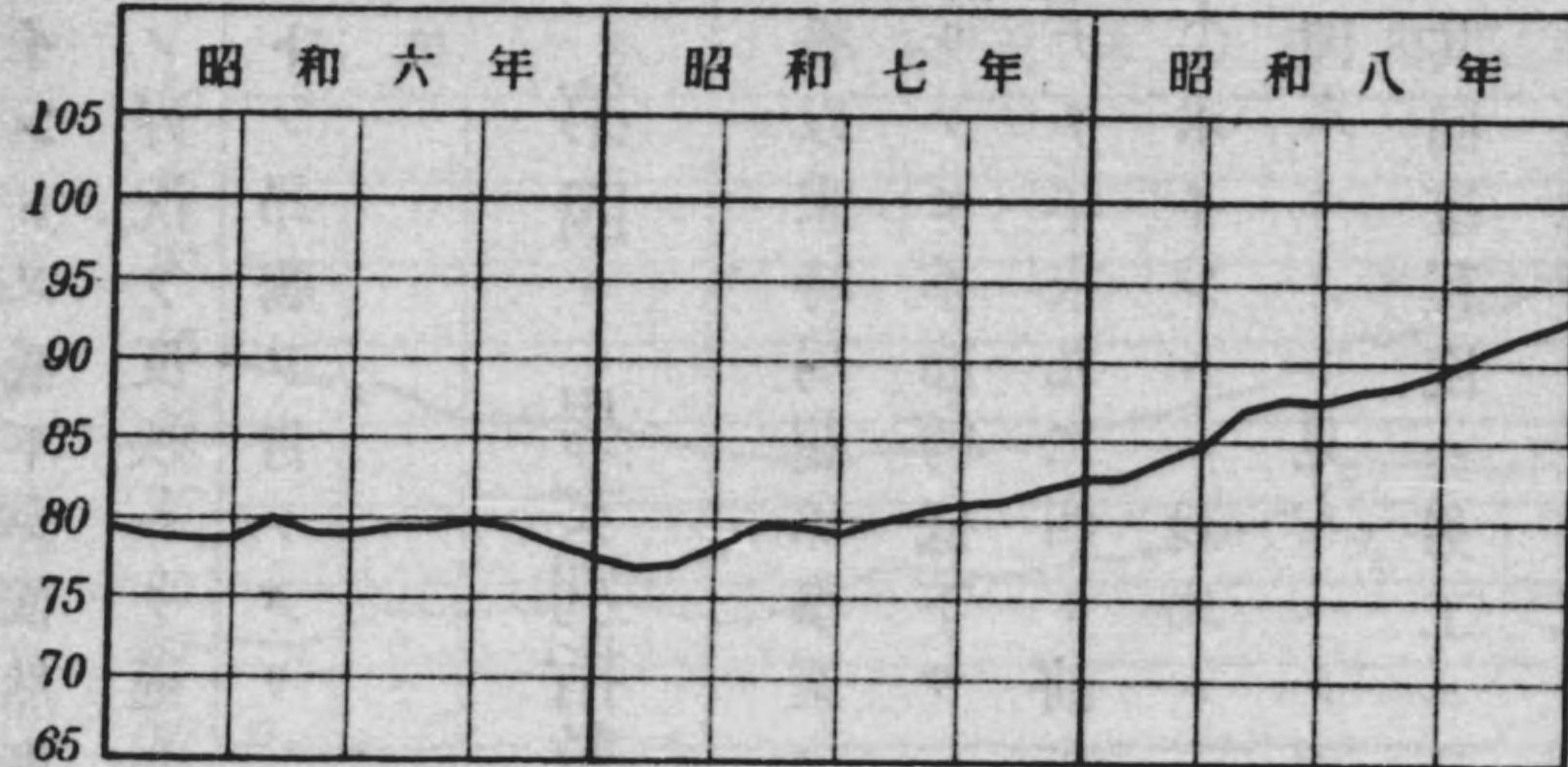
收賃金亦年末指數八九・三ト前年末ニ比シ一・九ポイントヲ昂騰シ上騰率ハ各地方ヲ通シ首位ヲ占メタリ、右人員及賃金兩指數ノ推移ヨリ見テ當地方事業ハ各地方中最モ好調ヲ示セルモノト言フヲ得ヘシ。

北九州地方

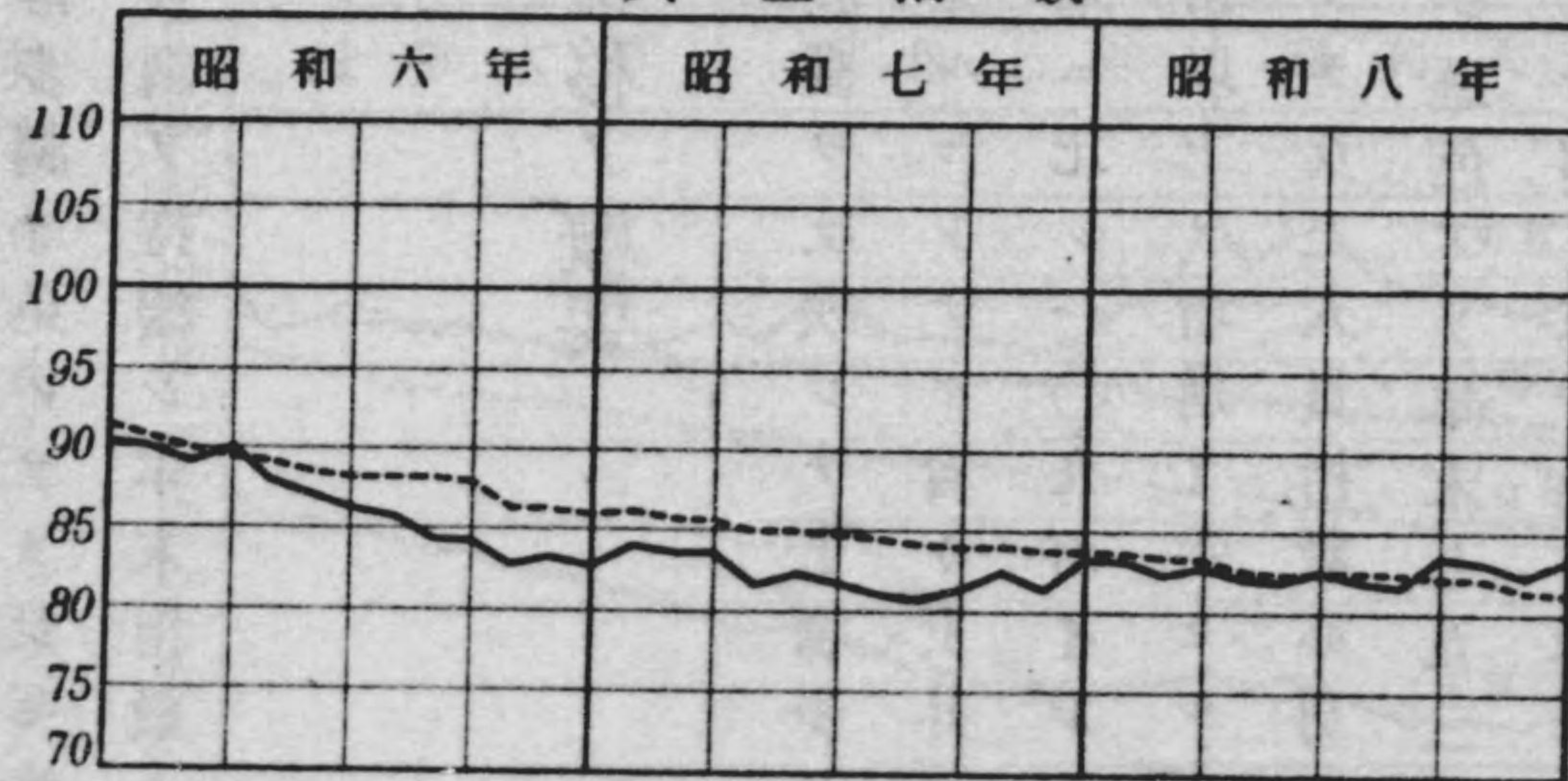
機械工業及化學工業方面ノ活況ニ伴ヒ前年下季以降強調ヲ示シタル人員

其他ノ地方

労働人員指數



賃金指數



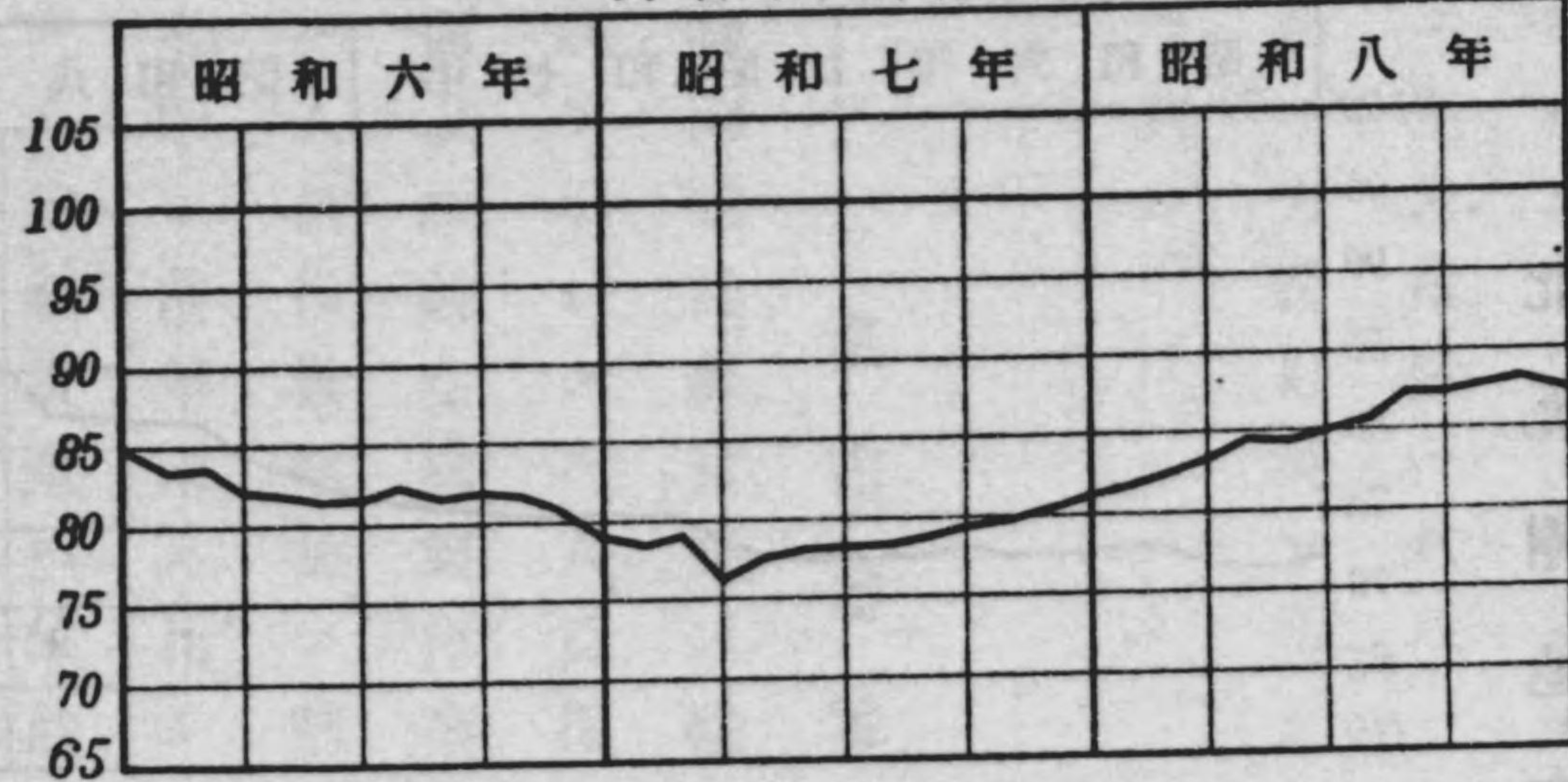
其他ノ地方

繊維工業カ優越ナル地歩ヲ占メツ、アル當地方ニ於テハ最近人絹業ノ活況ニヨ

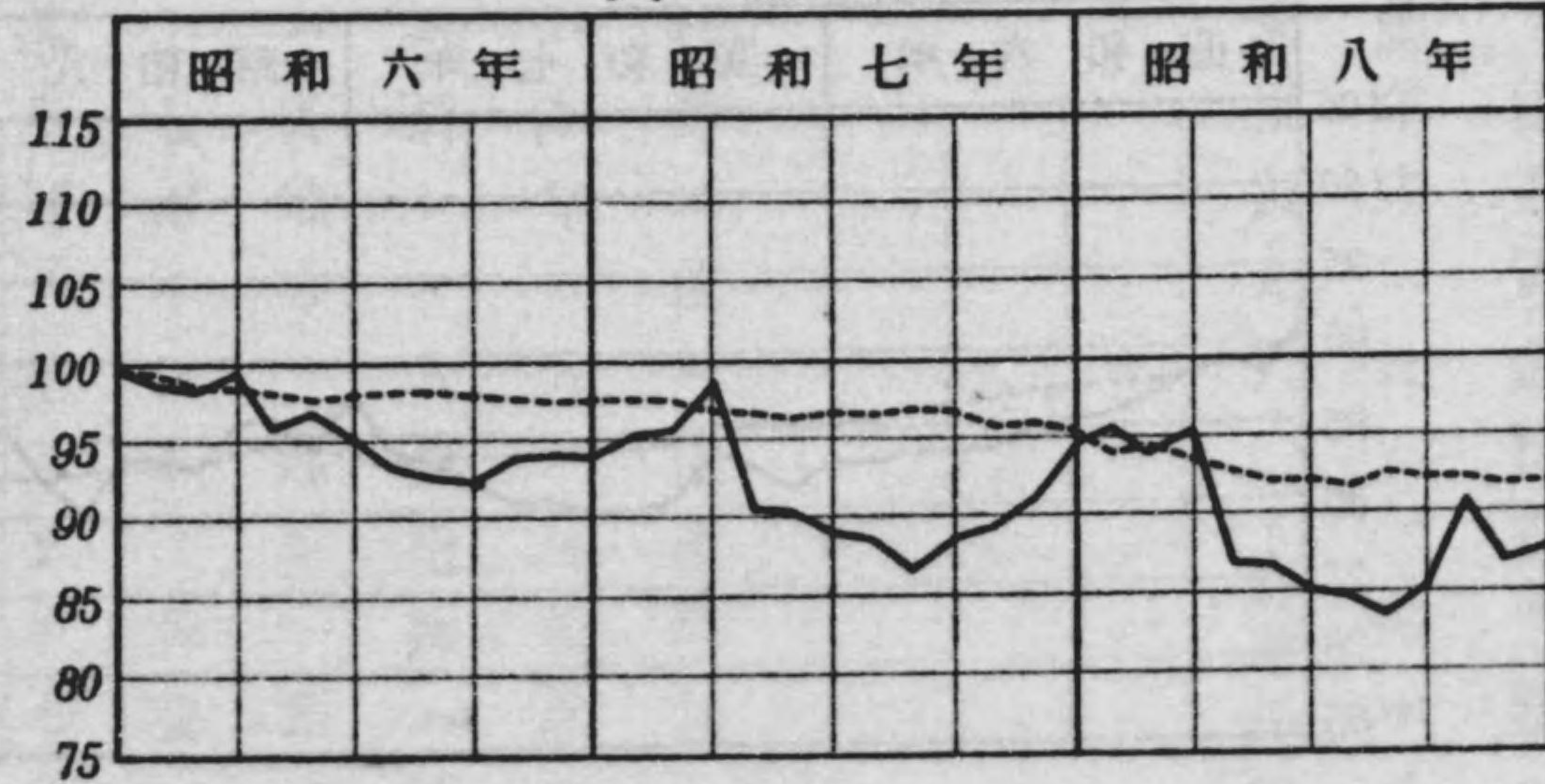
リ人員増加ヲ見タルニ加ヘ、時局關係ヲ承ケテ重工業方面ニ於ケル人員増加亦相應看過スヘカラサルモノアリ、人員指數ハ前年下季以降ノ騰勢ヲ續ケ年末九二・四ト前年末ニ比シ九七・ポイントヲ上昇シ、上騰率ニ於テハ名古屋地方ニ次キテ第二位ヲ占メタリ、又定額賃金ハ年末指數八一・四ト前年末ニ比

北九州地方

労働人員指數



賃金指數



ト前年末ニ比シ七一ポイントヲ低下シ各地方ヲ通シ最モ著シキ落調ヲ示セリ。

ト前年末ニ比シ六・五ポイントノ上昇ヲ示セリ、次ニ賃金指數ヲ觀ルニ定額賃金ハ依然漸落ノ一途ヲ辿リ年末指數九二・〇ニシテ前年末ニ比シ三・三ポイントト前年以上ノ低落ヲ見、實收賃金亦重工業方面ニ於ケル好調ニ拘ラス雜工業方面ノ不勢ニ依リテ大體前年ニ比シ軟勢ヲ免レス、年末指數ハ八七・五

指數ハ、本年ニ入ルモ是等方面業況ノ繁盛ニ伴レテ大體上騰歩調ヲ續ケ年末八七・六

シニ五ポイントヲ低下シ依然漸落歩調ヲ免レサリシモ、實收賃金ハ纖維工業及化學工業方面ノ好況ヲ反映シテ通年強調ヲ持續シ年末指數ハ八三・六ト前年末ニ比シ〇・二ポイントノ昂騰ヲ告ケタリ。

第四 男女別指數推移ノ概要

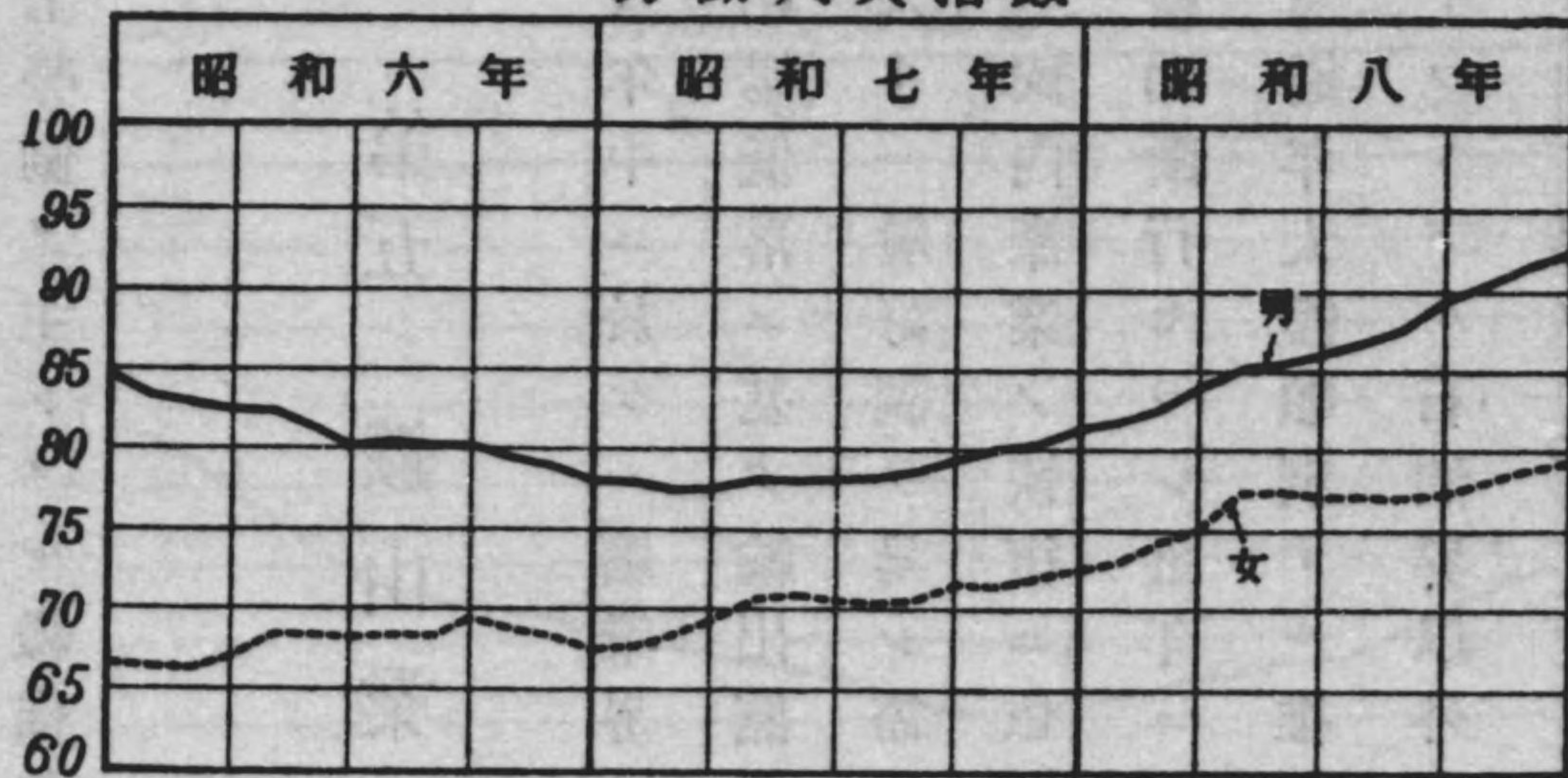
前年下季以來時局關係事業ノ殷盛ヲ反映シテ上騰歩調ヲ迎レル男工人員指數ハ、本年ニ入りテモ季節的低下サヘ見ルコトナク着々上昇ヲ續ケ、十月ニハ八〇臺ヨリ九〇臺トナリ年末九二・四ト前年末ニ比シ一〇・九ポイントノ奔騰ヲ告ケ、前年ニ於ケル上昇三・〇ポイントニ對比シ三倍以上ノ増進ヲ示セルカ是ハ主トシテ重工業方面ノ好調ニ因ルモノト見ルヘシ而シテ女工人員指數亦男工同様通年大勢上昇歩調ニアリシモ其回復程度ハ男工ニ比シ遜色アリ年末七九・三ト前年末ニ比較シ六七ポイントノ上昇ニ止マレルカ之ハ女工労働ヲ主トスル纖維工業方面ノ業態カ重工業方面ニ於ケル順調ニ比シ一步ヲ輸スルノ實情ヲ反映セルモノト見ルヘシ。

次ニ賃金指數ヲ觀ルニ年末現在定額賃金ハ男工八五・〇、女工七八・八ト前年末ニ比

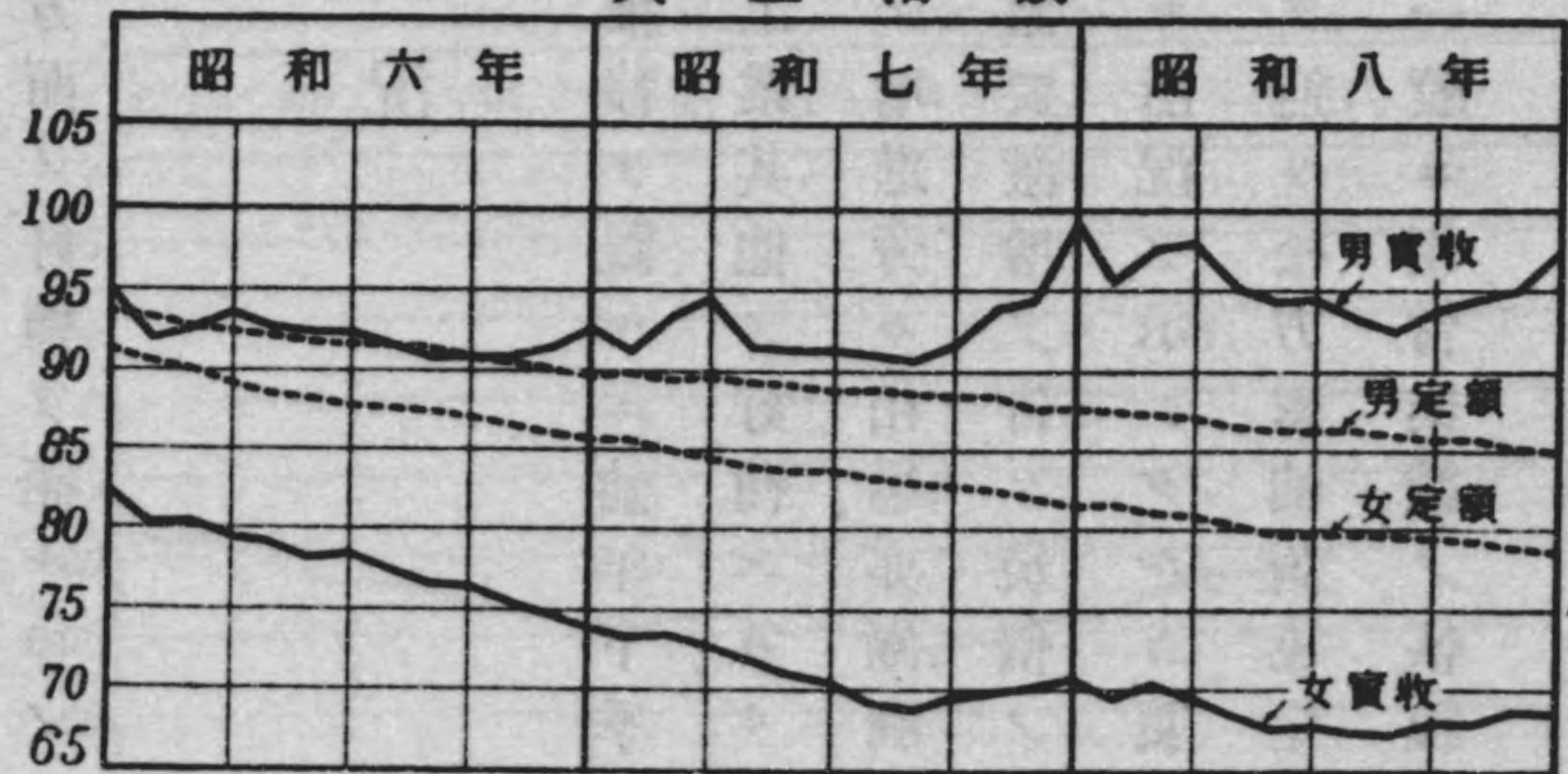
シ前者二・五ポイント、後者二・八ポイントヲ夫々低下シタルモ、女工指數ハ前年ニ比シ

男 女

労働人員指數



賃金指數



不尠落勢ヲ弱メタリ、實收賃金ニアリテハ前年下季以降重工業方面ノ殷盛ヲ反映シテ急騰シタル男工指數ハ季節的關係ニ依リテ上季中四〇ポイントヲ低下セシモ下季中三〇ポイントヲ回復シ結局年末九七・五ト前年末ニ比シ一〇・〇ポイントノ微落ニ止マリ又女工指數ハ男工指數ト對比スレハ高低ノ

幅狭ク狀勢前年以上ニ好轉シ、年末指數ハ六八・五ト前年末ニ比スレハ二・一ポイント

ノ低下ヲ示セルモ、之ヲ前年中ノ三三ポイントト比較セハ落勢相當緩和セラレタル
カ是女工労働ヲ主トスル纖維業方面ノ好轉ヲ語ルモノナルヘシ。

第五 鑛山業概況

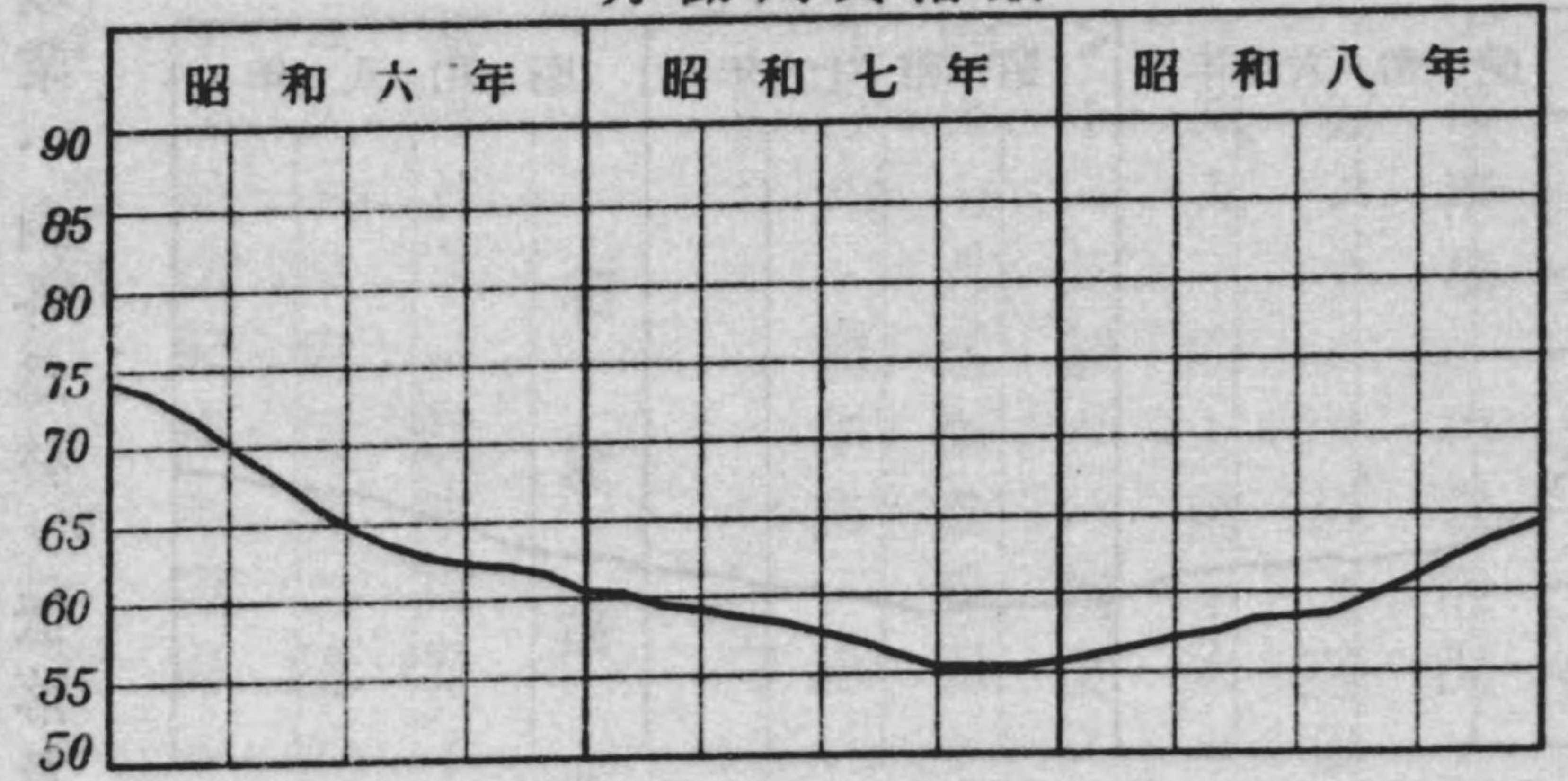
昭和八年中ニ於ケル鑛業界ノ推移ヲ觀ルニ、前年下季以來軍需品關係事業ノ活況
ト爲替相場低落ニ基ク輸出關係工業其他ノ好轉ニヨリ業況漸ク見直シタル斯界ハ、
本年ニ入り一層好調ヲ呈シ需要ノ増進旁々相場亦漸騰歩調ヲ續ケタリ、即チ石炭界
ニ於テハ國內産業ノ恢復ニ依リ需要激増ヲ告ケ炭價ノ昂騰著シク、數次ニ互リ送炭
調節ノ緩和斷行セラレ近年ニナキ活況ヲ示シタルカ、更ニ重要鑛産物タル金、銀、銅等
ノ業況モ通年大體順調ナル推移ヲ辿リ、松方露油對協定六社ノガソリン販賣戰ニ不
安ヲ啣チツ、アル石油界以外ハ一般ニ相當業績ノ恢復ヲ認メラレ大勢好調裡ニ經
過スルコトヲ得タリ。

從ツテ鑛山労働人員指數ハ右ノ情勢ヲ反映シ本年ニ入ルモ依然タル騰勢ヲ續ケ

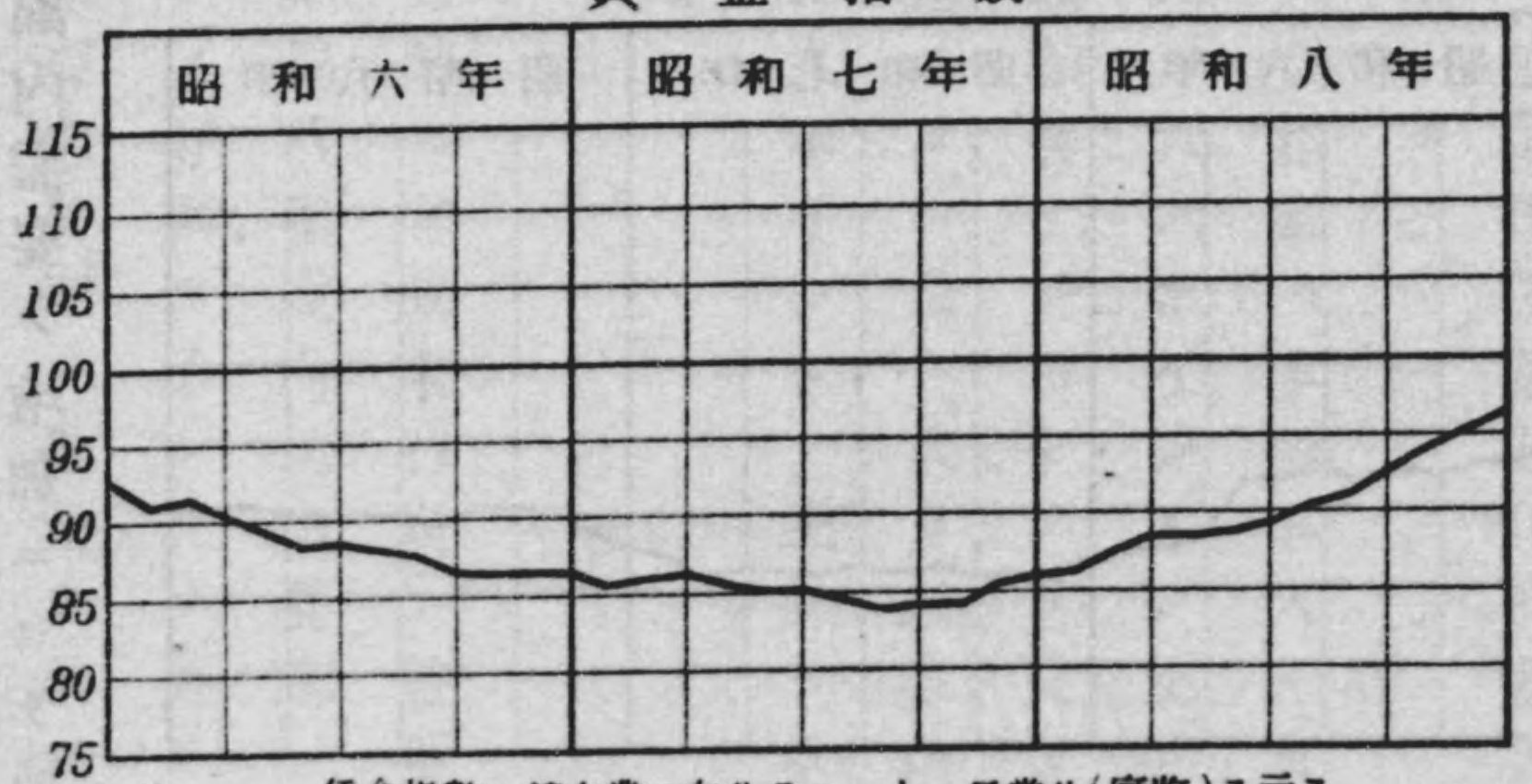
年末六四・四ト前年末ニ比シ八・六ポイントノ上昇ヲ告ケタルカ、之ヲ前年中ノ低下五

總 指 數

労働人員指數



賃金指數



賃金指數ハ鑛山業ニ在リテハ一人一日當リ(實收)ヲ示ス

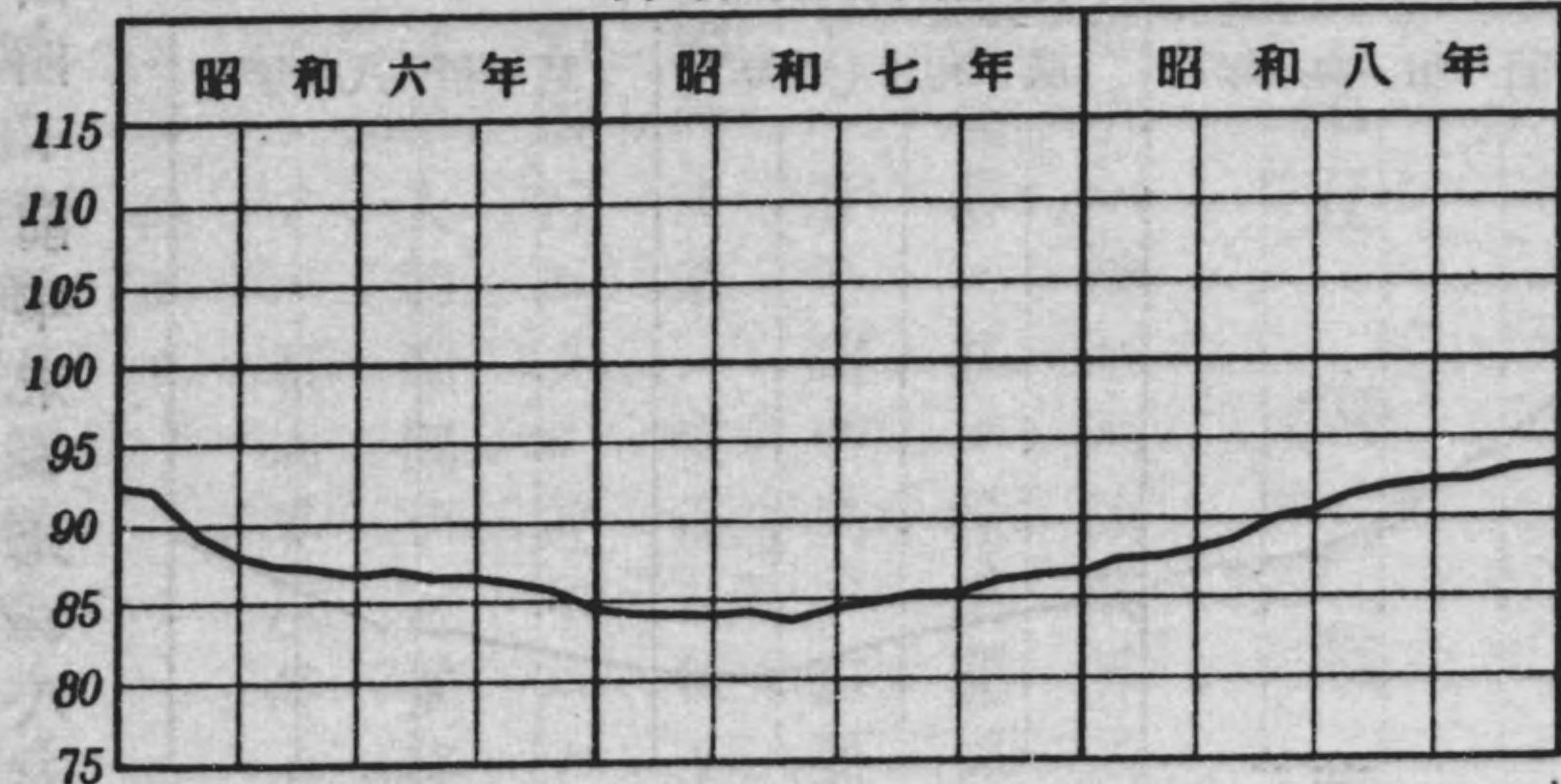
下〇七ポイントニ比較セハ業況ノ改善相當顯著ナルヲ知ルヘシ。

○ポイントニ比較セ
ンカ情勢轉換ノ程度
ヲ窺フニ足ルヘク、過
去三年間ニ互ル低下
傾向ヲ一變スルニ至
レリ、次ニ實收賃金指
數ヲ觀ルニ略人員指
數ト同一傾向ヲ辿リ、
四月ノ保合以外ハ逐
月上騰歩調ヲ呈シ年
末遂ニ九六・三ト前年
末ニ比シ一〇・三ポイ
ントノ昂騰ヲ示シタ
ルカ之ヲ前年中ノ低

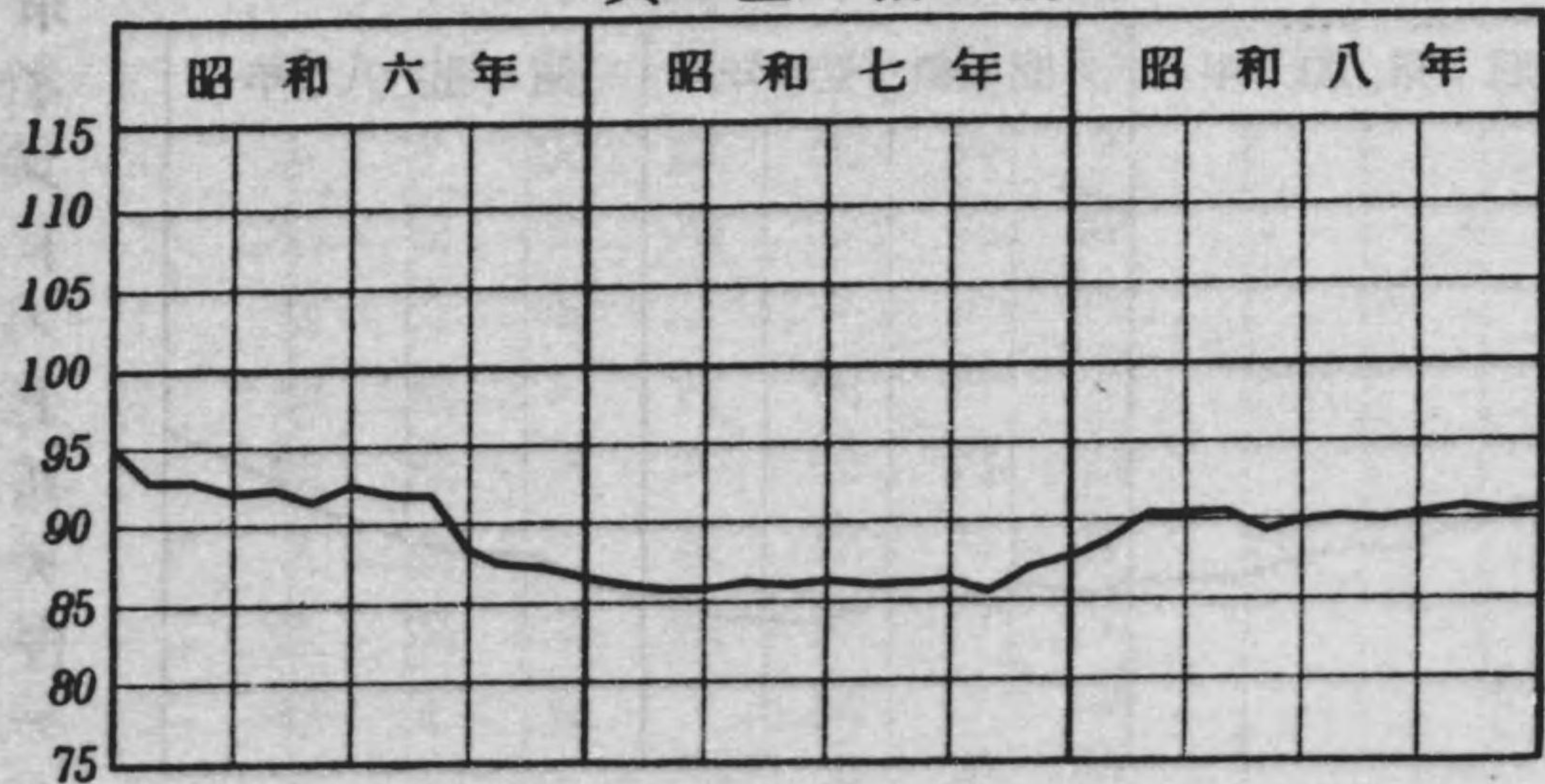
金屬鑛業ハ對外爲替ノ低落及國內需要ノ増加ニヨリ通年大體ニ於テ良好ナル經

金屬鑛業

勞働人員指數



賃金指數



過ヲ辿リタリ、即チ本邦金屬鑛業中ノ主要産品タル銅ハ一般事業界ノ好轉ト軍需品關係方面ノ活況ニ需要旺盛ヲ加ヘ、相場モ米銅高旁々漸騰傾向ヲ告ケ、水曜會建値ノ如キ年初ニハ七十圓臺ナリシモ、六月ニハ八十六圓臺ヲ唱フルニ至リタルカ、秋季以降對米爲替ノ昂騰ト米國市場ノ不味ニ低落シ幾分

不勢ヲ呈シタリ、尙金ハ海外ニ於ケル價格ノ昂騰ニ刺激セラレ終始強調ヲ續ケ、又銀モ大勢強含ミノ狀ヲ辿リ其他ノ金屬亦爲替關係ト時局關係トニヨリ需要増加ノ狀勢ニシテ市價漸騰シ相當活況ヲ示シタリ。

事情右ノ如クナルヲ以テ勞働人員指數ハ本年ニ入ルモ依然前年末以來ノ上騰歩調ヲ續ケ、年末九三・四ト前年末ニ比シ六六ポイントノ上昇ヲ告ケ、之ヲ前年中ノ上昇二三ポイントニ比較セハ恢復ノ狀顯著ナルモノアリ、又實收賃金指數ハ年初來五月ノ低下ヲ除キ七月迄漸騰歩調ヲ辿リタル爲メ、八月以降稍軟調氣配ヲ示シタルニ拘ラス年末九〇・九ト前年末ニ比シ二九ポイントノ上昇ヲ示シタリ。

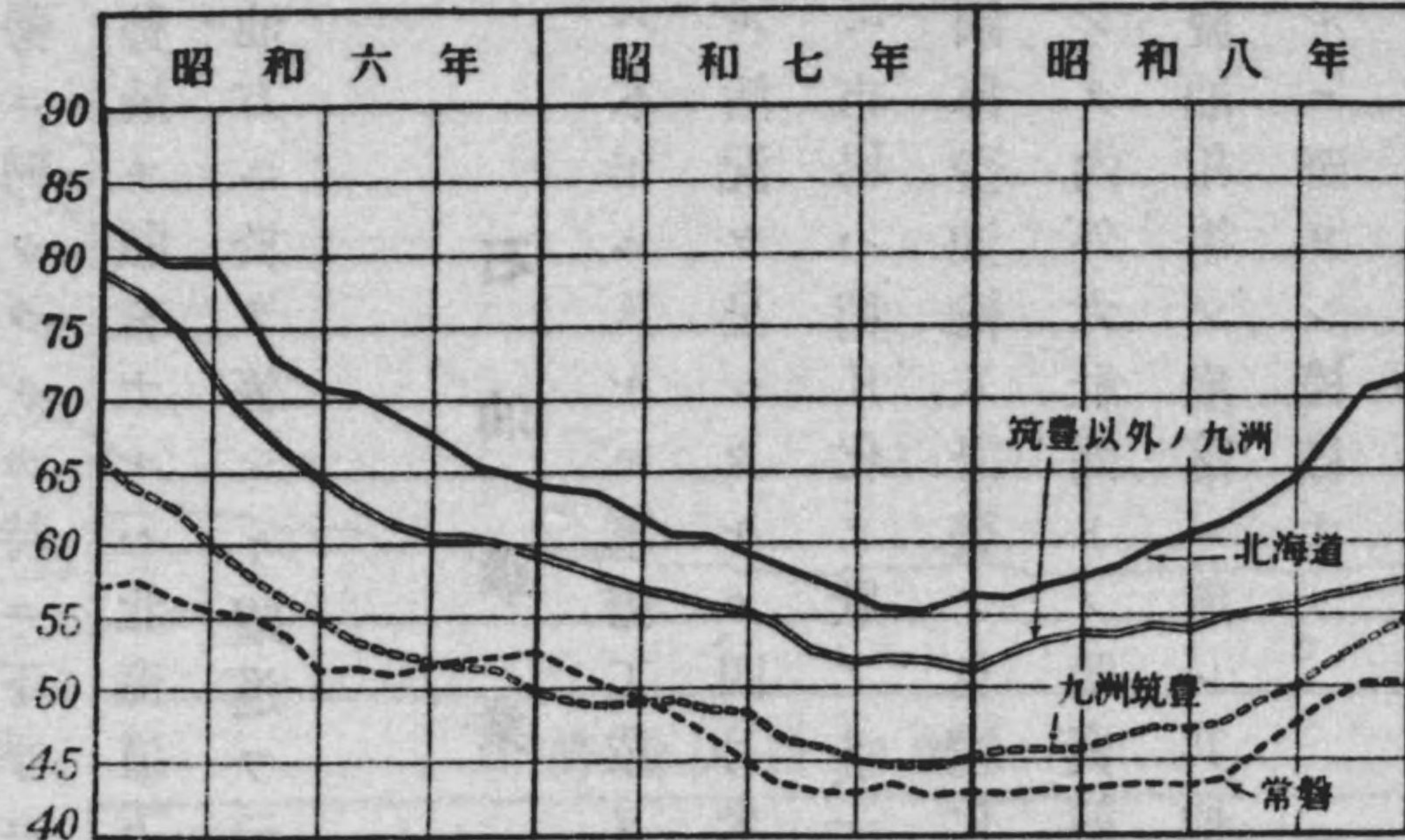
石炭鑛業

軍需工業ヲ首メ一般事業界ノ好轉ニ年初來石炭ノ需要ハ極メテ旺盛ニシテ、夏枯不需要期ニ入ルモ尙増勢ヲ續ケ、結局八年度内地消費高ハ三千萬噸ヲ超ヘ最近十箇年間ニ於ケル最高記録ヲ現出スルノ好調ヲ示シタリ、從テ年中送出炭高ノ如キモ二千七百八十二萬噸ト前年ニ比シ四百六萬噸ノ激増ヲ示シ、貯炭高ノ減少甚シク三月末ニハ百十萬噸臺ニ陥リタル爲メ、七、八、九月ノ三回ニ互リ送炭制限ノ緩和ヲ行ヒ三

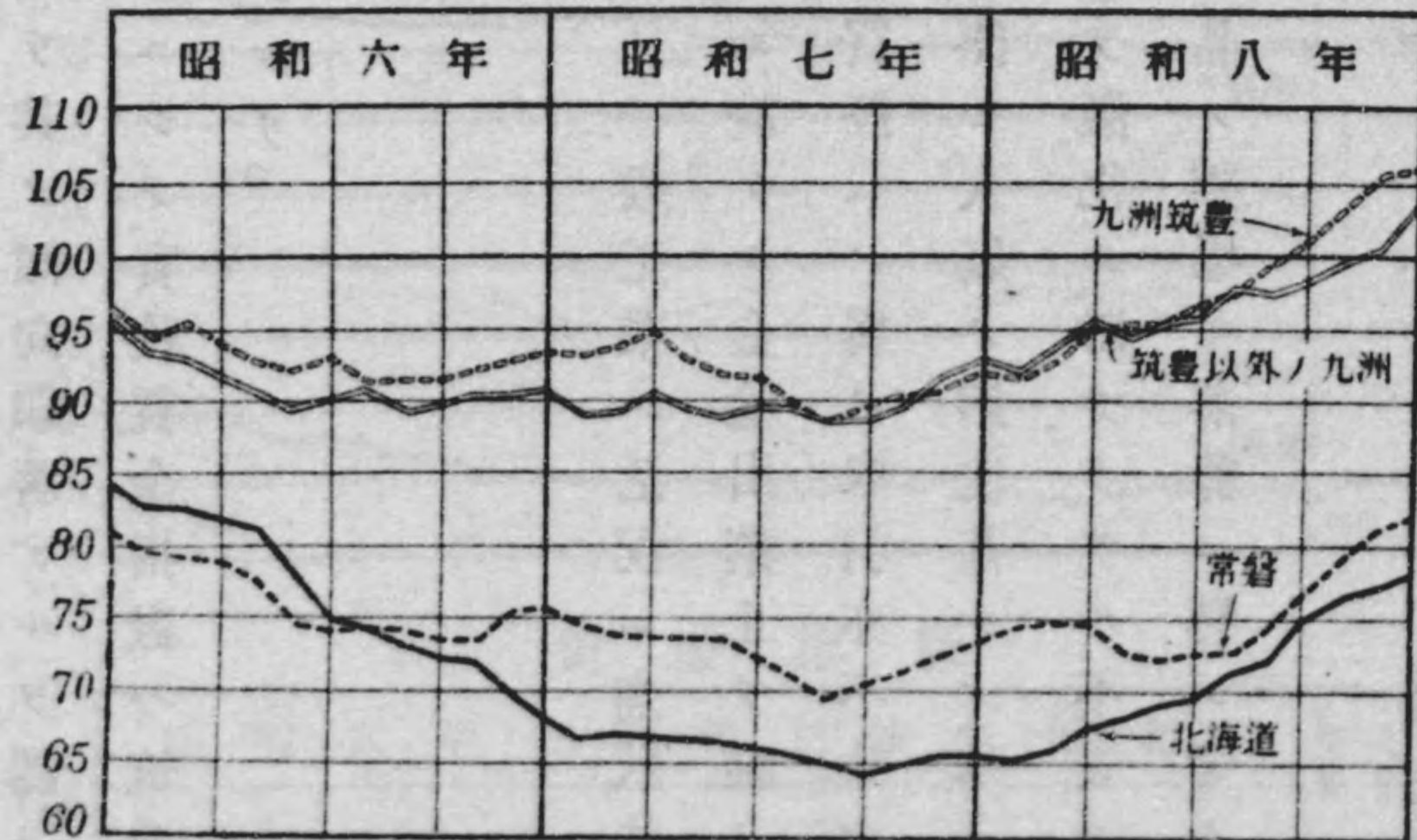
ヲ一轉スルニ至レリ。

石炭鑛業地方別

労働人員指數



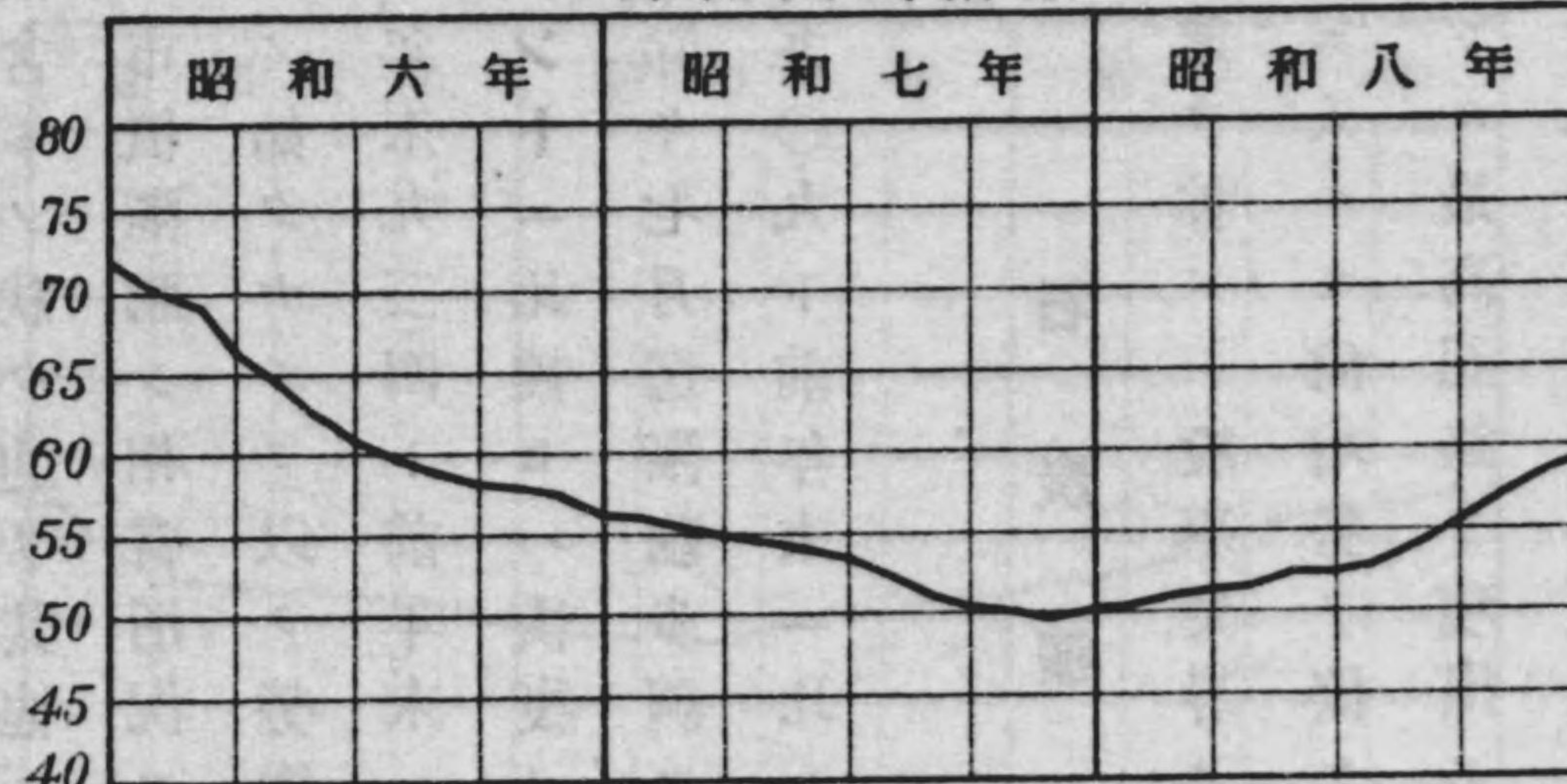
賃金指數



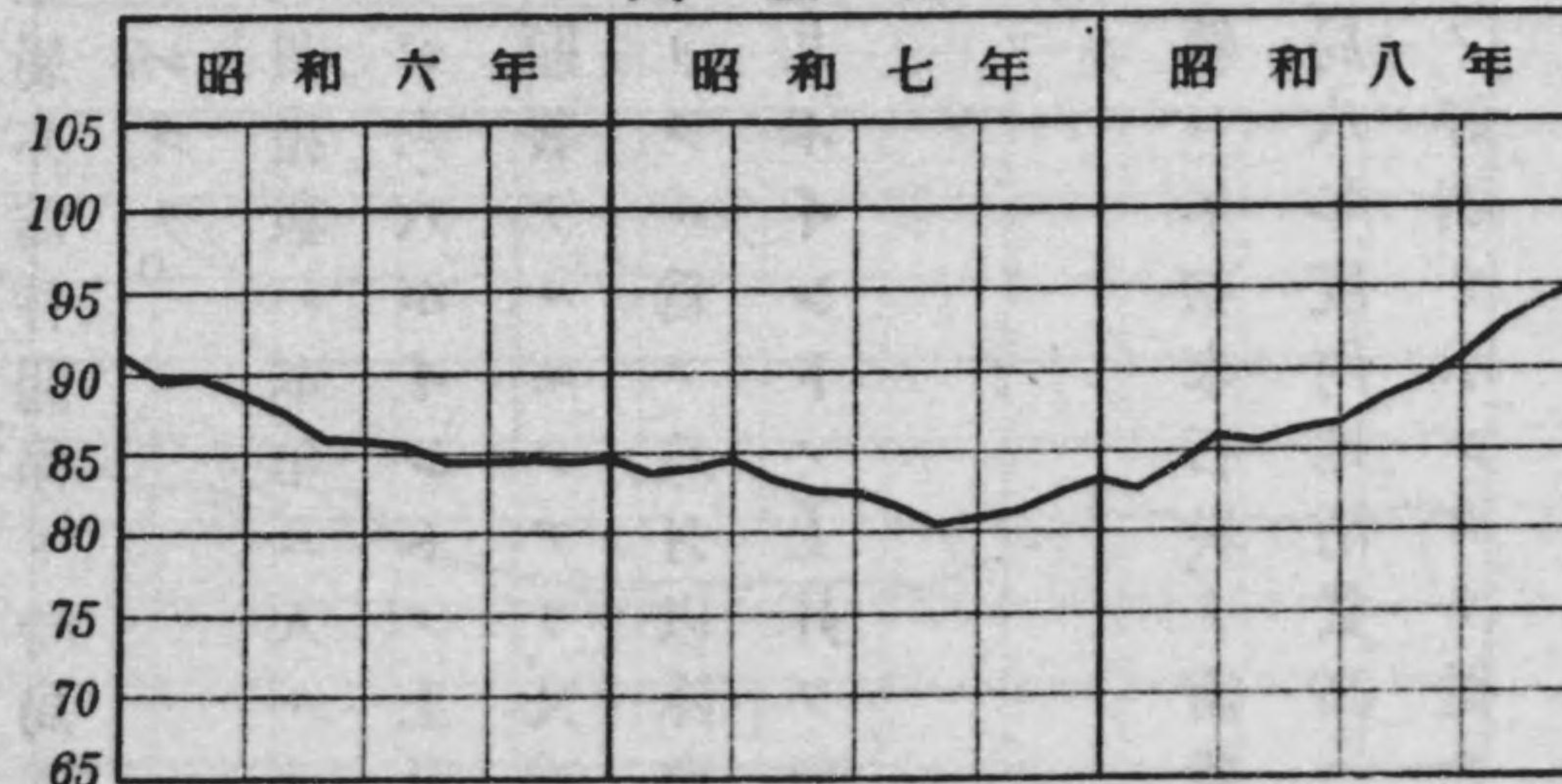
五八ト前年末ニ比シ一二四ポイントノ上昇ヲ演シタリ、今之ヲ前年中ニ於ケル人員指數ノ低下六四ポイント、實收賃金指數ノ低下二四ポイントニ比較セシカ、其ノ恢復ノ跡歴然タルヲ窺フヘク、昭和三年以來低下趨勢ヲ續ケタル兩指數ハ爰ニ其ノ方向

石炭鑛業

労働人員指數



賃金指數



指數亦大體之ト同一歩調ヲ辿リ、一月及四月ニ於ケル微落ヲ除キ逐月昂進シ年末九

百萬噸ノ増送案ヲ可決スルニ至リタルカ、他方炭價モ之等情勢ニ伴ヒ年初來昂騰ノ一途ヲ辿リ久シク沈滞不振ヲ極メタル斯界モ茲ニ形勢一轉シテ業績ノ恢復著シキヲ見受ケタリ。
斯テ労働人員指數モ之等情勢ヲ映シテ前年末以降ノ上騰歩調ヲ續ケ特ニ八月以降ハ其ノ騰勢顯著ヲ加へ年末五九四ト前年末ニ比シ九二ポイントノ上昇ヲ示シタルカ、他方實收賃金

尙地方別指數ノ推移ヲ觀ルニ各地方ヲ通シ人員並ニ實收賃金共從來ノ低下傾向ヲ革メ騰勢ニ轉シタルカ、特ニ下季ニ入り其ノ傾向顯著ナルヲ認メタリ、而シテ人員指數中騰勢最モ顯著ナルハ北海道方面ニシテ、實收賃金指數ハ筑豊、北海道及筑豊以外ノ九州地方ニ於テ著シキ躍進ヲ示シタリ。

石油鑛業

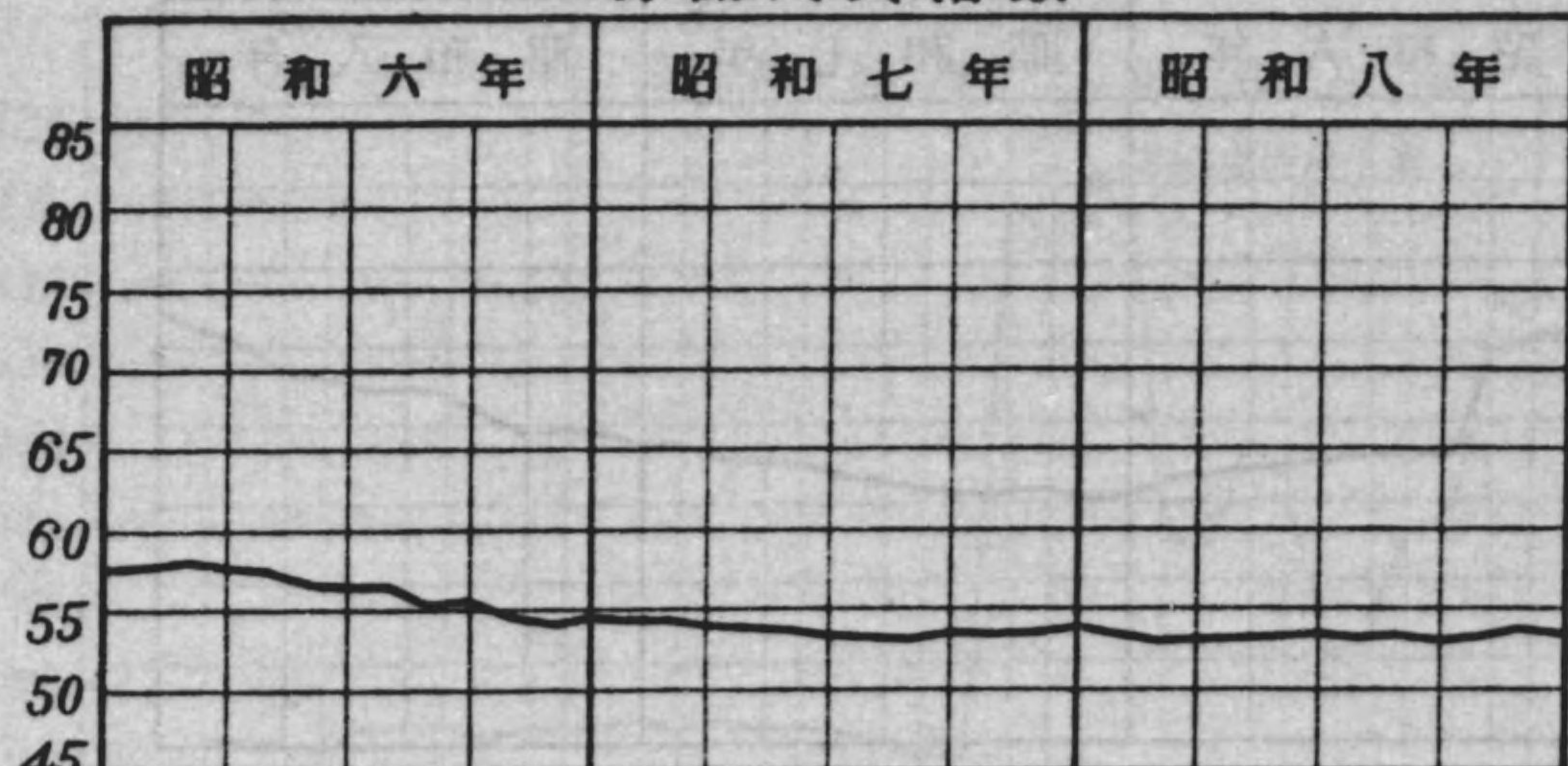
石油界ハ本年ニ入ルモ軍需工業ヲ首メ一般工業ノ活況ニ商狀依然強調ヲ持續シ荷動キ頗ル活況ヲ呈シタルカ、四月米國ニ於ケル金輸出禁止ヲ眺メテ爲替相場ノ回復ヲ氣構ヘ市場ハ稍凡化ノ狀アリ、一般買控ヘノ爲メ取引亦不味ナルヲ免レサリシカ、其後露國揮發油輸入計畫ノ具體化ニ伴ヒ人氣ノ銷沈甚シク、殊ニ八月末其賣出ヲ見ルニ及ンテ内外六社間トノ販賣競争ヲ激化シ、鈔カラサル不安ヲ醸成スルニ至レリ、斯テ揮發油相場ノ崩落ニ連レ其他製品ノ相場モ落勢ニ轉シ、旁々斯界ハ一般ニ不勢ヲ加フルニ至リシ模様ナリ。

事情右ノ如クナルヲ以テ労働人員指數モ通年保合状態ヲ續ケ、年末五三・五ト前年末ニ比シ〇・五ポイントノ低下ヲ告ケ、前記金屬並ニ石炭業ノ形勢ト全ク相背反スル

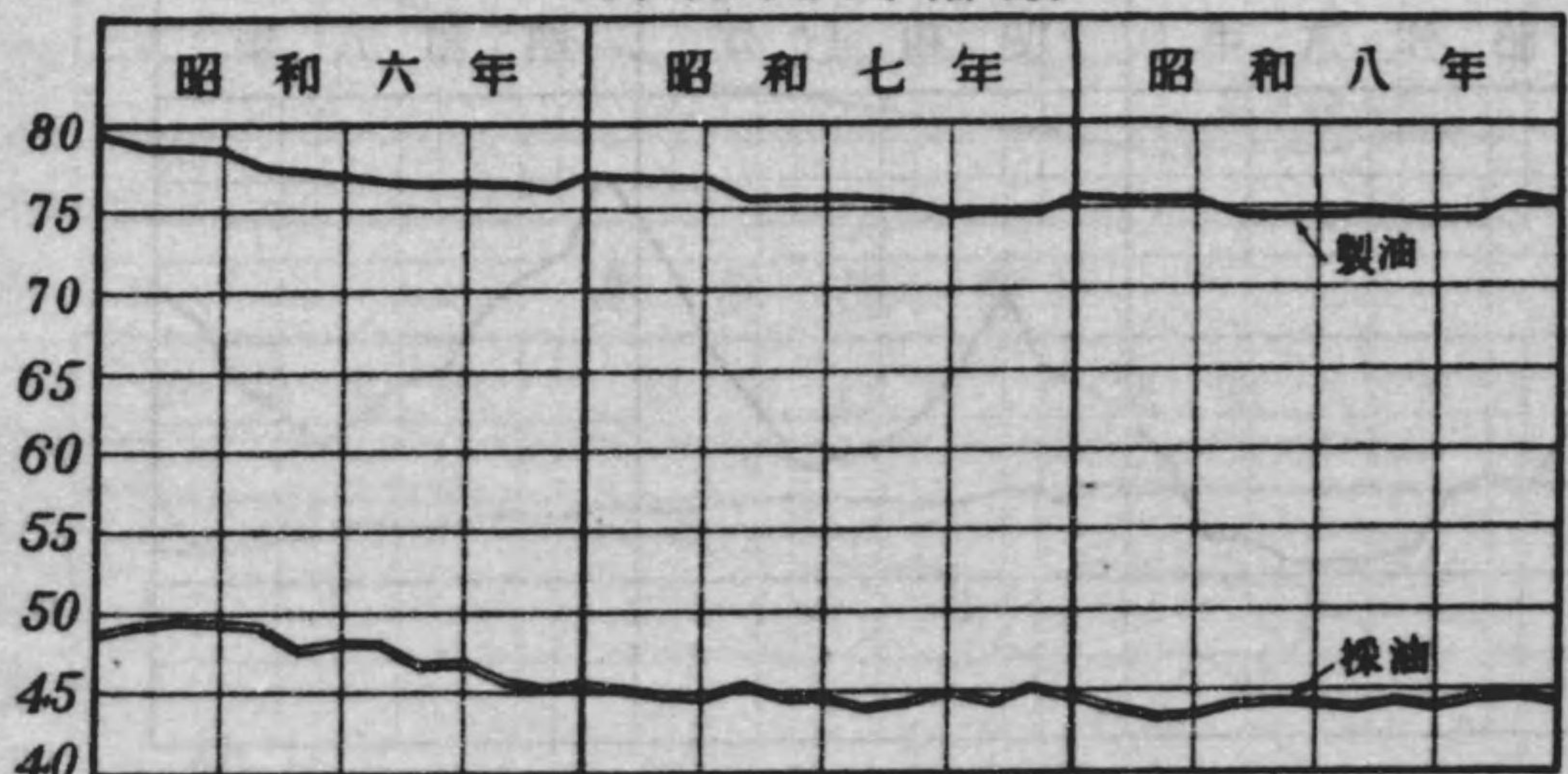
ニ至リタルカ、他方賃金指數モ上季中上昇氣勢ヲ現ハシタルニ拘ラス下季ニハ大體

石油鑛業

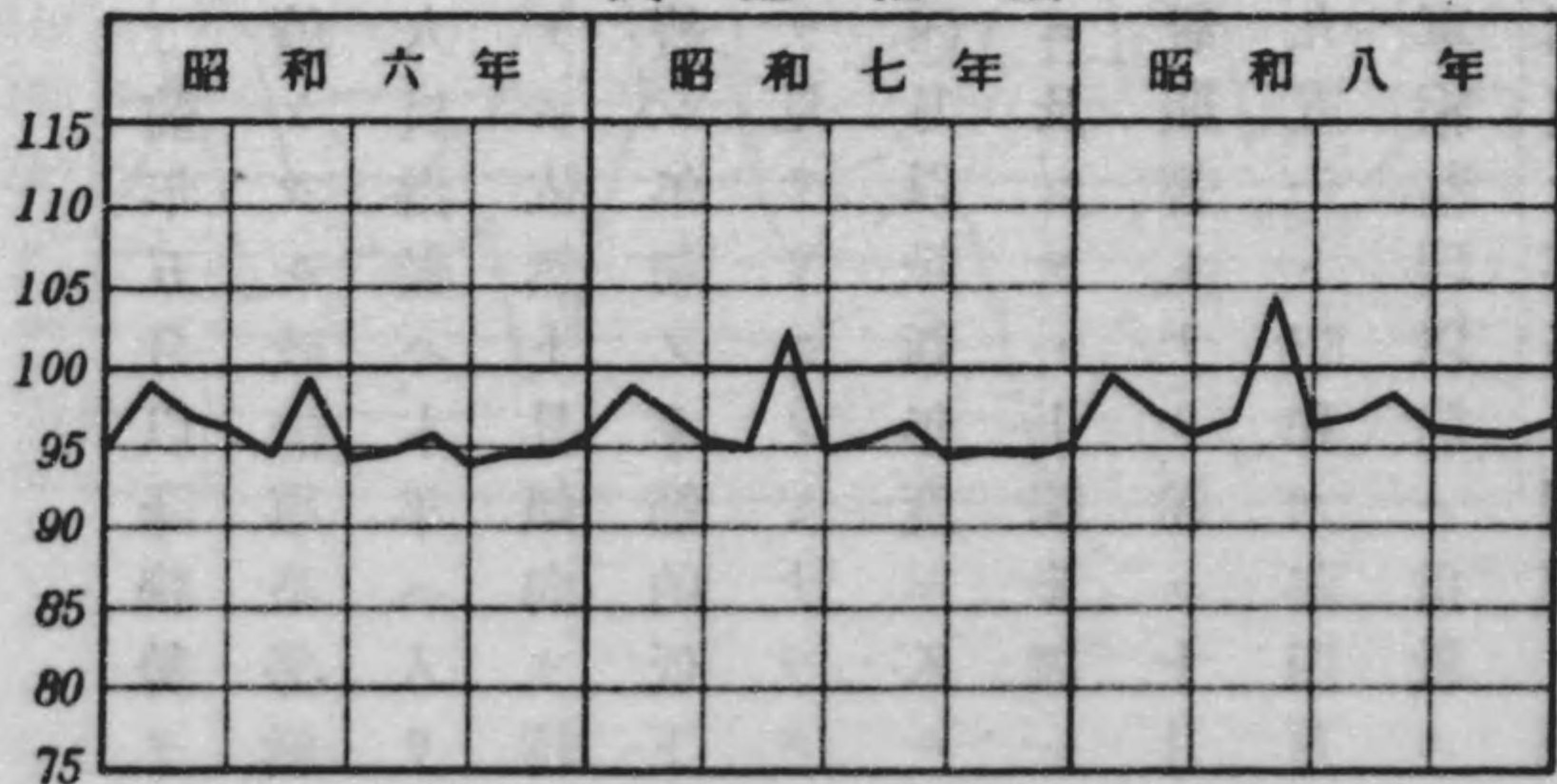
労働人員指數



労働人員指數



賃金指數

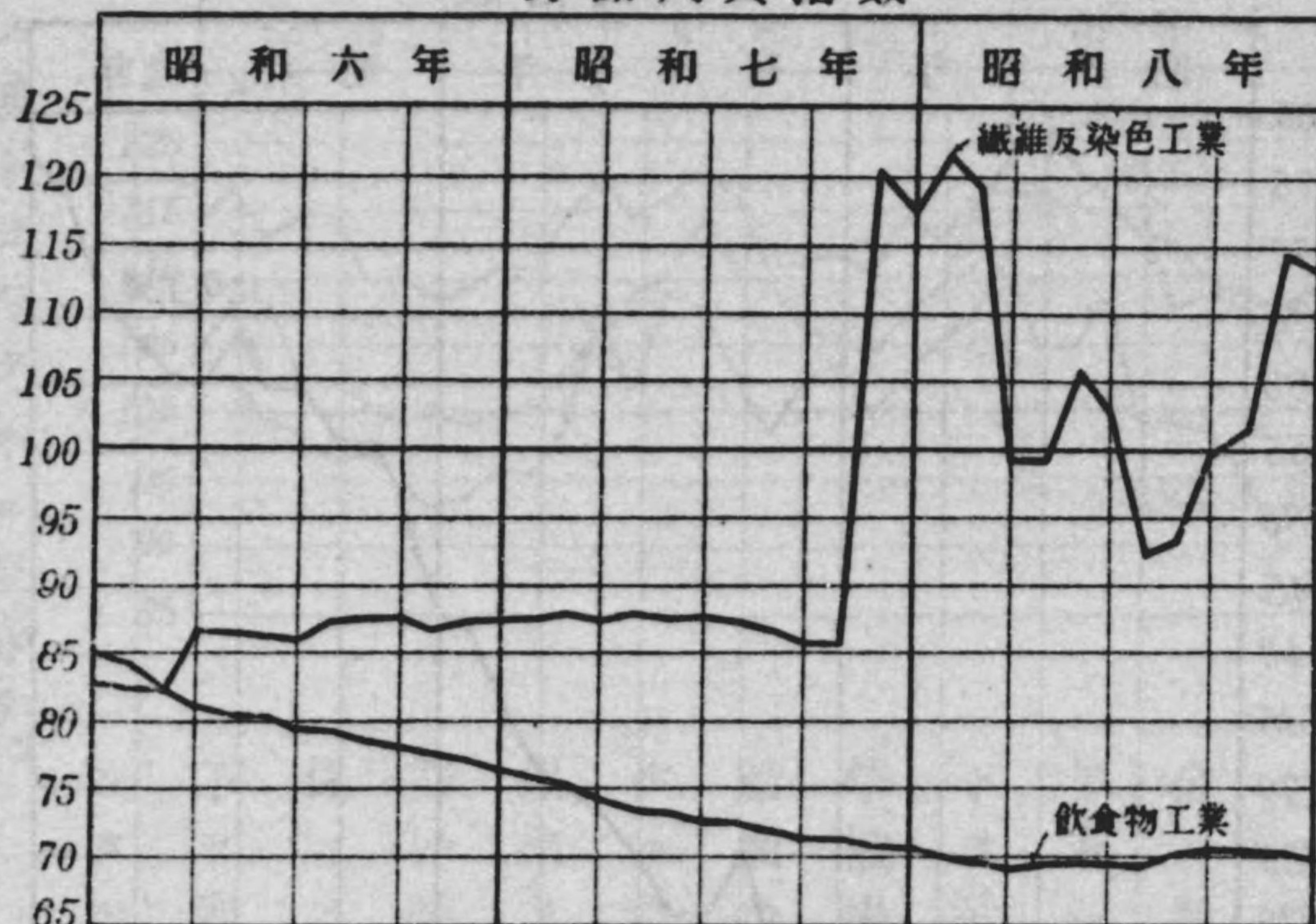


保合ヒ、年末九六九ト前年末ニ比シ僅カニ一八ポイントノ上騰ニ止マレリ。

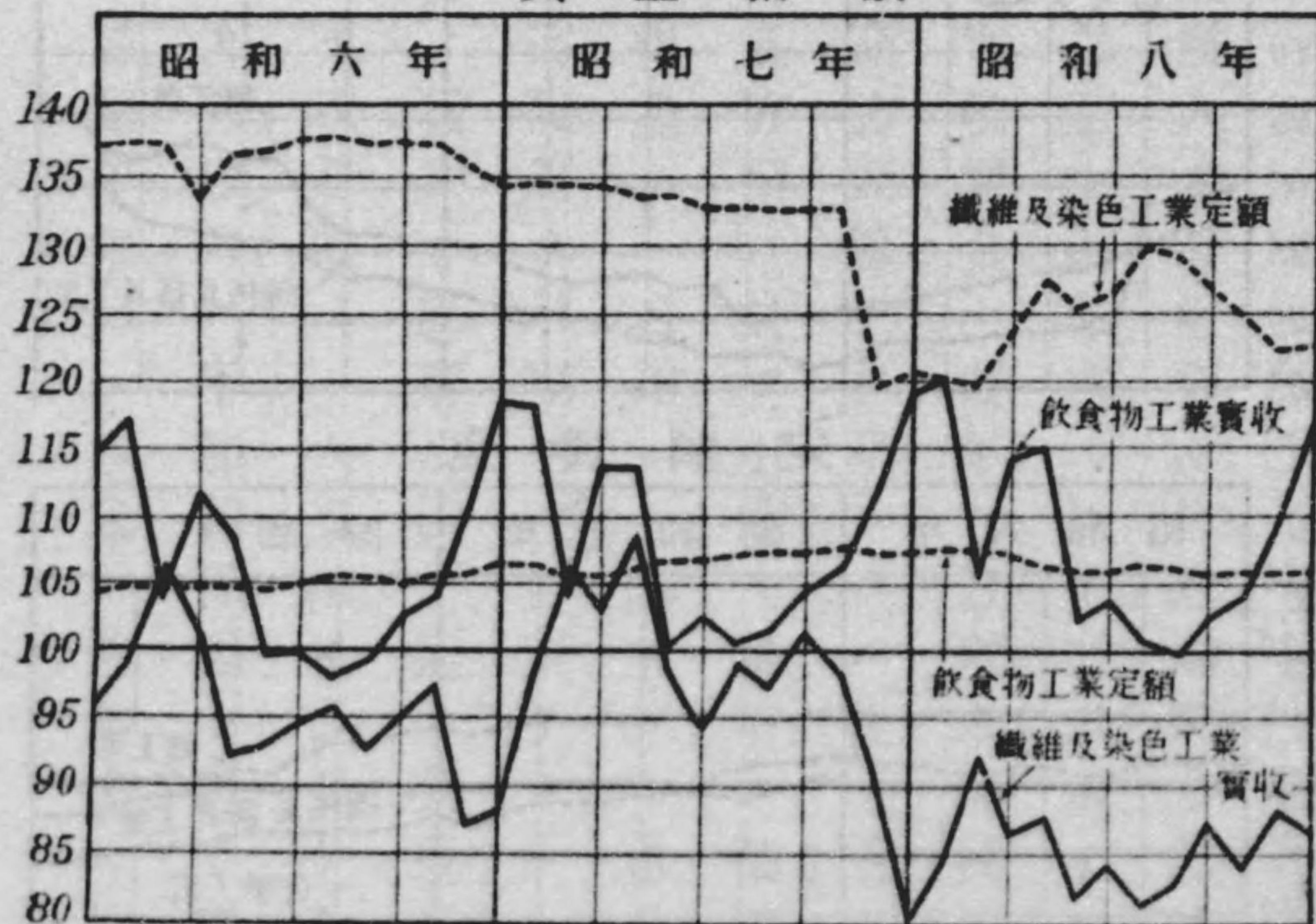
スルニ至レリ、蓋シ滿洲、上海兩事變以來繼續セル軍事行動ハ本年三月初熱河省討伐

事業別指數(其一)

労働人員指數



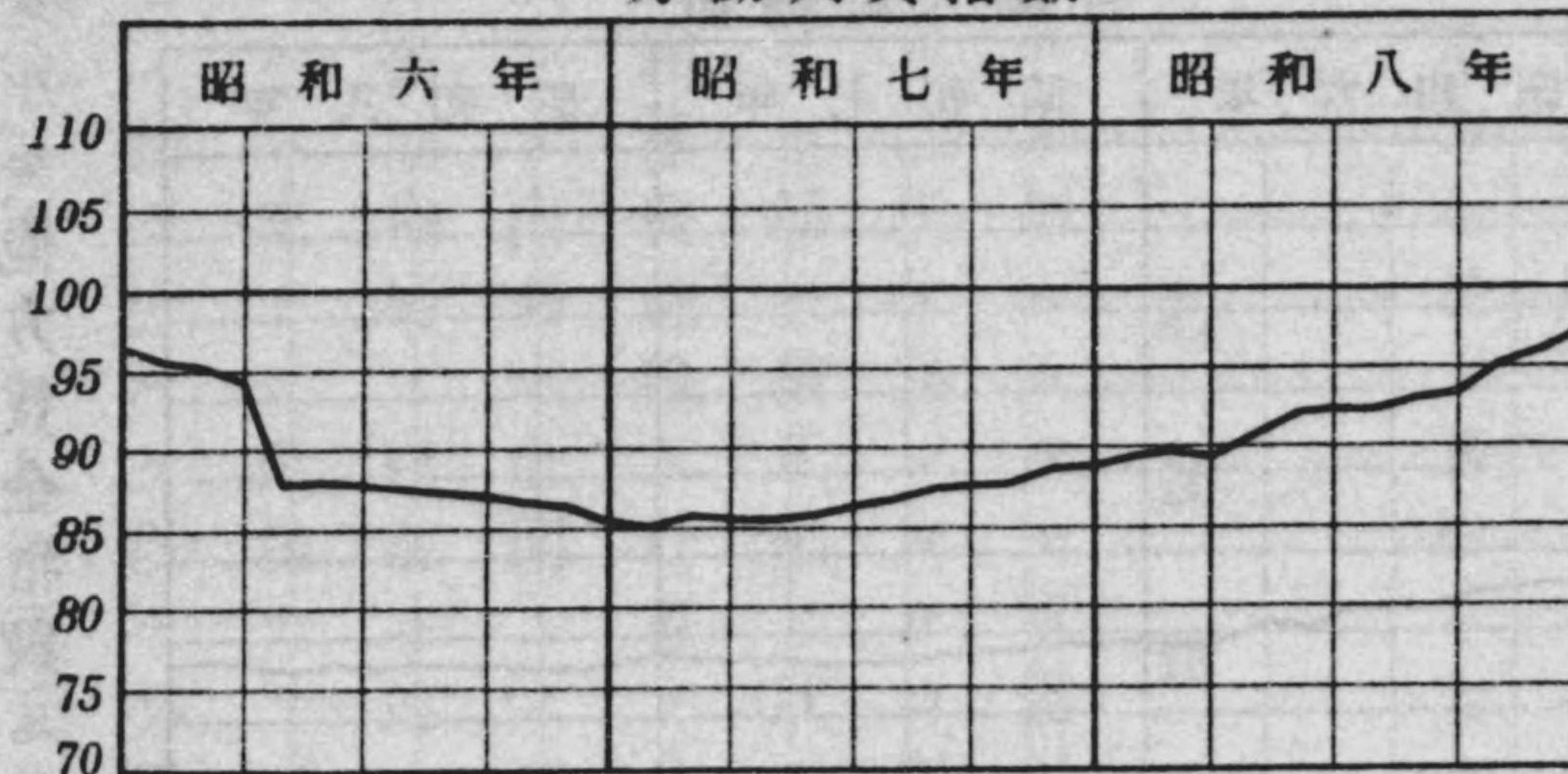
賃金指數



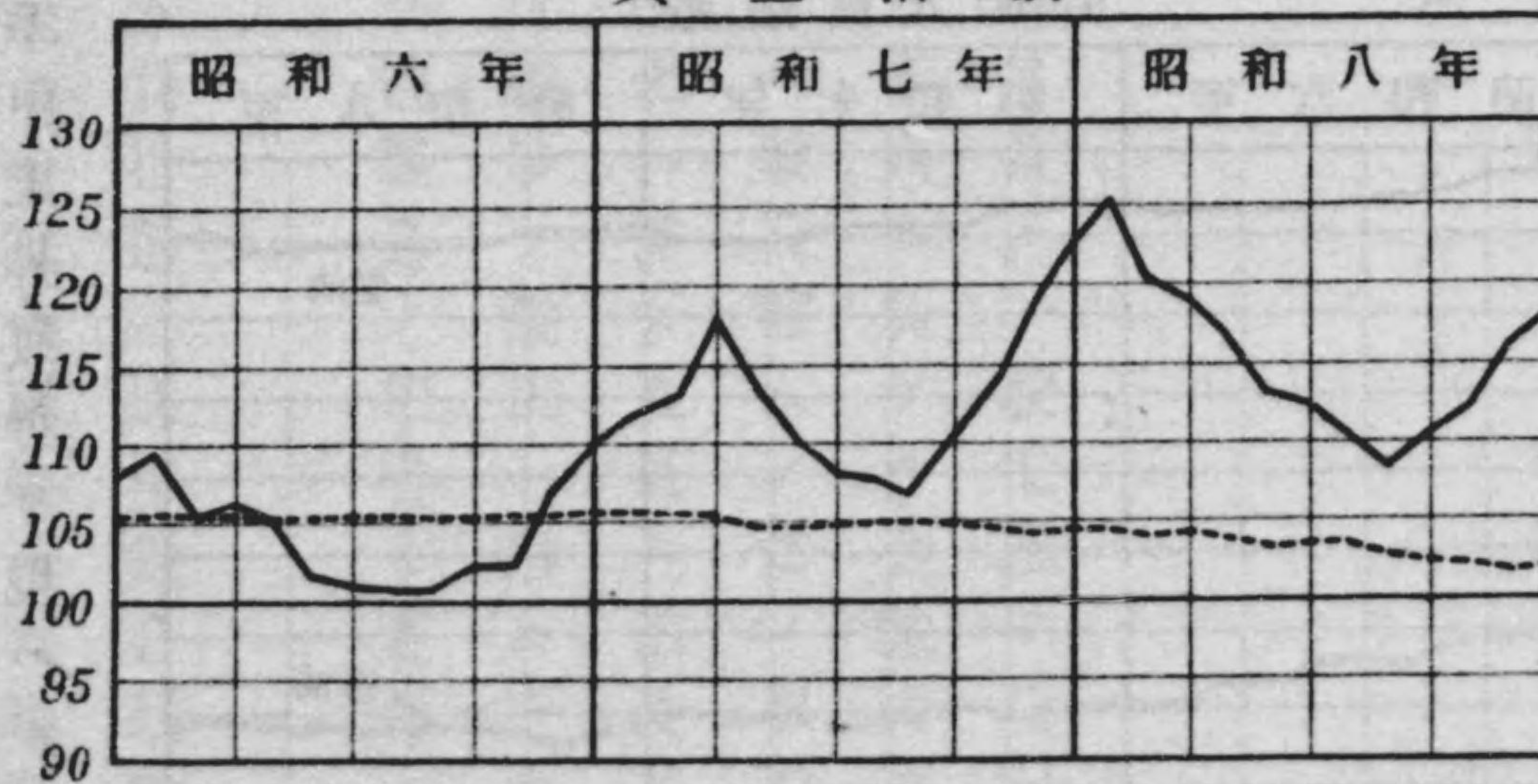
年末ニ比シ八三ポイントト前年中ノ上昇三一ポイントニ比シ倍數以上ノ激騰ヲ演

總指數

労働人員指數



賃金指數

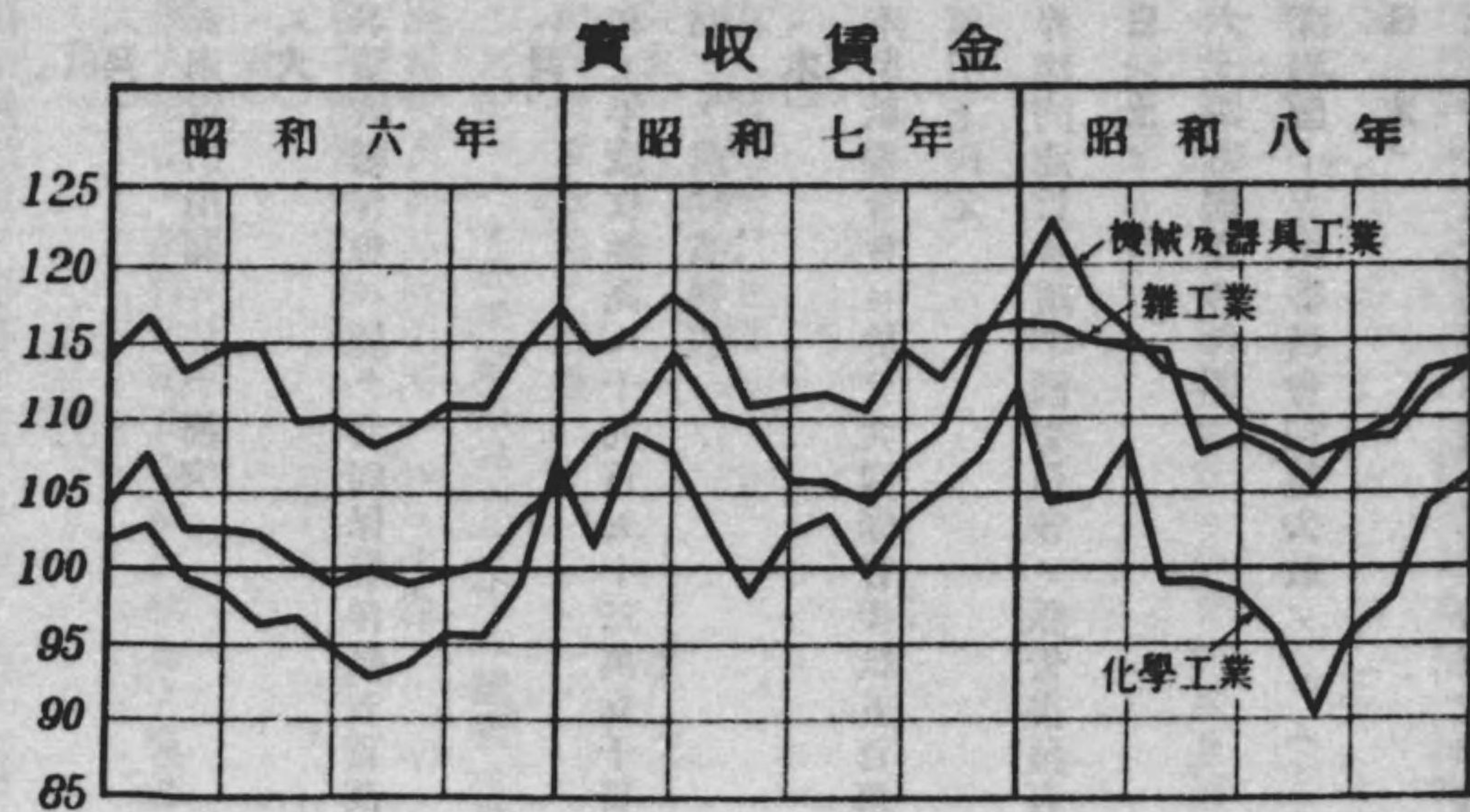


前年五月以降騰勢ヲ續ケタル政府事業労働人員指數ハ、本年ニ入りテモ依然上昇傾向ヲ持續シ年初ノ季節的低下ヲ見サリシノミナラス、四月以降新年度ニ入ルニ及ンテハ上騰歩調一層顯著トナリ、遂ニ十月九五・一ト昭和六年四月軍縮整理以前ノ指數ニ回復シ其後モ躍進ヲ續ケ年末九七・一トナリ前

第六 政府事業概況

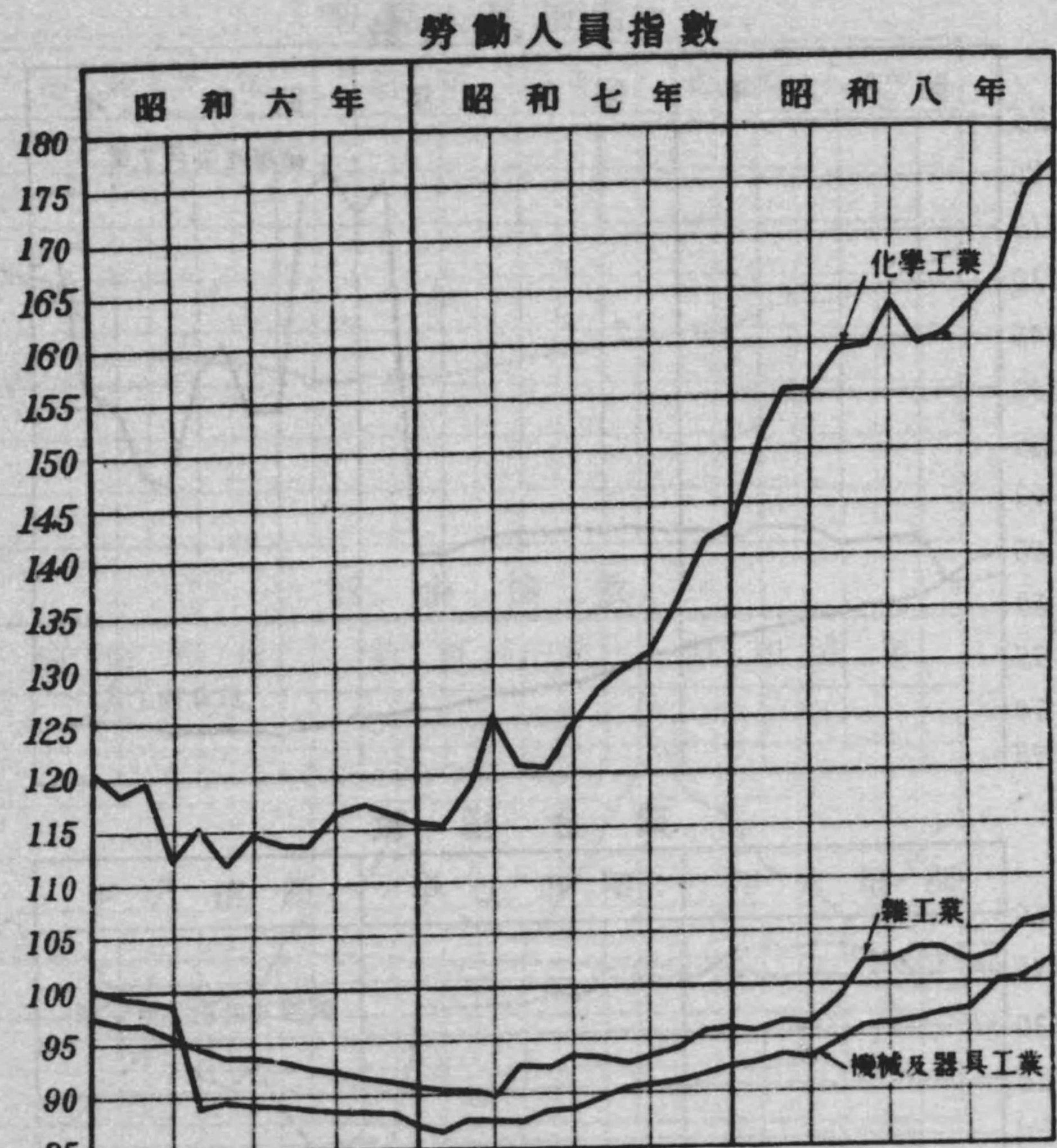
ポイントノ低下ヲ告クルニ至レリ。

事業別指數(其三)



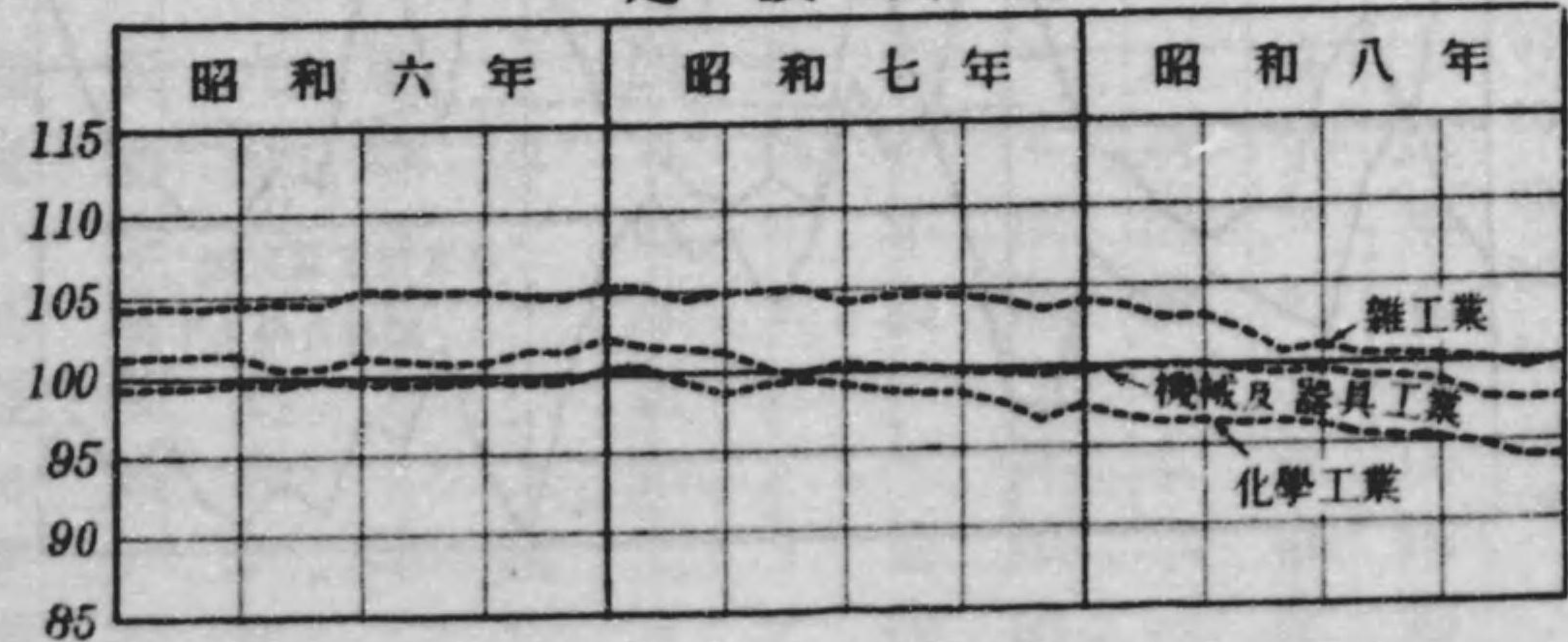
於ケル作業依然繁忙ヲ極メタル爲メ人員ノ激增ヲミタルモノニシテ、又賃金指數ヲ觀ルニ定額賃金ハ新規雇入者激增旁々依然漸落歩調ヲ免レス年末一〇二・〇ト前年末ニ比シ二・二ポイントノ低下ヲ示シ、實收賃金ハ前年九月以來機械及器具、化學、被服等諸方面繁忙ヲ呈シタル後ヲ承ケ更年後船舶金屬品方面ニ於テ引續キ稀有ノ活調ヲ示シタル爲メ指數ハ一月遂ニ一二五・二ト本統計創始以來ノ最高記録ヲ示現スルニ至リタルモ、二月以降ハ情勢ノ緩和ニ反落歩調ヲ辿リ其後夏枯ノ關係モアリテ八月迄ニ一六・五ポイントト大幅ノ低下ヲ告ケ、九月以降ハ季節關係旁々再ヒ騰勢ニ轉シタルカ結局年末一一八・三ト前年末ニ比シ四・一

事業別指數(其二)



モ、他方非常時豫算ノ實行ニ伴ヒ化學工業、船舶及器具製造業等ヲ首メ雜工業方面ニ

定額賃金



ヲ以テ漸ク一段落ヲ告ケ、五月末ニハ日支停戰協定成立シ北支ノ治安回復ヲ見タル

日誌

一月

- 二日(月) ○日支兩軍山海關ニ於テ衝突
- 十日(火) ○日本製紙聯合會ニ於テ共同保管洋紙五百萬封度封印解除決定
- 十六日(月) ○昭和七年度收購高八千九百五十三萬九千貫(對前年七分八厘減)ト農林省發表
- 十九日(木) ○日本製紙聯合會ニ於テ共同保管洋紙五百萬封度封印解除及建值引上決定
- 二十一日(土) ○世界經濟通貨會議準備委員會ノ報告書發表
- 第二十四日(土) ○第六十四帝國議會再開
- 第二十四日(火) ○國際聯盟十九國委員會和協失敗ノ「コムミニニケ」發表
- 米國政府ハ戰債問題商議ノ爲メ戰債支拂國招請ニ決定ノ旨國務省ヨリ發表

二月

- 二十五日(水) ○奧大利政府ハ鹽鐵詰ヲ養澤品ト認メ輸入禁止
- 二十六日(木) ○過隣限產率三月ヨリ六月迄二割五分ニ緩和決定
- 二十七日(金) ○九鋼二月以降增產決定
- 一日(水) ○東京米穀商品取引所ノ人絹清算取引開始
- 二日(木) ○日本製紙聯合會ニ於テ六日以降共同保管洋紙五百萬封度封印解除決定
- 七日(火) ○水曜會ハ銅需要增加ノ爲、既ニ歐洲向輸出ヲ中止セルカ更ニ東洋方面ニ對シテモ新規申込ヲ受ケサルコトニ決定
- 十五日(水) ○大阪三品取引所ノ人絹取引開始
- 十七日(金) ○セメント聯合會總會ニ於テ三月以降五月迄ノ限產率ヲ五分緩和、五割トスルコトニ決定
- 二十五日(土) ○日本軍朝陽ヲ占據

三月

- 二十七日(月) ○絹紡織短率三月十六日以後五月末迄一割擴張、二割八分ニ決定
- 二十八日(火) ○石炭鑛業組合聯合會理事會ニ於テ貯炭着減セルモ送炭調節緩和ハ措置ニ決定
- 一日(水) ○印度人絹關稅引上實施
- 四日(土) ○熱河討伐軍承總ヲ占據
- ルーズヴェルト氏米國第三十二代大統領ニ就任
- 米國株式及商品取引所一齊ニ休業
- 全聯邦準備銀行休業
- 五日(日) ○米國大統領ハ銀行休業及金輸出禁止ノ緊急令ヲ布告
- 六日(月) ○米國金融恐慌ノ影響ヲ受ケ米穀ヲ除キ主要清算市場一齊ニ休業
- 爲替市場休止
- 全米國銀行九日迄一齊ニ休業

七日(火)

- 大藏省金買上一時中止
- 東京綿絲、東京大阪人絹、砂糖市場再開
- 八日(水) ○東京、大阪株式取引所再開
- 爲替市場(對米ヲ除ク)再開
- 九日(木) ○米國非常時銀行法公布、即日實施
- 米國大統領ハ銀行休業、金輸出禁止ノ無期限延長ヲ布告
- 十日(金) ○橫濱及神戸生絲取引所再開
- 十一日(土) ○三月末ヲ以テ期間滿了ノ製粉共販組合ハ一箇年存續ニ決定
- 十三日(月) ○米國聯邦準備銀行開業
- 十四日(火) ○對米爲替取引再開
- 十五日(水) ○米國株式及一部商品市場再開
- 二十日(月) ○大藏省金買上再開
- 二十二日(水) ○製紙聯合會ハ共同保管及建值据置ニ決定

- 晒粉聯合會ハ四月中限産率一割擴張、四割ニ決定
- 二十三日(木)
- セメント聯合會總會ニ於テ限産率臨時緩和ヲ決定
- 二十五日(土)
- 第六十四帝國議會閉會
- 製鐵評價委員官制要綱發表
- 二十七日(月)
- 國際聯盟脫退ノ大詔漢發即日聯盟事務局ハ脫退通告文提出
- 二十八日(火)
- 外國爲替管理法公布
- 米穀統制法公布
- 二十九日(水)
- 東京滿蒙輸出組合設立認可
- 三十日(木)
- 商工省ハ銑鐵價值昂騰ニ伴ヒ製鐵業獎勵法ニ據ル獎勵金ヲ半額ニ引下決定四月一日實施
- 三十一日(金)
- 大日本陶磁器輸出組合ノ輸出數量及價格統制規程認可

四月

- 五日(水)
- 米國ハ特許ニ依リ金ノ兌換及輸出ヲ許可スル大統領令發布
同時ニ金ヲ退蔵スル者ニ對シ嚴罰ヲ科スル旨ヲ規定

- 埃及綿絲關稅五割引上決定
- 八日(土)
- 絲價安定融資補償審查委員會ハ政府補償額ヲ千五百餘萬圓ト決定
- 十日(月)
- 英國政府ハ日印通商條約破棄ヲ通告
- 十一日(火)
- 英國綿製品貿易聯盟ハ日本製綿製品ノ排斥ヲ決議
- 十四日(金)
- 世界經濟會議豫備商議帝國代表決定
- 十五日(土)
- 日印通商條約廢棄通告公示
- 十七日(月)
- 經濟諸團體ノ對印貿易ニ關スル協議會開催
- 十八日(火)
- 紡績聯合會ノ對印對策協議會開催共同聲明書發表
- 晒粉聯合會ハ五月中ノ限産率ヲ五分擴張、四割五分ニ決定
- 十九日(水)
- 米國大統領ハ金輸出特許ノ停止ヲ聲明
- 二十日(木)
- セメント聯合會ニ於テ五月中一割ノ臨時限産緩和ヲ爲スコトニ決定

五月

- 二十二日(土)
 - 世界經濟會議對策各省協議會開催
 - 二十六日(水)
 - 外國爲替管理法ニ關スル施行手續並ニ同法ニ基ク命令ノ件公布、五月一日實施
 - 二十八日(金)
 - 紡績聯合會ハ本邦輸出綿布ノ「ダンピング」ニ非サル旨聲明書發表
- 五月
- 五日(金)
 - 糖業聯合會協議會ニ於テ世界砂糖會議不参加ニ決定
 - 八日(月)
 - 商工省ハ工業組合法ニ據リ石鹼、玻璃製品ヲ重要工産品ニ指定
 - 十一日(木)
 - 四月末現在春蠶豫想擲立數量七千七百六十九萬千七百グラム(對前年二厘七毛減)ト農林省發表
 - 十二日(金)
 - 全日本貿易聯盟創立總會開催
 - 世界經濟會議組織委員會關稅休日案ヲ採擇
 - 米國農村救濟並ニ通貨増發法成立
 - 十五日(月)
 - 日支關稅協定期限滿了

- 埃及政府綿製品關稅引上實施
- 十六日(火)
- 製鐵合同ニ關スル官民評議會開催
- 英領西阿弗利加ニ對スル日英通商條約廢棄ヲ英政府我國ニ通告
- 十七日(水)
- セメント聯合會總會ニ於テ六月以降三箇月間ノ限産率ヲ五割ニ復歸決定
- 十八日(木)
- 紡績聯合會委員會ニ於テ七月以降九月迄ノ綿絲紡績操短率ヲ据置ト決定
- 王子製紙會社臨時總會ニ於テ富士製紙及樺太工業會社合併ヲ可決
- 十九日(金)
- 工業組合中央會設置ノ勅令公布
- 製紙聯合會商議員會ニ於テ手持品約三百萬封度共同保管ニ據入決定
- 二十日(土)
- 晒粉聯合會ハ六月中限産率ヲ五分擴張、五割ニ決定
- 二十二日(月)
- 國民政府輸入關稅率引上實施
- 鋼材聯合會委員會ハ聯合會存續ノ件及六月以降三箇月間ノ丸鋼生産割當ヲ据置トスルニ決定

- 二十三日(火) ○外國爲管理部官制公布
- 二十四日(水) ○外國船輸入許可規則公布
- 外國爲管理委員會及外債評價委員會官制公布
- 二十五日(木) ○絹紡工業委員會ニ於テ六月以降六箇月間操短率決定(六月ハ二割七分八厘、二厘緩和トナリ七、八月ハ三割三分、五分擴張トナル)
- 二十七日(土) ○我全權世界經濟準備會商ヲ終リ共同聲明書發表
- 三十日(火) ○埃及政府絹織物關稅引上實施
- 三十一日(水) ○日支停戰協定成立

六月

- 五日(月) ○米國金約款廢止法公布、即日實施
- 六日(火) ○印度棉布關稅引上發表、七日ヨリ實施
- 十二日(月) ○世界經濟會議倫敦ニ開催

七月

- 十三日(火) 紡績聯合會協議會ニ於テ印棉不買案ヲ可決
- 十五日(木) ○世界經濟會議ノ一般討議終了
- 馬來聯邦棉布、麻、人絹、交織物關稅引上決定、即日實施
- 十六日(金) ○石炭鑛業聯合會理事會ニ於テ七月以降送炭調節高五分増加ヲ正式決定
- 十九日(月) ○工業組合中央會創立
- 二十五日(日) ○大日本麥酒ト麥酒鑛泉トノ合同成立
- 二十六日(月) ○英領東阿弗利加ノ棉布、人絹布、ゴム靴其他雜貨類關稅引上實施
- 二十九日(木) ○東西預金利子協定銀行預金利子引下決定
- 三十日(金) ○本年度產額調節協定正式決定
- 一日(土) ○本行利下發表、三日ヨリ實施

八月

- 十三日(木) ○晒粉聯合會ハ七月中晒粉限產率ヲ五分緩和、四割五分ニ決定
- 十四日(金) ○南阿聯邦ハ本邦產電池ニ對シ爲替「ダンピング」稅賦課
- 十七日(月) ○東洋、戶畑兩製鐵會社合併決定
- 二十日(木) 產銅水曜會下季銅生產額割當決定
- 二十二日(土) ○經濟會議參加九箇國銀協定成立
- 二十六日(水) ○絹紡工業委員會ニ於テ九月以降十一月迄ノ操短率据置ニ決定
- 二十七日(木) ○世界經濟會議最終本會議開催、無期休會ニ入ル
- 二十九日(土) ○石炭鑛業聯合會理事會ニ於テ第二次送炭制限五分緩和ニ決定
- 燐酸肥料工業組合總會ニ於テ八月以降一箇年間ノ過燐酸生產高ヲ決定

八月

- 二日(水) ○日印「シムラ」會商ニ對スル六省會議外務省ニ開催
- 八日(火) ○八月一日現在米棉第一回收獲豫想一二、三一四千俵ト米國農務省發表
- 十二日(土) ○大日本、キリン兩麥酒會社ノ共販會社創立
- 十四日(月) ○ガソリン協定六社ハ八月以降一箇年間協定更改ヲ正式決定
- 十五日(火) ○電球統制ノ爲メ東京標準電球工業組合ト關西標準電球工業組合ノ聯合會ヲ組織スルニ決定
- 十六日(水) ○セメント聯合會委員會ニ於テ九月以降ノ限產率ヲ現行五割ニ對シ、九月四割四分、十月及十一月五割トスルニ決定
- 十八日(金) ○南阿聯邦ハ特定日本商品ニ對シ爲替「ダンピング」稅賦課ニ決定
- 十九日(土) ○商工省硬質タイル工業改善委員會ニ於テ統制要項ヲ決定
- 二十一日(月) ○製紙聯合會ハ五百萬封度ヲ即時封印解除シ三百萬封度ヲ九

月ニ入り解除スルコトニ決定

○世界小麥會議倫敦ニ開催

○米國政府ハ日本製電球、カンバス靴等ニ追加關稅賦課決定

二十五日(金)

○九鋼全國的共販機關タル日本九鋼共販組合組織決定

二十八日(月)

○紡績聯合會委員會ニ於テ十月以降十二月迄ノ紡績操短率現行ニ割据置ト決定

二十九日(火)

○松方日蘇石油市中販賣値段發表

○帝國麥酒輸出組合創立

○米國新産金ニ關スル大統領令公布

三十日(水)

○日本人絹織物振興會設立決定

○世界小麥限産協定成立

九月

五日(火)

○交通審議會設置

七日(木)

○英國ハ絹及人絹輸入稅改正案ノ實施ヲ延期

八日(金)

○九月一日調査米棉第二回收穫豫想一二、四一四千俵ト米國

農務省發表

○關係六省會議ニ於テ石油國策五大要綱ヲ決定

十一日(月)

○本年全國春蠶收穫高五〇、一〇二、四九二貫(對前年八分増)ト農務省發表

十二日(火)

○九月一日現在夏秋蠶豫想赫立數量九八、五〇〇、八七〇グラト農務省發表

○商工省ハ工業組合法ニ據リ澱粉ヲ重要工産品ニ指定

○白耳義ハゴム靴及カンヴァス靴輸入許可制實施

十九日(火)

○米國ハ我商品中白熱電球、ゴム底布製靴ニ對シ「ダンペン」防止法適用

二十日(水)

○航空事業調査委員會設置

二十一日(木)

○暹羅セメント關稅引上實施

二十二日(金)

○日本製鐵株式會社法施行勅令、評價審査委員會官制公布

二十五日(月)

○日印會商本會議印度「シムラ」ニ於テ開催

二十六日(火)

○英國政府ハ日印通商條約有效期間ヲ破棄通牒ニ基ク失效日(十月十日)ヨリ一箇月延長ノ旨通告

二十七日(水)

○輸出生絲販賣統制調査會官制公布(絲價委員會及絲價安定融資補償審查會廢止)

○獨逸綿絲、電球關稅引上發表、十月一日ヨリ實施

二十九日(金)

○白耳義人絹、絹及人絹織物輸入許可制實施

三十日(土)

○國産煉乳四社ノ共販組合成立

十月

三日(火)

○日印會商人絹對策官民懇談會開催、代表正式決定

六日(金)

○九月二十五日現在夏秋蠶收穫豫想高ヲ四七、七〇三千石ト農務省發表

十日(火)

○英國絹織物業者評議會ハ日本生絲ノ輸入制限要望ヲ決議

十二日(木)

○製紙聯合會ハ四百萬封度ノ封印解除並ニ限産緩和ヲ決定、即日實施

十九日(木)

○製紙聯合會ハ一千萬封度ノ封印解除並ニ限産緩和ヲ即日實施シ且建値五分方引上ヲ決定

○蘭印向洋灰輸出協會創立

二十日(金)

○絹紡工業會委員會ニ於テ十二月以降三箇月間ノ絹紡操短率ヲ据置ニ決定

二十一日(土)

○米穀統制法施行ニ伴フ諸法令公布

二十二日(日)

○米國大統領通貨政策ニ關シ聲明

二十三日(月)

○晒粉聯合會ハ十一月中晒粉限産率ヲ五分緩和、四割ニ決定

二十五日(水)

○輸出入絹織物國營検査施行關係法令公布、明年一月十五日實施

二十六日(木)

○米國新産金買上ニ關スル大統領令公布

二十八日(土)

○英印綿業協定成立

○紡績聯合會委員會ニ於テ明年一月中ノ綿絲操短率据置ニ決定

三十日(月)

○日印政府會商印度デリーニ開催、印度側最後案提出、印棉買付量ノ基準額、綿布輸入量ノ最高額ヲ討議

三十一日(火)

○大藏省豫算省議ニ於テ時局匡救事業ハ昭和九年度限り打切ニ方針決定

○石炭聯合會理事會ニ於テ十一月一日ヨリ百萬噸ノ第三次送炭調節和實行ヲ決定

十一月

七日(火)

○本年全國麥收穫高六、九一六、五一一石、裸麥五、三四八、九二九石、小麥八、〇〇三、二七〇石ト農林省發表

八日(水)

○日印會商ニ對スル最後の態度決定ノ爲官民合同協議會開催

十三日(月)

○米棉收穫豫想高千三百十萬俵ト米國農務省發表

十六日(木)

○セメント聯合會委員會ニ於テ十二月以降二月迄ノ限産率ヲ二分擴張、五割二分ニ決定

二十日(月)

○製紙聯合會商議員會ニ於テ一千萬封度封印解除並ニ減産緩和決定、即日實施

二十二日(水)

○晒粉聯合會ニ於テ十二月限産率ヲ五分擴張、四割五分ニ決定

二十七日(月)

○全國製絲業組合聯合會評議員會ニ於テ全國製絲操短ニ關シ差當リ各地方ノ自治的休操ヲ行ヒ近ク總會ニテ協議スルニ決定

二十八日(火)

○日本鋼材ト三建工業ノ合併決定發表

十二月

五日(火)

○米國禁酒法廢止正式發令

六日(水)

○紡績聯合會委員會ニ於テ九年二月及三月ノ紡績操短率ヲ据置ニ決定

七日(木)

○日印會商ニ關スル官民協議會開催、民間側代表ハ印度側回答ノ受諾ニ強硬反對聲明

八日(金)

○通商會議會開會、輸出統制、關稅制度改正、片貿易調整等ノ諸問題ヲ討議

十二日(火)

○手形法及小切手法昭和九年一月一日ヨリ施行ニ關スル勅令公布

十三日(水)

○晒粉聯合會ハ九年一月中限産率五分擴張、五割ニ決定

十四日(木)

○東西水曜會聯合協議會ニ於テ銅生産制限撤廢決定

十六日(土)

○米國船舶結關稅引上

十八日(月)

○製紙聯合會ニ於テ一月ニ入り三百萬封度ノ限産緩和實施決定

二十一日(木)

○石炭聯合會評議員總會ニ於テ九年度送炭調節高ヲ二千三百五十四萬八千噸ト正式決定

二十一日(木)

○日本洋灰輸出協會創立

○メートル法第一次施行猶豫期間向五箇年間延長ニ決定

二十三日(土)

○第六十五回帝國議會召集

二十三日(土)

○日本中央蠶絲會總會ニ於テ明年二月一日以降九月三十日迄輸出生絲三割出荷制限實施決定

二十六日(火)

○印度新關稅率實施

二十七日(水)

○第六十五回帝國議會開院式舉行

二十九日(金)

○日埃貿易協會創立

三十一日(日)

○第一次製鐵合同假契約成立

三十一日(日)

○日印會商ニ於テ印度政府ハ初年度綿布數量ニ關スル日本案ヲ承認

業 工 建 設

勞 働 人 員 及 勞 働 賃 金 指 數

一般工業	總指數及男女別指數.....	1
△	重要事業別指數.....	2
△	地方別指數.....	8
鑛山業	總指數及男女別指數.....	10
△	事業別指數.....	11
政府事業	總指數及男女別指數.....	12
△	事業別指數.....	13

一般工業

大正十五年基準

總指數及男女別指數

年 月	總 指 數			男			女		
	勞働人員	定額資金	實收資金	勞働人員	定額資金	實收資金	勞働人員	定額資金	實收資金
昭和四年 平均	91.1	98.6	103.9	98.6	98.6	102.6	83.8	97.4	96.4
五年	82.0	96.2	98.7	91.3	96.2	97.3	73.0	94.0	87.4
六年	74.4	91.3	90.7	81.0	91.5	92.0	68.0	87.9	77.4
七年	74.7	88.1	88.1	79.0	88.8	92.7	70.6	83.4	70.9
八年	81.9	85.1	89.2	87.0	86.2	95.1	76.8	79.9	68.4
昭和六年 一月	74.9	93.2	92.6	83.6	93.2	92.0	66.5	90.6	80.2
二月	74.6	92.8	93.1	83.1	92.8	92.8	66.3	90.1	80.3
三月	74.6	92.4	94.2	82.6	92.5	93.8	66.9	89.2	79.6
四月	75.3	91.9	91.9	82.5	92.1	92.6	68.2	88.8	79.0
五月	75.0	91.6	91.3	81.8	91.8	92.4	68.4	88.2	78.1
六月	74.3	91.2	91.0	80.6	91.5	92.2	68.2	87.9	78.3
七月	74.5	91.4	90.1	80.5	91.5	91.4	68.6	87.8	77.3
八月	74.4	91.0	89.0	80.3	91.3	90.8	68.7	87.4	76.4
九月	74.8	90.7	88.7	80.2	90.9	90.8	69.5	87.0	76.1
十月	74.2	89.9	88.4	79.7	90.2	90.9	68.9	86.4	75.3
十一月	73.7	89.7	88.5	79.1	90.0	91.4	68.4	86.1	74.8
十二月	73.1	89.5	89.1	78.5	89.8	92.7	67.9	85.7	73.9
昭和七年 一月	72.9	89.5	87.6	78.1	90.0	91.0	67.8	85.8	73.1
二月	73.0	89.3	89.4	77.9	89.8	93.0	68.3	85.0	73.3
三月	73.5	89.1	90.2	77.9	89.7	94.4	69.2	84.7	72.8
四月	74.5	88.6	87.2	78.3	89.3	91.6	70.9	83.9	71.8
五月	74.6	88.3	87.0	78.3	89.1	91.2	71.0	83.6	70.9
六月	74.5	88.2	86.8	78.3	88.9	91.3	70.7	83.5	70.2
七月	74.5	88.0	86.2	78.5	88.8	91.1	70.6	83.2	69.3
八月	74.7	87.8	86.1	78.8	88.6	90.7	70.7	82.9	68.8
九月	75.5	87.5	86.5	79.5	88.3	91.7	71.6	82.4	69.4
十月	75.8	87.3	88.8	80.1	88.2	93.9	71.6	82.2	69.9
十一月	76.4	86.8	88.7	80.8	87.6	94.6	72.1	81.9	70.0
十二月	77.0	86.6	92.1	81.5	87.5	98.5	72.6	81.6	70.6
昭和八年 一月	77.4	86.5	89.5	82.0	87.5	95.6	73.0	81.4	69.7
二月	78.5	86.3	91.0	82.7	87.2	97.2	74.3	81.1	70.3
三月	79.5	86.0	91.6	84.0	87.0	97.9	75.0	80.8	69.6
四月	81.1	85.5	88.5	85.0	86.6	95.3	77.3	80.2	68.6
五月	81.5	85.2	88.1	85.7	86.3	94.4	77.4	79.7	67.6
六月	81.6	85.1	88.4	86.1	86.2	94.5	77.1	79.7	67.8
七月	82.0	85.0	87.4	86.9	86.2	93.3	77.2	79.7	67.2
八月	82.3	84.9	87.0	87.7	86.0	92.2	77.0	79.5	67.1
九月	83.5	84.7	88.6	89.5	85.9	93.8	77.6	79.4	67.8
十月	84.3	84.5	89.2	90.6	85.7	94.4	78.1	79.3	67.9
十一月	85.2	84.0	89.5	91.7	85.1	95.0	78.9	78.9	68.5
十二月	85.8	83.9	91.6	92.4	85.0	97.5	79.3	78.8	68.5

總指數及男女別指數ノ計算ニハ製糸業ヲ含マス。

一般工業

大正十五年基準

重要事業別指數(1)

年 月	* 製 糸 業			* 紡 績 業			* 織 物 業		
	勞働人員	定額資金	實收資金	勞働人員	定額資金	實收資金	勞働人員	定額資金	實收資金
昭和四年 平均	94.6	94.3	94.2	82.3	99.1	96.4	80.7	95.4	95.4
五年	89.1	86.4	82.7	69.7	94.7	86.8	70.0	86.4	83.8
六年	70.8	72.7	67.8	62.4	83.3	74.5	65.2	78.1	74.3
七年	66.9	63.7	61.5	63.2	75.2	65.9	66.4	73.1	68.5
八年	61.8	61.3	61.7	64.5	70.1	62.5	72.0	71.6	66.5
昭和六年 一月	76.9	78.9	75.9	61.0	88.7	79.0	64.6	81.0	76.2
二月	21.9	78.4	75.3	60.5	87.7	78.0	64.6	80.4	77.0
三月	5.7	72.1	60.3	61.0	86.0	77.2	64.9	79.5	76.0
四月	89.0	74.2	68.5	62.1	85.0	76.2	65.9	78.8	76.0
五月	89.3	73.6	66.6	62.5	83.9	75.2	65.7	78.5	75.0
六月	88.1	73.0	67.5	62.5	83.2	75.3	65.5	78.1	75.6
七月	88.6	72.2	68.4	63.0	82.4	74.1	65.5	78.5	74.9
八月	87.2	72.1	67.8	63.1	81.5	73.2	65.4	78.2	74.3
九月	86.3	71.2	67.1	64.0	80.8	72.6	65.8	77.7	73.4
十月	86.0	69.5	65.6	63.5	80.4	71.8	65.1	76.3	71.8
十一月	84.0	68.6	65.1	62.8	79.8	71.1	64.7	75.2	71.1
十二月	46.8	68.2	65.2	62.5	79.6	69.9	64.2	74.7	70.5
昭和七年 一月	44.3	69.2	67.6	62.4	79.4	69.6	63.7	75.2	70.0
二月	65.6	67.6	65.6	62.4	78.0	69.2	64.2	74.3	70.4
三月	74.2	64.6	61.6	62.9	77.2	68.4	64.7	74.4	69.7
四月	74.6	63.7	60.2	64.2	76.4	67.4	66.4	73.4	68.9
五月	68.1	63.1	59.1	64.2	75.7	66.5	66.5	73.1	68.1
六月	67.3	62.6	59.0	63.9	75.6	65.4	66.3	72.5	68.1
七月	72.2	61.8	59.2	63.6	74.7	64.4	66.2	72.3	67.6
八月	72.6	62.1	60.1	63.1	74.1	63.8	66.5	72.4	67.2
九月	73.4	62.2	60.8	63.5	73.2	63.5	67.6	72.2	67.8
十月	73.3	62.1	61.1	62.9	73.0	63.9	67.7	72.4	67.7
十一月	73.1	62.0	61.7	62.8	72.8	64.1	68.4	72.6	67.9
十二月	43.8	63.6	62.2	63.1	73.0	64.2	69.0	73.0	68.4
昭和八年 一月	38.3	62.7	64.8	62.8	72.5	64.6	69.5	73.0	68.0
二月	47.0	62.2	63.2	63.7	72.1	64.3	70.3	72.8	68.3
三月	64.9	61.9	61.0	63.9	71.4	63.9	71.0	72.5	67.4
四月	68.3	60.8	59.7	65.6	70.3	63.1	72.8	71.3	66.6
五月	66.0	60.5	58.9	65.5	69.5	61.9	72.9	71.1	66.1
六月	66.0	60.9	61.6	65.0	69.4	61.7	72.7	71.1	66.3
七月	68.6	61.1	62.3	64.7	69.4	61.0	72.5	71.0	65.6
八月	67.9	61.1	62.6	64.1	69.2	61.1	72.1	71.1	65.3
九月	68.0	61.5	62.5	64.1	69.4	61.7	72.4	71.3	65.7
十月	68.2	61.6	61.6	64.3	69.1	62.0	72.4	71.5	65.7
十一月	65.9	61.0	60.7	65.1	69.5	62.6	72.6	71.3	66.5
十二月	52.6	60.5	61.9	65.6	69.5	62.3	72.7	71.1	66.2

重要事業別ニ於ケル賃金指數ハ * 製糸業、* 紡績業、* 織物業、* 組物編物業ニアリテ
 ハ女工、其他ノ事業ニアリテハ男工ニツキ作成セリ。
 製糸業ニ限リ指數ノ基準ハ大正十五年三月ヨリ十一月ニ至ル九箇月分ノ平均ナリ。

一般工業

重要事業別指數(2)

大正十五年基準

年 月	染色整理業			* 組物編物業			機械製造業		
	勞働人員	定額資金	實收資金	勞働人員	定額資金	實收資金	勞働人員	定額資金	實收資金
昭和四年 平均	99.5	96.8	95.3	79.6	92.8	93.4	111.8	98.1	102.3
五年	86.4	96.3	91.6	75.4	88.8	83.5	107.0	96.3	94.9
六年	81.6	91.4	88.4	74.1	81.8	76.3	96.5	92.1	89.4
七年	80.7	88.2	86.4	72.4	77.3	73.3	100.7	89.1	96.3
八年	90.5	85.6	83.3	81.2	75.3	70.2	133.6	85.7	100.6
昭和六年 一月	81.5	93.8	90.5	73.5	83.3	74.4	99.7	94.6	87.3
二月	81.9	93.3	92.1	74.1	82.6	77.5	99.0	94.4	90.0
三月	82.7	93.1	91.1	74.6	83.2	78.8	98.3	93.5	89.9
四月	81.7	92.7	89.2	75.5	81.9	78.3	98.1	93.1	89.2
五月	81.2	92.5	86.6	75.9	81.9	76.2	96.8	92.5	89.6
六月	80.5	91.6	86.5	75.8	81.2	74.0	96.0	92.0	89.7
七月	82.5	91.0	89.4	75.8	81.4	76.3	95.9	91.7	88.7
八月	85.2	90.3	90.5	74.5	81.3	74.9	95.4	91.5	88.2
九月	84.4	90.4	91.1	73.6	81.6	76.7	95.4	90.9	88.5
十月	80.5	89.2	85.4	73.2	81.3	77.0	95.0	90.6	88.9
十一月	78.7	89.5	84.2	72.2	81.4	75.4	94.3	90.2	90.3
十二月	77.8	89.1	84.4	70.1	80.8	76.5	93.8	90.4	92.9
昭和七年 一月	77.1	89.0	87.0	68.7	80.8	73.0	93.5	90.3	87.4
二月	77.6	89.6	87.3	69.0	80.7	76.2	94.0	89.9	93.5
三月	77.5	89.3	89.2	69.5	78.7	77.3	94.8	89.8	97.3
四月	78.5	89.2	86.6	71.4	77.7	75.1	96.5	89.3	94.4
五月	78.1	88.5	85.2	72.5	77.1	74.3	97.0	89.0	92.5
六月	78.1	88.6	86.9	73.4	76.6	71.7	98.2	88.7	92.4
七月	79.8	88.4	85.8	73.2	76.8	72.2	100.4	88.5	94.3
八月	83.2	87.6	85.9	73.7	76.9	70.2	101.8	89.0	93.3
九月	84.5	87.3	86.8	74.4	75.8	71.2	103.9	88.9	95.7
十月	84.2	87.2	85.6	74.3	75.3	71.6	106.4	88.8	100.9
十一月	84.7	86.4	84.8	74.2	75.2	72.7	109.3	88.5	103.5
十二月	85.4	86.6	86.0	74.3	75.6	74.7	112.6	88.3	110.9
昭和八年 一月	86.0	86.2	85.4	74.5	77.0	70.6	115.6	87.8	105.4
二月	86.6	86.2	84.4	75.8	76.4	71.2	117.6	87.4	107.4
三月	85.5	86.0	84.1	76.1	75.5	73.4	123.2	86.9	106.8
四月	87.2	85.9	82.9	79.7	74.0	70.5	126.6	86.6	103.5
五月	87.8	86.1	82.5	80.9	74.5	68.8	128.6	83.2	99.6
六月	88.7	86.0	82.9	81.8	75.0	68.9	130.0	85.8	99.3
七月	90.1	85.8	82.0	82.7	75.1	68.0	131.7	85.7	97.1
八月	93.5	85.4	81.2	83.8	75.1	68.4	133.6	85.2	94.1
九月	95.1	85.4	84.4	84.5	75.1	69.4	144.5	85.0	96.0
十月	94.5	85.1	83.3	84.6	75.6	70.0	148.1	84.7	97.0
十一月	94.9	84.2	83.3	85.2	75.2	71.3	150.6	83.9	98.8
十二月	95.5	84.7	83.6	85.3	74.9	71.7	153.0	83.5	102.7

一般工業

重要事業別指數(3)

大正十五年基準

年 月	船舶製造業			車輛製造業			器具製造業		
	勞働人員	定額資金	實收資金	勞働人員	定額資金	實收資金	勞働人員	定額資金	實收資金
昭和四年 平均	113.5	100.9	101.6	108.7	97.0	96.6	92.2	98.2	97.4
五年	102.2	100.0	94.1	100.4	95.6	89.9	90.2	96.2	89.5
六年	78.1	95.4	86.6	85.8	90.3	85.0	84.8	92.8	86.1
七年	73.9	94.2	90.6	77.2	90.3	85.9	88.7	89.7	87.8
八年	80.5	92.0	97.1	85.2	86.3	89.5	107.4	85.3	89.3
昭和六年 一月	83.8	97.2	85.5	93.2	92.5	83.6	87.5	93.9	83.9
二月	83.7	96.6	86.3	91.5	92.7	83.2	86.6	93.7	85.9
三月	83.0	96.3	89.0	90.8	92.8	84.5	86.0	93.2	88.0
四月	83.7	95.8	87.5	90.6	92.1	86.0	86.5	92.6	86.4
五月	81.1	95.7	85.8	90.3	90.3	86.7	84.3	93.0	86.4
六月	74.9	94.9	88.5	85.1	89.6	85.8	83.6	92.8	85.1
七月	74.7	94.7	85.4	83.6	89.8	85.0	83.5	93.0	84.2
八月	74.5	94.7	85.8	82.4	89.3	84.6	83.8	92.9	85.0
九月	74.8	94.6	85.2	81.6	88.6	83.7	83.8	92.5	84.9
十月	74.6	94.7	85.5	80.7	88.7	84.9	84.0	92.3	85.6
十一月	74.4	94.7	86.5	80.4	88.7	84.1	83.9	92.1	88.3
十二月	73.8	94.5	87.9	79.9	88.9	87.5	84.0	91.8	89.8
昭和七年 一月	73.7	94.7	88.9	78.0	90.9	86.9	84.1	91.8	85.6
二月	73.3	94.7	89.9	77.7	91.6	85.9	85.4	91.6	88.9
三月	74.0	94.5	92.4	77.4	91.1	86.5	86.4	91.3	90.6
四月	74.9	94.1	88.8	77.3	91.0	84.2	85.7	91.3	87.0
五月	75.0	94.1	89.5	77.0	90.9	83.3	86.8	90.7	84.6
六月	74.1	93.3	92.5	76.1	91.0	84.1	87.6	89.9	85.5
七月	73.3	93.7	87.2	75.8	89.9	85.1	87.7	89.7	84.7
八月	73.0	94.1	85.9	76.7	90.1	84.1	88.6	89.2	84.9
九月	73.0	94.8	87.4	76.9	89.7	84.8	90.2	88.3	86.7
十月	73.9	94.3	90.7	76.8	89.5	86.9	92.3	87.9	87.5
十一月	74.0	94.0	93.6	78.3	88.9	87.1	93.9	87.5	91.3
十二月	74.4	94.3	99.7	78.4	88.8	92.4	95.1	87.3	96.0
昭和八年 一月	74.2	94.7	96.7	78.9	88.8	85.7	97.5	87.2	90.6
二月	75.2	94.2	99.1	80.5	88.7	90.8	99.6	87.2	94.0
三月	76.8	93.7	100.1	81.3	86.9	91.8	101.3	86.5	94.2
四月	79.1	92.7	96.3	82.1	87.1	88.9	103.0	85.5	90.5
五月	80.0	92.0	95.2	83.7	86.5	89.8	104.8	85.6	87.4
六月	80.4	91.4	96.4	84.4	86.9	88.1	106.4	85.5	87.9
七月	80.7	90.9	95.0	85.5	86.1	88.7	107.6	85.3	87.1
八月	80.8	90.9	94.1	86.3	85.4	87.6	110.1	84.8	85.7
九月	81.6	91.2	95.7	87.8	85.2	87.5	112.3	84.5	86.8
十月	84.1	90.8	96.1	89.6	84.9	89.3	114.3	84.4	88.2
十一月	86.0	90.9	97.5	91.1	84.6	90.4	115.7	84.3	88.2
十二月	87.3	91.1	102.9	91.6	84.6	95.0	116.6	83.1	90.8

一般工業

大正十五年基準

重要事業別指數(4)

年 月	金屬品製造業			窯 業			製 紙 業		
	勞働人員	定額資金	實收資金	勞働人員	定額資金	實收資金	勞働人員	定額資金	實收資金
昭和四年 平均	107.5	100.4	103.7	91.7	98.5	98.8	90.6	100.8	102.5
五年	101.1	97.8	97.6	82.4	95.0	91.9	82.2	98.3	101.7
六年	90.3	94.4	93.7	69.9	88.3	84.7	76.2	93.2	94.7
七年	89.8	91.2	94.2	66.1	86.2	82.8	71.9	92.1	90.4
八年	100.5	88.1	96.3	72.4	86.0	83.6	75.0	91.3	92.4
昭和六年 一月	93.3	96.0	92.6	72.3	90.9	86.9	77.9	94.9	100.6
二月	92.4	95.8	94.1	71.8	90.2	85.7	77.4	94.3	96.7
三月	91.5	95.4	95.7	71.3	88.7	85.0	77.3	94.2	96.0
四月	91.2	95.1	94.7	71.4	88.0	84.1	77.0	94.1	95.5
五月	90.6	94.8	95.2	70.7	88.1	84.4	77.0	93.8	95.1
六月	90.5	94.3	94.1	70.4	88.1	84.3	77.0	93.4	94.8
七月	89.9	94.1	92.9	70.4	88.1	84.4	76.6	93.0	94.7
八月	89.8	93.8	91.9	69.3	87.7	83.9	76.3	92.6	94.8
九月	89.6	93.8	92.7	69.0	87.3	84.1	76.0	92.4	93.5
十月	89.3	93.4	93.7	68.4	87.3	84.4	74.4	92.4	92.2
十一月	88.4	93.3	93.7	67.9	87.3	84.4	74.2	91.9	91.8
十二月	87.5	93.1	93.7	66.4	87.3	84.8	73.7	91.6	91.0
昭和七年 一月	87.5	92.5	92.3	66.2	87.3	86.4	73.1	92.3	92.9
二月	88.3	92.4	94.6	65.9	87.1	85.7	72.5	92.1	90.6
三月	88.9	92.4	96.5	64.8	87.0	85.4	71.9	92.4	89.8
四月	88.7	92.0	93.7	65.4	86.4	81.1	72.0	92.1	90.1
五月	88.7	91.5	92.1	65.8	86.3	81.3	71.8	92.0	90.6
六月	88.6	91.1	91.9	65.9	86.1	81.2	71.4	92.3	90.1
七月	88.7	91.3	91.7	66.0	86.1	80.5	71.8	92.2	90.4
八月	89.3	91.0	91.2	66.0	86.2	80.1	71.6	92.3	90.7
九月	90.8	90.5	92.5	66.2	85.7	82.0	71.6	92.4	90.3
十月	92.0	90.1	95.3	66.7	85.7	81.9	71.5	92.1	90.0
十一月	92.7	89.7	98.3	67.0	85.4	83.2	71.5	91.5	90.6
十二月	93.6	89.6	100.8	67.3	85.6	84.8	71.7	91.3	89.0
昭和八年 一月	94.4	89.6	96.8	68.1	86.0	86.0	71.7	91.0	92.4
二月	95.6	89.2	100.6	68.9	86.5	84.4	72.1	91.3	91.9
三月	97.2	88.8	100.4	69.6	86.5	84.3	72.1	92.1	92.1
四月	98.0	88.2	97.9	70.4	86.3	82.6	72.1	92.1	92.3
五月	98.8	87.9	96.2	71.0	85.9	83.8	74.4	91.7	93.2
六月	100.0	87.9	94.9	71.3	86.1	83.8	75.2	91.5	92.7
七月	101.0	88.0	93.6	72.9	85.9	82.7	75.9	91.8	93.4
八月	101.7	88.0	92.1	73.6	86.0	82.6	76.2	91.9	92.3
九月	103.3	87.7	93.9	74.3	86.0	83.6	76.5	91.6	92.5
十月	104.1	87.6	95.2	75.5	85.6	82.2	77.3	91.3	92.4
十一月	105.2	87.2	96.2	76.4	85.5	84.0	78.0	89.7	91.8
十二月	107.3	87.1	97.7	77.0	85.6	83.2	78.8	89.5	91.6

一般工業

大正十五年基準

重要事業別指數(5)

年 月	製 藥 業			護 謨 製 品 業			人 造 肥 料 業		
	勞働人員	定額資金	實收資金	勞働人員	定額資金	實收資金	勞働人員	定額資金	實收資金
昭和四年 平均	102.7	101.1	101.6	118.5	96.9	104.6	86.4	103.6	101.7
五年	98.0	100.3	97.7	117.1	95.7	96.5	87.0	102.5	101.3
六年	91.5	98.4	94.9	122.0	92.2	92.2	77.6	100.5	94.4
七年	91.6	95.8	91.3	132.4	88.1	88.3	72.5	99.4	94.9
八年	105.5	93.2	82.7	146.7	84.3	86.3	76.2	99.0	95.4
昭和六年 一月	92.1	99.1	96.1	117.7	95.0	94.6	79.9	101.2	96.8
二月	92.5	99.0	95.6	118.6	94.8	93.4	79.2	101.1	96.1
三月	93.2	98.9	94.9	118.8	94.0	94.0	78.5	100.8	96.1
四月	92.7	98.5	94.9	119.3	93.8	92.9	78.6	100.6	94.1
五月	92.9	98.7	95.6	118.6	93.7	92.6	79.1	100.5	95.3
六月	92.7	98.5	94.0	119.3	92.8	93.5	78.7	100.6	97.2
七月	90.9	98.5	93.3	121.4	91.9	90.8	79.1	100.5	95.3
八月	90.4	98.4	95.5	124.3	91.2	90.2	76.3	100.3	92.2
九月	90.5	98.0	94.8	127.9	90.3	92.1	76.0	100.4	93.7
十月	89.8	97.7	94.6	127.2	89.7	92.4	75.8	100.5	91.5
十一月	89.6	97.7	95.4	126.6	89.5	91.1	75.7	100.3	93.3
十二月	90.2	97.5	94.1	124.4	89.3	88.5	74.0	99.6	91.7
昭和七年 一月	91.0	97.8	96.5	124.9	88.6	87.9	71.7	99.4	97.2
二月	91.9	97.5	97.1	127.0	89.2	92.5	71.2	99.2	94.7
三月	91.6	97.2	95.4	129.7	89.8	91.7	71.3	99.3	94.8
四月	92.4	96.8	93.6	127.6	89.7	88.0	72.9	98.9	92.3
五月	91.1	96.3	92.7	126.8	89.3	85.8	72.5	98.7	94.2
六月	90.3	95.5	88.7	126.2	89.4	87.5	73.0	99.7	96.0
七月	90.7	95.8	87.2	129.1	88.0	84.8	72.7	100.1	96.2
八月	90.4	94.7	87.5	133.2	87.8	83.8	72.4	99.9	95.1
九月	90.6	95.2	88.8	137.7	86.8	86.4	72.9	99.9	94.4
十月	91.8	94.9	89.0	140.5	86.3	89.2	72.7	99.5	93.6
十一月	93.0	94.4	90.1	142.0	86.0	89.6	73.2	99.3	94.8
十二月	94.2	94.3	88.8	144.0	85.8	92.9	73.5	98.6	95.0
昭和八年 一月	94.8	94.6	90.5	145.9	86.3	90.9	73.4	99.5	98.3
二月	97.9	94.4	87.1	148.8	85.5	92.3	73.7	99.2	97.5
三月	100.3	93.9	84.0	148.2	85.6	89.0	73.5	99.2	96.3
四月	102.0	93.3	83.5	145.7	85.6	86.1	74.6	98.8	95.3
五月	102.9	93.2	83.0	143.2	85.5	81.3	74.9	99.1	98.4
六月	104.5	93.2	82.5	142.4	84.4	84.4	75.5	99.1	96.2
七月	105.5	93.2	81.6	144.6	84.1	83.6	77.4	98.9	94.6
八月	107.1	93.2	80.9	146.4	84.2	83.3	77.7	99.1	93.0
九月	108.9	93.0	81.5	148.9	83.3	84.5	78.1	98.8	92.8
十月	112.1	92.6	80.8	149.7	82.9	85.6	78.4	98.7	93.1
十一月	114.1	91.9	79.0	149.3	82.4	86.9	78.8	98.9	93.9
十二月	116.2	91.6	77.9	147.1	82.2	87.2	78.9	98.7	95.4

一般工業

大正十五年基準

重要事業別指數(6)

年 月	飲食物工業			印刷製本業			製材家具工業		
	労働人員	定額資金	實收資金	労働人員	定額資金	實收資金	労働人員	定額資金	實收資金
昭和四年 平均	90.7	100.6	101.7	100.5	95.7	99.5	89.4	98.1	96.5
五年	86.6	99.4	98.6	98.1	93.5	95.8	83.2	94.3	87.9
六年	79.8	96.0	94.5	94.3	88.8	92.8	75.7	85.1	78.9
七年	79.3	94.4	92.4	91.3	85.6	91.4	73.1	81.2	75.1
八年	81.5	93.6	92.5	93.3	83.0	90.3	74.6	78.1	73.2
昭和六年 一月	82.7	97.0	99.8	95.6	90.7	92.1	75.9	88.1	77.1
二月	83.2	96.4	94.0	95.5	90.6	95.1	75.7	87.5	79.7
三月	81.4	96.1	94.0	95.4	89.9	95.1	76.8	86.5	82.3
四月	79.7	96.1	95.1	95.4	89.7	94.4	77.8	85.9	81.8
五月	79.1	95.9	95.2	95.0	89.0	91.5	77.8	85.8	81.7
六月	78.0	96.3	93.9	94.2	88.7	91.8	76.8	84.4	78.7
七月	78.9	96.3	94.2	94.0	88.6	89.9	75.8	84.5	78.3
八月	78.7	96.2	94.9	93.6	88.2	89.8	75.9	84.2	77.6
九月	78.8	96.0	93.2	93.0	87.9	91.6	75.3	84.0	77.5
十月	78.7	95.2	93.5	93.2	87.6	91.8	74.7	83.7	76.8
十一月	79.9	95.1	93.2	93.3	87.7	93.1	73.1	83.4	77.7
十二月	78.9	94.9	93.2	93.3	87.5	98.0	72.9	83.2	77.5
昭和七年 一月	79.4	94.6	95.4	92.5	87.3	93.2	72.4	82.5	75.3
二月	79.2	94.8	92.5	91.8	87.1	93.2	72.7	82.1	76.3
三月	78.3	94.7	91.4	91.3	86.9	92.7	73.3	82.2	76.4
四月	77.7	94.3	90.9	91.2	86.0	91.8	74.2	81.7	75.6
五月	77.6	94.2	91.5	91.2	85.5	88.5	74.0	81.4	76.4
六月	79.0	94.4	91.1	91.0	85.6	89.2	72.9	81.0	73.8
七月	79.0	94.5	92.7	90.6	85.6	87.9	73.4	81.2	73.1
八月	79.2	94.6	92.9	90.5	85.2	88.5	73.1	81.1	73.4
九月	79.5	94.5	92.2	90.9	85.0	91.2	72.7	80.7	74.8
十月	80.0	94.1	93.0	91.3	84.7	90.7	72.8	80.7	76.1
十一月	81.1	98.9	92.7	91.7	84.1	92.6	73.0	80.0	74.5
十二月	81.3	94.0	92.5	91.5	83.9	97.6	73.2	80.0	75.8
昭和八年 一月	80.3	94.0	94.7	91.7	83.6	90.0	73.5	79.7	73.1
二月	79.6	93.8	92.6	92.1	83.3	92.0	73.7	79.2	73.7
三月	80.1	93.9	91.3	92.6	83.2	92.3	74.0	79.2	74.4
四月	79.8	93.8	92.2	93.2	83.1	90.8	74.9	78.5	73.0
五月	79.3	93.6	92.7	93.2	83.0	86.7	74.7	78.3	73.6
六月	79.4	94.1	93.2	93.0	83.2	88.1	74.8	78.0	74.2
七月	80.8	93.8	94.1	92.7	83.3	88.1	74.6	78.1	72.8
八月	81.8	93.8	93.0	92.9	83.3	88.5	75.0	78.0	71.6
九月	82.1	93.5	91.9	93.7	82.9	90.8	75.1	78.0	72.8
十月	83.7	92.9	91.0	94.4	82.7	90.0	75.3	77.6	72.8
十一月	85.6	92.8	91.4	95.3	82.5	91.8	74.9	76.7	72.4
十二月	85.1	92.8	92.3	94.5	82.3	94.4	74.6	76.2	73.9

一般工業

大正十五年基準

地方別指數(1)

年 月	京 濱			阪 神			名 古 屋		
	労働人員	定額資金	實收資金	労働人員	定額資金	實收資金	労働人員	定額資金	實收資金
昭和四年 平均	94.2	101.0	107.6	88.1	99.9	104.0	85.4	99.1	101.5
五年	85.7	99.4	102.8	77.1	97.9	99.6	77.5	94.8	95.3
六年	75.7	95.6	97.1	69.9	94.4	92.8	72.2	87.4	85.4
七年	75.0	92.5	96.3	69.5	91.7	90.9	74.8	84.2	82.0
八年	83.0	89.6	98.8	75.2	89.0	92.5	82.4	83.4	84.7
昭和六年 一月	77.5	97.1	98.1	70.4	96.0	93.6	71.5	89.5	88.2
二月	77.2	96.9	98.0	69.9	95.7	95.0	71.4	89.1	89.3
三月	76.9	96.4	99.6	70.2	95.5	96.6	71.7	88.0	88.0
四月	76.9	96.2	97.9	70.8	95.0	93.7	72.6	87.8	86.7
五月	76.1	96.0	97.1	70.9	94.7	93.5	72.5	87.9	85.7
六月	75.6	95.6	96.8	69.6	94.3	93.6	72.3	87.6	85.2
七月	75.3	95.5	96.7	69.7	94.2	92.7	72.5	87.4	84.7
八月	75.0	95.3	95.7	69.8	93.8	91.0	72.3	86.9	83.8
九月	74.9	94.9	95.6	70.2	93.6	90.7	72.9	86.6	83.4
十月	74.6	94.6	95.8	69.6	93.3	90.8	72.5	86.2	83.6
十一月	74.2	94.5	96.4	69.2	93.2	90.5	72.2	85.8	83.0
十二月	73.6	94.4	97.7	68.7	93.2	91.5	72.2	85.6	83.0
昭和七年 一月	73.2	94.1	94.9	68.5	92.7	89.9	72.2	85.6	81.0
二月	73.5	93.8	96.7	68.6	92.6	92.1	72.8	85.4	82.4
三月	73.7	93.7	98.2	68.8	92.5	93.3	73.5	85.2	83.8
四月	74.1	93.5	95.6	69.5	92.0	90.3	75.1	84.2	80.5
五月	74.1	92.9	94.6	69.6	91.8	90.6	75.2	84.1	79.6
六月	74.5	92.7	94.0	69.2	92.0	90.5	75.1	84.0	79.8
七月	74.6	92.5	94.9	68.9	91.9	88.5	74.9	84.0	80.5
八月	74.9	92.1	94.1	68.9	91.5	88.3	75.0	83.9	80.3
九月	75.9	91.5	95.1	69.8	91.3	88.3	75.4	83.6	81.8
十月	76.4	91.3	96.8	70.2	91.0	92.0	75.4	83.6	83.0
十一月	77.1	91.0	97.9	70.6	90.5	92.4	76.0	83.3	83.8
十二月	77.7	90.7	102.7	71.1	90.5	95.3	76.7	83.7	87.4
昭和八年 一月	78.3	90.8	100.1	71.7	90.3	92.5	77.4	84.5	84.0
二月	79.3	90.6	101.4	72.7	90.0	94.1	78.3	84.7	86.0
三月	81.0	90.4	101.9	73.4	89.8	95.0	79.2	84.2	85.9
四月	81.9	90.0	98.6	74.7	89.3	91.7	81.4	83.5	82.9
五月	82.6	89.8	97.2	74.9	89.1	92.0	81.7	83.1	83.6
六月	83.0	89.7	97.7	75.0	89.0	91.1	81.7	83.1	83.6
七月	83.0	89.9	97.4	75.4	88.9	90.2	82.1	83.0	80.3
八月	83.7	89.4	96.0	75.4	88.8	89.3	82.1	82.8	82.6
九月	84.5	89.3	96.8	76.3	88.5	91.3	85.3	82.8	85.6
十月	85.4	88.8	97.7	76.8	88.3	92.3	86.1	82.9	86.6
十一月	86.3	88.7	98.7	77.6	88.0	93.9	86.7	82.9	85.7
十二月	86.6	88.5	101.8	78.2	88.1	96.0	87.4	82.9	89.3

地方別指數ノ計算ニハ製糸業ヲ含マス。

一般工業

大正十五年基準

地方別指數(2)

年 月	北九州			其 他		
	労働人員	定額資金	實收資金	労働人員	定額資金	實收資金
昭和四年 平均	97.8	102.6	104.5	94.7	97.9	102.2
五年	91.6	101.0	100.3	86.3	94.3	95.8
六年	81.7	98.1	95.3	79.1	88.4	86.3
七年	78.7	96.4	91.5	80.0	84.8	82.2
八年	85.4	92.6	88.4	87.9	82.6	82.8
昭和六年 一月	83.3	99.3	98.6	79.1	90.7	90.1
二月	83.4	98.8	98.2	78.9	90.0	89.0
三月	82.2	98.5	99.5	78.8	89.7	90.1
四月	81.9	98.1	95.7	79.8	89.1	87.9
五月	81.6	97.8	96.8	79.3	88.7	87.2
六月	81.6	98.0	95.0	79.1	88.3	86.8
七月	82.2	98.2	93.3	79.5	88.6	85.6
八月	81.5	98.2	92.5	79.5	88.4	84.7
九月	81.9	98.0	92.3	80.0	88.1	84.5
十月	81.4	97.8	93.9	79.3	86.8	83.0
十一月	80.4	97.4	94.0	78.4	86.4	83.4
十二月	79.4	97.5	93.8	77.6	86.1	83.0
昭和七年 一月	78.5	97.4	95.2	77.3	86.3	84.2
二月	78.9	97.3	95.6	77.3	86.0	83.7
三月	76.6	96.8	98.7	78.2	85.7	83.5
四月	77.2	96.6	90.3	79.8	85.1	81.5
五月	78.0	96.2	90.3	79.9	85.0	82.2
六月	78.0	96.6	89.0	79.6	84.8	81.7
七月	78.4	96.4	88.6	79.9	84.6	81.0
八月	78.8	96.8	86.5	80.4	84.4	80.6
九月	79.3	96.5	88.4	81.1	84.1	81.3
十月	79.8	95.6	89.4	81.3	84.2	82.3
十一月	80.4	95.8	91.1	82.0	83.9	81.3
十二月	81.1	95.3	94.6	82.7	83.9	83.4
昭和八年 一月	81.7	93.8	95.8	82.8	83.8	83.3
二月	82.6	94.3	93.9	83.9	83.6	82.6
三月	83.3	93.6	95.1	84.9	83.5	83.0
四月	84.5	92.8	86.9	87.0	82.9	82.2
五月	84.4	91.9	86.5	87.6	82.5	82.0
六月	85.0	91.9	85.0	87.4	82.7	82.7
七月	85.7	91.6	84.7	88.1	82.6	82.2
八月	87.1	92.4	83.1	88.4	82.4	81.9
九月	87.1	92.2	85.1	89.3	82.3	83.7
十月	87.7	92.2	90.7	90.5	82.1	83.3
十一月	88.0	91.9	86.8	91.7	81.4	82.8
十二月	87.6	92.0	87.5	92.4	81.4	83.6

鑛山業

大正十五年基準

總指數及男女別指數

年 月	總 指 數			男			女		
	労働人員	一工當り	一人一日當り	労働人員	一工當り	一人一日當り	労働人員	一工當り	一人一日當り
昭和四年 平均	95.4	105.4	105.1	100.1	105.4	104.9	79.0	99.3	99.5
五年	85.3	100.7	99.1	92.8	100.7	98.7	59.2	88.6	88.4
六年	65.7	91.6	88.5	75.0	91.3	87.7	33.1	68.9	68.2
七年	57.5	87.8	85.1	67.2	87.4	84.1	23.7	58.1	57.4
八年	59.4	92.6	90.8	70.3	91.8	89.4	21.1	57.5	57.2
昭和六年 一月	73.6	94.1	91.2	82.2	94.0	90.6	43.4	76.2	75.4
二月	72.3	94.4	91.4	81.1	94.2	90.7	41.4	76.1	75.3
三月	69.9	93.7	90.6	79.0	93.5	89.8	37.7	75.6	74.7
四月	68.0	92.9	89.7	77.4	92.7	89.1	34.8	70.1	69.4
五月	66.2	91.5	88.4	75.6	91.4	87.7	33.3	68.5	67.8
六月	64.9	91.7	88.6	74.3	91.5	87.8	31.9	68.6	67.9
七月	63.7	91.1	88.2	73.1	90.9	87.3	30.8	67.3	66.7
八月	63.0	90.6	87.7	72.3	90.3	86.8	30.2	65.5	65.2
九月	62.5	89.8	86.8	71.9	89.5	85.9	29.6	66.1	65.4
十月	62.2	89.8	86.7	71.5	89.4	85.7	29.2	65.7	65.1
十一月	61.8	89.7	86.6	71.1	89.3	85.7	28.9	65.6	65.2
十二月	60.8	89.6	86.5	70.6	89.2	85.5	26.2	61.1	60.6
昭和七年 一月	60.2	88.7	85.8	69.9	88.4	84.9	25.9	59.6	59.0
二月	59.7	89.0	83.0	69.4	88.6	85.1	25.5	59.7	59.0
三月	59.3	89.3	86.2	68.9	89.0	85.4	25.3	59.9	59.3
四月	58.9	88.4	85.4	68.5	88.0	84.5	24.9	59.3	58.6
五月	58.4	88.1	85.1	68.1	87.7	84.2	24.3	58.7	57.9
六月	58.0	87.9	85.1	67.7	87.5	84.1	24.0	58.2	57.4
七月	57.2	87.2	84.4	66.7	86.8	83.4	23.6	57.7	57.0
八月	56.3	86.5	83.8	65.9	86.1	82.8	22.7	56.9	56.3
九月	55.6	86.5	83.9	65.1	83.1	82.9	22.2	56.7	56.1
十月	55.6	86.7	84.1	65.1	86.3	83.2	22.0	56.5	55.7
十一月	55.5	87.7	85.3	65.0	87.2	84.2	21.9	56.7	56.1
十二月	55.8	88.2	86.0	65.4	87.7	84.9	21.9	57.4	56.9
昭和八年 一月	56.1	88.4	86.3	65.8	87.8	85.2	21.8	57.0	56.7
二月	56.6	89.4	87.4	66.6	88.7	86.3	21.5	57.3	57.1
三月	57.0	90.7	88.6	67.2	90.0	87.4	21.3	58.2	57.8
四月	57.3	90.7	88.6	67.6	90.0	87.5	21.3	57.2	56.7
五月	58.0	90.8	88.9	68.5	90.1	87.7	21.3	57.3	56.9
六月	58.2	91.2	89.3	68.8	90.5	88.0	20.9	57.5	57.0
七月	58.7	92.0	90.4	69.6	91.2	89.0	20.5	57.4	57.1
八月	59.7	92.8	91.1	70.8	91.9	89.7	20.6	57.1	56.9
九月	60.9	94.3	92.7	72.3	93.3	91.1	20.4	57.1	57.0
十月	62.2	96.0	94.3	74.0	95.0	92.8	20.7	57.5	57.3
十一月	63.4	96.7	95.2	75.3	95.7	93.6	21.1	57.7	57.6
十二月	64.4	97.7	96.3	76.5	96.6	94.6	21.5	58.3	58.4

鑛山業

大正十五年基準

事業別指數

年 月	金屬鑛業			石炭鑛業			石油鑛業		
	勞働人員	一工當リ	一人一日當リ	勞働人員	一工當リ	一人一日當リ	勞働人員	一工當リ	一人一日當リ
昭和四年 平均	99.3	104.0	104.8	95.2	105.9	105.2	78.5	100.9	100.5
五年	96.2	102.5	100.5	83.9	100.2	98.2	66.1	99.5	98.5
六年	87.3	95.0	90.9	62.1	89.9	86.4	56.3	97.1	96.1
七年	84.9	90.2	86.6	52.7	86.1	82.8	53.9	96.9	96.2
八年	90.6	92.0	90.3	53.9	91.4	88.7	53.3	98.0	97.7
昭和六年 一月	92.0	97.1	93.0	70.7	92.9	89.6	57.8	99.5	99.6
二月	89.5	97.0	93.1	69.6	93.2	89.7	58.0	97.9	97.3
三月	88.2	96.9	92.6	66.9	92.4	88.8	57.9	97.6	96.6
四月	87.3	96.7	92.6	64.7	91.4	87.8	57.4	96.2	94.7
五月	87.2	95.8	91.6	62.7	89.7	86.1	56.6	99.2	99.6
六月	86.8	97.0	92.7	61.2	89.5	86.0	56.6	95.8	94.6
七月	86.9	96.1	92.1	59.7	88.9	85.6	56.5	96.1	94.9
八月	86.6	95.8	92.0	58.9	88.1	84.7	55.3	96.9	96.2
九月	86.5	92.5	88.6	58.4	88.2	84.7	55.5	95.7	94.2
十月	86.1	91.9	87.7	58.0	88.3	84.8	54.9	96.9	94.9
十一月	85.5	91.7	87.5	57.7	88.2	84.7	54.4	96.8	94.9
十二月	84.5	91.3	86.7	56.6	88.2	84.8	54.9	96.6	95.2
昭和七年 一月	84.3	90.3	86.3	56.0	87.3	84.0	54.6	99.0	98.9
二月	84.3	90.6	86.3	55.4	87.6	84.1	54.4	97.8	97.0
三月	84.0	90.5	86.0	55.0	88.2	84.8	54.3	96.9	95.6
四月	84.1	90.4	86.5	54.4	86.8	83.4	54.2	96.4	94.9
五月	83.6	90.3	86.3	54.0	86.4	82.9	53.9	100.7	102.3
六月	84.2	90.4	86.7	53.4	86.2	82.8	53.7	95.7	94.6
七月	84.9	89.7	86.5	52.3	85.3	81.9	53.3	96.3	95.3
八月	85.1	90.0	86.5	51.2	84.2	80.8	53.3	96.9	96.5
九月	85.4	89.8	86.7	50.2	84.3	81.0	53.8	95.6	94.5
十月	85.1	89.2	85.9	50.1	84.9	81.6	53.6	96.2	94.9
十一月	86.3	90.2	87.3	49.9	85.7	82.6	53.8	95.8	94.5
十二月	86.8	90.7	88.0	50.2	86.2	83.4	54.0	96.1	95.1
昭和八年 一月	87.4	91.3	89.0	50.5	86.1	83.1	53.5	98.5	99.7
二月	87.7	92.6	90.5	51.1	87.0	84.3	53.0	97.2	97.5
三月	88.1	92.7	90.6	51.5	88.8	86.0	53.1	96.7	96.1
四月	88.9	92.6	90.7	51.7	88.8	85.8	53.2	97.5	97.0
五月	90.0	91.5	89.6	52.4	89.2	86.4	53.3	102.1	104.4
六月	90.7	91.7	90.0	52.4	89.8	87.0	53.4	97.6	96.5
七月	91.6	91.6	90.2	52.9	90.9	88.3	53.2	97.8	97.0
八月	92.1	91.5	90.0	54.0	91.9	89.3	53.4	99.0	98.3
九月	92.3	91.7	90.5	55.4	93.8	91.1	53.1	97.3	96.4
十月	92.5	92.3	91.0	57.0	95.9	93.2	53.3	97.6	96.2
十一月	93.0	92.2	90.7	58.3	96.9	94.5	53.8	97.2	96.1
十二月	93.4	92.3	90.9	59.4	98.1	95.8	53.5	97.4	96.9

政府事業

大正十五年基準

總指數及男女別指數

年 月	總 指 數			男			女		
	勞働人員	定額資金	實收資金	勞働人員	定額資金	實收資金	勞働人員	定額資金	實收資金
昭和四年 平均	98.5	104.2	108.0	101.5	102.7	106.7	89.0	105.9	105.3
五年	97.3	105.1	107.6	101.1	102.9	106.0	85.1	108.0	105.3
六年	89.2	105.5	104.3	92.7	103.4	102.3	78.1	109.4	106.3
七年	86.7	104.9	112.8	91.1	103.1	110.0	72.7	109.0	109.1
八年	92.6	103.2	115.3	98.6	101.6	112.1	73.5	106.9	108.1
昭和六年 一月	95.5	105.6	109.5	99.9	103.4	107.9	81.7	108.8	115.2
二月	95.3	105.5	105.6	99.6	103.3	103.1	81.3	108.7	105.6
三月	94.6	105.7	106.4	99.0	103.3	103.4	80.2	108.7	110.7
四月	88.0	105.4	105.3	90.8	103.1	102.6	79.2	109.5	107.8
五月	88.1	105.3	101.5	91.1	102.9	100.6	78.7	109.5	101.4
六月	87.9	105.7	100.9	90.9	103.4	99.2	78.4	109.9	101.5
七月	87.7	105.5	100.7	90.8	103.3	99.7	77.6	109.7	99.5
八月	87.4	105.3	100.9	90.6	103.2	99.2	77.0	109.7	100.1
九月	87.1	105.3	102.1	90.4	103.3	100.2	76.5	109.4	103.2
十月	86.8	105.6	102.3	90.2	103.6	100.6	76.0	109.5	104.2
十一月	86.6	105.5	107.3	90.0	103.6	104.3	75.6	109.4	110.1
十二月	85.7	105.9	109.8	89.0	104.0	106.5	75.0	110.0	116.5
昭和七年 一月	85.2	105.8	111.8	88.6	103.9	109.3	74.3	109.8	116.2
二月	85.9	105.5	112.8	89.6	103.6	110.2	74.0	109.5	107.5
三月	85.7	105.5	117.2	89.7	103.5	113.9	73.1	109.6	114.6
四月	85.5	104.8	113.5	89.4	103.1	110.4	73.0	109.3	112.9
五月	86.0	104.8	110.2	90.2	103.0	108.6	72.6	109.2	102.4
六月	86.2	104.9	108.4	90.5	103.1	105.8	72.6	109.3	104.7
七月	86.8	104.9	107.9	91.4	103.1	105.5	72.3	109.3	103.2
八月	87.2	104.8	106.8	92.0	103.1	104.4	72.0	109.0	102.6
九月	87.4	104.6	110.2	92.3	102.9	107.3	71.6	108.6	106.4
十月	87.7	104.5	113.8	92.6	102.9	111.0	71.9	108.5	108.4
十一月	88.5	104.0	118.4	93.4	102.4	115.0	72.7	107.5	112.9
十二月	88.8	104.2	122.4	94.0	102.6	118.7	72.5	107.8	117.3
昭和八年 一月	89.3	104.3	125.2	94.7	102.7	121.8	72.3	108.1	117.8
二月	89.7	104.0	120.4	95.2	102.5	117.1	72.4	107.8	109.1
三月	89.4	104.2	119.1	95.0	102.6	115.5	71.6	107.8	114.2
四月	90.8	103.9	116.9	96.7	102.3	112.8	72.2	107.4	113.2
五月	92.0	103.3	113.1	98.0	101.7	110.8	73.0	107.0	103.5
六月	92.3	103.6	112.4	98.3	102.0	109.1	73.0	107.2	104.8
七月	92.4	103.4	110.5	98.6	101.7	107.8	72.9	107.3	102.0
八月	93.0	102.8	108.7	99.1	101.4	106.4	73.9	106.7	99.9
九月	93.5	102.4	110.8	99.5	101.2	107.8	74.3	106.0	103.5
十月	95.1	102.2	112.3	101.6	100.7	109.3	74.7	105.9	105.0
十一月	96.0	101.8	116.1	102.4	100.3	112.6	75.7	105.5	109.9
十二月	97.1	102.0	118.3	103.8	100.4	114.1	75.8	106.0	114.5

政府事業

大正十五年基準

事業別指數(1)

年 月	*纖維及染色工業			機械及器具工業			化學工業		
	労働人員	定額賃金	實收賃金	労働人員	定額賃金	實收賃金	労働人員	定額賃金	實收賃金
昭和四年 平均	101.0	131.9	93.9	100.9	101.4	107.1	120.6	97.8	99.1
五年	88.4	136.1	96.9	100.5	101.1	106.1	119.8	98.8	99.5
六年	86.3	136.5	95.0	91.2	101.0	101.9	115.5	99.6	97.8
七年	92.3	131.1	98.2	89.4	100.3	110.1	127.7	98.7	104.3
八年	105.1	124.8	85.7	96.8	99.2	112.9	162.2	95.7	100.4
昭和六年 一月	84.3	137.4	98.7	99.3	101.2	107.4	118.4	99.5	102.8
二月	82.1	137.3	105.4	99.0	101.2	102.7	119.6	99.3	99.7
三月	86.6	133.5	101.3	98.6	101.2	102.6	112.6	99.7	98.6
四月	86.4	136.6	91.9	88.9	100.4	102.1	115.3	99.4	96.2
五月	86.2	136.9	92.5	89.4	100.4	100.8	111.8	99.9	96.8
六月	86.0	137.6	94.2	89.1	101.0	99.1	114.7	99.6	94.9
七月	87.4	137.7	95.5	89.0	100.9	100.0	113.8	99.5	92.9
八月	87.7	137.2	92.6	88.8	100.7	99.2	113.7	99.5	93.8
九月	87.7	137.2	94.6	88.6	100.8	99.9	116.3	99.7	95.7
十月	83.8	137.2	97.8	88.4	101.4	100.3	117.2	99.6	95.6
十一月	87.2	135.7	87.3	88.2	101.3	103.7	116.7	99.6	99.0
十二月	87.5	134.2	88.1	87.1	102.0	105.3	115.8	100.1	107.2
昭和七年 一月	87.5	134.3	98.1	86.7	101.6	109.0	115.4	100.2	101.7
二月	87.9	134.2	106.0	87.7	101.4	110.4	118.7	99.4	108.9
三月	87.3	134.2	103.2	87.7	101.1	114.0	125.1	98.5	107.8
四月	87.9	133.6	108.4	87.6	100.1	110.2	121.0	99.1	102.5
五月	87.5	133.6	98.4	88.6	99.9	109.8	120.8	99.4	98.4
六月	87.7	132.6	94.2	88.7	100.2	105.9	124.3	99.1	102.2
七月	87.0	132.7	99.3	89.7	100.1	105.7	127.6	98.8	103.5
八月	86.6	132.6	97.3	90.4	100.1	104.7	129.4	98.6	99.8
九月	85.4	132.6	101.6	90.7	99.9	107.4	130.9	98.5	103.1
十月	85.4	132.6	98.4	91.0	99.8	109.5	135.5	97.9	105.1
十一月	120.2	119.6	92.6	91.7	99.7	115.4	141.3	96.7	107.4
十二月	117.5	120.6	80.5	92.3	100.0	119.1	142.5	97.5	111.7
昭和八年 一月	121.7	120.2	85.0	92.8	100.1	123.0	150.3	96.9	104.5
二月	119.4	119.7	92.2	93.3	100.1	118.4	155.6	96.5	104.9
三月	99.0	123.6	83.4	93.1	100.1	116.0	155.6	96.5	108.2
四月	99.0	127.3	87.9	94.8	99.7	113.0	159.4	96.2	99.1
五月	105.7	125.4	81.9	96.2	99.5	112.3	159.7	96.4	99.1
六月	102.4	126.7	84.2	96.3	99.8	109.8	163.5	96.1	98.4
七月	92.0	129.9	81.2	96.8	99.3	108.8	159.9	95.6	96.0
八月	93.2	129.2	83.1	97.3	99.2	107.7	160.9	95.3	90.2
九月	99.7	126.7	87.4	97.8	99.0	108.4	163.6	95.2	95.8
十月	101.7	124.6	84.1	100.2	98.0	110.0	166.5	94.9	97.9
十一月	114.6	122.2	88.3	100.8	97.8	112.9	174.3	94.1	104.2
十二月	113.3	122.7	86.9	102.4	97.8	113.9	176.8	94.0	105.9

事業別ニ於ケル賃金指數ハ *纖維及染色工業、*飲食物工業ニアリテハ女工、其他ノ事業ニアリテハ男工ニツキ作成セリ。

政府事業

大正十五年基準

事業別指數(2)

年 月	*飲食物工業			雜工業		
	労働人員	定額賃金	實收賃金	労働人員	定額賃金	實收賃金
昭和四年 平均	88.8	102.5	104.2	100.1	103.0	110.6
五年	85.4	103.3	104.1	98.7	104.0	111.8
六年	79.5	105.1	105.9	93.5	104.9	112.5
七年	72.7	106.8	108.0	92.8	104.7	114.0
八年	69.8	106.2	108.0	101.4	101.3	111.0
昭和六年 一月	82.4	104.5	116.7	96.8	104.5	116.7
二月	82.0	104.5	104.3	96.7	104.3	113.3
三月	81.2	104.4	111.1	95.7	104.6	114.8
四月	80.6	104.9	107.6	94.5	104.8	114.9
五月	80.4	104.5	99.7	93.7	104.6	109.9
六月	79.8	104.7	99.8	93.6	105.3	110.1
七月	79.2	105.3	97.8	93.1	105.2	108.2
八月	78.7	105.4	99.2	92.4	105.0	109.2
九月	78.1	105.0	102.2	92.1	105.0	110.8
十月	77.6	105.7	103.5	91.4	104.9	110.7
十一月	77.1	105.7	110.3	91.1	104.8	114.4
十二月	76.6	106.0	118.4	90.7	105.4	117.1
昭和七年 一月	75.9	106.0	117.9	90.3	105.4	114.7
二月	75.6	105.4	104.3	90.2	104.7	115.9
三月	74.2	105.3	113.4	89.9	104.9	118.0
四月	73.5	106.3	113.4	92.7	105.1	116.2
五月	73.1	106.7	100.6	92.3	105.1	110.8
六月	72.7	106.8	102.6	93.6	104.4	111.1
七月	72.3	107.3	100.8	93.2	104.6	111.5
八月	71.9	107.4	101.2	92.8	104.7	110.5
九月	71.3	107.4	104.3	93.4	104.6	114.6
十月	71.0	107.7	106.0	94.1	104.3	112.8
十一月	70.7	107.2	112.5	95.6	103.8	115.9
十二月	70.4	107.4	118.9	95.9	104.1	116.2
昭和八年 一月	69.9	107.6	120.2	95.8	104.0	116.0
二月	69.5	107.2	105.7	96.5	103.1	115.0
三月	69.0	107.1	114.2	96.3	103.1	114.7
四月	69.3	106.3	115.0	98.8	102.2	114.4
五月	69.5	105.9	102.6	102.1	100.9	107.7
六月	69.4	105.8	104.0	102.3	101.1	108.6
七月	69.2	106.2	100.8	103.6	100.7	107.6
八月	70.3	106.0	99.9	103.7	100.6	105.5
九月	70.4	105.6	102.8	102.4	100.4	108.6
十月	70.3	105.8	104.1	103.0	100.1	108.8
十一月	70.2	105.7	110.0	105.8	99.7	111.7
十二月	70.0	105.9	116.9	106.4	100.0	113.4

